

友枝 高彦

正四位勳三等、東京文理科大學教授、高等師範學校教授、東京帝國大學講師、日本女子大學教授、福岡縣在籍

妻 宗 達 明四一、七生
男 宗 和 明四二、一七生

友岡 新藏

杉浦商店代表取締役、滋賀縣在籍

妻 志 津 明二一、八生、滋賀、足立成基長女
妻 金 藏 明二三、一七生、京都、三大寺正
女 多 加 大二、六生

友金 辰藏

滋賀縣在籍、兵庫縣在籍

妻 か ち 明三〇、三三、兵庫、猪澤作太郎
妻 義 治 大五、二生
女 久 枝 大八、八生

友國 彦左衛門

兵庫縣在籍、地主

妻 壽 枝 明三三、七生、兵庫、河野彌九郎

友真 碩太郎

正五位勳四等、判事、徳島地方裁判所長、石川縣在籍

妻 久 衛 明四四、一二生
妻 久 衛 明四四、一二生
女 久 衛 明四四、一二生

友田 一郎

兵庫縣參事、銀行各務監督、兵庫縣在籍

妻 久 衛 明三二、一七生、兵庫、佐々木莊太郎

友成 四郎

東京府會議員、東京市會議員、濃時新聞取締役、東京府士族

妻 公 區 大八、三三、東京、友成保長男

友田 喜代一

兵庫縣多額納税者、地主

妻 喜 一郎 明四四、四生、兵庫、山本勲藏三女

友田 貞吉

旭倉庫社長、大正製糖取締役、友田代表社員、東京府在籍

妻 栄 一 明三三、二生、先代嘉兵衛庶子
妻 栄 一 明三五、一〇生
女 節 子 明四〇、一七生、山崎高女出身

友田 元效

正四位勳三等功五級、陸軍騎兵少佐、東京府在籍

妻 三 安政二、二生
女 久 二、八生、大阪、藤原淺右衛門二女

友田 芳太郎

友田代表取締役、飛騨木村、東京市市場各務監督、木材問屋、東京府在籍

妻 な か 明一八、一〇生、東京、嶺場由右衛門長女
妻 健次郎 明三二、一七生、長女照子夫、北海

友田 宜剛

從四位勳三等、前陸軍士官學校教授、兵庫縣在籍

妻 多 満 明七、四生、丹羽宜篤長女
妻 宜 孝 明二八、一七生、正六位、工學博士、東京帝國大學助教
妻 み ね 明三〇、一七生、二男宜孝妻、愛知、横濱清太郎二女
男 剛 士 明四二、四生、國立高等音楽學院出身

友田 常毅三郎

産業證券取締役、兵庫縣在籍

妻 貞 子 明四二、八生、二男次郎妻、東京、松岡俊三二女

友成 四郎

東京府士族友成五百枝の長男にして明治十八年十月を以て生れ同三十六年家督を相続す現時濃時新聞社取締役にして推されて東京府會議員東京市會議員たり

妻 公 區 大八、三三、東京、友成保長男

友田 芳太郎

友田代表取締役、飛騨木村、東京市市場各務監督、木材問屋、東京府在籍

妻 健次郎 明三二、一七生、長女照子夫、北海

友田 照子

明四一、八生、養子健次郎妻、東京女學館出身

友田 常毅三郎

産業證券取締役、兵庫縣在籍

妻 貞 子 明四二、八生、二男次郎妻、東京、松岡俊三二女

友田 喜代一

兵庫縣多額納税者、地主

妻 喜 一郎 明四四、四生、兵庫、山本勲藏三女

友田 貞吉

旭倉庫社長、大正製糖取締役、友田代表社員、東京府在籍

妻 栄 一 明三三、二生、先代嘉兵衛庶子
妻 栄 一 明三五、一〇生
女 節 子 明四〇、一七生、山崎高女出身

友田 元效

正四位勳三等功五級、陸軍騎兵少佐、東京府在籍

妻 三 安政二、二生
女 久 二、八生、大阪、藤原淺右衛門二女

友田 喜代一

兵庫縣多額納税者、地主

妻 喜 一郎 明四四、四生、兵庫、山本勲藏三女

友田 貞吉

旭倉庫社長、大正製糖取締役、友田代表社員、東京府在籍

妻 栄 一 明三三、二生、先代嘉兵衛庶子
妻 栄 一 明三五、一〇生
女 節 子 明四〇、一七生、山崎高女出身

友田 元效

正四位勳三等功五級、陸軍騎兵少佐、東京府在籍

妻 三 安政二、二生
女 久 二、八生、大阪、藤原淺右衛門二女

ト之部

友(田、常、成)伴(田、野)

友(枝、岡、金、國、真、田)

友(田、常、成)伴(田、野)

ト之部

友(枝、岡、金、國、真、田)

ト之部 伴(野)朝(永)袖、豊(四)

(捺印は姻族關係)

は尙二女松枝(大10、一〇生)三女俊子(同一三、三生)四女昭子(昭二、七生)あり弟常作(明一七、五生)は分家し妹たね(同三〇、一生)は長野縣人大草大に嫁せり(臺北市書院町三丁目電話二〇)

伴野清

從五位勳六等、大藏事務官兼銀行検査官、朝鮮銀行、臺灣銀行各種銀行監理官、大藏省銀行局勤務、東京府士族

父 乙彌 慶應三、四生、現戸主
妻 とく 明三、四生、栃木、横竹熊次郎

君は東京府士族伴野乙彌の二男にして明治二十九年五月を以て生れ大正九年高等文官試験に合格し翌年東京帝國大學政治學科を卒業す大藏省となり同十二年同司税金に任ぜられ同事務官を兼任し更に北海道拓殖銀行検査官となり大藏事務官を兼任し更に北海道拓殖銀行監理官を経て同年五月朝鮮銀行監理官並に臺灣銀行監理官を命ぜられ登山讀書に興味を有す家族は尙長女澄子(大14、四生)二女喜美子(昭五、二生)あり(東京市牛込區市谷加賀町二ノ三電話四四五七〇)
參照II 茨植竹龍三郎の項

伴野廣

從七位勳六等、陸軍二等軍醫、醫師、静岡縣在籍

妻 榮子 明二、六生、東京、士、矢野義弓
女 幸子 大三、三生、静岡縣立高女出身、東京家政學院修學

君は静岡縣人伴野賢の二男にして明治十年四月を以て生れ從兄伴野秀隆の養子となり後家督を相續す同三十四年千葉醫學專門學校を卒業同年一年志願兵役に服し除隊後北里傳染病研究所に學び次で永樂病院に勤務中日露戦役に召集せられ出征三十九年凱旋同四十二年二月獨逸に遊學南獨逸に留まる事三年此間ウツプルヒ及ミューンヘン大學に學びルツトグ並にモロー教授に師事して血清學的業績を發表し同四年五月歸朝後父祖傳來の醫學に従事し内科専門醫にして義にドクトル、メヂチ1本の稱號を受く又静岡醫師會會長静岡市衛生組合第三部長在郷軍人分會理事等の名譽職に推される長女秀子(明四〇、一生)女子英學塾出身は愛媛縣人横木篤次郎二男正八に嫁せりA七五九(静岡市二番町)

一五電三四

參照II 横木篤次郎、矢野義弓、小田久太郎の項

伴野文三郎

佛國商事、巴里伴野商店各務取締役會長、アマチニアシネマ普及會主、パティベビー寫眞器商、東京府在籍

妻 龍田 昭三、三生
男 龍彌 昭三、三生

朝永三十郎

從三位勳二等、文學博士、京都帝國大學名譽教授、京都府在籍

妻 ひで 明三、三生、埼玉、大枝美福長
男 振一郎 明三、九生、理科學研究所研究員
男 陽二郎 明四、二生、大學院在學、文學士
女 綾子 明四、一、二生、同志社女子專門部在學

朝永正三

從三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽教授、長崎縣士族

妻 ハタ 明五、一〇生、東京、士、瀧村竹男

君は長崎縣士族朝永甚次郎の三男にして同正三の弟なり明治四年二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學文學科を卒業し東京高等師範學校講師となり同四十二年京都帝國大學文學科大學助教に任じ同四十二年西洋哲學史研究の爲英佛各國に留學す大正二年京都帝國大學文學科大學教授に任ぜられし昭和六年之を退き同年同大學名譽教授となる大正二年文學博士の學位を授けられ著書數種あり長女しづ(明三六、一生)京都府立第一高女出身は理學博士堀健夫に嫁せり(京都市左區吉田近衛町九)

豊川榮太郎

東京府在籍

妻 イワ 明六、九生、香川、秋山松齋
男 洋 明四、五生
妻 マサ子 明四、一、八生、埼玉、鈴木常次郎

豊川榮太郎

東京府在籍

妻 マサ子 明四、一、八生、埼玉、鈴木常次郎

所なり有尙一家を起し豊岡と稱す夫より七代を経て先代豊岡に至り明治十七年子爵を授けらる君は其四男にして明治十三年二月十六日を以て生れ同二十五年襲爵し同三十三年前名道雄を改め同四十四年東京帝國大學文科大學東洋學科を卒業す翌四十四年以來貴族院議員に互選せらる事四回現に其任に在り研究會に所屬す家族は尙五男博(大10、六生)三女晴子(同一二、一生)弟淑貞(明一八、一〇生)明元(大七、一生)亡弟孝雄(長男)あり二男英資(明四〇、一一生)は子爵外山光庸の養子となり當主にして三男英(同四三、二生)は滋賀縣人堀駒千代の養子となり長女芳子(大三、五生)は判事伊藤敏夫に嫁せり(同四五、一生)亡弟孝雄長女は三重縣人松平家見三男家榮に嫁せり(東京市麻布區豐町六)

豊岡半次郎

奈良半、線香商、大阪府在籍

妻 あい 明三、二、一、一生、京都、宮川良太
母 つる 明七、八生、大阪、立田與三郎五

君は大阪府人先代半次郎の長男にして明治二十七年十月二十一日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名信を改め襲名す奈良半と稱し線香商を營む家族は尙長女つぎ(大10、五生)弟友三郎(同一、一〇生)ありA五九四(大阪府西區本町通二ノ四電話三五七九)

豊川丑松

土木建築請負業、大阪府在籍

妻 リキ 明四、八生、大阪、中本伊三郎長
母 ノキ 明三〇、九生
妻 ノエ 明三四、二生、長男宗太郎妻、大
女 ヤスエ 明三九、一生

君は大阪府人米元清七の六男にして明治三年七月八日を以て生れ先代由松の養子となり明治二十一年家督を相續す土木建築請負業を營む家族は尙孫イチ子(大一一、四生)長男宗太郎長女(同一治)同一四、七生、同一長男(同福子)昭三、一生、同二女(同カネ)同六、一

ト五八

(捺印は姻族關係)

豊澤儀三郎

大阪商工會議所常務議員、豊澤儀三郎本店、酒造業、大阪府在籍

妻 チエ 明一九、三生、奈良、谷信藏妹
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役
男 儀三郎 明四三、一生、長男義一郎妻、大
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役

豊澤儀三郎

大阪商工會議所常務議員、豊澤儀三郎本店、酒造業、大阪府在籍

妻 チエ 明一九、三生、奈良、谷信藏妹
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役
男 儀三郎 明四三、一生、長男義一郎妻、大
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役

豊澤儀三郎

大阪商工會議所常務議員、豊澤儀三郎本店、酒造業、大阪府在籍

妻 チエ 明一九、三生、奈良、谷信藏妹
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役
男 儀三郎 明四三、一生、長男義一郎妻、大
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役

君は大阪府人豊澤儀助の長男同伴二の兄にして明治十七年八月を以て生れ大正元年家督を相續す豊澤儀三郎本店を稱し酒造業を營み大阪商工會議所常務議員に推され所得調査委員衛生組合長たり家族は尙孫アキ(昭六、九生)長男義一郎長女(同トシ子)同八、七生、同三女あり弟伴二(明三二、六生)は分家し妹千代子(同三四、四生)は大阪府人辻謙吉に同愛子(同三三、一〇生)は同府人豊澤儀太郎に嫁せりA一七四B四六四(大阪府市東區東雲町一ノ七三電話九八六)
參照II 伊藤秀雄、豊澤伴二の項

豊澤儀三郎

大阪商工會議所常務議員、豊澤儀三郎本店、酒造業、大阪府在籍

妻 チエ 明一九、三生、奈良、谷信藏妹
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役
男 儀三郎 明四三、一生、長男義一郎妻、大
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役

君は大阪府人先代安兵衛の長男にして明治三十八年三月五日を以て生れ同四十九年家督を相續す地主たり家族は尙長女慈子(昭二、三生)ありA二三五(東京市豊島區駒込三ノ三八〇電話六四九六)

豊倉安兵衛

織物業、大阪府在籍

妻 イト 嘉永元、九生、大阪、岸田直右衛門二女
男 一男 明四一、一、二生
妻 ヤウ 明四三、九生、長男一男妻、大阪、宮崎儀三二女
男 正雄 明四三、八生

君は大阪府人先代安兵衛の長男にして明治十四年十二月一日を以て生れ同三十九年家督を相續し同四十二年襲名す織物業を營む家族は尙三男三子雄(大六、一生)姪長子(明四四、一〇生)弟覺次郎(昭二、一〇生)あり姉スカ(同四、六生)は大阪府人吉村芳江の養母となり同ムラ(同一、三生)は兵庫縣人吉岡和三郎に同ハマ(同一、一、一、一生)は大阪府人上野元三郎に嫁し弟覺治郎(同一、七、五生)は分家せりA四一一(大阪府市旭區鳴野町一〇七〇電話江六二)

豊崎彦治郎

岡山縣多額納税者、豊崎商事務取締役、三豊紡績監査役、綿糸商、岡山縣在籍

妻 興志 明元、二生、祖父靜吉長女
母 禎子 明二六、二生、岡山、井上桂叔母
男 平太郎 明二、二生、岡山、井上桂叔母

君は岡山縣人豊崎伊三郎の長男にして明治二十三年三月

ト五九

(捺印は姻族關係)

豊下檜松

製菓業、大阪府在籍

妻 サイ 安政四、五生、岐阜、林貞助三女
妻 カル 明八、二生、美父彌兵衛長女
男 彌三郎 明三〇、二生

豊澤儀三郎

大阪商工會議所常務議員、豊澤儀三郎本店、酒造業、大阪府在籍

妻 チエ 明一九、三生、奈良、谷信藏妹
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役
男 儀三郎 明四三、一生、長男義一郎妻、大
男 儀三郎 明四三、一生、豊澤本店務取締役

君は大阪府人豊澤儀助の長男同伴二の兄にして明治十七年八月を以て生れ大正元年家督を相續す豊澤儀三郎本店を稱し酒造業を營み大阪商工會議所常務議員に推され所得調査委員衛生組合長たり家族は尙孫アキ(昭六、九生)長男義一郎長女(同トシ子)同八、七生、同三女あり弟伴二(明三二、六生)は分家し妹千代子(同三四、四生)は大阪府人辻謙吉に同愛子(同三三、一〇生)は同府人豊澤儀太郎に嫁せりA一七四B四六四(大阪府市東區東雲町一ノ七三電話九八六)
參照II 伊藤秀雄、豊澤伴二の項

ト之部 豊(岡)川(倉)崎(澤、下)

(捺印は姻族關係)

ト之部 豊島

(※印は姻族関係)

ト六〇

豊島 久七
 君は愛知縣人先代久七の長男にして同七の從弟なり
 明治十五年七月を以て生れ大正二年家督相續と共に
 名し前名三郎を改む家業を繼ぎ糸織糸織布造糸織商
 三織輸出組理事長たる外前記各會社の重役として知
 られ大阪商工會議所常議員に推され大阪市會議員
 たりし事あり家族は尙二男三女あり(一)長女小
 三(同二、一、八)二女けい子(同三、一、一)三男小
 三(同二、一、五)三女ありA一〇〇八七(大阪市東區南本
 町二ノ四〇電話二七七二)
 參照 豊島半七の項

豊島 五六
 安田銀行總店支店長
 東京府在籍

豊島 善治
 東京府在籍
 君は東京府人豊島有常の五男にして明治二十三年八月
 を以て生れ大正五年兄直通より分れて一家を創立す
 現時同行銀座支店長たり家族は尙二男二女あり(一)長
 女(二)長女陽子(昭二、八)あり(東京市京橋區銀座一
 丁目安田銀行支店內)

豊島 宗助
 大阪府在籍
 君は大阪府人先代豊島宗助の男にして明治五年二月十
 九日を以て生れ同二十八年家督を相續し同三十三年前
 名豊吉を改め豊島を稱す器器商を營む家族は尙二男日出雄
 (昭六、一)あり(一)二女あり(一)長女あり(二)長女あり
 六八四(大阪府北區堂島中二ノ七四電話二四〇二)

豊島 半七
 前山一商店社長
 君は愛知縣人先代半七の長男にして同七の從兄にして明治
 三年三月を以て生れ同十八年家督を相續し後襲名す
 事あり家族は尙孫昭太郎(昭二、一)一男、榮子孝三(昭七、一)男、同
 三男あり叔父久七(弘化四、七)同妻むね(安政二、
 三)男、愛知、速水幸八(長女)は共に分家し其子三郎
 (明一五、七)は襲名し當主たり(宮市一宮電話五六)
 參照 千賀千太郎、鈴木善七、豊島久七、鈴木善七、
 郎 宗千賀千太郎の項

豊島 與志雄
 法政大學教授、東京帝國大學文學
 部講師、著述業、福岡縣士族
 君は福岡縣士族豊島秀太郎の長男にして明治二十三年
 十二月を以て生れ大正五年家督を相續す現に東京帝國
 大學文科大學佛文科を卒業し著述業を營む傍ら法政大
 學教授にして東京帝國大學文學部講師たり短篇小説集
 「理想の女」未來の天才、或る男の手記、反響、反響、
 外「レ・ミゼラブル」ジャン・クリストフ等の尨大なる
 全譯あり叔父岩次郎(明一〇、三)は同妻モ、ヨ
 (同四、三)と共に其子女を伴ひ分家し祖母シナ(弘
 化元、一〇)は其家籍に入り從妹トヨ(大正、二)生、
 叔父岩次郎三女)も亦福岡縣人友枝實郎の家籍に入り

豊田 著壽
 正五位勳三等、判事、宇和島區裁
 判所判事、香川縣在籍
 君は香川縣人豊田早苗の三男にして明治十五年九月二
 十八日を以て生れる同四十二年京都帝國大學法科大學を
 卒業し大正二年判事に任ず爾來松山區、同地方、同山
 方字和島區、同下關區、同山口地方、同支那各裁判所
 判事三次區裁判所判事、同廣島地方裁判所三次支店
 部長、同西條區裁判所判事、同松山地方裁判所西條支店
 部長等に歴補し現時宇和島區裁判所判事、同支店部
 長たり趣味に野球、園藝あり家族は尙三男三女あり(大五、
 五)生、松山高校在學、四男壽夫(同九、八)長女壽美
 子(同二、一)生、亡兄則徳妻ト(明六、四)生、香川、
 龜山桂吾妹(明正、同二)生、亡兄則徳妻ト(現
 戶主)及其一子あり同定雄(同三、五、八)生、同四男は
 香川縣人宮本秀太郎の養子となり(宇和島市廣小路
 字和島區裁判所内)

豊田 宇左衛門
 大阪府多額納税者、金融業
 大阪府在籍
 君は奈良縣人谷甚四郎の弟にして明治二十四年九月を
 以て生れ先代宇左衛門の養子となり大正十五年家督を
 相續し前名規矩治を改め豊田と稱す金融業を營み現に大阪
 府多額納税者にして直接國稅一萬五千三百三十七圓を
 納む養兄吉治郎(明七、九)生、大阪、好田吉右衛門二
 男)は同妻たね(同二、一)生、大阪、豊田作治郎(長
 女)と共に養兄省三(同二、一)生、大阪、鹿島清右
 衛門(六男)は同妻レイ(同二、四)生、大阪、平地敬
 夫(妹)と共に各分家し養妹ツタ(同二、四)生、大阪、
 好田吉右衛門三女)卷姉清(同二、一)生、東京、雀
 部市郎右衛門長女)同ヒテ(同二、一)生、大阪、鹿
 島清右衛門二女)も亦各分家せり(大阪府南區長地橋
 一ノ四三ノ一電話八〇二)
 參照 市橋昌晴、福井稔の項

豊田 勝藏
 山口縣在籍、萩市長
 君は山口縣人豊田勝藏の長男にして明治十五年十二月
 二十七日を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十一年
 東京帝國大學法科大學を卒業直に埼玉縣屬に任じ爾
 來鹿島區、同官秋田縣、同各縣警察部長、同警務府警
 務官、同事務官、同北高等商業學校校長、同警務官、同
 樺太廳長官、同警務府內務局長等に歴任し昭和七年萩
 市長に就任し今日に至る家族は尙長女和枝(昭二、六
 生)あり養女幸枝(明四、一)生、三重、鈴木旗雄妹
 是鳥取縣人小山琢磨津津男幸磨に嫁せり(萩市平安古
 町)

豊田 今吉
 正五位勳五等、桐生高等工業學校
 教授、香川縣在籍
 君は香川縣人豊田俊治の三男にして明治八年五月を以
 て生れる同三十五年東京高等工業學校附設工業教員養成
 所本科染織科を卒業し栃木縣立工業學校教諭、同留學
 學校教諭、同立工業學校教諭、同立工業試驗所技師
 等に歴任し大正六年東北帝國大學理科大學理化學科を
 卒業し同七年桐生高等工業學校教授、同理化學科に任じ同
 九年同校の桐生高等工業學校と改稱せらるるに當り引
 續き同校教授に任ぜられ同十年英米獨伊各國に留學を
 命ぜられ染料製造及染織化學を専攻す同十二年歸朝し
 現時に至る家族は尙四男正己(大六、一)生、五男信明
 (同九、六)生、兄岩造(慶應三、七)生、現戶主同妻シマ

豊田 收
 從四位勳四等、大藏參事官、衆議
 院議員(鳥取縣選出)、育英中學校
 校長、辯護士、鳥取縣在籍
 君は鳥取縣人豊田太蔵の二男にして明治十五年十一月
 を以て生れる同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を
 卒業し北海道鐵道管理局副參事鐵道省保健課長同監察
 官に歴任し後官を辭し辯護士を業とし今日に至り育英
 中學校長を兼ね昭和三年以來衆議院議員に當選三回從
 來立憲政友會に屬せしが現時無所属たり大藏參事官に
 任じ國有財産調査會委員、關稅調査會委員を被仰付儀
 に在官中歐米各國に派遣せらるる家族は尙長女秀子(昭
 三、三)生、弟保(昭三、五)生、あり姉嘉女(同二、一)生、
 三、三)生、鳥取縣人石井文次郎に妹都留(同二、一)生、

豊田 喜一郎
 豊田自動機製作所常務取締役
 君は静岡縣人豊田佐吉の長男にして明治二十七年六月
 を以て生れ昭和六年家督を相續す先代佐吉に豊田式
 織機を完成し豊田紡織會社を興し更に支那上海に豊田
 紡織廠を経營し其社長となる先是監製褒章を授けらる
 君は其後を承け現時前掲諸會社の重役たり家族は尙長
 女百合子(大一一、一〇)生、二女和可子(昭二、三)生、
 兄利三郎(明一一、七)生、三子あり叔父平吉(同九、五)生、
 同佐助(同二、一)生、四生は各分家せりA六八四四九(名

ト之部 豊田

(※印は姻族関係)

ト六一

豊田 進一
 明四一、七生
豊田 哲夫
 大三、七生

豊田 太蔵
 從四位勳四等、大藏參事官、衆議
 院議員(鳥取縣選出)、育英中學校
 校長、辯護士、鳥取縣在籍
 君は鳥取縣人豊田太蔵の二男にして明治十五年十一月
 を以て生れる同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を
 卒業し北海道鐵道管理局副參事鐵道省保健課長同監察
 官に歴任し後官を辭し辯護士を業とし今日に至り育英
 中學校長を兼ね昭和三年以來衆議院議員に當選三回從
 來立憲政友會に屬せしが現時無所属たり大藏參事官に
 任じ國有財産調査會委員、關稅調査會委員を被仰付儀
 に在官中歐米各國に派遣せらるる家族は尙長女秀子(昭
 三、三)生、弟保(昭三、五)生、あり姉嘉女(同二、一)生、
 三、三)生、鳥取縣人石井文次郎に妹都留(同二、一)生、

豊田 勝藏
 山口縣在籍、萩市長
 君は山口縣人豊田勝藏の長男にして明治十五年十二月
 二十七日を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十一年
 東京帝國大學法科大學を卒業直に埼玉縣屬に任じ爾
 來鹿島區、同官秋田縣、同各縣警察部長、同警務府警
 務官、同事務官、同北高等商業學校校長、同警務官、同
 樺太廳長官、同警務府內務局長等に歴任し昭和七年萩
 市長に就任し今日に至る家族は尙長女和枝(昭二、六
 生)あり養女幸枝(明四、一)生、三重、鈴木旗雄妹
 是鳥取縣人小山琢磨津津男幸磨に嫁せり(萩市平安古
 町)

古屋市東區白壁町三ノ二電東一八四〇
參照 飯田新七、豊田利三郎、豊田平吉、豊田佐助
參照 飯田新七、豊田利三郎、豊田平吉、豊田佐助
參照 飯田新七、豊田利三郎、豊田平吉、豊田佐助

豊田 義一 尾州銀行支店代理人
妻 カメ 明二四、一、二生、大阪、未廣國蔵
女 宗太郎 大三、五生
女 チヨ 大五、三、三三

豊田 金太郎 地主
妻 さく 明二、六生、東京、小宮金次郎長
女 明三、四、九生、東京、豊田平吉二
女 明三、四、九生、東京、豊田平吉二

豊田 久和保 産業調査協理理事
妻 さく 明二、六生、東京、小宮金次郎長
女 明三、四、九生、東京、豊田平吉二
女 明三、四、九生、東京、豊田平吉二

君は愛知縣人豊田久平の二男にして明治十三年七月二
日を生れ大正八年家督を相続す現時産業調査協理
理事たり弟萬次郎(明一六、二生)同妻まさ(同二二、
三生)愛知、高藤萬治郎(二女)は其一子を伴ひ分家し
同克己(同三一、四生)も亦分家し妹みよ(同三四、九
生)は愛知縣人伊熊喜一に嫁せりA七三八(東京市小
石川區宮下町一電大塚八八八)

豊田 國三郎 大阪府在籍
妻 ヒテ 明二、四生、大阪、鹿島清右衛
女 吉藏 大六、二生
女 左代 大六、二生

豊田 象造 大阪府在籍
妻 庄吉 安政三、七生、大阪、先代又七長
女 慶應元、一〇生、和歌山、潮寄津
女 守四女

豊田 賢作 地主
妻 なつ 明三、六生、東京、須田作兵衛三
妻 かる 明二、六、五生、東京、佐久間孫太
女 明二、六、五生、東京、佐久間孫太

君は東京府人豊田新太郎の長男にして明治二十二年三
月二十七日を生れ同二十七年家督を相続す地主た
り家族は姉いち(明一九、五生)同夫重五郎(同二一、
九生、東京、高城徳次郎二男)ありA九九四(東京市豊
島區堀ノ内一八)

豊田 佐助 愛知縣多額納税者、豊田紡績社
妻 さが 明二、六、一、一生、静岡、鈴木才次
女 知江子 大五、八生
女 美枝子 大四、一〇生

豊田 治助 新開聯合社大阪支社社員、邦樂器商
妻 ヌイ 明五、一〇生、大阪、村上吉兵衛
女 明五、一〇生、大阪、村上吉兵衛

豊田 宗太郎 地主
妻 カジ 萬延元、五生、大阪、原田市郎兵
妻 ミヨ 明二〇、一、一生、大阪、生母、本
妻 三郎 明三〇、九生、豊田宗三郎三男
妻 三郎 明三〇、九生、豊田宗三郎三男

君は五年京都帝國大學經濟學部を卒業し邦樂器商を
營む傍ら新開聯合社大阪支社社員たり在學中和蘭アムス
テルダムに第九回萬國オリムピックの開催を期とし經
濟學並にスポーツ研究の爲約半年間に亘り歐洲十數
ヶ國を旅行せり家族は尙妹博江(大五、七生、大手前
ヶ國女子)あり姉千代子(明二八、九生)は大阪府人
加賀正太郎に嫁せりA一八三〇(大阪府南區高津町二
ノ三電南二六)

豊田 茂 陸軍技手、陸軍造兵廠火工廠板橋
妻 かや 明六、一、二生、愛知、佐藤孫平長
女 明六、一、二生、愛知、佐藤孫平長

君は東京府人豊田保之丞の二男にして明治三十一年三
月二十三日を生れ大正十四年家督を相続す同九年
東京藥學專門學校を卒業し陸軍技手に任ぜられ前記板
橋火藥製造所へ勤務す弟勇(明三七、六生)は其妻芳子
(同四四、六生、東京、岡田福三郎三女)及其長男利
一(昭八、一、一生)と共に分家せりA三七〇(東京市板橋
區板橋五ノ六九八電板橋三五五)

豊田 省三 金融業
妻 シゲ 明二〇、一、一生、奈良、栗山耕作從
女 明二〇、一、一生、奈良、栗山耕作從

君は大阪府人豊田隆吉の長男先代善右衛門の孫にして
明治三十七年七月二十八日を生れ大正十一年家督
を相続し前名棟吉を改め襲名し同十五年神戸高等商業
學校を卒業す豊田商店と稱し羅紗商を營む家族は尙長
女馨子(昭七、一、一生)弟來吉(明四一、一〇生)ありA二
二九九(大阪府東區高麗橋一ノ一三電本局二二五五)

豊田 善右衛門 豊田商店、羅紗商
妻 エイ 明一〇、二生、先代善右衛門長女
女 明一〇、二生、先代善右衛門長女

君は京都府人豊田清三郎の四男にして明治九年九月十
一日を生れ先代兄實之助より分れて一家を創立す現
時豊田組合名會社代表社員にして傍ら東京ホテル事務
取締役を兼ね土木建築請負業を營むA四八一(東京市
日本橋區茅場町二ノ二電茅場町二二七)

豊田 清三郎 東洋ホテル事務取締役、豊田組
妻 松枝 大正三、八生、兵庫、生母、丸市
女 明四一、一〇生

君は大阪府人豊田隆吉の長男先代善右衛門の孫にして
明治三十七年七月二十八日を生れ大正十一年家督
を相続し前名棟吉を改め襲名し同十五年神戸高等商業
學校を卒業す豊田商店と稱し羅紗商を營む家族は尙長
女馨子(昭七、一、一生)弟來吉(明四一、一〇生)ありA二
二九九(大阪府東區高麗橋一ノ一三電本局二二五五)

君は大阪府人豊田隆吉の長男先代善右衛門の孫にして
明治三十七年七月二十八日を生れ大正十一年家督
を相続し前名棟吉を改め襲名し同十五年神戸高等商業
學校を卒業す豊田商店と稱し羅紗商を營む家族は尙長
女馨子(昭七、一、一生)弟來吉(明四一、一〇生)ありA二
二九九(大阪府東區高麗橋一ノ一三電本局二二五五)

君は大阪府人先代宗三郎の長男にして明治十年十月十
七日を生れ大正六年家督を相続す家主たり家族は
尙孫宗夫(大七、六生、美子三郎長男)同千鶴(同九、
四生、同長女)同俊二(同二一、六生、同二男)ありA
二八〇八(大阪府此花區玉川町一ノ七二電福島一五八
四)

豊田 副武 從四位勳三等、海軍少將、聯合艦
隊參謀長兼第一艦隊參謀長
妻 ト 明二九、一、二生、佐賀、江口麟六
女 明二九、一、二生、佐賀、江口麟六

君は大分縣士族豊田晋の四男佐藤須惠治の弟にして明
治十八年五月を生れ同三十八年海軍兵學校を卒業
し海軍少尉に任じ爾來果進して昭和七年海軍少將に陞
進す其間海軍大學校を卒業し軍事參議官副官兼海軍省
出仕横須賀鎮守府附球磨副官局長官兼艦政本部技
術會議議事官兼海軍大學校教官由良艦長第七
潜水隊司令兼第一課長及日向艦長等に歴補現時前
記の官職に在り兼に獨英兩國に駐在せしことあり家族
は尙二女夏子(大一二、八生)三女俊子(同二四、四生)
あり(東京市世田谷區下馬町三ノ五一八)

豊田 太郎 正五位、關東廳醫院醫官、大連療
病院長、愛媛縣士族
妻 富三郎 萬延元、四生、愛媛、土、岡田正
女 萬延元、四生、愛媛、土、岡田正

豊田多三郎 從三位勳二等、検事、宮城控訴院
 妻 トシ 明三、一、生、陸軍少将、陸軍監獄長
 男 正倫 大八、一、生、陸軍少将、陸軍監獄長
 女 シノブ 明三、一、生、陸軍少将、陸軍監獄長
 母 タケ 元治元、九、生、愛媛、二宮中衛長
 父 タケ 元治元、九、生、愛媛、二宮中衛長

豊田彌三兵衛 家主
 妻 鶴枝 明二七、一〇、生、大阪、西村新三
 君は大阪府人豊田彌三郎の長男にして明治二十六年四月三日を以て生れ大正二年家督を相続す家主たり家族は尙美子喜久子(大九、一、生、大阪、西村米蔵二女)あり妹利榮(明二七、一、生、大阪、西村米蔵二女)益子(同三三、四、生)は同府人平田車美子治三郎に同光子(同四二、七、生)は京都府人鷲野御太郎三男春生に各嫁し弟利(同三七、九、生)は大阪府人田中竹次郎の養子となれりA六八四(大阪府西淀川區浦江本通一四四電土佐堀五四八〇)
 参照II田中富藏の項

豊田藤九郎 毛糸商
 妻 榮 明二一、七、生、大阪、荒木安吉三
 男 久男 大二、三、生、京大經濟學部在學
 女 千代子 明四二、五、生
 女 花子 明四二、五、生
 君は大阪府人豊田藤右衛門の三男にして明治十五年十一月十九日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す毛糸商を營むA四〇〇B五〇(大阪府此花區上福島北町三ノ一二八電土佐堀三二二〇)

豊田平吉 庄内川築工所、豊田押切紡織各務
 妻 智枝 大五、一、生、鳥根縣濱田高女出身
 女 美枝 大八、一、生、鳥根縣濱田高女出身
 女 美枝 大八、一、生、鳥根縣濱田高女出身
 君は山形縣土族にして明治十四年七月を以て生れ同四年東京帝國大學文學部哲学科を卒業し大正三年福島縣立安積中學校教諭に任ぜらるる爾來山形縣濱田商業學校福島縣立白河中學校山形縣女子師範學校各教諭を経て昭和三年岩手縣女子師範學校長に任じ同六年現職に轉じ今日に至る家族は尙四女彌枝(大五、四、生)五女五子(昭六、二、生)あり(鳥根縣那賀郡濱田町大字淺井一〇九三)

豊田平藏 家主
 妻 きみ 明二九、二、生、東京、瀧澤磯右衛門
 男 煥一 大九、一、生
 女 ツギ子 大七、三、生
 君は栃木縣人豊田小太郎の三男にして明治十九年二月一日を以て生れ昭和五年兄弟方より分れて一家を創立す家主たり家族は尙二男二郎(大一一、二、生)三男富士男(同一一、三、生)三女八重(同一一、五、生)四男義男(昭四、一、生)四女信子(同八、五、生)ありA三五六(東京市向島區吾嬬町西一ノ八)

豊田正達 醫師
 妻 靜枝 明二九、一、二、生、兵庫、阪本準平
 女 長女 明二九、一、二、生、兵庫、阪本準平
 君は福岡縣人にして明治十八年九月十六日を以て生れ明治四十二年私立青山山學院高等科を卒業同四十五年同

豊田泰男 石炭商
 妻 伊太 明五、七、生、岐阜、加藤照時妹
 君は愛知縣人豊田伊太郎の孫にして大正十一年八月を以て生れ現時石炭商を營むA一六六(名古屋市中區水主町二ノ二三電西四四三三)

豊田芳郎 備後銀行取締役
 妻 マスノ 明三〇、一、生、高橋義典妹
 男 忠夫 明三一、一、生
 男 茂子 明三九、六、生、二男忠夫妻、東京
 女 草場九十九長女
 君は廣島縣人豊田保太郎の長男にして明治二十年十一月を以て生れ同三十七年家督を相続す現時備後銀行取締役たり家族は尙孫瑞穂(昭二、一〇、生、二男忠夫妻長男)同壽夫(同四、五、生、同二男)叔母ヨキ(明六、九、生)あり三女ハルエ(同二八、三、生)は廣島縣人倉田岩太郎長

豊田利三郎 名古屋商工會議所副會頭、豊田自
 妻 愛子 明三二、四、生、養父佐吉長女
 男 幸吉郎 大八、四、生
 君は滋賀縣人故見玉一造の弟にして明治十七年三月五日を以て生れ大正四年故豊田佐吉の養子となる昭和八年分れて一家を創立す名古屋商工會議所副會頭にして豊田自動織機製作所豊田紡織廠庄内川レィオン各會社社長たる外前掲會社の重役たり家族は尙三男ありA二七二三四(名古屋市中區白壁町二ノ五電東七七七)
 参照II岡虎太郎の項

豊原雄太郎 小倉鐵道專務取締役
 妻 わかな 明三〇、二、生、東京商大教授杉山
 男 清太郎 明四二、六、生、阪神急行電鐵社員
 女 綠 大八、五、生
 君は肥前唐津藩士豊原太郎の長男にして明治十三年

豊原芳藏 洛東再整修取締役、豊原棉行、棉
 妻 よし 明一七、一〇、生、大阪、白水正次
 男 義一 明二八、八、生
 女 菊枝 長谷川吉雄妹
 君は大阪府人飯島清次郎の四男にして慶應元年六月を以て生れ明治十四年先代キミエの養子となり同二十五家督を相続す兄飯島清助と船場に於て綿商を營みしも後獨立して豊原棉行と稱し棉花細商を始め今日に至る傍ら前記會社の重役たり家族は尙孫義澄(大五、七、生、長男義一長男)同義昭(同七、一、生、同二男)同芳枝(同一一、三、生、同長女)同義正(同一一、四、八、生、同三男)あり長女富美子(明三四、九、生、相愛高女出身)は大阪府人杉山喜三郎長男富一に嫁せりA六二五(大阪府西區南堀江町六ノ三電櫻川四三五)

豊福寛 豊福商店專務取締役、津山砂糖
 妻 あさの 明三三、三、生、岡山、佐々木與一
 君は岡山縣人豊福恒寛の二男にして明治十三年二月を以て生れ同四十五年家督を相続す現時豊福商店專務取締役の外津山砂糖津山合同運送各會社の重役にして津山に町會議員津山市會議員たりし事あり(津山市鐵砲町電三九)

ト之部 豊間、水(虎谷)鳥(合、井)

(捺印は姻族關係)

豊間根繁直 横濱正金銀行員 東京府士族 母 エミ 明元、六生、岩手、川井明妹

豊水道雲 正五位勳三等、判事、大審院判事 廣島縣在籍 妻 ヲメヨ 明二、五生、廣島、藤田清吉妹

虎谷徳一郎 養父家 東京府在籍 妻 ナツメ 明九、一生、千葉、藤澤吉五郎二女

鳥合幸徳 正八位勳七等、謙早無盡務取締役 社長、謙早銀行、長崎製糖各務取締役

鳥井三太郎 酒造業 大阪府在籍 妻 ラク 元治元、七生、大阪、森田米三妹

ト之部 鳥(居)

(捺印は姻族關係)

鳥居市兵衛 大阪府南区會議員、高津黒屋屋、黒燒賣藥商、大阪府在籍

鳥居榮太郎 丸居商店監査役、西陣織物業 京都府在籍

鳥居榮三郎 丸居商店監査役、西陣織物業 京都府在籍

鳥居孝一郎 丸居商店社長、養父徳兵衛長女 東京府在籍

鳥居吉五郎 家主 東京府在籍 妻 住子 明四二、三三、長野、名越清重妹

鳥居久吉 漆器商 大阪府在籍 妻 ナツメ 明一、三三、大坂、竹岡仁兵衛

鳥居清志 丸居商店専務取締役、養父徳兵衛長女 東京府在籍

鳥居繁治郎 丸居商店専務取締役、吳服商 京都府在籍

鳥居幸三 大塚屋、公社債證券賣業 東京府在籍

鳥居三郎 丸居商店社員 東京府在籍 母 はな 明八、一生、神奈川、高木恒三

鳥居武雄 醫學博士、明治病院院長、醫師 山形縣士族

ト之部 鳥(居)

(捺印は姻族關係)

ト之部 鳥居尾尾

(※印は姻族關係)

繼母 シメ 明九、五生、東京、土、内村良藏
妻 邦子 明三九、一、二生、大分、西野三二
君は舊山形藩士鳥居春洋の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正十一年家督を相続す同五年九州帝國大學醫學部卒業し三宅外科助手を拜命大正十一年歐米漫遊後父の遺業を繼承して現時明治病院長たり大正十一年醫學博士の學位を授けらるる家は尚長女洋子(昭三、六生)二女聖子(同五、二生)弟文雄(昭三、一、二生、醫學士)あり姉メカ(昭三、一、二生)は東京府人高松豐吉長男誠に同治(昭四、二、三、生)御茶の水高女出身(同府人堀内勝雄に嫁せり)A三一六(東京市淺草區須賀町二電淺草一五七〇)

鳥居忠一 正四位、子爵、三井銀行山田課長 舊野州正生藩 農園主任、帝國華道院長

妻 寛子 明二七、一、一、生、男爵三井壽太郎 明三〇、一、一、生、先代忠文五男、明三三、一、一、生、先代忠文三男、明三五、一、一、生、先代忠文二男、明三九、一、一、生、先代忠文一男

母 小松 明三九、一、一、生、先代忠文五男、明四二、一、一、生、先代忠文三男、明四五、一、一、生、先代忠文二男、明四九、一、一、生、先代忠文一男

鳥居龍藏 文學院博士、國學院大學、上智大學 各教授、上智大學文學部、鳥居人類學研究所長、世界人類學會、東京府在籍

鳥居は東京府人鳥居新太郎の長男にして明治二十八年四月五日を以て生れ同四十五年鳥居家に嫁す齋藤尚を營む家は尚長女可那江(大、一、三、八、生)二女久代(昭三、一、〇、生)、三男恒彦(昭四、一、〇、生)あり二男信三(大、四、九、生)は愛知縣人吉田善一郎の養子となれりA五〇三B二二四(名古屋西區鹽町四ノ二二三電西三三八)

鳥居龍藏 文學博士、國學院大學、上智大學 各教授、上智大學文學部、鳥居人類學研究所長、世界人類學會、東京府在籍

鳥居は東京府人鳥居新太郎の長男にして明治二十八年四月五日を以て生れ同三十六年家督を相続す乃に人類學の研究に

鳥居隆三 從四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務 秋田縣在籍

鳥居隆三 從四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務 秋田縣在籍

鳥居隆三 從四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務 秋田縣在籍

妻 千代 明二八、三、生、大分、岡本北平二

妻 千代 明二八、三、生、大分、岡本北平二

妻 千代 明二八、三、生、大分、岡本北平二

妻 愛 明四三、五、生、神戶、里具泰造長

妻 愛 明四三、五、生、神戶、里具泰造長

妻 愛 明四三、五、生、神戶、里具泰造長

妻 高城 明四〇、一、〇、生

妻 高城 明四〇、一、〇、生

妻 高城 明四〇、一、〇、生

妻 明三三、八、生、養子ヨエ夫、秋田、山内徳太郎二男

妻 明三三、八、生、養子ヨエ夫、秋田、山内徳太郎二男

妻 明三三、八、生、養子ヨエ夫、秋田、山内徳太郎二男

妻 明三五、一、生、養子ヨエ夫、秋田、鳥居政治妹

妻 明三五、一、生、養子ヨエ夫、秋田、鳥居政治妹

妻 明三五、一、生、養子ヨエ夫、秋田、鳥居政治妹

妻 養子ヨエ 明三五、一、生、養子ヨエ夫、秋田、鳥居政治妹

妻 養子ヨエ 明三五、一、生、養子ヨエ夫、秋田、鳥居政治妹

妻 養子ヨエ 明三五、一、生、養子ヨエ夫、秋田、鳥居政治妹

鳥巢 玉樹 從三位勳二等功五級、海軍中將 佐賀縣土族

鳥巢 玉樹 從三位勳二等功五級、海軍中將 佐賀縣土族

鳥巢 玉樹 從三位勳二等功五級、海軍中將 佐賀縣土族

ト之部 鳥居巢野野

(※印は姻族關係)

鳥居虎藏 京都運送事業株式会社、相互運輸倉庫事務所取締役、帝國運送計算保險親三井高利の項

鳥居虎藏 京都運送事業株式会社、相互運輸倉庫事務所取締役、帝國運送計算保險親三井高利の項

鳥居は奈良縣人戸田忠平の三男にして明治七年五月を以て生れ鳥居長左衛門の養子となり同四十四年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時京都運送事業株式會社の外前記會社の重役たり家族は尚長女淑子(大、一、三、三、生)あり(京都市下區西洞院正面下電下四七九)

鳥居は先々代小淵太より顯はる小淵太は舊山口藩士にして本姓中村後自ら鳥尾と改む維新の際隨事奔走して明治三年兵部省出仕を命ぜられ陸軍中將に陞る大阪鎮守使官近衛督等の要職に就き同十七年華族に列し子爵を授けらるる後元老議員貴族院議員編纂顧問官に歷任す參譯して得度と號す君は其の嫡孫にして先代光の長男なり明治四十四年七月二十七日を以て生れ同四十四年家督を相続し製糖御付けらるる現時日本自動車會社社員たり姉孝子(昭三五、七、生)は東京府人井原高親に伯母廣子(同六、一、生)は子爵日野西資博に嫁せりA二二七(東京市小石川區開町一八九二電牛込七〇九)

鳥居は東京府人鳥居新太郎の二男にして明治三年四月を以て生れ同三十六年家督を相続す乃に人類學の研究に

鳥居は東京府人鳥居新太郎の二男にして明治三年四月を以て生れ同三十六年家督を相続す乃に人類學の研究に

鳥居龍藏 文學博士、國學院大學、上智大學 各教授、上智大學文學部、鳥居人類學研究所長、世界人類學會、東京府在籍

鳥居龍藏 文學博士、國學院大學、上智大學 各教授、上智大學文學部、鳥居人類學研究所長、世界人類學會、東京府在籍

妻 龍太郎 明二七、七、生、現戶主

妻 龍太郎 明二七、七、生、現戶主

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

妻 明三三、二、生

(大阪市西區中道二ノ三二電土佐堀一三七九)

鳥原 重夫

從五位勳五等、地方技師兼專賣局技師、兵庫縣内務部勤務

妻 藤子 明二九、五生

男 茂 大四、七生

君は宮崎縣人にして明治二十一年二月を以て生れ同十四年家督を相續す同四十五年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し直ちに徳島縣農事試験場技師に任官神戶縣農事試験場を経て大正五年鹿兒島縣農事試験場長同七年同縣農事試験場長に任じ同十一年専賣局技師を兼任埼玉縣産業技師及福岡縣農林技師次いで昭和七年兵庫縣技師に轉じ穀物検査所長を兼務し現在に至る(神戸市葦合區龍池通二ノ二六電葦合五四三〇)

鳥海 榮助

東京府在籍

母 てる 文久三、七生、鳥海清七長女

妻 八重 明三〇、一一生、東京、瀬沼定次

女 静 大六、八生

君は東京府人先代榮助の長男にして明治二十五年十二月を以て生れ大正二年家督を相續し前名清太郎を改め襲名す家主たり家族は尙二女輝榮(大一〇、一一生)三女榮子(同一二、五生)四女絹子(昭三、二生)あり榮忠三郎(明一七、六生)三重、中村作蔵(三男)は其二女を伴ひ分家し姉美綱(同一三、七生)は東京府人大友赤松二男仁三郎に妹千代(同一三、六、七生)三輪田高女(出身)は同府人大森茂に嫁せりA三一五(東京市四谷區鹽町二ノ二二電四谷三九八)

鳥山 晃

醫學博士、昭和醫學專門學校教授、鳥山同族名無責任社員、醫師、東京府在籍

繼母 秀 明二六、九生、東京、鳥山藤二郎

妻 雪枝 明四一、三生、静岡、中村貞一郎

男 和夫 昭三、二生

君は東京府人鳥山南壽次郎の二男にして明治三十一年六月二十日を以て生れ大正十五年家督を相續す同十四

年東京帝國大學醫學部を卒業し現時昭和醫學專門學校教授にして傍ら鳥山同族會社無責任社員たり兼に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙長女美知子(昭四、一〇生)二女雅世子(同七、五生)ありA三六〇(東京市目黒區洗足町一四四九電荏原二四七五)

鳥山 喜一

正五位勳四等、京城帝國大學教授、法文學部勤務、東京府士族

妻 きく 明二七、一〇生、静岡、板倉良吉

男 新一 大八、一一生

女 克子 大五、八生

君は東京府士族鳥山保清の長男にして明治二十年七月十七日を以て生れ同年家督を相續す同十四年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し中央大學都文館中學校横濱英和女學校京華中學校各講師を経て大正八年新海高等學校教授に任せられ昭和三年京城帝國大學教授となり同八年三月法文學部部長に補せられ翌九年四月の爲解かれ現時法文學部勤務たり昭和三年東洋史研究の爲め支那及歐米各國に在留を命ぜらるる家族は尙二男孝一(大一一、一一生)二女り子(昭二、一一生)あり伯母たか(安政三、一一生)は東京府士族増井多七に嫁せり(東京市淀橋區柏木三ノ三三五)

鳥山 貞雄

鳥山同族名無責任社員、東京府在籍

妻 申 六 明二六、二生、長女董夫、東京、仙波正太郎

女 董 明三四、二生、養子申六妻

女 愛 明三二、二生

君は東京府人鳥山暢次郎の長男にして明治六年十月四日を以て生れ大正九年家督を相續す現時鳥山同族會社無責任社員たり家族は尙孫麗子(大一一、二生)養子申六長女(同國士)昭二、三生、同長男(同親)同五、六生、同二男あり母千賀(安政元、四生、鳥山貞利長女)は分家し弟利孫(明一一、五生)も亦其妻セツ(同一女)一一生、東京、原田守三長女)と共に其二男一女を伴ひ分家せりA七一七(東京市品川區北品川二ノ六五電高輪三〇六) 参照||鳥山利孫の項

鳥山 昇二

三河屋、蠟燭製造業、東京府在籍

母 ふく 明一一、七生、祖父福五郎長女

妻 節子 明四二、一一生、東京、菊地平吉

長女 明四二、一一生

君は東京府人鳥山福五郎の二男にして明治三十七年十一月二十九日を以て生れ昭和九年家督を相續す三河屋と稱し蠟燭製造業を營む家族は尙弟實(大五、三生)同卓三(同八、一一生)妹壽恵子(同一〇、四生)あり叔母千枝(明二九、七生)は東京府人坂本堅治郎に嫁せりA五二四B七三(東京市芝區金杉町三ノ二電三田三六五八)

鳥山 壯吉

東京府多額納稅者、東洋製菓株式會社、東京府在籍

妻 とみ 明一四、九生、埼玉、菅沼友吉

男 靖郎 大五、一一生

女 雅子 大八、一一生

女 綾子 大八、一一生

君は東京府人鳥山仙五郎の長男にして明治九年九月一日を以て生れ大正十一年家督を相續す裝飾用織物敷物商を營み兼ねて東洋製菓株式會社取締役に擧げられ東京府多額納稅者に列す家族は尙五女恒子(大一一〇、七生)庶子敏郎(同四、三生、生母、東京、吉岡かめ)あり二女美(明三五、一一生)は同府人沼田穰に嫁し弟貞三(同二四、六生)同妻泰(同三三、一一生、東京、國友誠長女)は其の一子を伴ひ分家せりA八二七五(東京市京橋區銀座四ノ三ノ二電銀座四三一)

鳥山 利孫

日本水道株式會社取締役、鳥山同族名無責任社員、東京府在籍

妻 せい 明一九、三生、東京、原田守三

直 大九、九生

君は東京府人鳥山暢次郎の二男にして明治十二年五月二十一日を以て生れ昭和五年兄貞雄方より分れて一家を創立す現時鳥山同族會社代表社員たる外前記會社の重役たり家族は尙長女利子(大一一、二生)養子千江子(昭四、七生、東京、横山淺之助五女)ありA五一五

(東京市品川區北品川三ノ二二〇電高輪三五〇)

鳥山 波五郎

東京府在籍

母 つな 明一七、六生、山梨、吉田萬吉

女 明一七、六生

君は東京府人先代波五郎の三男にして大正四年七月三十日を以て生れ昭和六年家督を相續し前名晴三を改め襲名す家主たり家族は尙姉須美恵(大一一、二生)妹朝子(同七、三生)同勝代(同九、二生)弟純男(同一三、六生)ありA三〇九(東京市牛込區二十騎町三一電牛込四五七九)

泥 義雄

丸善商店員、兵庫縣在籍

母 やす 明一八、六生、兵庫、平海忠七郎

妻 光子 明四三、六生、兵庫、藤戸三右衛門

男 雄美 昭六、一〇生

君は兵庫縣人泥辰次の長男にして明治三十八年四月二十日を以て生れ昭和四年家督を相續す現に丸善商店員たり家族は尙二男義博(昭九、一一生)弟敏男(明四〇、四生)妹はつ子(大元、一一生)弟清一(同四、九生)妹久子(同一一、二生)ありA三〇五(神戸市兵庫區大開通二ノ三〇ノ一五電湊川四八六一)

頼田 勤三

長崎商工會議所議員、長崎縣多額納稅者、長崎實業、貿易組合倉庫各務監査役、長崎雜穀乾物商組合副組長、長崎貿易商同業組合評議員、長崎縣防協會參與、森田屋商店、雜穀乾物問屋業、貿易商、長崎縣在籍

妻 ヨシ子 明三一、二生、廣島、有田勝四郎

男 敏夫 大六、三生、長崎高商在學

女 富美子 大八、一〇生、縣立長崎高女在學

君は長崎縣人頼田兼助の長男にして明治二十三年八月を以て生れ後家督を相續す森田屋商店と稱し雜穀乾物問屋業を營み傍ら長崎實業貿易組合倉庫各社重役を兼ね長崎縣多額納稅者に列す現に長崎商工會議所議員たる外前記各名譽職に推される家族は尙二男富夫(大一一

日本電力株式會社

本社 大阪市北區宗是町壹番地
 營業所 東京、平塚、名古屋、富山
 取締役社長 池 尾 芳 藏

南洋サイパン島

資本金貳千萬圓

南洋興發株式會社

取締役社長 松 江 春 次

本社 南洋サイパン島チャランカノア街
 サイパン製糖所 南洋サイパン島チャランカノア街
 テニアン製糖所 南洋テニアン島テニアン街
 口々製糖所 南洋ロタ島ソソソ街
 ポナベ製粉製造所 南洋ポナベ島マタラニウム
 ベリリュウ探礦所 南洋ベリリュウ島
 パラオ水産事務所 南洋パラオ島マラカ
 ニューギニア事務所 廣領ニューギニア・マノタワリ
 大阪出張所 大阪市西區西道頓橋通五ノ四
 下關出張所 下關市 町三〇
 東京事務所 東京市豊町區内山下町一ノ一
 東洋ビルディング内
 電話號碼(一) 三二八〇・二八六二・二八七
 (二) 二一八八・二一八八・二一八九

南洋興發株式會社
 南洋サイパン島
 南洋テニアン島
 南洋ロタ島
 南洋ポナベ島
 南洋ベリリュウ島
 南洋パラオ島
 廣領ニューギニア
 大阪出張所
 下關出張所
 東京事務所

東京日日新聞

THE TOKYO NICH-NICHI

最大の發行部數
絶大の廣告効果

本紙の御利用
商戰の勝利

物行刊期定	
大阪毎日新聞	大坂毎日新聞
英文東京日日	英文東京日日
サンデー毎日	サンデー毎日
點字大阪毎日	點字大阪毎日
エコノミスト	エコノミスト

ナ之部

名川 侃市

正五位勳三等、衆議院議員(廣島縣選出)松竹興業監査役、辯護士、廣島縣在籍

妻

シッ

長女

明二六、一、生、神奈川、鈴木易三

名倉 喜作

臺灣銀行香港支店支配人、靜岡縣在籍

母

きよ

長女

明二八、二、生、靜岡、川島平次郎

名倉 末次郎

建築請負業、東京府在籍

妻

と

明一、一〇、生、東京、長沼鐵吉姉

男

政名

明三、五、七、生

男

つた

明四、〇、一、生、長男政名妻、岐阜

名倉 謙藏

有隣社名代表社員、接骨醫、東京府在籍

男

重

明二七、二、生、現戸主

君は東京府人名倉謙一の長男にして慶應二年七月を以て生れ後家督を相續し昭和三年退學す東京帝國大學醫科大學別科の出身にして現に醫術を開業し接骨の名手として知られ傍ら有隣社代表社員たり(東京市足立區千住五ノ八〇電淺草二六六)

參照

名倉重雄

小原喜三郎の項

父

謙

名古屋 十郎

正五位勳三等、海軍少將、吳海軍需部長、吳商工會議所顧問、山形縣在籍

妻

柳

明二四、二、生、府立第二高女出身

男

十一

大五、六、生、一高理科在學

君は山形縣人にして明治十八年十一月を以て生る同三十九年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ爾後累進して昭和八年海軍少將に陞る現に吳海軍需部長にして吳商工會議所顧問に擧げらるる家族は尙二男暢男(大八、四生)あり長女昭子(明四四、九生)は埼玉縣人法學士久下勝次に嫁せり(吳鐵守府官會館八九〇)

米子商工會議所顧問、鳥取縣多額納稅者、博愛病院代表取締役、山陰貯蓄銀行、米子瓦斯各取締役、鳥取縣在籍

妻

名島 嘉吉郎

米子商工會議所顧問、鳥取縣多額納稅者、博愛病院代表取締役、山陰貯蓄銀行、米子瓦斯各取締役、鳥取縣在籍

妻

な

明三一、一、生、長女喜久子夫、鳥

女

喜久子

明三八、一、生、養子恒夫妻

女

喜久子

明三九、八、生、二女美子夫、鳥

名倉 喜作

臺灣銀行香港支店支配人、靜岡縣在籍

母

きよ

長女

明二八、二、生、靜岡、川島平次郎

妻

と

明一、一〇、生、東京、長沼鐵吉姉

男

政名

名倉 末次郎

建築請負業、東京府在籍

妻

と

明一、一〇、生、東京、長沼鐵吉姉

男

政名

明三、五、七、生

男

つた

明四、〇、一、生、長男政名妻、岐阜

ナ之部 名川、倉、古、島

(※印は姻族關係)

ナ一

名手源兵衛 和歌山縣多額納稅者、醸造業
和歌山縣在籍
妻 ヒテ 明元、一〇生、和歌山、名手由兵衛
男 喜太郎 明二八、三三
明三二、一〇生、長男喜太郎妻、大
阪、岸村徳平長女
君は和歌山縣人先代源兵衛の長男にして明治十二年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続し前名政吉を改め名手源兵衛を稱す同三十四年家督を相続し前名政吉を改め名手源兵衛を稱す同三十四年家督を相続し前名政吉を改め名手源兵衛を稱す

名手由兵衛 和歌山縣多額納稅者、醸造業
和歌山縣在籍
妻 ヌイ 明三三、五五、和歌山、岩本惣兵衛三女
養子 重男 明三六、九生、三女佳子夫、和歌山、迫間房太郎三男
女 佳子 明三九、一〇生、養子重男妻
君は和歌山縣人先代由兵衛の長男にして明治四年一月を以て生れ同二十四年家督を相続し前名直松を改め名手由兵衛を稱す現時前記各會社二百八十二圓を納む多額納稅者に列し直接國稅五千二百八十二圓を納む長女晴子(明三〇、四生)同夫峰四郎(同二八、一〇生、和歌山、近藤新十郎四男)は其一女を伴ひ妹ます(同八一〇生)は同夫徳三郎(同二一、四生、和歌山、岸本恒太郎弟)と共に弟利三郎(同二二、九生)は同妻コヤス(同二八、一〇生、和歌山、的場孫右衛門三女)を伴ひ

名取 忠愛 貴族院議員、甲府商工會議所顧問、山梨縣多額納稅者、第十銀行、山梨縣在籍
妻 まさよ 明五、二生、現戸主
養子 繁 明三三、九生、兵庫、岡田治太郎三女
女 淑 明三三、九生、兵庫、岡田治太郎三女
君は山梨縣人名取忠文の長男にして慶應二年十月を以て生れ同三十八年家督を相続す甲府市の素封家にして久しく市参事會同商業會議所會頭其他幾多の公職を帯び又選ばれて甲府市長たる事二回に及ぶ現時前記各銀行の重役にして直接國稅二千二百六十一圓を納め縣

名取 甚作 醫師
妻 甚左衛門 明三三、四生、東京、川村金次郎三女
養子 信 明三三、四生、東京、川村金次郎三女
女 信子 明三三、四生、東京、川村金次郎三女
君は山梨縣人名取甚左衛門の長男にして明治十二年一月十四日を以て生れ同十八年家督を相続す同十八年一月十四日を以て生れ同十八年家督を相続す同十八年一月十四日を以て生れ同十八年家督を相続す

名取 夏司 帝國生命保險株式會社取締役、旭電化工業顧問、長野縣在籍
妻 ちか 明一九、四生、山梨、小林完一妹
養子 信 明一九、四生、山梨、小林完一妹
女 信子 明一九、四生、山梨、小林完一妹
君は長野縣人名取和作の三男にして同作の同族の叔父にして明治十一年四月を以て生れ昭和三年兄和作方より分れて一家を創立す明治三十八年永井柳太郎大山都夫等と共に早稲田大學政治經濟科を卒業し直に古河合名會社に入り阿仁銅山經理課長同太良支店主任となり大正六年旭電化工業株式會社取締役に推され同十五年帝國生命保險株式會社の專務取締役に推され同十六年一切の重役を辭して帝國生命保險株式會社に専心すは性眞摯にして古河在職時代は實業界の好紳士故山田文次郎の知遇厚く現時士魂秀才の典型たりし故朝吹英二の嗣子慶應義塾出身朝吹常吉を輔けて鐵腕の手腕を揮ふ曾て母早大校友會常任幹事に擧げられ現に早大監事維持員兼評議員たると共に出身中學校長現第四中學の同窓會たる城北會館理事及長野出身在京學生宿舎長善館の館長たり凡そ事業及の趣味とし讀書論及人事の幹旋を好む(二八六八)(東京市豊島區巢鴨七ノ一五九電大塚九三三)

名取 助市 京都府多額納稅者、京都取引所取引員、京都府在籍
妻 昭 昭二、一〇生、難波養子信吉長男
孫 祐 昭三六、三三
女 祐 昭三六、三三
君は岐阜縣人戸崎多平治の四男にして慶應三年三月を以て生れ先代かつの養子となり明治三十五年家督を相続す京都取引所證券取引員にして直接國稅六千四百三十七圓を納め京都府多額納稅者たり家族は尙孫和子(大、四、三、三、難波養子信吉長女)あり(四三三三)二五九(京都市東區東洞院錦小路下電本局六七〇)

名取 長憲 正三位勳三等功四級、男爵、陸軍少將、東京府在籍
妻 明二七、一〇生、東京、江口政之助妹
女 明二七、一〇生、東京、江口政之助妹
君は南朝の忠臣名和長平の後胤なり十數世を経て顯貴に至り柳川藩主立花宗茂の客分となり夫より世々同家々臣として先代長泰に至る長泰明治十一年名和神社の宮司となり同十六年華族に列し同十七年男爵を授けらる君實は同藩士友清貞治の二男にして元海軍教授田中西熊の實兄なり元治元年二月を以て生れ先代長泰の養子となり明治三十一年家督を相続し養子被仰付同二十一年陸軍士官學校を卒業し騎兵少尉に任じ大正三年陸軍少將に累進す其間東宮武官御用掛陸軍士官學校騎兵實施學校各教官騎兵第一聯隊長近衛騎兵聯隊長等に歴補し豫備役に任じ日露役に騎兵第一聯隊長として各地に轉戦し勳三等功四級を賜ふ大正六年以來貴族院議員に當選すること二回曩に東京府在籍郡大井町長同郡町村長會々長たり家族は尙三女榮子(大、一、一、二生)あり

名取 幸一 やつこ、料理業
妻 元吉 明五、三三、現戸主
養子 明五、三三、現戸主
女 明五、三三、現戸主
君は兵庫縣人名村元吉の長男にして明治三十一年七月を以て生れやつこと稱し料理業を營む家族は尙長女米子(大、一、三、六、二、女喜久江(同、一、四、九、九)弟良雄(同、七、六、生)同眞三郎(同、九、一、〇、生)同享(昭三、二、生)あり庶子眞美子(大、一、〇、八、生)は兵庫縣人春木米藏に弟正三(同、二、一、生)は廣島縣人中村富次郎に各養子となり同政太郎(明三、八、八、生)同賢次(同、四、一、六、生)同清(同、四、三、一、生)は各分家し妹八重(同、三、五、六、生)は石川縣人松岡千順に嫁せり(四、一、五、一、神戶市湊東區中町六ノ二〇電湊川二二二)

名村 泰一 三井生命保險會社員
妻 三井生命保險會社員
女 三井生命保險會社員
君は兵庫縣人名村元吉の長男にして明治三十一年七月を以て生れやつこと稱し料理業を營む家族は尙長女米子(大、一、三、六、二、女喜久江(同、一、四、九、九)弟良雄(同、七、六、生)同眞三郎(同、九、一、〇、生)同享(昭三、二、生)あり庶子眞美子(大、一、〇、八、生)は兵庫縣人春木米藏に弟正三(同、二、一、生)は廣島縣人中村富次郎に各養子となり同政太郎(明三、八、八、生)同賢次(同、四、一、六、生)同清(同、四、三、一、生)は各分家し妹八重(同、三、五、六、生)は石川縣人松岡千順に嫁せり(四、一、五、一、神戶市湊東區中町六ノ二〇電湊川二二二)

名村 豐太郎 住友銀行廣島支店長
妻 明二五、二生、兵庫、士、眞野鷹
女 明二五、二生、兵庫、士、眞野鷹
君は兵庫縣人名村仲兵衛の長男にして明治十九年三月

名村 源之助 名村汽船會社代表社員、造船業
妻 明二〇、九生、大阪、山本松太郎
女 明二〇、九生、大阪、山本松太郎
君は大阪府人名村源兵衛の四男にして明治十一年二月十三日を以て生れ同三十八年先代兄廣吉の後を承け家督を相続す造船業を營み現時名村汽船會社合資會社の代表社員たり姉や女(同元、一、二、生)は廣島縣人堀尾武植に嫁し妹や女(同、一、四、九、生)は分家し明廣二(明二六、四、生、名村やな私生子)は兵庫縣人村岡富雄養子き

名取 和作 信濃電氣、東邦電力、合同電氣、信濃電氣、鐵道、梓川電氣、池田農園各取締役、新高製糖株式會社、千代田生命保險(五)監査役、富士電機株式會社監査役、長野縣在籍
妻 弘化三、三三、長野、有賀源右衛門長女
女 明一六、五五、東京、朝吹常吉妹
君は長野縣人名取和三郎の長男にして同夏司の兄なり明治五年四月を以て生れ同三十年家督を相続す同二十九年慶應義塾理財科を卒業し更に米國コロンビア大學に經濟學を究め歸朝後慶應義塾教授となり後實業界に入り前記諸會社の重役にして交詢社常議員慶應義塾理事に擧げらる三男洋之助(明四三、九生)四男廣之助(大、二、三、生)は各分家し弟源一(明八、一、生)同妻澄代(同、一、二、四、生、長野、清水治長女)も亦其子女を伴ひ分家し姉ひさ(慶應三、二、生)は山梨縣人矢崎亮造に妹芳枝(明一五、四、生)は群馬縣人星野惠助に嫁せり(六、五、三、五、東京市芝區三田)ノ三五電三三六〇

名村 幸一 やつこ、料理業
妻 元吉 明五、三三、現戸主
養子 明五、三三、現戸主
女 明五、三三、現戸主
君は兵庫縣人名村元吉の長男にして明治三十一年七月を以て生れやつこと稱し料理業を營む家族は尙長女米子(大、一、三、六、二、女喜久江(同、一、四、九、九)弟良雄(同、七、六、生)同眞三郎(同、九、一、〇、生)同享(昭三、二、生)あり庶子眞美子(大、一、〇、八、生)は兵庫縣人春木米藏に弟正三(同、二、一、生)は廣島縣人中村富次郎に各養子となり同政太郎(明三、八、八、生)同賢次(同、四、一、六、生)同清(同、四、三、一、生)は各分家し妹八重(同、三、五、六、生)は石川縣人松岡千順に嫁せり(四、一、五、一、神戶市湊東區中町六ノ二〇電湊川二二二)

名村 泰一 三井生命保險會社員
妻 三井生命保險會社員
女 三井生命保險會社員
君は兵庫縣人名村元吉の長男にして明治三十一年七月を以て生れやつこと稱し料理業を營む家族は尙長女米子(大、一、三、六、二、女喜久江(同、一、四、九、九)弟良雄(同、七、六、生)同眞三郎(同、九、一、〇、生)同享(昭三、二、生)あり庶子眞美子(大、一、〇、八、生)は兵庫縣人春木米藏に弟正三(同、二、一、生)は廣島縣人中村富次郎に各養子となり同政太郎(明三、八、八、生)同賢次(同、四、一、六、生)同清(同、四、三、一、生)は各分家し妹八重(同、三、五、六、生)は石川縣人松岡千順に嫁せり(四、一、五、一、神戶市湊東區中町六ノ二〇電湊川二二二)

名村 豐太郎 住友銀行廣島支店長
妻 明二五、二生、兵庫、士、眞野鷹
女 明二五、二生、兵庫、士、眞野鷹
君は兵庫縣人名村仲兵衛の長男にして明治十九年三月

名村 源之助 名村汽船會社代表社員、造船業
妻 明二〇、九生、大阪、山本松太郎
女 明二〇、九生、大阪、山本松太郎
君は大阪府人名村源兵衛の四男にして明治十一年二月十三日を以て生れ同三十八年先代兄廣吉の後を承け家督を相続す造船業を營み現時名村汽船會社合資會社の代表社員たり姉や女(同元、一、二、生)は廣島縣人堀尾武植に嫁し妹や女(同、一、四、九、生)は分家し明廣二(明二六、四、生、名村やな私生子)は兵庫縣人村岡富雄養子き

那須省三郎 正五位勳四等、東北帝國大學教授、醫學部助務、和歌山縣在籍

名和田

名和田哲郎 山口縣人、和歌山縣在籍、山口縣在籍

那須七二郎

那須七二郎 大阪府在籍、大阪府在籍

那須省三郎

那須省三郎 正五位勳四等、東北帝國大學教授、醫學部助務、和歌山縣在籍

那須吉兵衛

那須吉兵衛 大阪府在籍、大阪府在籍

那須徳三郎

那須徳三郎 大阪府在籍、大阪府在籍

那波光雄

那波光雄 從三位勳三等、工學博士、東京帝國大學工學部教授、東京府在籍

奈倉次郎

奈倉次郎 從四位勳三等、前山口高等商業學校校長、靜岡縣在籍

奈倉磐松

奈倉磐松 秋田縣多額納稅者、秋田銀行、秋田縣在籍

那須孫次郎

那須孫次郎 紀州磐石村、熊野自動車各務代表取締役、秋津川水電、紀州物産

那波三郎右衛門

那波三郎右衛門 秋田縣多額納稅者、那波商店、秋田縣在籍

那須省三郎

那須省三郎 正五位勳四等、東北帝國大學教授、醫學部助務、和歌山縣在籍

那須吉兵衛

那須吉兵衛 大阪府在籍、大阪府在籍

那須徳三郎

那須徳三郎 大阪府在籍、大阪府在籍

那波光雄

那波光雄 從三位勳三等、工學博士、東京帝國大學工學部教授、東京府在籍

奈倉次郎

奈倉次郎 從四位勳三等、前山口高等商業學校校長、靜岡縣在籍

那須とめ

那須とめ 京都府在籍、京都府在籍

那須敏之

那須敏之 那須アルミニウム製造所社長、東京府在籍

那須省三郎

那須省三郎 正五位勳四等、東北帝國大學教授、醫學部助務、和歌山縣在籍

那須吉兵衛

那須吉兵衛 大阪府在籍、大阪府在籍

那須徳三郎

那須徳三郎 大阪府在籍、大阪府在籍

那波光雄

那波光雄 從三位勳三等、工學博士、東京帝國大學工學部教授、東京府在籍

奈倉次郎

奈倉次郎 從四位勳三等、前山口高等商業學校校長、靜岡縣在籍

奈倉磐松

奈倉磐松 秋田縣多額納稅者、秋田銀行、秋田縣在籍

那須孫次郎

那須孫次郎 紀州磐石村、熊野自動車各務代表取締役、秋津川水電、紀州物産

那波三郎右衛門

那波三郎右衛門 秋田縣多額納稅者、那波商店、秋田縣在籍

十之部

那(須,波)

(※印は姻族關係)

男 謙介 大三、三
君は秋田縣士族奈良茂の長男にして明治十二年八月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十三年早稲田大學...

奈良右左衛門

男 謙一 八一、七
君は秋田縣人先代右左衛門の長男にして明治十五年九月を以て生れ同三十四年家督を相續す...

男 謙一 八一、七
君は秋田縣人先代右左衛門の長男にして明治十五年九月を以て生れ同三十四年家督を相續す...

奈良かね

養子 一男 大二、一〇
君は大阪府人奈良仙助の長女にして明治二年六月を以て生れ同四十五年家督を相續す...

奈良重威

妻 よね 明二、一三
山梨縣會議事長、都留電燈事務所取締役、山梨縣在籍

奈良定正次郎
妻 カルエ 明二、一〇
君は大阪府人奈良定三の二男にして明治十七年六月三十日を以て生れ大正八年兄彌藏方より分れて一家を創立す...

奈良林芳樹
妻 さだよ 明二、九
君は東京府人奈良林茂次郎の長男にして明治二十九年十月を以て生れ大正十三年家督を相續す...

奈良原三次

女 緑子 明四、七
正四位、伊勢、海軍造兵大尉、日本飛行俱樂部會長

ナ之部 奈良 納、内、貴、藤

(※印は姻族関係)

ナ七

孫 幸次 明四五、二
孫 美枝 大四、一〇
孫 龜子 大六、六
孫 さき子 大八、二
君は山梨縣人奈良五右衛門の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治三十年家督を相續す...

奈良武次

妻 ミツ 明六、七
從二位勳一等功三級、男爵、陸軍中將、文政審議會委員

養子 武康 昭三、一
君は栃木縣人奈良彦一郎の二男にして明治元年四月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す...

奈良武一

妻 多加 明六、一
從五位勳五等、判事、前橋區裁判所監督官同地方裁判所判事

納谷多美子
妻 まさ 明二、五
君は大阪府人納谷太郎の長女にして明治四十五年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す...

内木清三郎
妻 ツネ 明一、二
君は新潟縣人内木金七の長男にして明治五年一月を以て生れ同三十一年祖父清吉の後を承け...

内貴清兵衛
妻 ナヲ 明三、八
京府多額納税者、京都瓦斯局津製作所、日本電池、日本共立生...

君は埼玉縣人奈良太郎の長男にして明治二十四年十月十八日を以て生れ大正十四年家督を相續す...

奈良辰次郎

父 權兵衛 安政元、一
母 エイ 慶應三、五
妻 辰蔵 明二四、二
妻 貞子 大三、四

君は大阪府人奈良權兵衛の長男にして明治十八年五月二十七日を以て生れる材木商を營む家族は尙三女愛子...

奈良井多一郎

妻 フチ 明三、八
從四位勳三等、朝鮮總督府檢察事、釜山地方檢察正、富山縣在籍

明治十一年五月を以て生れ同三十一年家督相續と共に署名して前名清之助を改む...

内藤章
妻 能子 明一四、一
從四位勳三等、東京商科大学教授、從四位勳三等、東京商科大学教授、山梨縣在籍

參照 根津啓吉、廣瀬久忠、網野善右衛門、川村貞次郎、神戶久誠、名取忠愛、松澤嘉一郎、廣瀨爲久、若尾璋八の項

内藤 勝造 從四位勳三等、通信事務官、東京中央郵便局長、兵庫縣士族、神川登雄、明二、五生、廣島、土、神川登雄、明四三、四生、大元、一、一生

内藤 官太 從五位勳四等功五級、奉天石炭セメント常務取締役、熊本縣在籍、妻は、明一九、一、二生、東京、黒澤新榮子、君は熊本縣人内藤平の長男にして同族の兄なり明治八年十二月を以て生れ大正五年家督を相続す現時奉天石炭セメント會社常務取締役長女婿(明三三、三九、一〇生)は男爵山澤靜一に妹シモコ(同三三、七生)は熊本縣人井上又次郎弟權藏に同マサエ(同三五、七生)は廣一縣人堀井勇に嫁せり(奉天市淀野四)

内藤 乾吉 東方文化學院京都研究所員、秋田縣士族、妻は、明二、九生、秋田、田口太郎、君は秋田縣人内藤虎次郎の長男にして明治三十二年四月を以て生れ昭和九年家督を相続す大正十四年東京

内藤 齋平 納稅商工會議所議員、愛知縣多額納稅者、豊橋市市場、マケイ東海倉庫、豊橋電氣軌道、中部電力各取締役、魚問屋業、愛知縣在籍、妻は、明一八、一、二生、愛知、小出齊吉、君は愛知縣人先代齊平の長男にして明治十一年四月を以て生れ大正七年家督を相続し前名清次郎を改め齋平と魚問屋業を營み傍ら前記各會社の重役を兼ね、縣下の多額納稅者にして直接國稅三千七十五圓を納む又推されて豊橋商工會議所議員たり家族は尙三男良造(大七、三三)三女と(同一、一、二生)あり長女幾代(明四〇、一二)は愛知縣人新美俊一に二女いと(同四三、一、一)は静岡縣人金原吉市弟淳に嫁せり(豊橋市新錢町三一電二四四)

内藤 作藏 日本電氣工業理事、經理課長、東京府在籍、妻は、明二、一、一生、茨城、水谷徳太、君は愛知縣人内藤重三の三男にして明治十一年八月を以て生れ同年同三十九年分れて一家を創立す現時日本電氣工業會社理事經理課長にして兼に十五銀行に入り神田京橋各支店長たりし事あり(東京市赤坂區青山北町六ノ三三電青山六七一〇)

内藤 三介 正五位勳六等、東京商科大学附屬商學專門部教授、東京府在籍、妻は、明二、一、八生、埼玉、植田行忠二女、君は東京府人内藤魯の長男にして明治八年九月を以て生れ後家督を相続す同三十五年東京專門學校英語政治科を卒業し石川縣立金澤第一中學校教諭となり同四十

帝國大學法學部政治學科を卒業し現時東方文化學院京都研究所員なり故父虎次郎は湖南と號し日本人大阪朝日新聞臺灣日報萬朝報各記者外務省嘱託等になり後京都帝國大學文科大學教授に任ぜられ支那に歴遊し又差遣せられし事前後九回に及ぶ又歐洲に差遣されし事あり明治四十四年文學博士の學位を授けらる本邦支那學者の重鎮にして帝國學士院會員に推される家族は尙弟耕次郎(明三四、五生)同成申(同四一、四生)同茂彦(同四三、七生)同夏五(大二、五生)妹鮮子(同九、一〇生)あり同百合子(明三六、一〇生)は大谷大學教授常川一に嫁し同ヒナ子(同三九、三三)は醫學博士遠藤仁郎に嫁せり(京都市上京區相國寺東門前町六三七電上二二〇)

内藤 寛 從五位勳四等、農學博士、陸軍一等獸醫、中山鐵馬俱樂部技士、歌野、静岡縣在籍、妻は、明二、六、六生、静岡、山本金木二男、君は静岡縣人内藤武雄の三男にして明治二十一年三月を以て生れ同四十五年東京帝國大學農科大學獸醫學科本科を大正三年陸軍獸醫學校を卒業し同六年東京帝國大學大學院に入る明治四十五年見習獸醫官となり大正二年陸軍二等獸醫軍馬補充部支隊附を経て同七年陸軍一等獸醫に昇任陸軍騎兵學校附屬教官たりしが同十一年朝鮮總督府獸疫血清製法所技師に轉じ後農學博士の學位を受く現時中山鐵馬俱樂部技士にして獸醫たり家族は尙兄龍(明一七、四生、現戸主)同妻み(同二八、一、二生、静岡、橋本三郎長女)及其二男四女及び妹花香(同二三、四生)同のぶ(同三三、四生)あり弟英雄(同三〇、一〇生)は同縣人塚本至作に同婚(同四〇、五生)は愛知縣人瀧崎やに各養子となれり(千葉縣東葛飾郡八幡町)

内藤 菊尾 地主、京都府在籍、妻は、明三、三、三、生、京都、中塚いと、君は京都府人内藤源輔の長女にして明治二十一年三月

内藤 正太郎 尼崎製糖専務取締役、東京乘合自動車、東京汽船、空中電氣鐵道、關東鐵道各取締役、山口縣士族、妻は、明二、四、一、一生、東京、菅原秀磨、君は山口縣人内藤正明の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正二年家督を相続す明治四十五年京都帝國大學法學部政治學科を卒業し現時前記諸會社の重役たり父祖の遺志を嗣ぎ郷黨に厚く郷里に盡す所多く大正十一年勳章を賜はる家族は尙孫正之助(大一一、四生、養子三郎長男)同會吉(同一二、八生、同二男)同明(同一四、八生、同長女)ありA八六四(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇電青山三六七八)

内藤 伸 勳八等、帝國美術院會員、彫刻家、島根縣在籍、妻は、明一、八、二、生、西崎豊次郎二女、君は島根縣人渡部嘉市の二男にして明治十五年十月を以て生れ先代金助の養子となり同三十八年家督を相続す風に高村光雲の門に入り研鑽を積み同三十七年東京美術學校彫刻科を卒業す同四十二年日本美術院同人同十三年帝國美術院展覽會委員となり次で昭和二年帝國美術院會員に附けられる家族は尙五女(大一一、六生)あり(東京市澁谷區諏訪町二三〇電牛込五六一七)

内藤 宗七 桶川町長、内藤商店代表取締役、砂糖雜貨商、埼玉縣在籍、妻は、明一、三、八、生、愛媛、樋口林八長女、君は埼玉縣人内藤宗吉の長男にして文久三年十二月を以て生れ先代宗右衛門の養子となり明治十六年家督を相続し前名萬吉を改む砂糖及雜貨商を營み現時内藤商店代表取締役にして推されて桶川町長たり現に埼玉縣多額納稅者に列す家族は尙孫洋(大一一、一、一生、養子文作長男)同茂(同一三、二、生、同二男)同和子(同一四、二、生、同三女)あり養子たか(明七、七、生、埼玉、市川平兵衛二女)は埼玉縣人市川吉五郎に妹いし(同三、一

二十二日を以て生れ同四十三年先代父源輔の後を承け十二代の家督を相続す地主にして資産家を以て知らる趣味は讀書及小鼓にして歌道に精進す叔母た(明九、二生)は分家せりA二〇八六京都市下京區西七條西野町二〇電下七二三)

内藤 金一 共同商社社長、ゴ式燒却爐運轉、山形縣在籍、妻は、明二、一、四、生、山口、二階庸藏長女、君は山口縣人内藤鐵藏の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治三十八年京都帝國大學法學部大學を卒業し、鑛業を營み傍ら共同商社社長ゴ式燒却爐會社監査役に任ぜられ日本關土金山會社の重役たりし事あり家族は尙二男信雄(大六、七、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村芦屋山坂一五三七電青屋三七五七)

内藤 熊喜 日本電力會社社長、日電證券代表取締役、山陽電力電氣、關西共同火力發電會社監査役、熊本縣在籍、妻は、明二、七、七、生、熊本、伊藤モジユ、君は熊本縣人内藤文平の二男にして現戸主官太の弟なり明治十四年四月を以て生れ同三十七年東亞同文書院商務科を卒業し實業界に入り現時日本電力會社副社長たる外前記諸會社の重役たりA三九五六(兵庫縣武庫郡精道村蘆屋井ノ尻一〇七七電青屋二九三二)

内藤 才兵衛 小堀屋、酒類問屋業、京都府在籍、妻は、明三、七、六、生、東京、美野川利八、君は東京府人先代才兵衛の長男にして明治二十九年十二月を以て生れ同三十一年家督を相続し前名良太郎を改め養子小堀屋と稱し酒類問屋業を營む家族は尙長女明子(大一一、一、一生)二女壽子(同一三、一、一生)三女

内藤 清次郎 砂糖商、京都府在籍、妻は、明一、五、四、生、京都、宮坂政次郎、君は京都府人内藤清兵衛の三男にして明治九年十一月二十三日を以て生れ同三十三年兄藤治郎方より分れて一家を創立す砂糖商を營む家族は尙孫マサ子(大一一、一、一生、養子四郎長女)同鏡子(明四、七、生、同二女)同篤子(同七、七、生、同三女)ありA三一(京都市上京區新町寺ノ内上ル一ノ道正町四六九電青屋二九五)

内藤 誠雄 周旋業、兵庫縣士族、妻は、明一、九、七、生、兵庫、野谷規三郎、君は兵庫縣人内藤井川隆二の二男にして明治三年三月を以て生れ同十二年先代竹藏の養子となり家督を相続す周旋業を營むA三一三五(神戸市淡路區通二ノ五四電元町一六三六)

内藤 宗七 桶川町長、内藤商店代表取締役、砂糖雜貨商、埼玉縣在籍、妻は、明一、三、八、生、愛媛、樋口林八長女、君は埼玉縣人内藤宗吉の長男にして文久三年十二月を以て生れ先代宗右衛門の養子となり明治十六年家督を相続し前名萬吉を改む砂糖及雜貨商を營み現時内藤商店代表取締役にして推されて桶川町長たり現に埼玉縣多額納稅者に列す家族は尙孫洋(大一一、一、一生、養子文作長男)同茂(同一三、二、生、同二男)同和子(同一四、二、生、同三女)あり養子たか(明七、七、生、埼玉、市川平兵衛二女)は埼玉縣人市川吉五郎に妹いし(同三、一

當家は内藤彌次右衛門家長の男左馬之助政長の次男兵部少輔政晴の後なり政晴兄忠興の所領中二萬石を分與せられ別に一家をなすより十世を経て世々三河國學...

内藤 政

當家は内藤彌次右衛門家長の孫帶刀忠興の三男主殿頭政亮の後なり政亮分れて一家をなし勢城湯長谷一萬五千石を領す夫より十三世を経て先代政亮に至り明治十七年子爵を授けらる君は政亮の長男にして明治四十四年三月二十日を以て生れ昭和七年家督を相続し...

内藤 巳之助

當家は藤原秀郷の後胤内藤右京進義清の男長左衛門忠郷の四男仁兵衛忠政の子修理亮清成の後なり清成將軍秀忠に仕へ相州常陸二萬六千石に封ぜらる後世信州高遠三萬三千石に移封し十一世を経て先々代直直に至り長男彌三郎其後を承け明治十七年子爵を授けらる君は直直の二男にして明治十年十一月六日を以て生れ同三十三年兄彌三郎の養子となり同四十年家督を相続し...

内藤 宗晴

當家は大阪府人内藤宗之助の長男にして同勝之助の養明に當る大正四年三月を以て生れ昭和五年祖父爲三郎の跡を承け家督を相続す家産家たり叔母壽恵(明四二、二生)同夫一老(同三五、四生、大阪、山谷吉藏三男)は其二男一女を伴ひ分家せりA二四二九(大阪北區老松町二ノ一五電北三二九六)

内藤 頼輔

當家は藤原秀郷の後胤内藤右京進義清の男長左衛門忠郷の四男仁兵衛忠政の子修理亮清成の後なり清成將軍秀忠に仕へ相州常陸二萬六千石に封ぜらる後世信州高遠三萬三千石に移封し十一世を経て先々代直直に至り長男彌三郎其後を承け明治十七年子爵を授けらる君は直直の二男にして明治十年十一月六日を以て生れ同三十三年兄彌三郎の養子となり同四十年家督を相続し...

苗村 又右衛門

當家は東京商工會議所議員、苗村商會事務局長、苗村ビルヂング社長、東京府在籍、歌舞伎座理事、東京府在籍、明三、六生、埼玉、諸星新助叔母、明一〇、七生、亡養子正五郎、東京、小幡右衛門叔母、明三九、一〇生、亡養子正五郎長男、苗村商會理事、青山學院高等學部出身、孫、篤二、明四一、二男にして嘉永三年三月を以て生れ明治九年家督を相続し前名爲松を改め姓名に苗村商會社社長の外前記各會社の重役にして東京商工會議所議員に推さる君は東海銀行取締役たりし事あり養子イト(明一六、三生、東京、八田道忠姉)は分家し孫キミ(同三六、五生、亡養子正五郎二女)は東京府人松田登三郎長男定信に同キミ(同三七、七生、同三女)は同府士族久田益太郎長男鐵夫に嫁し妹や(安政元、一一生)は同府人小幡右衛門の祖母たりA四九七九(東京市赤坂區丹後町二電青山六〇三四)參照II小幡右衛門、松田登三郎、大角孝生、久田益太郎、久田鐵夫の項

直井 正一

當家は兵庫縣人直井藤左衛門の長男にして明治二十三年六月を以て生れ地主たり父藤左衛門は須磨信託會社取締役たりし事あり家族は尙二女茂子(大九、一〇生)三子(明三九、一〇生)は子爵堀雄長男長男長長に二女和子(同四四、七生、女子學院出身)は男爵明石元長に嫁せり(東京市四谷區内藤町電四四一四〇)參照II侯爵西郷從德、子爵大河内輝耕、子爵堀雄長男爵明石元長、公爵岩倉具實、伯爵小松從志、子爵稻葉順通、子爵松平直顯、男爵伊地知精、男爵上村從義、男爵鍋島直明、男爵古河虎之助、西郷豊二の項

直江新太郎

當家は兵庫縣人星野理太の長男にして明治十五年四月を以て生れ先代文吉の養子となり昭和五年家督を相続す藤屋と稱し吳服商を營む今井商店藤武商店の重役たりし事あり家族は尙二男榮造(大五、五生、明大商學部在學)ありA九一九三二(東京市豊島區巢鴨六ノ一三三二電大塚一三三二)

直木久兵衛

當家は兵庫縣人堀鶴之助の弟にして同久次郎の叔父なり明治四年九月を以て生れ先代久兵衛の養子となり同二十八年家督を相続し前名由三郎を改め名を米穀肥料商を營み縣下の多額納税者にして家主たり書籍雜誌渉獵に味を有す長女きみ(明三四、九生、親和高女出身)は同夫一二三(同二九、二生、兵庫縣、今井善右衛門三男)と共に分家し二女かね(同三七、九生)は兵庫縣人多木千吉四男文爾に嫁せりA一九九九(神戸市林田區片山町二ノ二電三三五八四)參照II今井善右衛門、堀久次郎、多木文爾、直木太郎、有馬順二、今井悅太郎の項

直木三郎

トキワ商會、神戸電機製作所各専務理事、大崎クレイ製造専務理事、日本ビヂウマルス工業、監査役、真木電業執行役員、兵庫縣在籍、妻、きぬ、明二八、七生、兵庫、士、堀江金、明二二、三、長男潤一妻、東京、明四二、七、長男潤一妻、東京、明三三、四、二男修、神奈川、高橋四郎二女、女、正子、明四三、六、典子、明四三、六、三枝子、大八、九、君は兵庫縣人直木政之介の長男にして工學博士直木倫太郎の養弟なり明治十四年六月を以て生れ兵に神戸商業學校を卒業し現時直木合資社業務執行社員にして前記トキワ商會神戸電機製作所大崎クレイ製造日本ビヂウマルス工業阪神工業神戶鐵業各會社の重役を兼ね家族は尙四男和(大七、三生)六女英子(同四、六、二)孫田鶴(昭四、九生、長男潤一長女)同政弘(同七、二)人荒井雄吉に三女正子(同四三、六生)は兵庫縣人山本秀一郎に嫁し二女悦子(同三八、一一生)は兵庫縣人重名信子の養子となり(神戸市神戶區中山手通七ノ四六八電元町二三三四)參照II大石七郎、直木政之介、直木倫太郎、谷口茂雄の項

直木太一郎

向島土地、合同土地、神戸米穀市場日報社各取締役、直木商店代表社員、神戸米穀市場組合副組長、神戸肥料取引所、神戸肥料商組合各理事、兵庫縣在籍、父、久兵衛、明四、九生、現戸主、妻、久、明三六、五生、兵庫、大江市松二女、兵庫縣立第一高女出身

直木政之介

君は兵庫縣人神田勝太郎の長男にして嘉永四年一月を以て生れ明治十一年先代からの入夫となり家督を相続す同二十年日本樽寸製造會社を設立して社長となる後之を辭し澁川土地建物會社社長阪神材工業會社社長製造會社各取締役たりしも現時退きて前記諸會社の要職に在り農に町會議員兵庫縣會議員同常置委員神戸市參事會員神戸商會會議所副會頭其他の名譽職に擧げらる同四十二年勳六等に授けられ大正十年勳章を賜ふ三女協(明一九、九生)は兵庫縣人谷口茂雄に四女信子(同二三、三生)は鳥根縣人錦織宗に五女静枝(同三〇、一一生)は東京府人濱田藤光に庶子り(同二一、七生、生母、兵庫、横山み)は奈良縣人藤智院孝徳に嫁し二男彌三(同二一、六、七生)は兵庫縣人柴田保造に六男準(同三五、一一生)は前記柴田保造養子といひ各養子となり三男憲一(同二二、一一生)同妻とよ(同二七、一一生、兵庫、松下豊吉二女)は其一子を伴ひ五男榮一(同三三、三生)は同妻と(同三七、一一生、兵庫、大庭竹四郎五女)と共に長女り(同三三、八生)同夫倫太郎(同九、一一生)も亦其子女を伴ひ各分家せりA一九七七(神戸市神戶區中山手通七ノ三二電元町二三三四)參照II大庭竹四郎、谷口茂雄、直木三郎、直木倫太郎の項

中 亥歳男

衆議院議員(兵庫縣選出)、中商店代表社員、徳島縣(兵庫縣)主、妻、コハル、明一九、八生、西田與三吉長女

庶子 一男 明三七、一生、生母、兵庫、山田

君は徳島縣士族中精一の長男にして明治八年三月を以て生れ同二十七年家督を相続す凡に貿易商を營み神戸市會議院議員に選ばれ昭和五年兵庫縣より推されて衆議院議員に當選し同七年再選現に立憲民政黨所屬たり巽に神戸市同業組合副組長神戸市商會議所副會頭に擧げらるる妹ツヤ(明一、二、八生)は岡山縣人橋尾傳之助二男次郎に同ハル(明一、七、八生)は栃木縣人増田多郎弟朝男に同ツネ(明二、一、九生)は福岡縣人渡邊岩多郎弟登美次に嫁せりA三六〇(神戸市灘區上野通八ノ三〇三電燈合三三七、四四三六)

中 邦 策 三井銀行理事
滋賀縣士族

妻 カネ 明三一、一生、福岡、士、戸島徳太郎妹、福岡高女出身

男 大策 大四、一生

君は滋賀縣士族中常三の二男にして明治二十一年五月二十日を以て生れ同四十三年八月二十七日家督を相続す同四十五年慶應義塾大學理財科を卒業し直に三井銀行に入り果進して現時三井銀行理事たり家族は尙二女俊子(大一二、一生)三女和子(明二、一、生)二男東策(同四、三生)あり(東京市大森區山王一ノ二五八三)

中 太郎兵衛 魚問屋業
大阪府在籍

母 百枝 明一六、四生、兵庫、石橋かね二女

君は大阪府人先代太郎兵衛の長男にして大正四年九月二十七日を以て生れ大正十年家督を相続し前名正敏を改め襲名す魚問屋業を營む家族は尙姉英子(明三五、六生)妹千代子(大六、一生)ありA一〇四七(大阪府此花區玉川町三ノ八二電燈五五一九)

中 辰之助 大阪農工銀行、和泉紡績、泉陽紡績、大阪興業セメント各取締役
岸和田貯蓄銀行、岸和田銀行、大阪興業、大瀬土地各取締役、熊取織物取締役、大阪府在籍

妻 スミ 明三、一〇生、養父克巳長女

娘 シン 明二、一〇生、亡長男左近妻、大阪、好田吉右衛門妹

孫 克人 大六、一〇生、亡長男左近長男

中 彌兵衛 大島織布製造廠、家主
大阪府在籍

妻 奈良江 文久三、六生、大阪、稻垣富藏長女

妻 トヲ 明一〇、八生、大阪、島田徳之助妹

養子 貞太郎 明二五、一〇生、養父彌兵衛庶子

娘 あき 明三〇、三生、養子貞太郎妻、大阪、上林治三郎四女

孫 寅藏 大三、一〇生、養子貞太郎二男

君は滋賀縣人辻久藏の二男にして明治八年一月を以て生れ同三十一年先代彌兵衛の養子となり家督を相続し前名留吉を改め襲名す家主に於て傍ら前記會社の重役を兼ね巽に大阪金銅會社代表社員たりし事あり家族は尙孫房藏(大九、五生、養子貞太郎三男)ありA三三五(大阪府西區立賣町北通四ノ五電燈新三三〇五)

中 井 卯之助 三谷仲調製糖取締役
大阪府在籍

妻 ナカ 明二四、九生、大阪、藤本勘兵衛

男 正夫 大八、一〇生

女 千代子 大元、九生

女 俊子 大元、三生

女 治子 大六、一〇生

君は大阪府人井善右衛門の三男にして明治十八年九月十二日を以て生れ同四十四年兄善之助方より分れて一家を創立す巽に十五銀行玉造支店長にして現時三谷仲調會社取締役たり(東京市中區三條通烏丸東入九)

中 井 梅次郎 淀屋本店、貴金屬商
大阪府在籍

中 井 源左衛門 日野屋、生絲商
滋賀縣在籍

妻 ちへ 明一九、一〇生、京都、柳澤平五郎二女

養子 政文 明三三、一〇生、長女みね夫、京都、松阪廣政弟

女 みね 明四〇、三生、養子政文妻

中井家は滋賀縣日野町に於ける草分けにして明治維新

中家は大阪府に於て千餘年前より連綿たる舊家にして代々庄屋役を勤めし家柄なり君實は大阪府人原文平の叔父にして明治元年四月を以て生れ先代エミの養子となり同十二年家督を相続す現時前記各銀行會社の重役として知らるる家族は尙孫サチ(大九、二生、亡長男左近長女)あり二男小方次(明二四、八生、法學士)は兵庫縣人川口平三郎の養子となり三男泰三(同二九、一〇生)は分家し長女ヨネ(同二八、二生)は大阪府人信貴英藏に二女ヨシ(同三五、五生、堺高女出身)は同府人原イマ三男三郎に嫁せり(大阪府泉南郡熊取村電一)參照川口平三郎、信貴英藏、宇野亮一の項

中 井 永一 東京中野銀行頭取、中井酒店監査役、東京府在籍

妻 ヒサ 明二二、一生、東京、須田鐵次郎妹

男 孝二 大五、三生

君は東京府人中新右門の叔父にして明治十四年四月十一日を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す現に東京中野銀行頭取にして中井酒店監査役を兼ね家族は尙長女登志子(大一一、二生)あり(東京市中野區本町通五ノ三二電中野四三三八)

參照須田鐵次郎、中新右門、梅岡忠之助、高津伊兵衛の項

中 井 嘉市 千代田生命保險(互)廣島支部長
京都府在籍

妻 ナ 明一五、一〇生、東京、布施要義

男 千代太郎 明三七、一〇生

君は京都府人中新政之助の長男にして明治七年十一月十五日を以て生れ同四十四年家督を相続す同二十九年關西大學法科を同三十一年明治大學法科を各卒業し千代田生命保險會社に入り現時同社廣島支部長たり長女返子(明三五、一〇生)は京都府人開目成造に妹ナミ(同二六、八生)は同府人尾崎汎太郎弟才市郎に嫁せり(廣島市大手町電七四五)

中 井 源左衛門 日野屋、生絲商
滋賀縣在籍

妻 ちへ 明一九、一〇生、京都、柳澤平五郎二女

養子 政文 明三三、一〇生、長女みね夫、京都、松阪廣政弟

女 みね 明四〇、三生、養子政文妻

中井家は滋賀縣日野町に於ける草分けにして明治維新

中 井 光次 從五位、京都府書記官、内務部長
静岡縣在籍

妻 みち 明三〇、六生、静岡、黒田重兵衛

男 和彦 大一一、一生

君は静岡縣人中井半十郎の二男にして明治二十五年十月五日を以て生れ大正十四年家督を相続す同六年東京帝國大學法科大學法科を卒業し福井縣となり爾來和歌山縣警視同縣那賀郡西牟婁各郡長務理事官復興局事務官兼都計畫兵庫地方委員事務官岡山縣書記官事務部長鳥取千葉縣警備部長各縣書記官各警察部長三重縣書記官内務部長等に補せらるる家族は尙二男亮(大一二、五生)四男恭正(同一五、二生)五男貞彦(昭三、五生)長女禮子(同五、四生)二女恒子(同六、一〇生)あり(京都市上京區室町中立賣下官舎電燈一〇五)

參照黒田重兵衛、黒田敬の項

時明和年間江戸三越呉服店に勤務中支那人格に逢出せし三十六歳の壯年を以て動機中死亡したる人を初代とし三代目三郎兵衛即先々代三翁翁を中興の祖とす翁亦幼より三井吳服店に勤め功勞あり因りて暖簾分けを得越後屋と稱して紙商を營み當家今日の礎を築けり君は先代三郎兵衛の長男にして明治八年七月十六日を以て生れ大正十一年家督を相続す中井一門の中樞人物にして現に株式會社中井商店社長たる外前記會社の重役にして府下の多額納税者として知らるる弟誠三郎(明二六、三生)同妻と(同三四、一〇生、大阪、小原榮一郎)は其一子を生ひ分家し同巳治郎(同一一、一生)も亦分家せりA八一〇九(京都市中區三條烏丸東入電下二三九・東京市下谷區下根岸六六電燈四七八)

參照※乾茂の項

中 井 正造 曾野商店取締役
京都府在籍

父 庄左衛門 長男

母 ノブ 明三〇、七生、京都、小川市太郎二女

妻 清乃 長女

男 光一 昭三、一〇生

君は京都府人中井庄左衛門の長男にして明治二十五年三月二十六日を以て生れ同三十六年家督を相続す現時有價證券買賣會野商店取締役たり家族は尙長女美惠子(大一一、五、三生)二女阿佐子(昭六、一〇生)三女佐喜子(生年月同上)あり弟幸三(大元、一〇生)同恒三(明三〇、二生)同四郎(同三三、八生)は各分家せり(京都市左京區岡崎勝寺町九一ノ四五電上五一一三)

中 井 三之助 從七位勳六等、京都府多額納税者
中井商店社長、洋紙合同販賣取締役、王子製紙監査役、越後屋紙商、京都府在籍

妻 ツツ 安政三、八生、京都、中木右右衛門二女

繼母 ヲツ 明一四、三生、京都、木下茂兵衛妹

養子 庸三 大一一、一生、弟誠三郎長男

中井家は京都土着の商賈にして代々三郎兵衛を稱へ往

中 井 四郎 工學博士、北海道曹達取締役會會長、合成工業代表取締役、三井鐵山、東洋製糖工業各取締役、三池製糖工業監査役、東京府在籍

妻 ヒテ 明一九、一生、奈良、平野話一郎

男 三郎 明三三、三生

女 三子 明三八、一〇生、三男三郎妻、山梨、松浦儀兵衛妹、甲府高女出身

女 雅枝 明四二、三生

女 妙子 明四四、三生

女 文子 明四四、三生

女 久江 大七、一〇生

君は大阪府土族杉田宣喜の四男にして明治三十年十月を以て生れ同府人中井一馬の養子となり大正八年分れて一家を創立す明治二十八年東京帝國大學工學科大學應用化學科を卒業し現時北海道曹達取締役會會長たる外前記各會社の重役たり大正四年工學博士の學位を受く子(同四、一生、同二女)ありA一二二四八(東京市澁谷區金山町二八電燈山七三三六)

參照松浦儀兵衛、平原重吉の項

中 井 新右門 中井酒店取締役、酒問屋業
東京府在籍

母 かね 慶應三、一〇生、東京、小栗兆兵衛

當家は其祖江州より出づ二百年來江戸に住し各藩御金御用達を勤め舊家として知られ歴代新右門を襲名す君は先代新右門の長男にして明治二十三年十月を以て生れ大正九年家督を相続し前名喜三郎を改む同四年慶應義塾理財科を卒業し祖業を繼ぎ酒問屋業を營み現時中井酒店會社取締役たり家族は尙姉鏡子(明三一、四生、跡見女學卒出身)あり同幸(同二七、二生、出身校同上)は東京府人梅岡正吉三男忠之助に嫁し叔父永一(同四、四生)弟貞三(同三三、九生、中井商店監査役)は各分家し叔母しん(同四、三生)は東京府人高津伊兵衛の母たりA八五七(東京市牛込區市谷田町二ノ三二電牛込一八〇二)

參照梅岡忠之助、小栗兆兵衛、高津伊兵衛、中井

永一※梅岡正吉※玉塚榮次郎※星野進の項

中井 宗七

兵庫縣在籍
妻 ひとと 明一八、五生、兵庫、萩野寅之助
男 宗一 明四五、七生
女 保子 明三四、二生、長女松子夫、兵庫
養子 松子 明四〇、一生、養子保吉妻
山田友吉弟

中井 猛之進

正五位勳四等、理學博士、東京帝國大學教授、同附屬植物園長、農學部勳務、朝鮮總督府植物園長、山口縣在籍
母 フミ 安政三、一生、山口、服部貞治二女
妻 シゲ 女、八、九生、山口、都野兼治長
男 敏雄 大二、二生、東大理學部化學科在學
女 千枝 大八、八生、日本女大附屬高女出身
君は山口縣人中井誠太郎の長男にして明治十五年十一月九日を以て生れ同三十五年家督を相続す同四十年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し臨時教員養成所博物科講師に任命同四十一年理科大學助手を拜命大正六年講師を嘱託され同七年内務省より薬用植物調査の爲瓜哇島及錫蘭島へ出張を命ぜらる同十一年東京帝國大學助教に任じ同十二年米佛瑞典各國に留學し昭和二年東京帝國大學教授に任ぜられ同五年植物園長に補せらる先は大正三年理學博士の學位を授けられ同十四年佛蘭西國々立巴里博物館の客員館長西同ジエノエ植物學會の客員に推され文部省教員檢定委員國立公園協會評議員日本植物學會評議員等を命ぜらる又大正二年以降朝鮮總督府植物園長として朝鮮植物の調査研究に従事し其大成を賞して昭和二年帝國學士院より桂公府記念賞を授けらる研究論文頗る多く二百有余編を數へ英獨佛各國語並に拉丁語によつて之を發表す深

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

中井 亮作

農學
熊本縣在籍

運動に趣味を有し殊に草球は本邦に於け 開拓者の一人にして日本草球會顧問の外赤門帝大東大各草球俱樂部會長たり家族は尙二男健次郎(大七、四生)二女静(同九、三生)三男(同一、九生)あり(東京市瀧野川區田端三四六)

中井 長三郎

廣正金銀行調査課長
和歌山縣土族
妻 ヒデ 明一九、九生、東京、多田忠兵衛
男 芳一 大六、九生
女 静 大三、四生
光 大五、三生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

中井 長三郎

和歌山縣多額納稅者
妻 はつ 明二七、四生、先代長兵衛長女
男 一 郎 大八、一〇生
女 綾子 大八、一〇生

十二日を以て生れ同二十二年家督を相続す農學を習ひ家族は尙孫道子(六一、二生、九生、亡長男道太郎長女)あり二女サト(明三五、九生)は兵庫縣人竹口健治に四女茂野(大二、三生)は京都府人中谷進之助長男健太郎に嫁ふ(明一六、三生)は同府人兒島重治郎長男勘三郎に嫁し二男堅次郎(同三三、九生)は同府人鹿田彦藏の養子となり三男道三郎(同四三、七生)は弟孫四郎(同二〇、二生)同直三郎(同二六、七生)は各分家し同爲之助(同一三、六生)は京都府人山中あすの入夫となりA五九七(京都市右京區西院長町二電本局二〇二六)

中井 徳太郎

共信商會 大阪府在籍
妻 千代 明三六、八生、大阪、東代清次郎妹
君は大阪府人中井徳太郎の長男にして明治三十一年八月を以て生れ大正三年家督を相続す同十一年慶應義塾大學理財科を卒業し現に中井徳商會代表社員にして傍ら前記會社の重役たり(明二二、八生)は其夫利正(同一六、三生、大阪、秋山利平二男)と共に其子女を伴ひ分家せりA二二二(大阪府東區博勢町二、六七電船二五七〇)
參照 東代清次郎、中井利正の項

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中井 利正

共信商會、日本印刷材料各社社長
大阪府在籍
妻 きみ 明二二、八生、中井徳太郎妹
男 正太郎 大二、二生
女 まさ 大五、八生

中上川次郎吉

資産家 神奈川縣士族

君は舊中津藩士にして先代次郎より顯る彦次郎幼... 當家は舊中津藩士にして先代次郎より顯る彦次郎幼... 當家は舊中津藩士にして先代次郎より顯る彦次郎幼...

中川 伊作

中川商店社長、莫大小商

君は長崎縣士族中川秀勝の二男にして明治九年十一月... 君は長崎縣士族中川秀勝の二男にして明治九年十一月...

中川 觀秀

衆議院議員(長崎縣選出)山下

君は長崎縣士族中川秀勝の二男にして明治九年十一月... 君は長崎縣士族中川秀勝の二男にして明治九年十一月...

中川 喜四郎

中喜商店社長

君は東京府人先代喜三郎の二男にして大正元年八月二... 君は東京府人先代喜三郎の二男にして大正元年八月二...

中川 吉造

正三位勳二等、工學博士、學士會

君は東京府人先代喜三郎の二男にして大正元年八月二... 君は東京府人先代喜三郎の二男にして大正元年八月二...

中川 金藏

正五位勳二等、陸軍少將

君は東京府人先代喜三郎の三男にして明治十四年五月... 君は東京府人先代喜三郎の三男にして明治十四年五月...

中川 健二

正五位勳五等、三菱重工電機技師

君は東京府人先代喜三郎の二男にして明治十六年一月... 君は東京府人先代喜三郎の二男にして明治十六年一月...

中川 健藏

正三位勳二等、臺灣總督

君は東京府人先代喜三郎の二男にして明治十六年一月... 君は東京府人先代喜三郎の二男にして明治十六年一月...

中川 國之助

大倉商社大阪支店營業部長

君は東京府人先代喜三郎の三男にして明治十四年五月... 君は東京府人先代喜三郎の三男にして明治十四年五月...

中川 榮次郎

雜貨輸出商 大阪府在籍

君は大阪府人米倉市松の二男にして明治二十一年十一... 君は大阪府人米倉市松の二男にして明治二十一年十一...

中川 易之助

鍼灸師 大阪府在籍

君は大阪府人米倉市松の二男にして明治二十一年十一... 君は大阪府人米倉市松の二男にして明治二十一年十一...

中川 觀

中川産科婦人科病院、醫師

君は兵庫縣人中川立安の二男にして明治十九年五月二... 君は兵庫縣人中川立安の二男にして明治十九年五月二...

中川 清

東電電氣商品部事務取締役

君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以... 君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以...

中川 菊夫

昭二、一一生

君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以... 君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以...

中川 健

昭二、一一生

君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以... 君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以...

中川 健

昭二、一一生

君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以... 君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以...

中川 健

昭二、一一生

君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以... 君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以...

中川 健

昭二、一一生

君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以... 君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以...

日を以て生れ大正七年兄貞夫方より分れて一家を創立す明治三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し...

中川正十郎

君は大阪府人、中川庄太郎の三男にして明治十五年二月十二日を以て生れ...

中川信

君は東京府人、中川佐兵衛の長男にして明治十八年六月十一日を以て生れ...

中川藤右衛門

君は三重縣人、鈴木兵衛の弟にして慶應元年三月を以て生れ...

中川憲郎

君は京都府人、下田好照の五男にして明治十三年二月を以て生れ...

中川徳右衛門

君は京都府多額納税者、地主、京都府在籍、明二、一〇生、大阪、木村、多...

二、一〇生、出身同上、大日本製水會社常務取締役、加藤重治に同喜美(同二八、一〇生、出身同上)...

中川末吉

君は滋賀縣人、赤塚又左衛門の四男にして明治七年十一月を以て生れ...

中川専次郎

君は京都府人、中野五郎兵衛の二男にして明治九年十月二十七日を以て生れ...

中川銓吉

君は京都府人、先代中川徳右衛門の長男にして明治八年六月十二日を以て生れ...

中川篤周

君は兵庫縣人、中川清一の長男にして明治十三年四月を以て生れ...

中川富三郎

君は兵庫縣人、先代吉郎平の長男にして明治四年二月九日を以て生れ...

中川友次郎

君は三位勳二等、汽車製造廠監査役、東京府在籍、明二、一〇生、大阪、木村、多...

母、きく、安政二、六生、祖父金爲長女、秀、明一六、七生、東京、千村正晴長女...

中川太一郎

君は京都府人、中川貞治の長男にして明治十一年三月二十二日を以て生れ...

中川傳

君は大阪府人、中川安太郎の二男にして明治三十三年八月三十一日を以て生れ...

中川望

君は石川縣人、井關好直の弟にして明治六年四月一日を以て生れ...

中川望

君は宮城縣土族、中川操吉の二男にして明治八年三月を以て生れ...

區目白町四ノ三電大塚三四五三)
參照 男爵大森佳一 ※伯爵兒玉秀雄の項

中川彦次郎 大阪府在籍
父 由兵衛 明五、五生、現戶主
妻 博子 明四〇、一一生、大阪、原良三郎

君は大阪府人先代良平の孫にして明治三十八年二月四日
を以て生る豊表間屋業を營む家族は尙養妹京子(大
一〇、三生、大阪、中川清五郎長女)あり祖父良平(弘
化二、一〇生)祖祖母リエ(安政二、五生、大阪、間
中篤次長女)は叔母イソ(明二、一〇生)を伴ひ姉國
子(同三〇、一一生)は同夫文吉(同六一、九生、廣島
福田百三郎三男)と共に其四子を伴ひ各分家せり叔父
一雄(同二三、二生)も亦分家し同雄藏(同二七、三生)
は大阪府人中川龍子に夫し同氏藏(同一九、六生)は
同府人上田左次郎に養子となれりA二七(B一六五
(大阪府東區横堀二ノ九電本局一五五))

中川久任 正三位、伯爵
舊豊後國藩

男 久 順 明三二、一一生、正五位、學習院
及米國アマストカレツ出身
婦 加智子 廣瀨千城長女、甲西高女出身
男 久 道 明四〇、九生、長男久順妻、愛媛
明四〇、三生、滿洲國都市建設局
勤務、府立國語學校及造園學校出
身

當家は源朝光の商兵庫頭中川清深十世の孫源清清秀
の後なり清秀織田氏に屬し播磨美木の城主となり後豊
臣氏に從ひ畿々嶽に戦死す其子右衛門尉秀政播磨三木
に移り朝鮮の役に戦死す弟修理大夫秀成續ぎて豊後國
岡(竹田)七萬石に移封せらる夫より十一世を経て先代
久成に至り明治十七年伯爵を授けられ貴族院議員に列
す君其後を享く君實は侯爵淺野長助の從弟にして早稲
淺野守夫及淺野長之の實弟なり明治四年五月二十日
を以て生れ先代久成の養子となり同三十年家督を相續し
前名吉吉を改め侯爵被仰付夙に學習院に學び貴族
院議員に擧げられ又國光生命保險相互會社社長に就任
せし事あり家族は尙孫久定(昭六、三生、長男久順長男)
あり長女和子(明三六、三生)は經濟學士ト部東次に二

女寛子(同三七、一〇生、梅田高女出身)は長野縣人小
坂武雄に嫁せり(東京市麻布區宮村町一〇電赤坂九六
二)

參照 侯爵淺野長助、侯爵池田宣政、男爵淺野守夫
淺野長之、小坂武雄 ※侯爵細川護立 ※伯爵島
丸光大 ※子爵池田政保 ※子爵六條有直 ※男爵
池田勝吉 ※廣瀨滿敏の項

中川 弘

從五位勳五等、通信局技師、東京
逓信局在籍、東京府土族
男 秀 夫 明二二、一一生、長野縣立高女出身
女 彰 子 大六、一一生、阿部野高女出身
君は明治十五年八月を以て生る同三十五年東京郵便電
信學校を卒業し通信技師通信局技師を経て大正八年逓
信局技師に任ぜられ東京逓信局工務部機械課課長係長
を命ぜらる同十二年大阪逓信局に轉じ昭和八年再び東
京逓信局勤務となり今日に至る家族は尙二女貴美子
(大一一、一一生、山崎高女在學あり(東京市赤坂區青
山町五ノ三三電青山三〇))

中川 平七

大物商
東京府在籍
養母 まさ 明七、一一生、滋賀、辻清七姉
妻 しげ 明二五、八生、滋賀、井上小三郎
女 通子 大六、三生

君は滋賀縣人辻清七の弟にして明治十九年九月八日
を以て生れ先代平七の養子となり大正六年家督を相續し
前名利三郎を改め名を才物商を營む家族は尙二女壽
子(大九、一一生)ありA九二四B一七八(東京市日本橋
區富澤町一ノ一電浪花一八八)

中川 正範

北陸土木建築事務所技師、加能合同
銀行在籍、朝鮮總督府技師
(東京府在籍)
妻 ひな 明四〇、六生、石川、西村甚兵衛
女 正久 明四二、二生

中川 要之助

華嚴觀文房具卸商
京都府在籍
男 要 造 明四四、七生、長男要造妻、兵庫
女 なつめ 安達泰次郎二女
君は兵庫縣人安達恒助の二男にして慶應三年十一月二
十日を以て生れ先代まさの養子となり同三十五年家
督を相續す現時筆墨屋具卸商たり家族は尙孫くに
(大一一、一〇生、長男要造長女)同む(昭五、六生、
同三女)同(昭七、一〇生、同二男)同(昭九、二
生、同四女)あり同(昭三、一一生、同二女)は滋賀
縣人吉川タイの養子となれり(京都市下京區富小路五
條上電下二二七四)

中川 利一郎

中川商行、京阪炭業各社長、京
都府在籍
養子 賀 雄 明三五、一〇生、養子せき大、福
明四〇、一〇生、東京府立第二高女
出身
君は舊舞鶴藩士松尾茂左衛門の長男にして明治十一年
十一月を以て生れ中川健次の後を承けて同四十二年家
督を相續す郷里の初等中學校を卒へ京都の林雨軒の塾
に學ぶ夙に實業界に入り日本製糖日本八島織花起日室
石油海運業田原本鐵道豐國ゴム豊國鐵業等の諸會社
を創設して其事務取締役或は取締役として其間又十
三銀行頭取に擧げらる等一時大に斯界に活躍せり後
京都市特有の染色工業織物業の諸會社に努力し現時中
川商行京都炭業各社長たる傍ら前記各會社の重役たり
又義に北陸共營電氣大日本チタニウム東洋ラヂウム
大阪ゴム東洋染工各會社の重役たりし事あり家族は尙
孫章子(昭三、七生、養子賀雄長女)あり(京都市中京
區兩替町二條南入ル電上六九三)

中川 龍一

著述家
大阪府在籍

女 豐子 大元、一一生
女 泰子 大六、四生
君は石川縣人中川與右衛門の二男にして明治五年一月
を以て生れ大正二年先代善義の養子となり家督を相續
す現時北陸土木會社事務取締役たる外前記銀行會社の
重役たり家族は尙六男芳久(大九、一一生)四女富枝(昭
三、二生)あり(石川縣石川郡林中村)

中川 已代藏

大阪府在籍
男 ステ 明一八、一〇生

中川 明八

正五位勳四等、檢事、津山區裁判
所檢事兼山地方裁判所津山支部
檢事、山口縣在籍
妻 ムネ 左衛門長女
男 ヌネ 明一九、二生、山口、大田善四郎
女 明子 明三九、九生
男 明義 明四三、五生

中川 明

君は山口縣人中川龜二郎の長男にして明治八年六月を
以て生れ同十四年分れて一家を創立す同三十七年東京
帝國大學法科大學法科を卒業し司法官試補となり同
三十九年檢事に任じ爾來若松福島土浦甲府津浦和道
田松江各地方各區裁判所檢事に應命し大正十五年尾道
區裁判所所長島地方尾道支那檢事を命ぜられ轉じて津
山區裁判所所長兼山地方裁判所津山支部檢事となり
現に其職に在り家族は尙二男大二(大四、四生)あり姉
モト(明五、九生)は山口縣士族井上研造に嫁せり(津
山市津山區裁判所檢事局内)

中川 元太郎

正川旅館、旅館業
福岡縣在籍
妻 イト 元治元、六生、福岡、高橋伊助長女
養子 正 大二、一一生、養子ふく長男

中川 良長

正四位、男爵
舊公卿家
男 浩 長 明四一、六生、從五位、鐵道省文
書院勤務、日大專門部出身
當家は先代興長の立つる所なり興長は權中納言甘露寺
愛長の七男にして得度して興福寺中五大院の住職たり
しが後明治元年復舊して同二年堂上の格を賜ふ家號を
中川と稱す同八年華族に列し同十七年男爵を授けらる
石上大神廣瀨神社各少宮司殿等に歴任し同二十三年
以來貴族院議員に擧げらるゝと數回に及ぶ君は其二
男にして伯爵甘露寺受長子爵堤雄長の從弟なり明治
九年十月二十七日を以て生れ大正九年養子に當り東京
電燈會社監査役に推され同十年貴族院議員に當選せり
夙に貴族院改革を圖じて華貴界の新人を以て稱せらる
家族は尙二男泰長(大四、九生、早大在學)庶子芳子
(同二、四生、生母同上)同(昭三、九生、生母同上)
一、二生、生母同上)同(昭三、九生、生母同上)
弟養長(明一五、九生)妹秀峯(同二七、一一生)弟喜一
(大六、九生)あり妹榮子(明二六、七生)は鹿兒島縣士
族山之内輝治二男種助に嫁し同貞子(同二九、一一生)は
伯爵林博太郎弟莊次郎の未亡人にして弟與切(同二四、
一一生)は子爵増山正治の養子となり正興と改名して
當主たり(東京市麻布區本村町一六電高輪四八四〇)
參照 伯爵甘露寺受長、伯爵林博太郎、子爵堤雄長、
子爵増山正興 ※伯爵奧保夫 ※男爵島津忠彦の
項

中川 和三四郎

醫師
大阪府在籍
妻 ナラキタ 明一九、一一生、奈良、奥田吉松養子
男 清和 明四三、七生、大阪府立醫大在學
男 清英 大三、九生、府立高津中學在學

君は福岡縣人實川若右衛門の二男にして慶應三年五月
二十三日を以て生れ明治十三年中川庄兵衛の養子とな
り同三十四年家督を相續す玉川旅館と稱し旅館業を營
む長女トミ(明三五、七生)は福岡縣人高橋徳太郎の養
子となり養子ふく(同二八、一一生、兵庫、長谷川龜
市長女)同夫外海(同二九、三生、大分、大庭慶雄弟)
と共に其一男一女を伴ひ分家せりA三八二(福岡市東
中洲町五ノ二四電五五一〇)

中川 與三郎

第一福島羽二重専務取締役、第
二福島専務取締役、福島縣在籍
妻 シン 明二八、一〇生、福島、渡邊平八孫
男 一郎 大四、八生
養子 スエ 明四二、二生、福島、渡邊彦五郎
三女

中川 與惣太郎

滋賀縣在籍
妻 すへ 明二四、七生、滋賀、森喜十郎妹
君は東京府人中川作平の長男にして明治十五年九月二
十五日を以て生れ同三十七年家督を相續し昭和三年前
名作右衛門を改む吳服商を營みて知らる家族は尙長女
治子(大一一、一一生)ありA一〇八九B二六九(東京
市日本橋區桶町二ノ七電浪花五六九)

中川 與兵衛

大阪府在籍
養母 ミツ 明一五、六生、大阪、大内七兵衛
妻 孝子 明三七、七生、養父増次郎二女
男 靖雄 昭三、二生

中川 龍一

著述家
大阪府在籍

女 勢子 明三九、一一生、大阪府高等醫學
女 好子 明四五、六生、大阪府立夕陽丘高
君は大阪府人若見秋好の三男にして明治六年二月四日
を以て生れ先代中川清兵衛の養子となり同二十五年家
督を相続す獨學克く醫師の免許を得開業し今日に至る
長女ハナ(明三五、六生)は大阪府人柴田重平に三女知
子(同四一、六生)は京都府人小西清太郎に嫁せりA四
九八(大阪府市港區尻無川北通四ノ一電西七三三)

中川原貞機 青森縣多額納稅者、五戸電氣鐵道
務取締役、農業、青森縣在籍
妻 ツル 明二〇、一〇生、岩手、米澤雄一
郎叔母
子 明四〇、一一生、亡長男貞次妻、青
森、田子宮太長女
孫 淳平 明四四、一〇生、亡長男貞次長男
男 治明 明四四、六生
女 あい 大六、六生

君は青森縣人中川原貞之助の長男にして明治九年七月
を以て生れ大正五年家督を相続す夙に慶應義塾に學び
次で明治三十三年東京法學院を卒業祖業を繼ぎ傍ら
前記會社の重役にして直接國稅七百六十四圓を納め縣
下の多額納稅者に列す義に八戸銀行清浦商會各取締役
を兼ね又昭和三年衆議院議員に選ばる家族は尙孫啓介
(昭二、八生、亡長男貞次二男)と(明一三、一〇生)同
夫三郎(同二四、半三生、青森、姓名半七三男)弟昌一
郎(同二一、一〇生)同妻と(同二六、一〇生、青森、工
藤三郎長女)養妹と(同二九、二生、青森、中川原
儀助妹)同夫清吉(同二二、二生、青森、村井孫太郎三
男及其子女)養叔父岩吉(嘉永五、一一生、青森、中川
原三平二男)同妻と(安政六、三生、青森、石渡伊之
松二男)養叔父仁太郎(明二二、三生、青森、中川原長太
郎姪)及其子女あり二女せつ(同三九、二生)は青森縣
人菊地萬三郎弟長助に嫁はつ(同三三、二生、養弟
半三郎長女)は同縣人泉山豊太郎長男政知に同(同三
九、二生、同二女)は同縣人泉山哲司に從妹はつ(同四
一、一一生、養叔父仁太郎二女)は同縣人小泉福松に嫁し

君は石川縣人中木伊三郎の長男にして明治十六年一月十
九日を以て生れ同四十二年家督を相続す大正元年小樽
西谷庄八郎經營の運送業北都郡を繼承して獨立新業を創
始し漸次北海道運送業界の重鎮たるに至れり現時小樽
郊外自動車會社社長たる外前掲諸會社の重役にして義に
小樽運送社南小樽運送社何府運送社等の重役たりし事
あり家族は尙二男常豊(大九、三生)あり(小樽市稻穂
町東七ノ九電四七八)

中木直右衛門 福島縣多額納稅者、農業
繼母 カナ 安政三九生、先々代直右衛門四女
妻 ヲサ 明二〇、一〇生、福島、遠藤喜三
郎長女
男 壯策 明四三、三三
女 モモ 明四五、二生

君は愛知縣人中北伊助の二男にして明治四十二年七月
十日を以て生れ昭和九年分れて一家を創立す同七年大
阪藥學專門學校を卒業す養家として知らるA五七
六(名古屋市東區吳服町三ノ一六)
參照 中北伊助の項

養妹かん(同二一、一一生、青森、中川原勘藏二女)同夫
忠之丞(同一九、八生、青森、中川原辰之助三男)は其
子女を伴ひ分家せり(青森縣三戶郡淺田村)

中河直惠 住友會社技師長
兵庫縣在籍
妻 孝子 明一九、五生、兵庫、武岡民平長女
男 經一郎 大二、九生
女 清子 大四、八生

君は兵庫縣人中河利吉の二男にして明治十五年九月二
十七日を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治四
十二年京都帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し現時
住友會社技師長たり家族は尙二男修二(大七、一〇生)一
生二女新子(同九、二生)四男徳志(同四一、六生)あり
(兵庫縣武庫郡神戶市打出堀ノ内一八電青屋三六九二)

君は福島縣人先代直右衛門の五男にして明治十八年二
月を以て生れ大正二年家督を相続し前名幹雄を改め義
名す農業を營み縣下の多額納稅者に列し直接國稅六百
六十四圓を納む義に第百一銀行事務取締役たり家族は
尙四男堅(大四、四生)三女まり(同九、一〇生)四女ミ
ヤ(同一二、三三)五女ユウ(同一四、七生)七女なな子
(昭四、一一生)あり(福島縣伊達郡梁川町)

中來田隆二 地主
大阪府在籍
母 タネ 明二一、一一生、大阪、山下卯三郎
長女

君は大阪府人中來田喜兵衛の二男にして大正四年六月
を以て生れ昭和三年家督を相続す地主たり家族は尙
弟康三(大七、二生)同影三(同二〇、一〇生)及妹敬子(昭
三、三三)あり姉秀子(昭四、一〇生)分家せりA四〇一
(大阪府天王寺區大田五ノ六八電天王寺二二三)

中北伊助 愛知縣多額納稅者、中北商店、藥
種商、愛知縣在籍
妻 美津子 衛門三女
男 増太郎 明四三、一〇生、愛知、棚橋金右
衛門三子
女 歌子 衛門三子
女 とし 大四、五生

君は愛知縣人八神幸助の長男にして明治十年十月二十
日を以て生れ同三十一年先代伊助の養子となり家督を
相続し同四十二年前名幸七を改め義名す中北商店と稱
し藥種業を營み直接國稅五千三百九十二圓を納め愛知
縣多額納稅者に列す家族は尙四女すみ(大九、七生)孫
儀一(昭六、一一生、長男増太郎長男)同富子(同八、二
生、同長女)をり長女ゆき(明三五、六生)は愛知縣人
八神幸助長男淺次郎に二女娶(同三九、八生)は同縣人
八神秀次の二男精一に嫁し二男敏次郎(同四三、七生)
は分家せりA四六七八(名古屋市東區京町二ノ二電
東六一八〇)

參照 中北伊助の項

中北五兵衛 西宮市會議員、質商
兵庫縣在籍
祖母 よね 文久元、一一生、兵庫、善塔又治
郎妹
母 こら 明六、五生、兵庫、山口翁二郎妹
妻 タネ 明三二、九生、京都、中村徳藏長女
男 仲吾 大二三、五生

君は兵庫縣人中北弘太郎の長男にして深山信次の甥な
り明治二十六年九月を以て生れ大正十二年祖父五作の
後を承け家督を相続し其名履一を改む質商を營み西宮
市會議員に擧げらる家族は尙長女庸(大一一、六生)弟
悦郎(明四〇、三三)從弟弟一(大三、一一生、亡叔女
停兒長男)妹ふみ(明二八、一一生)及其子女あり叔父
又良(同二四、三三)同妻あり(同二六、一〇生、兵庫、
沼田一良三女)は其子女を伴ひ分家せりA一〇〇二B
八一(西宮市今在家町四一電二六九)

中桐政太郎 愛媛縣伊予郡
岡山縣在籍
妻 梅野 明一八、六生、岡山、中桐惣十郎
長女

君は岡山縣人中桐真太郎の長男にして明治十四年三月
を以て生れ後家督を相続す愛媛縣伊予郡岡山市を營む弟朝
次郎(明二〇、四生)は同妻オミヤ(同二五、一一生、岡
山、濱田房五郎長女)を伴ひ分家せりA七七五B二一
七(神戸市神戶區加納町六ノ二五電三三三三)

中桐文雄 安田銀行伊予郡松崎支店長
岡山縣在籍
母 利代 明三、九生、岡山、入江久米吉二女
妻 雪江 明二八、四生、岡山、眞木宗平長女
男 信吾 大六、八生

君は岡山縣人中桐伊賀の長男にして明治二十五年一
月五日を以て生れ同二十八年家督を相続す現時安田銀
行伊予郡松崎支店長たり家族は尙二男義雄(大九、六生)三
男幹夫(同二二、一一生)長女さつき(同二五、五生)四男
仲夫(昭四、四生)あり(大阪府豊能郡豊中町新免二八
五ノ八)

中桐 豊 藤倉電線取締役、電氣協會電氣
計器試驗所長、東京府在籍
妻 トミ 明一九、一一生、福岡、土、田中長
藏妹、柳河高女出身
男 亮一 明四二、一〇生、東京、東洋オチサエ
レーター社員、明大商學部出身
男 裕二 明四四、一〇生、明大商學部在學
女 由基 大六、八生、府立第三高女在學

君は東京府人中桐亮の長男にして明治十年六月二十六
日を以て生れ大正二年家督を相続す同十四年東京帝國
大學工科大学電氣工學科を卒業し藤倉電線會社に入り
參事を経て現時同社取締役たる外電氣協會電氣計器試
驗所長其他を兼ね昭和四年命を帯て歐米を巡歴し電
氣事業を視察す父亮(嘉永元、四生)母ハル(安政二、三
生、栃木、田邊藤三三女)は其に分家し弟政男(明一八、
六生)同妻タイ(同二二、五生、神奈川、關平右衛門三
女)も亦其子女を伴ひ分家し三男宣三(大三、七生、慶
大在學)は東京府人中桐壽夫の死産を繼ぎ妹らつ(明二
一、一一生)は同府人中桐多一郎に嫁せり(東京市淀橋區

中桐確太郎 早稲田大學教授兼早稲田高等學院
教授、早稲田專門學校教授
福島縣在籍
妻 美子 明一〇、三三、京都、前田又三妹
男 朝彦 明三九、二生、早大商學部出身
男 光彦 大二、七生

君は福島縣人にして明治五年十一月十五日を以て生る
同二十三年東京專門學校英語普通科を同二十六年同校
文學科を卒業し同三十四年早稲田中學校教諭となり
同三十六年早稲田大學講師を兼ぬ同四十一年清國浙江
省金浙兩師範學校講師となり同四十四年歸朝後再び
早稲田大學講師となる大正二年同大學高等師範部教授
に任じ同三年同部長に擧げられ昭和四年現職に就き
今日に至る著書に「哲學變遷史」「歴史研究法」予の戀
愛觀「光明祈願」をへて「論理學綱」等あり(東京市淀
橋區東大久保二ノ二)

君は長崎縣人古賀慶一郎の長男にして明治十八年
八月二十二日を以て生れる同四十二年東京高等商業學校
を卒業し第一銀行大阪支店長を経て現時同銀行函館
支店長たり家族は尙二男勇(大七、三三)あり姉マキ
(明一四、一一生)は長崎縣人中山武信長男長馬に妹ア

中古賀晴太 第一銀行函館支店長
長崎縣在籍
妻 茂樹 文久元、九生、現戸主
母 タマ 安政六、六生
妻 ミツ 明二三、一〇生、長崎、高木勘四
郎長女
男 晴彦 大三、八生
女 久子 大五、七生

中口 昇 材木商
兵庫縣在籍
妻 わさ 安政五、九生、愛知、朝倉淺右衛
門次女
女 信一 明二〇、一一生、兵庫、中村清治
二女
女 治子 大六、一一生
女 富子 大七、一一生

君は京都府人佐藤利三郎の四男にして明治十二年十月
三日を以て生れ先代中口勝治郎の養子となり同四十三
年家督を相続す材木商を營む長女繁子(大元、一一生)
は大阪府人足川源治郎に二女満子(同二、一一生)は同
府人江田秀郎に各嫁せりA四六〇B二三〇(神戸市湊
區壇川二ノ八三電九九一六)

中 小路久太郎 京都府在籍 吳服卸商

中 越 正彰 日本農林省常務取給役 東京府在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 越 正彰 日本農林省常務取給役 東京府在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 込 宗造 從四位勳四等、公證人 山梨縣在籍

中 崎 源治郎 小濱合同運送社社長、教習二十五年

中 崎 俊秀 正八位勳四等、陸軍三等軍醫、水

中 里 重吉 正六位勳五等、酒田市長 山形縣在籍

中 里 重吉 正六位勳五等、酒田市長 山形縣在籍

中 里 重次 正四位勳二等功四級、海軍中將

中 里 重次 正四位勳二等功四級、海軍中將

中 里 重次 正四位勳二等功四級、海軍中將

中 里 重次 正四位勳二等功四級、海軍中將

中 里 龍 從五位勳六等、關東廳法院判官

中 里 龍 從五位勳六等、關東廳法院判官

中 里 龍 從五位勳六等、關東廳法院判官

中 里 龍 從五位勳六等、關東廳法院判官

中澤 利介 共榮土地建物代表社員、製菓商
 養母 こんめ 明四、四生、兵庫、正井龜吉妹
 妻 福太郎 大四、一、二生
 女 みち子 大八、一〇生
 女 とみ子 大八、一〇生
 君は兵庫縣人田中伊之介の二男にして明治二十五年十月二日一日を以て生れ父の實業先代利介の養子となり昭和四年家督を相續し前名慶次郎を改め養名を製菓商會と稱し竹籠輪出業を營み傍ら共榮土地建物會社代表社員たり家族は尙三女照子(大一一、三三)四女悦子(昭五、二生)あり養叔父徳藏(明一一、四生)は分家せりA一二〇三B九四(神戸市兵庫區南灘瀬川町一ノ一六九電庫一五八〇)
 參照 中澤徳藏の項

中澤 利八 京都商工會議所議員、西陣織物卸
 妻 ツヤ 明二、一〇生、京都、今井辨次郎妹
 男 利一郎 明四、二、一生
 男 邦治 大二、一生
 君は京都府人先代利八の長男にして明治十七年八月一日を以て生れ同四十年家督を相續し前名利三郎を改め養名を西陣織物卸商を營み現時京都商工會議所議員たり家族は尙三男光雄(大五、七生)二女富久子(同一〇、七生)あり妹トキ(明二四、二生)は兵庫縣多額納稅者辰馬半左衛門二男徳藏に嫁せりA二二九B一四六(京都府下京區五條富小路西入電下八三)
 參照 古川源三郎松尾喜七の項

中澤 亮治 從四位勳三等、農學博士、臺灣總督府中央研究所技師兼同專家賣局技師、臺北帝國大學教授、東京府七族
 妻 シナ 明二、四五、佐賀、士、古川豊太郎長女
 男 鴻一 大三、二生
 女 郁子 明四五、三三
 女 千代 大八、二生
 君は岡山縣士族中澤廣江の二男にして明治十一年十二月十八日を以て生れ昭和九年兄澄男より分れて一家

を創立す明治三十八年東京帝國大學農科大學農藝化學選科を卒業(農藝試驗所研修員同技術を経て同四十年農商務省海外實業練習生として獨逸ライオン・ガイセンハイム王立農造園藝學校バイオル・ミュンヘン農造試驗所ハンノーパー高等工業學校に於て細菌學を研究し歸朝後稅務署技師兼稅務監督局技師兼試驗所技師臺灣總督府研究所技師に歷任し大正十年農學博士の學位を受け現時臺灣總督府中央研究所技師兼專賣局技師臺北帝國大學教授たり養にジャワスマトラ歌米を觀察す家族は尙二男次郎(大五、四生)三男文三(同一〇、九生)三女あり(同一三、三三)あり(臺北市大正町五條街二六三三)

中澤 愛策 安田銀行濠洲支店長
 妻 ヤエ 明三、二、七生、東京、田村市三郎五女
 男 啓爾 大一一、一〇生
 君は東京府人中島留吉の二男にして明治二十一年五月二日を以て生れ同二十八年家督を相續す同四十二年東京高等商業學校を卒業し翌年横濱正金銀行に入社し在勤一年にして大連支店に轉じ後倫敦支店に移り大正九年歸朝して東京本店に轉じ更にパダビヤ支店支店長沙支店支店長を経て安田銀行に轉じ現時濠洲支店長たり家族は尙弟省吾(明三一、一、長野、白田助三郎)及二男一女あり父留吉(嘉永三、一、一生)は母かね(元治元、一、一生、神奈川、中鏡三妹)を伴ひ實業東京府人佐々木國之助の家籍に入り(東京市淀橋區下落合二ノ五七九)
 參照 渡部介の項

中島 朝次郎 龜井堂支店、五蔵餅商
 妻 富士枝 明三、一、二生、和歌山、藤原貞一私生子
 男 一雄 大一一、四生
 君は兵庫縣人中島金八の男にして明治二十六年二月九日を以て生れ大正四年兄藤之助の後を承け家督を相續す龜井堂支店と稱し瓦煎餅商を營むA四六三B二二六(神戸市湊東區多聞町七ノ一電湊川一五〇五)

中島 伊平 日清紡績、東洋火災保險、北海道五條各縣監査役、中伊代表社員
 妻 貞子 明一〇、四生、養父茂七長女
 女 貞子 明三九、六生、生母、群馬、上和田さだ、雙葉高女出身
 女 雷二 大元、九生、生母、群馬、上和田さだ、立大商科在學
 君は代々高崎市に住して絹織物商を營み福田屋と號して先代伊平に至る君は埼玉縣人向山小平次の弟にして慶應元年九月を以て生れ後中島茂七の養子となり明治二十四年養父伊平の後を襲ひ家督を相續し前名米次郎を改む幼少より家業に精勵して同家今日の基礎をなす現時中伊合名會社代表社員たる外前記各會社の重役として知られ養に關東セロイド千代田工業各會社の重役たり又曾て東京商業會議所議員に擧げらるる圖書畫に興味を有す子仙三(明四三、四生、生母、群馬、上和田さだ、九段精華高女出身)は子爵堤雄長二男秀雄に嫁し従妹さだ(同一九、三三、群馬、上和田喜助長女)は分家せりA三三三B三三三(東京市小石川區日向臺町二ノ八電大塚四三三三)
 參照 子爵堤雄長、米小澤太平の項

中島 幾三郎 日本タグシ自動車代表取締役
 妻 イケ 明二、三、三、大阪、横田梅太郎
 男 康治 大三、六生
 女 須美子 明四四、一二生
 女 麗子 大七、一、一生
 君は岐阜縣人出に於て後代々大阪に住す先代幾三郎は立志傳中の入又印刷工業界の功勞者なり君は其長男にして明治十八年三月を以て生れ大正十三年家督を相續し養名して前名種太郎を改む大阪高等工業學校機械科を卒業し印刷機製造業を營み傍ら前記各會社の重役にして養に大阪商工會議所議員たりし事あり家族は尙四女萬里子(大一一、一、一生)三男輝郎(同一三、四生)弟八郎(同三八、一、一生)あり弟小四郎(同二六、九生)同妻

中島 一治 大阪港土地、市園土地各取締役
 妻 ちく 明一〇、一生、兵庫、上田茂兵衛長女
 男 章一 明三三、一、一生
 君は大阪府人先代一治の長男にして明治五年十月を以て生れ大正五年家督を相續し前名政二郎を改め養名す現時前記各會社の重役たり家族は尙庶子照美(昭八、五生、生母、仲原智恵(妹キ)(明八、九生)は大阪府多額納稅者中島市右衛門の母たりA二六五二〇(大阪府市港區九條通二ノ六七電西四七八)

中島 一郎 從五位勳六等、臺灣總督府事務官
 妻 文子 明三八、七生、岐阜、河村竹治郎三女
 男 敬之 昭三、五生
 君は熊本縣人にして明治三十年十月二十五日を以て生る大正十年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來大藏省司稅務監督局事務官に歷任し其間水戸澁川兩國橋各稅務署長札幌稅務監督局直稅兼同稅務局長等に歷補す昭和四年十二月臺灣總督府事務官に任じ財務局主計課長に補せられ今日に至る傍ら臺灣電力會社監理官たり家族は尙長女道子(昭六、一生)あり(臺北市文武町三ノ三電四八〇)留守宅(東京市中野區大和町二ノ一五電四二四九二)

中島市右衛門 大阪府多額納稅者、朝鮮鹽業會社
 妻 キン 明八、九生、大阪、中島一治妹
 母 正枝 明三四、二生、大阪、反保覺二郎二女
 男 傳 大一一、一、一生
 君は元大阪府下西郡九條村に住し其祖業を以て業とし代々市右衛門を襲名す明治維新前まで庄屋を勤め大

地主たり君は先代市右衛門の長男にして明治二十六年四月十五日を以て生れ大正十三年家督を相續し共に前名英一郎を改む夙に早稲田大學理工科を卒業し現に朝鮮鹽業會社社長の外中島製作所取締役にして大阪府多額納稅者たり直接國稅一萬三千七百六十二圓を納む家族は尙長女智子(大一一、八生)二女靖子(同一三、四生)三女昭子(昭三、九生)の外弟市三(明四四、一、一生)二男市郎(昭五、七生)四女幸子(同七、六生)あり妹この(明三〇、四生、夕陽丘高女出身)は大阪府人井上七郎兵衛養子元之助に嫁し叔父眞次郎(同一八、五生)は同府人芽木ハナの養子となり同市二郎(同一二、四生)は分家せり(大阪府市港區九條通一ノ一八電西四四五八)參照 中島一治、中島市二郎、芽木眞次郎の項

中島市二郎 中島製作所代表取締役、朝鮮鹽業取締役、鐵工業、大阪府在籍
 妻 コノ 明一六、八生、大阪、前島市二郎養妹
 男 公市 大一一、八生
 君は大阪府人中島市右衛門の叔父にして芽木眞次郎の兄なり明治三十二年四月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す同三十五年東京高等工業學校機械科を卒業し鐵工業を營む傍ら現時前記各會社の重役たり家族は尙三男欣市(昭二、九生)四男伸市(同五、三三)五男北市ありA二五七二(大阪府市港區九條南通一ノ一二六電西三三五七)
 參照 中島市右衛門、前島市二郎、芽木眞次郎の項

中島市次郎 左官請負業
 妻 と 明一三、五生、京都、同本友七長女
 君は京都府人先代市兵衛の二男にして明治四十二年四月一日を以て生れ昭和四年家督を相續す左官請負業を營む家族は尙妹時子(明四五、四生)弟一夫(大三、三三)あり姉フタ子(明三九、八生)は京都府人宮谷久造に嫁せりA四一九(京都市上京區千本通長者町上ル電西三三五六)

中島市三 大阪府在籍
 君は大阪府人中島市右衛門の弟にして明治四十四年十二月二十七日を以て生れ昭和六年分れて一家を創立す

家主たりA三二〇(大阪府市港區九條南通一ノ一八電西五五四八)

中島 市松 縮緬商在籍
 妻 コウ 明一七、一生、大阪、石川宗七長女
 男 市太郎 明三六、三三
 男 綾子 明三八、六生、長男市太郎妻、大阪、高濱新助長女
 男 幸治郎 明三七、一〇生
 男 富三郎 明四〇、一、一生
 男 新三郎 明四一、九生
 女 春子 大三、三三
 女 町子 大五、一、一生
 君は滋賀縣人中島市右衛門の長男にして明治八年八月八日を以て生れ同十三年家督を相續す縮緬商を營む家族は尙六男金治郎(大六、七生)三女登子(同九、五生)四女久仁子(同一二、三三)あり叔母とみ(安政三、六生)同市江明三、一〇生)は滋賀縣人辻惣兵衛の養子となれりA三七四B九七(大阪府市港區大工町三四電西九九七)

中島 榮一 山口縣多額納稅者、中實商店取
 妻 寅之進 明七、二生、現戶主
 母 トミ 明二〇、一生、祖父榮助三女
 妻 シゲコ 明二八、七生、山口、小崎清次妹
 君は山口縣人中島實之進の長男にして明治二十七年二月を以て生る砂糖商を營み傍ら中實商店取締役に於て直接國稅三千七百八十七圓を納め山口縣多額納稅者に列す家族は尙弟治郎(明四二、八生、中實商店取締役)同幸助(大九、一〇生)妹節子(同一〇、七生)同美代子(同一五、一生)養妹富江(同五、二生、山口、徳永與太郎四女)あり(下關市關後地村一五七一電二七七)

中島 悦郎 從四位勳三等、海軍少將
 妻 マス 明一七、三三、山口、貞永知介二女
 男 保正 明三六、一〇生
 男 滿男 明四五、四生
 君は愛知縣人江崎理左衛門の三男にして明治七年五月を以て生れ先代家督の養子となり同二十五年家督を相

續予風に醫學を修め海軍々醫となり累進して海軍々醫少將に陞る...

中島 近江 從五位勳三等、判事、一ノ國區裁判所監督兼支那支隊、長野縣在籍...

中島 織三 從四位勳三等、檢事、秋田地方裁判所檢事正、東京府土族...

中島 勝五郎 東京市會議員、中島電機製作所主理、電機製作業、東京府在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 勝次郎 小坂土地建物、中島組各社取締役、土木建築請負業、大阪府在籍...

中島 兼吉 神奈川縣多額納稅者、神奈川縣農工銀行取締役、神奈川縣在籍...

中島 勘次郎 中島組社長、建築請負業、兵庫縣土族...

中島 九郎 從四位勳三等、農學博士、北海道農學部勤務、帝國大學教授...

中島 久萬吉 從三位勳二等、男爵(禮遇不享)、東京府土族...

中島 喜代一 中島飛行機社長、中島商船社長、務取締役、富士電機社長、群馬縣在籍...

中島 久藏 熱帯興業、日本汽船漁業各社社長、日本林産貿易、大島鐵工、昭和土...

中島 邦雄 松坂屋本町分店主任、愛知縣在籍...

中島 熊楠 和歌山木村糖業取締役、中熊代表社員、和歌山縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

中島 欽三 正四位勳三等、熊本高等工業學校教授、兵庫縣在籍...

と共に分家し二女貞子(同四五、七生)は其養子となれり(和歌山西河原町二二三三三)

中島 象

日本道會理事長
君は栃木縣人中島喜代松の長男にして明治八年六月を以て生れ同十七年家督を相続す凡に東京高等工業學校を卒業し同三十三年渡米シスタンフォード大學を卒業シ歸朝後日光美術師事務所東京株式取引所仲買人明豊銀行頭取等に就任し現時日本道會理事長たり母タケ(嘉永二、四生、栃木、飯塚儀平長女)は栃木縣人中島喜代松の家婦に入り妹シマ(明二〇、八生)は東京府人醫學士二品島に嫁せり(東京市京橋區銀座一ノ三電京橋五五六六)

中島 健三郎

愛知縣在籍
妻 愛 明二六、七生、愛知、内田鏡之助
女 よし 六七、四生
君は愛知縣人中島茂兵衛の長男にして明治二十五年三月二十六日を以て生れ大正二年家督を相続す資産家たり母せん(明二、一一生)は分家し弟榮一(同二七、六生)は岐阜縣人中島關太郎の家婦に入りA九七八(名古屋市東區宮町二丁目)

中島 健太郎

三直商店、時計貴金屬商
東京府在籍
繼母 ヤエ 明一四、一〇生、神奈川、菅田シケ長女
妻 千代 明三七、一一生、東京、中島榮藏
君は東京府人中島直次郎の三男にして明治三十二年十月を以て生れ大正十四年家督を相続す三直商店と稱し時計貴金屬商を營み知らる弟榮一(明三五、五生)は分家せりA二九四〇B七七六(東京市神田區神保町一ノ七電神田一六一〇)

中島 源助

井波銀行頭取
富山縣在籍

母 こと 嘉永元、三生、富山、中島六三郎
妻 長女 明一〇、一生、富山、宇野次四郎姉
男 隆吉 明二八、六生
妻 隆吉 明三五、三三、長男隆吉妻、富山
妻 隆吉 明三五、三三、長男隆吉妻、富山
妻 隆吉 明三五、三三、長男隆吉妻、富山

中島 好太郎

豊國火災保險總取役兼支配人
東京支店長、山口縣在籍
君は山口縣人中島香藏の長男にして明治九年十月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十五年早稲田大學英語政治科を卒業し直ちに農商務省に入り保險課に勤務す後豊國火災保險會社に轉じ現時取役兼支配人に就きて東京支店長たり家婦は同二男信郎(大六、二生)三男秀雄(同九、一一生)四男文郎(同一二、一一生)あり父香藏(弘化二、一〇生)繼母シマ(安政二、一一生、山口、大空徳右衛門長女)は共に分家せりA九〇八(東京市布政區尾崎町七五電高輪六五六二)

中島 幸三郎

安田保善社副理事
東京府在籍
妻 スエ 明二五、一一生、養父中島幸保三女
君は京都府人若田孫吉の弟にして明治十三年三月十九日を以て生れ中島幸保の養子となり同四十二年家督を

中島 幸次郎

保險代理業
大阪府在籍
妻 タカ 長女
君は大阪府人中島定五郎の長男にして明治二十九年六月二十九日を以て生れ昭和四年家督を相続す現時保險代理業を營む家婦は尙長女豊子(大一〇、九生)二女晴子(同一四、三三)三女繁雄(同二二、六生)ありA三六三(大阪市東區川本庄西通四ノ一電北七八五五)

中島 佐吉

福井縣多額納稅者、麻織物商
福井縣在籍
妻 薰 慶應元、四生、大阪、寺田彌平妹
君は福井縣人山崎伊三郎の二男にして明治二十五年六月を以て生れ先代佐吉の養子となり大正十二年家督を相続し前名伊三郎を改め養子現時麻織物商を營み直接納稅千三百八圓を納め福井縣多額納稅者たり家婦は尙長女秀子(大一一、三三)あり(福井市毛矢町九四電四一四)

中島 三郎

正五位勲二等功五級、陸軍中將、陸軍技術本部第一部長、陸軍審議委員、岡山縣士族
岡山縣在籍
妻 本 明二一、一一生、東京、柴田實頼二女
君は岡山縣士族中島重信の三男にして明治十五年四月十五日を以て生れ陸軍士官學校を卒業し同三十五年砲兵少尉に任じ昭和九年陸軍中將に累進す其間教育總監部員重砲兵射擊學校校長陸軍造兵廠各教官重砲兵學校教育部長横須賀重砲兵廠長陸軍造兵廠總監部長陸軍技術本部總監部長に歴補し昭和七年現職に補せられ今日に至る家婦は尙二男英男(大六、一一生)、市立

中島 集

田主丸實業銀行頭取、筑後軌道
福岡縣在籍
妻 キン 明一九、一一生、福岡、瀧井辰雄長女
君は福岡縣士族中島修治郎の長男にして明治十四年五月を以て生れ大正十一年家督を相続す農業者を營み傍ら前記銀行會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者に列し又興産銀行重役たりしことあり家婦は尙思朗(大四、七生)五男恭三(同六、一一生)三女セツ(同九、六生)六男慶太(同三、二生)七男和夫(同二、二生)あり長女タツキ(同三九、九生)は福岡縣人中島保藏養子幸夫に嫁せり(福岡縣浮羽郡田主丸町)

中島 十藏

正五位勲四等、判事、平區裁判所
監警支那部長、茨城縣在籍
君は茨城縣人にして明治十一年三月二日を以て生れ同三十五年日本法律學校を卒業し同四十四年判事登用試験に合格す直ちに司法官候補となり同四十四年判事に任ぜられ土浦區佐賀地方柳河區郡地方中津區竹田區八代區鹿兒島地方福岡縣地方各裁判所判事を歴て昭和二年秋田地方裁判所部長に補せられ現時前記の官職に在り(福島縣石城郡平町胡摩澤電五七一)

中島 重

同志社大學教授兼法學部長
岡山縣在籍
妻 直治郎 安政三、六生、現戸主
君は岡山縣人にして明治十一年三月二日を以て生れ同三十五年日本法律學校を卒業し同四十四年判事登用試験に合格す直ちに司法官候補となり同四十四年判事に任ぜられ土浦區佐賀地方柳河區郡地方中津區竹田區八代區鹿兒島地方福岡縣地方各裁判所判事を歴て昭和二年秋田地方裁判所部長に補せられ現時前記の官職に在り(福島縣石城郡平町胡摩澤電五七一)

中島 繁造

中島商店代表取締役、武久岡醫
山口縣在籍
妻 チエ子 明四五、二生
君は山口縣人中島繁の二男にして同德治郎の弟なり明治十六年三月を以て生れ現時大阪砂糖取引所會員にして傍ら前記會社の重役たり家婦は尙見治郎(明一二、一一生、現戸主)ありA五五三(大阪市天王寺區眞法院町六〇ノ六)一店舖)南區鹽通一ノ二五)一電船場三七三三)

中島 七五郎

小倉石油監査役
東京府在籍
妻 孝太郎 明四一、一一生
君は茨城縣人中島五郎の三男にして明治七年四月一日を以て生れ大正六年家督を相続す現時小倉石油會社監査役たり家婦は尙二男雄次郎(大一一、一〇生)ありA九八九(東京市同區區區島町一ノ二二二〇)

中島 周一

從五位勲五等、判事、廣島地方裁
岡山縣在籍
妻 隆吉 明二八、六生
君は岡山縣人にして明治十一年三月二日を以て生れ同三十五年日本法律學校を卒業し同四十四年判事登用試験に合格す直ちに司法官候補となり同四十四年判事に任ぜられ土浦區佐賀地方柳河區郡地方中津區竹田區八代區鹿兒島地方福岡縣地方各裁判所判事を歴て昭和二年秋田地方裁判所部長に補せられ現時前記の官職に在り(福島縣石城郡平町胡摩澤電五七一)

中島 三郎

大阪三品取引所取引員
大分縣在籍
妻 元治元、一〇生、大分、河野圓六
君は大分縣人中島百藏の長男にして明治二十二年八月を以て生れ大正三年應慶大學理財學科を卒業し父の業を繼ぎ大阪三品取引所第一第二部取引員たり大分三品商會社監査役たりし事あり家婦は尙孝二(大一二、一一生)三男幸雄(同二五、一一生)弟草太(明二五、二生)同妻千榮(同三五、一一生)兵庫、安孫子守男長女)及其一子弟光雄(同三〇、三三)同母(同三六、一一生)大分縣人伊田川市藏四男英二に同母(同三三、一〇生)は熊本縣士族緒方正嘉弟正敏に嫁せり(大阪府豊能郡豊中町北通一丁目)

中島 滋太郎

資産家
山梨縣在籍
妻 山梨 明一四、六生、山梨、中島致恭長女
君は山梨縣人中島正蔵の二男にして明治三年六月を以て生れ同二十八年叔父致恭より分れて一家を創立す同年東京帝國大學法學科を卒業し直に日本郵船會社に入り同社支店長神戸支店長取締役等たり歴任し大正十二年之を退き信越電力會社取締役となり亦東京發電會社取締役たりし事あり併句岡縣等に趣味を有す家婦は尙孫子(昭四、九生、長女静江長女)あり二女活(明三七、三三)女子學習院及女子英學塾出身)は神奈川縣人山本益藏二男泰次郎に從妹みさほ(同二二、九生)は丁學博士林桂一に嫁せり(東京市平野區氷川町一七電中野二二三六)

中島 三郎

同本商店、洋紙合同販賣、千代田
ノイト各取給役、群馬縣在籍
妻 吟 明二一、一一生、東京、岡本彌兵衛妹
君は群馬縣人中島利兵衛の長男にして明治二十一年一月を以て生れ大正六年家督を相続す現時前記各會社の重役にして兼に日本評論社取締役たりし事あり家婦は尙二男邦次(大四、一一生)五男愈郎(同三三、二生)二女三千子(昭二、五生)あり弟義三郎(明二九、一一生)は東京府人辻新三郎の養子となりA六二五(東京市向島區島町一ノ一八九電墨田一三五二)

中島 三郎

大阪三品取引所取引員
大分縣在籍
妻 元治元、一〇生、大分、河野圓六
君は大分縣人中島百藏の長男にして明治二十二年八月を以て生れ大正三年應慶大學理財學科を卒業し父の業を繼ぎ大阪三品取引所第一第二部取引員たり大分三品商會社監査役たりし事あり家婦は尙孝二(大一二、一一生)三男幸雄(同二五、一一生)弟草太(明二五、二生)同妻千榮(同三五、一一生)兵庫、安孫子守男長女)及其一子弟光雄(同三〇、三三)同母(同三六、一一生)大分縣人伊田川市藏四男英二に同母(同三三、一〇生)は熊本縣士族緒方正嘉弟正敏に嫁せり(大阪府豊能郡豊中町北通一丁目)

男 瑞彦 明四一、二生
君は舊龜田藩士中田直繼の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十五年家督を相續す同三十三年東京帝國大學法政學科を卒業し大學院に入り日本法政史を研究す同四十二年法政史研究の爲め英獨佛に留學し歸朝後東京帝國大學助教授を経て同十四年學士院會法學部に勤務す法學協會長にして大正十四年學士院會員を仰付けらるるに法學博士の學位を受け法學部長たり第三郎(明二四、八生)は分家し同四郎(同二六、一〇生)は分家第三郎の死跡を繼ぎ妹トミ(同一七、一〇生)は岩手縣人三田定則に嫁し叔父三郎(元治元、三生)は長野縣人上野彌平の養子となり其の長男太郎は當主たり(東京市麻布區弁町一四〇電青山五八九)參照上野太郎、三田定則、白石多良、中村實之助、中山久雄の項

中田吉之助 資力家
東京府在籍
女 美 明二〇、四生
君は群馬縣人荻野實義の長男にして慶應三年七月十九日を以て生れ先代なみの養子となり大正六年家督を相續す資力家たりA四七五(東京市淺草區花川戸町二八電淺草六〇七四)

中田敬義 從四位勳四等、華美書院、横濱製糖各監査役、東京府在籍
妻 イ 吉 明一〇、三生、長崎、土、石崎芳吉姉
男 益 明三二、一〇生、三男勝彦妻、東京
男 市 明三四、一〇生
君は石川縣人田中德兵衛の長男にして安政五年六月二十二日を以て生れ明治八年家督を相續す同九年外務三等書記官となり爾來外務省御用掛交際官試補公使館書記官大臣秘書官等に歴任し後外務省政務局長に任ぜらる同三十一年官を辭し實業界に入り古河鐵業會社理事たりし事あり現時前記會社の重役として夫々其經營の概に參與す家族は尙孫柳子(六一、一〇生、三男勝彦長女)同富子(同一三、一〇生、同二女)同輝子(同一五、八生、同三女)あり四男宗彦(明三〇、一〇生)は分家せりA二七一(東京市赤坂區青山南町六ノ一三五電青山一六〇一)參照石崎芳吉の項

中田覺五郎 正五位勳四等、農學博士、九州帝國大學教授、朝鮮總督府農學部顧問、農學部勳務、栃木縣在籍
妻 ヨシ 長女 明二八、四生、茨城、出井辰次郎
男 正 男 六一、九生
君は栃木縣人にして明治二十年十一月一日を以て生れ同四十五年東京帝國大學農學部農學科を卒業し直に朝鮮總督府勳務局長に任じ同府農林學校教授を兼任し同府勳務局長兼水原農林專門學校教授を経て大正十年九州帝國大學教授となり昭和四年朝鮮總督府農事試驗場技師を兼任す大正八年米各國(留學を命ぜらる昭和二年農學博士の學位を授けられ「農作物病害圖編」の著あり家族は尙女ヒロ子(六一、一〇生)男和男(昭四、一〇生)あり(福岡市地行東町二二三電六七三〇)

中田熊次 大阪府會議員、製版印刷、凸版印刷、日本エツチビ、特許製版各業、大阪府在籍
妻 久 明三二、五生、長男良夫妻、兵庫
男 良 明二七、一〇生
男 登久子 廣瀬一妹
君は香川縣人七條恒次郎の弟にして明治四年五月を以て生れ大阪府士族中田直衛の長男にして明治八年五月を以て生れ同二十三年家督を相續す同二十九年大阪府師範學校を卒業し小學校中學校に教鞭を執り後實業界に轉じ現時泉州縣物産會社常務取締役として知らる長男彦一(明三〇、一〇生)弟理一(同一五、三生)は各分家し長女倍子(同三三、八生)は大阪府人池田寅一に嫁し(同二〇、六生)は同府人大野茂一に嫁せり(岸和田市北町九九電二五四)參照池田寅一の項

中田佐久造 京都商工會議所議員、中田商店常務取締役、京都府在籍
妻 トク 從妹 明三二、四生、北海道、近藤スエ
男 順 昭二、五生
君は愛媛縣人田中太郎の二男にして明治二十六年十二月二十六日を以て生れ後分れて一家を創立す土木建築請負業を營む家族は尙長女澄子(六一〇、二生)二男

中田定景 秋田縣多額納稅者、農業
妻 ヤス 之助長女 明二一、二生、秋田、土、藤原庫
男 正 直 大三、一〇生、兄景基二男
君は秋田縣士族渡部景基の弟にして明治十五年五月を以て生れ先代五平の養子となり大正十年家督を相續す農業を營み資産家を以て知られ秋田縣多額納稅者にして直接國稅四千二百十圓を納む(秋田縣南秋田郡地戸村)參照小田省三郎、中田與兵衛、齋藤榮造、長谷川半次郎の項

中田重介 金藏業、兵庫縣在籍
妻 ます 明二七、四生、養母いよ長女
男 朝 昭三、七生
君は兵庫縣人林實治の弟にして明治三十三年一月九日を以て生れ昭和三年中田ますに入夫し前名利作を改む金藏業たりA三八六B七四(兵庫縣武庫郡精道村打出若宮三ノ一電寶慶二四八三)

中田庄三郎 第一銀行福岡支店長
妻 ちよ 明一七、一〇生、養父幾次二女
男 一 郎 明四二、二生
男 敬 夫 明四三、八生
男 輝 夫 大三、一〇生
君は京都府人植野治三郎の弟にして明治十五年一月二十二日を以て生れ同四十二年中田家を相續す同四十二年東京高等商業學校を卒業し爾來第一銀行に勤務し五年西陣各支店支配人京都支店副支配人福岡支店支店長を経て現時福岡支店支店長たり旅行及園藝に趣味を有し又文章を好み在學時代高商一橋會々歌を作るA二〇一(福岡市大國寺町六電一八四一)

中田重治 東洋宣教會、日本ホリネス教會代表、教師、聖書學院主、東京府在籍
妻 あやめ 明一四、四生、宮城、今井善五郎
男 羽 後 明二九、九生
君は長野縣士族中田久吉の弟にして明治三年十月を以て生れ同二十六年分家して一家を創立す風に青山學院高等部を卒業し教師となり現時東洋宣教會日本ホリネス教會代表たり現時聖書學院を經營す家族は尙孫純(昭三、六生、二男羽後長女)同祐治(同五、八生、同長男)あり長女ムツ(明三二、六生)は鳥取縣人大江捨

中田正一 大阪鐵工所參事兼車輔部長、岐阜縣在籍
妻 ウクラ 明二〇、七生、岐阜、土、佐々木
男 正 樹 明四四、七生
女 雪 枝 明四二、一〇生
女 芳 枝 大七、四生
君は千葉縣士族中田武雄の長男にして明治十二年四月を以て生れ大正四年家督を相續す同三十七年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し現時大阪鐵工所參事兼車輔部長たり家族は尙三男彦男(六一〇、六生)四男富士夫(同一二、一〇生)の外弟輔一(同一四、一〇生)同妻荷露(同二四、七生、父武雄養子、岐阜、桑月一心長女)及其二女あり長女瑞枝(同三九、四生)は東京府人藤瀨義暢に二女菊枝(同四〇、一〇生)は愛知縣人大林勇治に嫁せりA一七六(西宮市神樂町四八電一六六八)

中田末廣 正五位勳五等、滿洲電信電話技師、技師部長、愛媛縣在籍
妻 やま 明二五、一〇生、東京、高木利助
男 博 大九、一〇生
女 薫 大五、一〇生
君は東京府人田中金之助の二男にして明治二十一年三月十三日を以て生れ昭和五年家督を相續す地主たり家族は尙二男輝久(六一、一〇生)三女輝子(同一四、八生)妹しげ(明三一、九生)弟三郎(同三四、六生)あり長女利子(大三、三生)は東京府人山口春信に嫁せりA一三〇八(東京市豊島區巢鴨四ノ六)

妻 ヒロ子 明三、八生、山口、士、信吉五郎長女

女 ヒロ子 大三、三生

君は愛媛縣人、中田伊之助の二男にして明治十八年三月を以て生る。同十四年京都帝國大學工學部電氣工學科を卒業し、通信管理技師、通信技師、通信技師、臨時電信電話建設局技師等に歴任。大正十二年英米獨各國へ出張を命ぜられ、歸朝後逕信局技師、逕信技師に任じ、東京逕信局勤務たりしが、昭和八年退官し、滿洲電信電話株式會社に入り、現在同社技術部長たり。家族は尙見官次(明五、八生、現戸主)あり姉イカ(同八、六生)は愛媛縣人、杉本玉農叔父才三に嫁せり。(大連市大山通滿洲電信電話會社内)

中田 亮直 第四十八銀行取締役、財團法人 慶應教育團理事、財團法人 田郷慈善理事、秋田縣十族 戸主

父 直哉 三三、從六位勳五等、現 戸主

妻 トク 明三、四生、秋田、醫學博士富永哲夫姉、秋田高女出身

男 易直 大八、四生、東京高師附屬中在學

君は秋田縣士族中田 哉の三男にして明治十九年八月八日を以て生る。同十四年慶應義塾理財科を卒業し、同年横濱正金銀行に入行、爾來横濱本店神戸香港東京各支店を経て、頭取東京詰となり、大正十五年七月是を辭し、後郷里に歸り、昭和四年第四十八銀行取締役任に就き、九勤績今日に及ぶ。他に頭取諸財團法人役員たり。讀書旅行ゴルフ等を趣味とす。家族は尙見官次(明七、八生)あり姉(明一七、四生)は秋田縣人、三浦祥に嫁し、弟明直(同二二、一〇生、三和銀行検査役、慶大出身)は同妻(同二二、一〇生、埼玉、龜井儀六長女)を弟武直(同二二、四生、大阪商船會社員、法學士)は同妻貞(同三六、一〇生、秋田、伊藤泰之助三女)を妹、淑(同二八、二生)は同夫三郎(同二五、一一生、愛知、前田多賀次郎三男、農學士)を叔父、錦吉(元治元、一一生)は同妻及二男三女を伴ひ、各分家し、其長男伊直(明三三、四生、安田信託會社員、經濟學士)當主たり、A一〇九六(秋田縣北秋田郡大館町二一六電四七)

中田 誠一郎 地主

母 マツ 明五、七生、京都、中田宇兵衛長女

妻 みづ 明三、四、一一生、京都、北村鶴次郎長女

男 隆 大八、一〇生

君は京都府人、先代幸太郎の長男にして明治三十年十月五日を以て生る。昭和六年家督を相續す。地主たり。家族は尙二男等 大八、一〇生、姉(明二九、三三、弟(明三三、四生)は同妻(同四四、五生)を妹、同(同四四、七生)同女(大三、四生)あり、A三六八(京都市上京區等持院中町三九電西陣六〇六五)

中田 常吉 鐵工業 兵庫縣在籍

妻 きみ 明二、八、一〇生、兵庫、河家市太郎妹

女 保子(同四一、九生)は大阪府人、倉橋道純に三女政代(同四三、四生)は大阪府人、當倉榮吉長男、一に嫁し、四女(同四四、五生)は山口縣人、藤岡英男、敬治を養子に迎へ、分家せり、A一一八四(大阪府淡路九條通一ノ八電西一〇九八)

中田 松兵衛 中田松兵衛商店責任社員、中田松兵衛商店在籍

母 ひさ 安政元、五生、兵庫、三浦萬吉妹

妻 はる 明二、四、一一生、兵庫、小池清七三女

男 素生 大三、一〇生

長女 眞佐子 大八、九生

君は兵庫縣人、先代松兵衛の長男にして明治二十一年二月十三日を以て生る。大正六年家督を相續し、前名實藏を改め、實藏と稱す。松丸商を併み、兵庫縣多額納税者たり。家族は尙二男、林之助(大六一、一一生)二女、都美子(同一一、六生)四男、博(昭五、五生)あり、弟、松太郎(明二三、一一生)同妻(同二七、五生)、兵庫、前田熊太郎(二女)は其一男を伴ひ、分家せり。(兵庫縣武庫郡御影町電影三三三〇)

中田 守雄 大阪府會議員、大阪府會議員、中田瑞穂堂、活版ローラー製造業 大阪府在籍

母 ヤス 明六、九生、大阪、西岡仁三郎長女

妻 初野 明三、五、五生、大阪、西口直次郎長女

男 守司 昭六、七生

君は大阪府人、先代守雄の長男にして明治二十六年九月三十日を以て生る。大正七年早稻田大學政治經濟科を卒業し、昭和二年家督を相續し、共に前名守仁を改め、名守中田瑞穂堂と稱して、活版ローラー製造業を営む。傍ら大阪府會議員、大阪府會議員、列子家族は尙長女、美穂子(昭四、八生)二女、千穂子(同八、一一生)妹、千穂子(明三〇、九生)同妻(同四〇、九生)弟、信雄(同四四、六生)あり、同昌雄(同三六、一〇生)叔父、障五郎(同四〇、三三)生、生母、愛媛、谷フサは分家せり、A一三二(大阪府東區半入町七四七電東八八九)

中田 與兵衛 中田商店社長、綿布商 京都府在籍

女 常好 明三、二、八生

男 明三、三、一一生、長男、常好妻、鳥根森山拾市長女

君は兵庫縣人、中田徳次郎の長男にして明治五年十一月十五日を以て生る。同三十一年家督を相續し、鐵工業を営む。家族は尙二女、レナ子(大一一、一〇生)五男、十三(同四一、八生)五女、美代子(同一一、五、三三)六男、昭(昭四、五三)孫、秀子(大一一、五生)長男、常好長女)あり、祖父平三郎(文政三、八生)は父徳次郎(嘉永五、一一生)弟、三郎(明一三、一一生)と共に分家し、二男、一雄(同三四、五生)も亦分家す。長女チエ子(同四三、三三)は兵庫縣人、小川正夫に嫁せり、A三九一B一〇七(神戸市兵庫區羽坂通四ノ九ノ六電濱川二四七八)

中田 豊三郎 攝津製油廠取締役 大阪府在籍

母 アサ 嘉永四、六生、大橋安兵衛長女

妻 ナツエ 明二、四、七生、大阪、中谷永太郎長女

男 豊光 大六、一一生

君は大阪府人、中田庄太郎の四男にして明治十二年三月二十五日を以て生る。同十四年兄英太郎より分れて一家を創立す。夙に實業界に入り、現時攝津製油會社取締役として知らる。家族は尙長女、安子(大一一、一〇生)三男、喜久(昭三、一一生)あり、A七一一(大阪府西區日本橋筋五ノ一電戎二三四)

中田 直三郎 住友會社總務部會計課長 大阪府在籍

妻 カツ 明二、五、九生、大阪、角田富次郎長女

男 英一 大二、七生

女 雅子 大五、一〇生

君は大阪府人、中田友七の三男にして明治二十年三月を以て生る。同四十五年東京高等商業學校專攻部を卒業し、現時住友會社總務部會計課長たり。家族は尙二女、經子(大九、八生)二男、七(同二四、一〇生)三男、啓三(昭四、三三)兄弟、七(一一生、現戸主)同妻、マ(同四一、一〇生)大阪、保田七郎兵衛孫あり、A三三八(大阪府西區新町一ノ二四電新町一〇六六)

中田 駿郎 静岡市會議員、藤相鐵道検査役 静岡縣在籍

妻 まさ 明二、二、一一生、静岡、天野藤十郎長女

君は静岡縣人、中田伊七の二男にして明治十五年四月を以て生る。昭和五年兄平方より分れて一家を創立す。明治三十四年東京法學院を卒業し、現に前記の職に在り。静岡市會議員に當選せし事あり、A一〇〇(静岡市西門町電五九七)

中田 三樹三郎 正五位勳四等、検事、川越區裁判所検事、千葉縣在籍

妻 はな 明一、九、四生、千葉、土、宮下仙九郎七女

男 一郎 明四、五、五生

女 春江 大二、一〇生、東京家政學院出身

君は千葉縣人、中田松兵衛の二男にして明治十三年八月を以て生る。昭和四年兄吉方より分れて一家を創立す。明治四十一年東京帝國大學法科大學を卒業し、同四十二年検事に任ぜらる。爾來高松津山岡山各區府地方官、下倉吉各區地方官、諏訪本會伊那各區府地方官、同下妻、各裁判所及下妻長岡各支都検事、水戸區、同地方裁判所、検事等に歴任し、現時川越區裁判所検事の職に在り。讀書浮世繪等に趣味を有す。家族は尙二男、秀松(大四、一、二生)三男、熊男(同七、四生)三女、千枝(同九、三三)四男、幸吉(同一一、二生)あり、長女、綾子(明四三、六生)は千葉縣人、醫學士、岡谷勝利に嫁せり、(川越市郭町三五二)

中田 辨吾 大阪商工會議所議員、井筒屋呉服店代表社員、呉服並百貨商 大阪府在籍

妻 とく 明一、八、九生、大阪、矢部末吉長女

男 清一 大七、一一生

女 清子 大七、一一生

君は三重縣人、若林九郎右衛門の二男にして明治十五年一月五日を以て生る。同十九年先代とくの入夫となり、家督を相續す。若くして大阪に出で、後井筒屋と稱し、呉服商を営みしが、大正七年合資會社井筒屋呉服店を創設し、事業を擴張し、現時代表社員にして推されて、大阪商工會議所議員となり、關西實業界に重きをなす。家族は尙二男、貫治(大五、七生)六女、由喜子(同二〇、二生)七女、佐幾子(同二二、五生)八女、寛子(昭二、五生)あり、長女、初子(明四〇、四生)は愛知縣人、江崎順三養子、季一に二

中田 秀次郎 大阪府會議員、天市、寒天商 大阪府在籍

妻 ヒサ 明二、三、四生、大阪、藤井長兵衛長女

女 悦 明四、三、三三

君は大阪府人、齋藤丈右衛門の二男にして明治八年二月三日を以て生る。同三十七年先代あいの入夫となり、家督を相續す。天市と稱し、寒天商を営み、現時推されて、大阪府會議員たり、A六七四B一〇四(大阪府西區靱北通二ノ一〇電土佐堀二二七一)

中田 伸直 安田信託會社員 大阪府在籍

妻 滿壽子 明三、二、二生、大阪、渡邊千代三三女

男 義直 昭九、四生

君は秋田縣人、中田錦吉の長男にして明治三十四年八月二十八日を以て生る。大正十五年家督を相續す。同年京都帝國大學經濟學部を卒業し、昭和三年米國に渡航し、同四年より六年までニューヨーク、ギヤラン、タイ、トラス、ト・カンパニーに於て見習客員として實務を修練し、歸朝後安田信託會社に入り、現に其社員たり。家族は尙弟、正直(明四二、九生)あり、(大阪府東區島町一ノ七電東六〇四)

中田 渡邊千代三郎 參照

中臺 萬吉

下總屋、種穀乾物商
東京府在籍
母 タマ 明二九、二生、東京、小島丸兵衛

中館長三郎

正四位勳三等功三級、陸軍少將
東京府在籍
妻 トキ 明八、八生、廣島、津田徳三姉

中谷 龜吉

土産商店、五セメント商
大阪府在籍
母 ウノ 慶應二、四生、大阪、芦分彌右衛門

中谷 貞頼

正七位、衆議院議員(高知縣選出)
日本活動寫眞社社長、淺草興行組
合意取締役、高知縣土族
妻 速水 慶應元、一〇生、高知、土、金子

中谷 庄兵衛

福泉無煙炭鐵器社長、大阪毛織、
福大紡績、満蒙毛織、満蒙毛織百
貨店各取締役、東洋拓殖常務
顧問、大阪府在籍
妻 セイ 明一五、一〇生、養父庄兵衛長女

中谷 米藏

福助足袋製造取締役
大阪府在籍
妻 ツル 明三二、九生、大阪、西内淺次郎姉

中谷 哲二

從五位勳六等、臺灣總督府地方技
術師、臺北州内務部勸業課勤務
妻 菊子 明二八、九生、鳥取、土、安田清

中谷 政一

正五位、辯護士
長野縣在籍
妻 あきえ 明一七、一〇生、長野、柴勝見妹

中谷 秀

正五位勳四等、鳥取縣知事
鳥取縣在籍
妻 サカエ 明二九、八生、錦鶏間紙俵高岡直

中谷 政一

正五位、辯護士
長野縣在籍
妻 あきえ 明一七、一〇生、長野、柴勝見妹

中谷 寅吉

自轉車商
大阪府在籍

中谷 俊作

臺灣銀行東京支店員
靜岡縣在籍
父 次郎作 安政二、六生、靜岡、神谷嘉右衛門

中谷 米藏

福助足袋製造取締役
大阪府在籍
妻 ツル 明三二、九生、大阪、西内淺次郎姉

中谷 庄兵衛

福泉無煙炭鐵器社長、大阪毛織、
福大紡績、満蒙毛織、満蒙毛織百
貨店各取締役、東洋拓殖常務
顧問、大阪府在籍
妻 セイ 明一五、一〇生、養父庄兵衛長女

中谷 貞頼

正七位、衆議院議員(高知縣選出)
日本活動寫眞社社長、淺草興行組
合意取締役、高知縣土族
妻 速水 慶應元、一〇生、高知、土、金子

中谷 龜吉

土産商店、五セメント商
大阪府在籍
母 ウノ 慶應二、四生、大阪、芦分彌右衛門

中谷 哲二

從五位勳六等、臺灣總督府地方技
術師、臺北州内務部勸業課勤務
妻 菊子 明二八、九生、鳥取、土、安田清

中谷 政一

正五位、辯護士
長野縣在籍
妻 あきえ 明一七、一〇生、長野、柴勝見妹

中谷 秀

正五位勳四等、鳥取縣知事
鳥取縣在籍
妻 サカエ 明二九、八生、錦鶏間紙俵高岡直

中谷 政一

正五位、辯護士
長野縣在籍
妻 あきえ 明一七、一〇生、長野、柴勝見妹

中谷 寅吉

自轉車商
大阪府在籍

中谷 貞頼

正七位、衆議院議員(高知縣選出)
日本活動寫眞社社長、淺草興行組
合意取締役、高知縣土族
妻 速水 慶應元、一〇生、高知、土、金子

中谷 貞頼

正七位、衆議院議員(高知縣選出)
日本活動寫眞社社長、淺草興行組
合意取締役、高知縣土族
妻 速水 慶應元、一〇生、高知、土、金子

中谷 庄兵衛

福泉無煙炭鐵器社長、大阪毛織、
福大紡績、満蒙毛織、満蒙毛織百
貨店各取締役、東洋拓殖常務
顧問、大阪府在籍
妻 セイ 明一五、一〇生、養父庄兵衛長女

中谷 龜吉

土産商店、五セメント商
大阪府在籍
母 ウノ 慶應二、四生、大阪、芦分彌右衛門

中谷 哲二

從五位勳六等、臺灣總督府地方技
術師、臺北州内務部勸業課勤務
妻 菊子 明二八、九生、鳥取、土、安田清

中谷 政一

正五位、辯護士
長野縣在籍
妻 あきえ 明一七、一〇生、長野、柴勝見妹

中谷 秀

正五位勳四等、鳥取縣知事
鳥取縣在籍
妻 サカエ 明二九、八生、錦鶏間紙俵高岡直

中谷 政一

正五位、辯護士
長野縣在籍
妻 あきえ 明一七、一〇生、長野、柴勝見妹

中谷 寅吉

自轉車商
大阪府在籍

中谷 貞頼

正七位、衆議院議員(高知縣選出)
日本活動寫眞社社長、淺草興行組
合意取締役、高知縣土族
妻 速水 慶應元、一〇生、高知、土、金子

中谷 庄兵衛

福泉無煙炭鐵器社長、大阪毛織、
福大紡績、満蒙毛織、満蒙毛織百
貨店各取締役、東洋拓殖常務
顧問、大阪府在籍
妻 セイ 明一五、一〇生、養父庄兵衛長女

中谷 龜吉

土産商店、五セメント商
大阪府在籍
母 ウノ 慶應二、四生、大阪、芦分彌右衛門

妻 鶴子 明三、七生、東京、笠井彰長女
 男 榮一 大、四生
 女 敦子 大、六生、聖心女子学院出身
 君は栃木縣人中塚勇吉の長男にして明治七年十二月を以て生れ同三十八年家督を相続す。歐米に學ぶこと十有六年。乗港ボリチカニツク高等學校卒業後、同地最初のデパートメントストア「スマス・キャン」商店に勤務し、又桑港英和學校長となり其後ロンドンビヤ大學を卒業。歐州を見學して歸朝す。明治四十二年來出版業に従事し現に「英文雜誌」ジャパン・マガジン社長として我が國情を海外に紹介し貿易の發達に努め後國民圖書株式會社を創立し其代表取締役たる。他前記の公職に在り家族は尙弟行作(明三六、三三、法大經濟部出身、ジャパンマガジン社長)あり妹キク(同三三、三三)は栃木縣人星井田榮造長男に嫁せり(東京市芝區白金三光町五、六電高輪七五〇一)

中塚 善助 京都府在籍
 母 千代 明一〇、二生、京都、佐々木胸治妻
 妻 キマ子 明四〇、七生、京都、山形萬作二女
 君は京都府人先代善助の長男にして明治三十三年三月十二日を以て生れ大正十三年家督を相続し前名善太郎を改め現名善助を稱す。家族は尙長女久子(大、一五、九生)ありA五六四B二二(京都市中區區室町通姉小路上ル電本局三六六四)

中塚 彌平 日本木管器製造者
 兵庫縣在籍
 妻 彌子 慶應元、五生、兵庫、藤田源平叔母
 母 ひさ 明一七、四生、兵庫、黒坂寅次郎二女
 男 壯太郎 明三六、四生、早大出身
 加代子 明四一、九生、兵庫、大谷要藏長女
 富美子 明四三、五生、相愛高女出身
 正之助 明四五、二生、早大在學
 晴子 大二、一〇生、尼崎高女在學
 とみ 大五、一〇生、尼崎高女在學
 君は兵庫縣人先代彌平の長男にして明治十三年二月を以て生れ大正四年家督を相続し前名正太郎を改め現名

中司 文次郎 今里土地事務取扱役、沼津毛織
 妻 拾 明一、一〇生、沼津、三井信託會社員、文學士
 男 文夫 明三四、二生、三井信託會社員、文學士
 女 由江 明四一、一〇生、長男文夫妻、工學博士、本津浦丸二女、東京女大附屬高女出身
 君は高知縣人中司勘作の二男にして明治二年十一月を以て生れ大正三年兄愛治郎方より分れて一家を創立す。明治二十六年法政大學を卒業し日本銀行に入り後金澤市加州銀行事務取扱役に轉じ加賀製紙金澤新製紙倉庫上毛キスリン日本製粉山陽電氣道各會社重役たりしが現時前記會社の重役に擧げらる。家族は尙孫奈津子(昭三、七生、長男文夫妻)同和雄(同五、六生、同長男)ありA三二九(東京市淀橋區百人町三ノ二八五電四谷三二七二「假宅」大阪府中河内郡小坂町松の岡二〇號電小坂三二三)

中辻 喜策 盛道商行取扱役
 富山縣在籍
 妻 喜子 嘉永六、九生、先代喜平長女
 母 つたの 明四一、一〇生、富山、坂本治一郎姉
 男 正清 大、一〇生、富山、坂本治一郎弟
 君は富山縣人中辻喜一郎の長男にして現戸主喜次郎の男なり。明治十年五月を以て生れ現時前記會社の重役たり。家族は尙四男第四郎(大、七、三三)五男重五(同八、五、五)六男大介(同九、七、七)長女喜和子(同二〇、一〇、一〇)ありA一三七七(大阪府天王寺區區田院町三三電天王寺)

中辻 房吉 草履原料商
 大阪府在籍
 妻 房之助 明二〇、五生、奈良、伊藤作馬二女
 母 きくの 明三六、一〇生、兵庫、實角松太郎四女
 男 房之助 昭四、八生
 君は大阪府人中尾藤太郎の弟にして明治二十九年五月

寺八二
 中辻 貴十郎 大阪府在籍
 母 ウノ 明六、三三、大阪、中辻友七二女
 妻 イワ 明二五、六生、大阪、中辻喜兵衛二女
 男 卯一 昭二、四生
 君は大阪府人先代貴三の長男にして明治二十五年九月五日を以て生れ同三十八年家督を相続す。家主たり。家族は尙叔父平三(明二〇、一〇生)同妻ハルエ(同二四、五、五、大阪、小寺宇之助長女)と其一女あり姉ムメ(同二、三、四、一〇生)同妻イト(同二四、五、五、大阪、中井喜兵衛二女)は其一子を伴ひ分家せりA三八一(大阪府北區天神橋筋五ノ一三)

中辻 源太郎 滋賀縣多額納税者、八幡製糖場
 代表取締役、長濱貯金銀行、日本ビロード各取扱役、生絲商
 滋賀縣在籍
 妻 ふみ 明二四、一〇生、滋賀、塚本貞次
 母 千代 明四五、七生、京都高女出身
 女 幹 大、四、九生、京都高女在學
 女 愛 大、七、四生、京都高女在學
 君は滋賀縣人先代源太郎の長男にして明治二十年十月を以て生れ大正六年家督を相続し前名太郎を改め現名源太郎を稱す。前記銀行會社の重役に直接國稅千九百四圓を納め滋賀縣多額納税者たり。家族は尙五女和子(昭四、一〇生)あり姉よし(明二五、三三)は滋賀縣人中辻太郎次と同(同四〇、一〇生)は同縣人塚本武二郎に嫁せり(滋賀縣坂田郡六莊村)

中西 嘉三郎 土木建築材料販賣業
 大阪府在籍
 妻 たき 明一四、三三、滋賀、野玉吉次郎妹
 君は大阪府人先代嘉七の長男にして明治八年一月二十八日を以て生れ大正七年家督を相続す。京都美術工藝學校を卒業し日本アスベスト中外石油アスファルト賣田石油の各社を経て獨立し土木建築材料販賣業を營む。書齋漢詩俳句に興味を有す。家族は尙妻キク(同四一、九、九生、京都、佐々木清之助三女、千代田高女出身)は唐員森口喜三郎に嫁せりA二八二〇B六四六(東京市牛込區市谷長延寺町六電牛込三三八一七)

中西 龜太郎 正四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學醫學教授、静岡縣在籍
 妻 のぶ 明四四、四生
 君は静岡縣人和田彦平の三男にして明治元年十一月を以て生れ先代謙蔵の養子となり同十四年家督を相続す。同二十四年帝國大學醫學部を卒業し更に大學院に學び同大學助手となる。同三十五年醫學博士の學位を授け帝國大學教授に任じ同三十五年醫學博士の學位を授ける。同大學府屬醫院院長たりしことあり現時同大學名譽教授たり。長女雪(明三六、六、六生)は兵庫縣人上西克巳に二女時(同三八、七、七生)は東京府人鈴木慈太郎弟百二に三女靜(同四〇、一〇生)は同府人林武久に嫁せりA三八五(京都市上京區中立賣町西入電西陣二五二)

中戸 幸七 金物商
 兵庫縣在籍
 妻 静 文久元、四生、兵庫、宮本源平二女
 母 幸雄 大、三、一〇生
 君は兵庫縣人中戸熊五郎の長男にして明治二十年七月十六日を以て生れ大正元年家督を相続す。金物商を營む。家族は尙二男幸治郎(大、一、一〇生)二女美代子(同二、二、二〇生)三女久子(昭五、九、九生)ありA四九〇(神戸市葺合區小野柄通四ノ一六八電葺合一七六九)

中土居 權太郎 山口縣多額納税者
 山口縣在籍
 妻 モト 安政五、五生、山口、長沼市右衛門二女
 母 ヒデコ 明二五、一〇生、山口、冷泉クニ子妹
 女 藤子 大、三、六生
 女 藤子 大、六、一〇生
 君は山口縣人中土居安右衛門の二男にして明治二十二年九月を以て生れ大正八年家督を相続す。農商にして直接國稅三千二百六十一圓を納め縣下の多額納税者たり。家族は尙三女安子(大、一、二〇生)あり(下關市上田中町電一六〇一)

中西 伊之助 鳥伊、鶏肉商
 奈良縣在籍
 妻 コマツ 明一三、一〇生、亡養父久藏長女
 男 久次郎 明三三、三三
 男 伊三郎 明三四、一二生
 女 幸治郎 明三八、八生
 女 幸治郎 明四〇、一〇生
 女 ヒヤエ 明四三、一〇生
 君は大阪府人奥田巳之助の二男にして明治八年十一月二十一日を以て生れ先代久藏の養子となり昭和三年家

中西 逸平 神奈川縣多額納税者、地主
 神奈川縣在籍
 妻 重造 慶應二、九生、現戸主
 母 フク 明元、九生、神奈川、持丸秀則二女
 妻 トミ 明三三、一〇生、神奈川、小川道之助長女
 男 健次郎 昭三、二生
 君は神奈川縣人中西重造の長男にして明治二十八年五月を以て生れ地主にして神奈川縣多額納税者に列し直接國稅二千四百六圓を納む。中西醫學會社監査役たり。家族は尙長女美智(大、一、一〇生)二女(同二、四、七、七)あり姉シツ(明二三、一〇生)を伴ひ弟達郎(同三三、三三)同妻(同三八、一〇生)叔父泰助(同七、三、三、三)同妻(同三八、一〇生)一〇生、神奈川、持丸資松二女)は其子女を伴ひ各分家し伯母ミヨ(文久元一二生)も亦其子女を伴ひ分家し妹セイ(明三四、一〇生)は神奈川縣人白石鐵五郎長男重吉に叔母コウ(同九、一〇生)は同縣人白石鐵五郎に嫁せり(横濱市鶴見區鶴見町七二)

中西 龜太郎 滋賀縣多額納税者、八幡製糖場
 代表取締役、長濱貯金銀行、日本ビロード各取扱役、生絲商
 滋賀縣在籍
 妻 ふみ 明二四、一〇生、滋賀、塚本貞次
 母 千代 明四五、七生、京都高女出身
 女 幹 大、四、九生、京都高女在學
 女 愛 大、七、四生、京都高女在學
 君は滋賀縣人先代源太郎の長男にして明治二十年十月を以て生れ大正六年家督を相続し前名太郎を改め現名源太郎を稱す。前記銀行會社の重役に直接國稅千九百四圓を納め滋賀縣多額納税者たり。家族は尙五女和子(昭四、一〇生)あり姉よし(明二五、三三)は滋賀縣人中辻太郎次と同(同四〇、一〇生)は同縣人塚本武二郎に嫁せり(滋賀縣坂田郡六莊村)

中西 龜太郎 正四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學醫學教授、静岡縣在籍
 妻 のぶ 明四四、四生
 君は静岡縣人和田彦平の三男にして明治元年十一月を以て生れ先代謙蔵の養子となり同十四年家督を相続す。同二十四年帝國大學醫學部を卒業し更に大學院に學び同大學助手となる。同三十五年醫學博士の學位を授け帝國大學教授に任じ同三十五年醫學博士の學位を授ける。同大學府屬醫院院長たりしことあり現時同大學名譽教授たり。長女雪(明三六、六、六生)は兵庫縣人上西克巳に二女時(同三八、七、七生)は東京府人鈴木慈太郎弟百二に三女靜(同四〇、一〇生)は同府人林武久に嫁せりA三八五(京都市上京區中立賣町西入電西陣二五二)

前記會社の重役たり、義に歐米各國を視察せり、家族は尙長女みね子(大一一、一)二女美佐子(同一五、一一一)生(あり弟益治郎(明二八、一)生、工學士)同妻政江(同三四、一)生、兵庫、八馬兼介(妹)は其子女を伴ひ分家し弟益三(同三〇、八)生、同妻綾子(三池貞一郎長女)は其子女を伴ひ絶家、中江氏を再興し妹シヨウ(同三三、八)生は東京府人吉井友二男友武に嫁せり(四宮市泉町一六電三四三)

參照 中原益治郎、八馬兼介、服部玄三、※牛塚虎太郎、大澤徳太郎、河田源三、清水賢一郎、澤川清一、※仁井田益太郎、八馬安二、※早瀬太郎、三郎、※松山隆郎の項

中原省三

旭硝子工務部長 東京府在籍 妻 夏江 明三二、八生、東京、諸岡甲松妹 男 正木 大五一、六生

君は長野縣人中原善作の長男にして明治二十八年十一月を以て生れ、熊本縣人中原萬助の養子となり、大正八年家督を相続す、同二年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し、現時旭硝子工務部長たり、家族は尙長女蝶子(大一一、一)生、二女鈴(同一三、四)生、三女ユキナ(昭四、三)生(あり(東京市小石川區久世山))

參照 佐藤利市、※柳澤健太郎の項

中原壽一郎

從五位、鐵道技師、鐵道大臣官房 研究所勤務、長野縣在籍 妻 慶應二、八生、長野、寺澤宗三郎妹 妻 まつ江 明三一、七生、長野、松田治一郎 男 暢 大二三、四生

君は長野縣人中原善作の長男にして明治二十八年十一月十七日を以て生れ、昭和七年家督を相続す、大正十年九州帝國大學工學部土木工學科を卒業し、直に鐵道省雇となり、同年鐵道技師に進み、同十二年鐵道技師に任ぜられ、支那へ出張を命ぜられ、膠濟鐵路を調査す、昭和四年鐵道業務研究の爲め歐米各國へ出張を命ぜられ、同五年西班牙國マドリッドに於て開催せられたる萬國鐵道會議に出席す、同年白國リエージュ市に開催せられたる國際橋造及橋梁會議に出席す、現時大臣官房研究第四課に勤

務し、尙ら東京改良事務所に勤務す、家族は尙二男達夫(大一一、九)生、長女和子(昭二、一〇)生、の外妹澄子(明四四、五)生、實踐女學校專門部出身(あり弟好郎(同三六、六)生、東京朝日新聞社勤務、經濟學士)は長野縣人畑茂の養子となり(東京市品川區大井出石町五〇六九)

中原津

從四位勳四等、日本製鐵理事、八幡製鐵所運輸部長、山口縣土族 妻 岩三郎 明元、一一生、現戶主 妻 ハルコ 明二五、五生、養父岩三郎長女 男 敏忠 大六、四生、小倉西南女學院在學 女 千代子 大六、四生、小倉西南女學院在學

君は山口縣人谷恭介の二男にして明治二十一年三月を以て生れ、大正二年中原岩三郎の養子となる、明治四十四年京都帝國大學理工科大學機械科を卒業し、兵隊を了へ、大正二年芝浦製作所に入り、同五年製鐵所技師に轉じ、米國に出張す、歸朝後監査課長を経て、總務部運輸課長となり、昭和九年日本製鐵會社創立せらるゝ、其の理事に就任し、現時八幡製鐵所運輸部長たり、家族は尙二男岩雄(大八、五)生、二女美津子(同一〇、一)生、三男芳三(同一四、一)生、四男四郎(昭三、七)生、三女勝子(同六、一)生(あり(八幡市高見町六丁目日本製鐵會社宅))

參照 中原岩三郎の項

中原勝次郎

埼玉縣在籍 妻 まさ 明二三、五生、埼玉、大和元之助 妻 剛 明四三、二生 女 利子 大二、六生

君は埼玉縣人中原金三郎の長男にして明治十八年十二月十五日を以て生れ、昭和三年家督を相続す、地主たり、家族は尙二男和夫(大八、一)生、三男貞治(昭三、五)生、あり四女壽子(大一一、三)生、四女は埼玉縣人神田親太郎の養子となり(一三九九(東京市本郷區弓町一ノ二二)電小石川二七七二)

中原東吉

辯護士 東京府在籍 妻 きく 明一四、一〇生、長野、林隆平妹

參照 中原繁之助、八島兼介の項

中原望繁

川崎第百銀行西陣支店長 鳥取縣在籍 妻 文枝 明三一、九生、櫻井富三郎長女 男 敬二 大七、五生

君は鳥取縣人中原傳三郎の三男にして明治十九年七月二十六日を以て生れ、大正十年兄喜藏方より分れて一家を創立す、現時川崎第百銀行西陣支店長たり、家族は尙三男俊光(大一一、〇)生、七女あり(京都市上京區平野上柳町二一電西陣一四四九)

中原元助

大阪府在籍 妻 きく 明七、一二生、大阪、山本虎之助妹 妻 セツ 明一八、一〇生、大阪、原源右衛門妹

君は大阪府人先代元助の長男にして明治十三年五月を以て生れ、大正六年家督を相続し、前名作太郎を改め、幾名十、筆筒商たり、茶道に趣味を有す、家族は尙五男五郎(大七、一)生、孫良造(昭七、四)生、長男謙三(長男)あり(大八、九)生(大阪市東區南本町四ノ五九電船場一六八四) 參照 野田久左衛門、山本虎之助の項

中原隆三郎

日本足袋、ブリツチストライター 各縣取締役、福岡縣在籍 妻 マス 明九、一一生、福岡、中原伊右衛門長女 男 正隆 明三七、一一生

君は福岡縣人三根久吉の二男にして明治十一年二月二日を以て生れ、同三十四年鹿兒島縣中原家に入り、家督を相続し、後前名龜太郎を改む、現時日本足袋會社取締役に任ぜられ、前記會社の重役たり、家族は尙三男啓大(大五、三)生、四男正二(同七、五)生、三女淳子(同一、一)生(あり)

男 治夫 大一一、〇、三三 女 幸代 明四五、七生 君は長野縣人中原六郎の三男にして明治十二年十一月三十日を以て生れ、同二十九年家督を相続す、辯護士たり、長女澄江(明四一、二)生、は岡山縣人高見顯治に嫁せり(三三三二(東京市中野區宮里一二電中野三三四〇) 參照 五十嵐甚藏、今井フユの項

中原藤藏

新潟縣多額納稅者、農業 新潟縣在籍 妻 ムツ 明二〇、六生、養父藤藏長女 男 彦之丞 明四〇、四生 男 友之丞 明四一、九生 男 友之丞 大一一、二生

君は貴族院議員五十嵐甚藏の弟にして明治十六年三月を以て生れ、先代藤藏の養子となり、大正七年家督を相続し、前名武彦を改め、幾名す、農業を専ら、新潟縣多額納稅者にして、直接國稅三千八百八十六圓を納む、長女ヒサエ(明四三、八)生、は新潟縣人日野元吉に二女ミヨエ(同四五、一)生、は同縣人鷲尾英一に養妹シゲ(同二二、七)生、は同縣人富山風藏に同カワ(同二三、一)生、(一)生、は同縣人近藤賢之助長男治義に同マ(同三三、一)生、(二)生、は同縣人高橋友二郎に嫁し、養弟武雄(同三三、一)生、養叔父正三郎長男(あり(四宮市大井町九電二〇九一)) 參照 西浦原部赤塚村

中原益治郎

正六位、大阪帝國大學助教授、工學部勤務、大阪府在籍 妻 政江 明三四、一一生、兵庫、八馬兼介妹 男 正人 昭八、一〇生

君は大阪府人中原庄兵衛の二男にして明治二十八年一月を以て生れ、後兄繁之助方より分れて一家を創立す、大正十年東京帝國大學工學部機械工學科を卒業し、同十二年横濱高等工業學校教授となり、昭和二年東京帝國大學工學部講師、同四年大阪帝國大學助教授を歴任し、同八年大阪工業大學の大阪帝國大學工學部となるや、引續き助教授の任にあり、音楽ヲニス、園藝等を趣味とす、家族は尙長女信子(大一一、四)生、二女成子(昭二、九)生、三女治子(同五、三)生(あり(四宮市大井町九電二〇九一))

參照 中部幾次郎の項

中部謙吉

大東食品、新高漁業、山陽ビルデイング各縣取締役、林兼造工務部長、山口縣在籍 妻 慶子 明三四、一一生、山口、木梨辰次郎二女、七生

君は兵庫縣人中部幾次郎の二男にして同悦良の養弟利三郎の兄なり、明治二十九年三月二十五日を以て生れ、大正十三年分れて一家を創立す、現時方魚津鐵工造船會社代表取締役に任ぜられ、前記會社の重役たり、家族は尙長女なつ子(大一一、〇)生、一男謙次郎(同一五、八)生、二女かね子(昭三、一〇)生、三女末代(同一五、一)生(あり(下關市丸山町電三〇一〇)) 參照 中部幾次郎、中部悦良、中部利三郎の項

中部利三郎

兵庫縣在籍 妻 光子 明四〇、四生、衆議院議員藤田若水四女

君は兵庫縣人中部幾次郎の三男にして同謙吉の弟同悦良の養弟なり、明治三十四年三月十一日を以て生れ、大正十三年分れて一家を創立す、現時前記會社の重役たり、幾名に土佐捕鯨會社の重役たりしことあり、家族は尙長女とみ子(昭四、一)生(あり(明石市東區魚町五七)) 參照 中部幾次郎、中部悦良、中部謙吉、藤田若水の項

中間高州

第一銀行、熊本支店長 大分縣在籍 妻 ゆき 明二九、一一生、愛知、菊地融長女 男 高幸 大一一、四生

君は大分縣人中間壽三郎の長男にして明治二十二年三月二十日を以て生れ、昭和五年家督を相続す、大正四年東京帝國大學法科大學調法科を卒業し、現時第一銀行熊本支店長たり、家族は尙二女すみ(大九、二)生、二男高俊(同一三、七)生、四女ふき(昭八、一)生、弟正巳(明三二、一)生、同妻千梅(同三五、三)生、大分、宮永平太郎

中前房之助 家主
 君は和歌山縣人中前金右衛門の三男にして明治十一年六月十六日を以て生れ兄弟之助方より分れて一家を創立す家主たり家族は尙二女美恵(大九、二生)ありA五二一(神戸市神戸區下山手通二ノ二五電番合六一〇九)

中松龜太郎 日本生命保險株式會社取締役兼營業部長、東京府在籍
 君は兵庫縣人中松與三郎の長男にして明治十四年三月十五日を以て生れ同四十五年弟純一方より分れて一家を創立す同三十九年東京帝國大學法科大學法科を卒業し大正十三年日本生命保險株式會社に入り現時常務取締役兼營業部長の位置にあり義に同社大阪支店長たりし事あり家族は尙二男(大九、二生)ありA九七二(兵庫縣武庫郡元村仁川電番一三六)

中松眞郷 正四位勳三等、特許局長官
 君は和歌山縣土族中松武之助の二男にして明治十六年十月二十七日を以て生れ同十九年家督を相続す同四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業文官高等試験に合格す爾來特許局長官兼外務書記官農商務書記官

中丸一平 南滿鐵株式會社取締役
 君は和歌山縣土族祖父先代克正の二男にして慶應元年十月を以て生れる辨護士にして現時日本共立火災保險株式會社取締役を兼ね傍ら帝國飛行協會理事たり家族は尙孫正雄(昭五、一、生)、長男壽三郎(昭三、二、男)節二(昭三、〇、一、生)は和歌山縣人三男壯太郎の養子となり長女萬子(昭四、二、生)は東京地方裁判所判事村松俊夫に嫁し叔母ヒデ(昭元、一、生)は分家せりA二二七(東京市大森區新井宿四ノ一三〇九電番合二二〇)

中松盛雄 日本共立火災保險株式會社、帝國飛行協會理事、辯護士、辦理士
 君は和歌山縣土族祖父先代克正の二男にして慶應元年十月を以て生れる辨護士にして現時日本共立火災保險株式會社取締役を兼ね傍ら帝國飛行協會理事たり家族は尙孫正雄(昭五、一、生)、長男壽三郎(昭三、二、男)節二(昭三、〇、一、生)は和歌山縣人三男壯太郎の養子となり長女萬子(昭四、二、生)は東京地方裁判所判事村松俊夫に嫁し叔母ヒデ(昭元、一、生)は分家せりA二二七(東京市大森區新井宿四ノ一三〇九電番合二二〇)

中御門經民 從四位勳六等、男爵、衆議院書記官、秘書長兼委員課長
 當家は先代經隆の立つる所なり經隆は故從一位勳一等中御門經之の三男にして明治十三年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列せられ同十七年男爵を授けらるるに英國に留學し歸朝後海軍中尉に任じ同大尉に陞り日清戰役には吳鎮守府海軍分隊長たり後商船學校大阪分校校長衆議院議員等に擧げらるる君は其三男にして同二十六年五月を以て生れ大正五年父經隆を相続し衆議院書記官に任じ現に秘書課長委員課長たり家族は尙長女祥子(昭四、一、生)あり兄弟經三(昭二、一、生)は中御門萬千子の隠居跡を相続し侯爵家當主なり妹澄子(昭一、一、生)は子爵内田正明先代正吉に同佐保子(昭二、一、生)は青森縣人片谷傳造に嫁せり(東京市渋谷區原宿二ノ一七〇二電番合四一〇〇)

中御門經恭 正三位勳三等、侯爵、貴族院議員
 君は和歌山縣土族祖父先代克正の二男にして慶應元年十月を以て生れる辨護士にして現時日本共立火災保險株式會社取締役を兼ね傍ら帝國飛行協會理事たり家族は尙孫正雄(昭五、一、生)、長男壽三郎(昭三、二、男)節二(昭三、〇、一、生)は和歌山縣人三男壯太郎の養子となり長女萬子(昭四、二、生)は東京地方裁判所判事村松俊夫に嫁し叔母ヒデ(昭元、一、生)は分家せりA二二七(東京市大森區新井宿四ノ一三〇九電番合二二〇)

中道卯之助 録井村長、加島屋、中國醬油各務取締役、廣島縣在籍
 君は廣島縣人中道清太郎の二男にして明治元年八月を以て生れ同二十七年兄十兵衛方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして明治三十一年縣會議員に當選し更に郡制發布以來同制度に到る迄常に郡會議議長たり今尙録井村長たる傍ら廣島縣酒造組合全會議長たり中央會副會長たり昭和五年十一月地方自治功勞者として拜謁被仰付家族は尙孫英吉(大九、七、生)、養子幹長男(廣島縣安佐郡録井村電番古市三三三)

中宮茂吉 石川縣多額納稅者、金澤商工會議所常議員、加賀製紙株式會社取締役、兼子爵、石川縣在籍
 君は石川縣人中宮茂吉郎の長男にして明治十年五月を以て生れ先代イヨの養子となり同二十七年家督を相続し前名久太郎を改む菓子商森八名會社を主宰し傍ら前記會社の重役にして直接間接八百二圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて金澤商工會議所常議員たり趣味として書畫骨董を好む家族は尙孫久雄(大九、一、生)、長男茂一(昭三、七、生)、同三男(昭三、七、生)同四男(昭三、九、生)は石川縣人中宮茂平の養子となり長女初榮(昭三、六、一、生)は同縣人永井伊之吉に二女房子(昭三、九、九、生)は同縣人永井伊之吉に三女好子(昭四、四、七、生)は同縣人船岡正男に嫁せり(金澤市下新町)

中溝三郎 正五位、男爵、帝國製糖會社社員、東京府華族
 當家は先代徳太郎より家名を揚ぐ徳太郎は舊佐賀藩士にして明治十四年海軍少尉に任じ後海軍中將に果進す其間愛宕艦長舞鶴水雷團長舞鶴各鎮守府參謀長海軍省軍務局長海軍省會議各員等に歴補す日清の役には秋津洲副長として出征し功四級を賜ひ日露の役には吳鎮守府參謀長として功あり功三級に叙し同四十年華族に列し男爵を授けられ後貴族院議員に擧げらるる君は其弟後備陸軍歩兵大佐中溝武三郎の三男にして明治四十年四月二十五日を以て生れ大正十年先代徳太郎の養子となり同十二年家督を相続し男爵位に叙せり(昭和八年京

中松眞郷 正四位勳三等、特許局長官
 君は和歌山縣土族中松武之助の二男にして明治十六年十月二十七日を以て生れ同十九年家督を相続す同四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業文官高等試験に合格す爾來特許局長官兼外務書記官農商務書記官

中丸一平 南滿鐵株式會社取締役
 君は和歌山縣土族祖父先代克正の二男にして慶應元年十月を以て生れる辨護士にして現時日本共立火災保險株式會社取締役を兼ね傍ら帝國飛行協會理事たり家族は尙孫正雄(昭五、一、生)、長男壽三郎(昭三、二、男)節二(昭三、〇、一、生)は和歌山縣人三男壯太郎の養子となり長女萬子(昭四、二、生)は東京地方裁判所判事村松俊夫に嫁し叔母ヒデ(昭元、一、生)は分家せりA二二七(東京市大森區新井宿四ノ一三〇九電番合二二〇)

中松盛雄 日本共立火災保險株式會社、帝國飛行協會理事、辯護士、辦理士
 君は和歌山縣土族祖父先代克正の二男にして慶應元年十月を以て生れる辨護士にして現時日本共立火災保險株式會社取締役を兼ね傍ら帝國飛行協會理事たり家族は尙孫正雄(昭五、一、生)、長男壽三郎(昭三、二、男)節二(昭三、〇、一、生)は和歌山縣人三男壯太郎の養子となり長女萬子(昭四、二、生)は東京地方裁判所判事村松俊夫に嫁し叔母ヒデ(昭元、一、生)は分家せりA二二七(東京市大森區新井宿四ノ一三〇九電番合二二〇)

中御門經民 從四位勳六等、男爵、衆議院書記官、秘書長兼委員課長
 當家は先代經隆の立つる所なり經隆は故從一位勳一等中御門經之の三男にして明治十三年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列せられ同十七年男爵を授けらるるに英國に留學し歸朝後海軍中尉に任じ同大尉に陞り日清戰役には吳鎮守府海軍分隊長たり後商船學校大阪分校校長衆議院議員等に擧げらるる君は其三男にして同二十六年五月を以て生れ大正五年父經隆を相続し衆議院書記官に任じ現に秘書課長委員課長たり家族は尙長女祥子(昭四、一、生)あり兄弟經三(昭二、一、生)は中御門萬千子の隠居跡を相続し侯爵家當主なり妹澄子(昭一、一、生)は子爵内田正明先代正吉に同佐保子(昭二、一、生)は青森縣人片谷傳造に嫁せり(東京市渋谷區原宿二ノ一七〇二電番合四一〇〇)

中御門經恭 正三位勳三等、侯爵、貴族院議員
 君は和歌山縣土族祖父先代克正の二男にして慶應元年十月を以て生れる辨護士にして現時日本共立火災保險株式會社取締役を兼ね傍ら帝國飛行協會理事たり家族は尙孫正雄(昭五、一、生)、長男壽三郎(昭三、二、男)節二(昭三、〇、一、生)は和歌山縣人三男壯太郎の養子となり長女萬子(昭四、二、生)は東京地方裁判所判事村松俊夫に嫁し叔母ヒデ(昭元、一、生)は分家せりA二二七(東京市大森區新井宿四ノ一三〇九電番合二二〇)

中道卯之助 録井村長、加島屋、中國醬油各務取締役、廣島縣在籍
 君は廣島縣人中道清太郎の二男にして明治元年八月を以て生れ同二十七年兄十兵衛方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして明治三十一年縣會議員に當選し更に郡制發布以來同制度に到る迄常に郡會議議長たり今尙録井村長たる傍ら廣島縣酒造組合全會議長たり中央會副會長たり昭和五年十一月地方自治功勞者として拜謁被仰付家族は尙孫英吉(大九、七、生)、養子幹長男(廣島縣安佐郡録井村電番古市三三三)

中宮茂吉 石川縣多額納稅者、金澤商工會議所常議員、加賀製紙株式會社取締役、兼子爵、石川縣在籍
 君は石川縣人中宮茂吉郎の長男にして明治十年五月を以て生れ先代イヨの養子となり同二十七年家督を相続し前名久太郎を改む菓子商森八名會社を主宰し傍ら前記會社の重役にして直接間接八百二圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて金澤商工會議所常議員たり趣味として書畫骨董を好む家族は尙孫久雄(大九、一、生)、長男茂一(昭三、七、生)、同三男(昭三、七、生)同四男(昭三、九、生)は石川縣人中宮茂平の養子となり長女初榮(昭三、六、一、生)は同縣人永井伊之吉に二女房子(昭三、九、九、生)は同縣人永井伊之吉に三女好子(昭四、四、七、生)は同縣人船岡正男に嫁せり(金澤市下新町)

中溝三郎 正五位、男爵、帝國製糖會社社員、東京府華族
 當家は先代徳太郎より家名を揚ぐ徳太郎は舊佐賀藩士にして明治十四年海軍少尉に任じ後海軍中將に果進す其間愛宕艦長舞鶴水雷團長舞鶴各鎮守府參謀長海軍省軍務局長海軍省會議各員等に歴補す日清の役には秋津洲副長として出征し功四級を賜ひ日露の役には吳鎮守府參謀長として功あり功三級に叙し同四十年華族に列し男爵を授けられ後貴族院議員に擧げらるる君は其弟後備陸軍歩兵大佐中溝武三郎の三男にして明治四十年四月二十五日を以て生れ大正十年先代徳太郎の養子となり同十二年家督を相続し男爵位に叙せり(昭和八年京

中牟田喜兵衛 福岡縣多額納稅者、岩田屋、呉服
 妻 喜代子 明三〇、六生、先代喜兵衛長女
 男 喜一郎 大四、九生
 君は佐賀縣人山下卯助の二男にして明治二十四年十月二十九日を以て生れ先代喜兵衛の養子となり大正十年家督を相続し前名製袋吉を改め製袋喜兵衛と稱し呉服商を営み傍ら丸木屋呉服店取締役にして縣下の多額納稅者に列す家族は尙二男岡次郎(大七、一生)三男榮藏(同九、一生)四男秀雄(同二、一生)長女喜和子(同四、七生)二女美紀子(同三、一生)ありA八二二B九六二(福岡市麴屋町三〇)一電四〇七〇

中牟田久兵衛 福岡縣多額納稅者、岩田屋、織物
 妻 トキ 明一、六生、養父久兵衛長女
 男 喜久雄 明三、八、一生
 女 光枝 明三、五、六生
 女 壽子 明四、三、二生
 女 久子 大五、六生
 女 澄子 大五、六生
 君は福岡縣人藤田卯七の長男にして明治五年一月十一日を以て生れ先代久兵衛の養子となり同三十四年家督を相続し製袋喜兵衛と稱し織物業を営み同縣多額納稅者に列し直接國稅三千二百十圓を納む家族は尙五女香代子(大一一、八生)あり(福岡市麴屋町一三二七五)

中牟田武信 從五位、子爵
 母 幸子 女子學習院出身
 當家は先々代倉之助より顯る倉之助は龍造寺隆信の臣中牟田六郎兵衛の後にして歴世佐賀藩士たり夙に海軍の事を傳習し戊辰の役海軍先鋒として奥羽兩府に轉戦して功あり明治二年海軍中佐に任じ累進して同十一年中將に陞り兵學頭横須賀造船所長海軍大輔等に厚補し同十七年華族に列し子爵を授けらる後横須賀吳各鎮守府司令官海軍大學校長海軍軍令部長に歴補し樞密顧問官に任ぜらる先代武正は其長男にして又海軍に入り少佐に累進し第五十七號水雷艦長として日露の役に從

中牟田藤兵衛 博多商工會議所議員、岩田屋、呉服
 店、呉服商 福岡縣在籍
 妻 ユキ 慶應三、一生、福岡、岩崎平兵衛長女
 男 藤一郎 明三、八、一生
 男 藤二郎 明三、八、一生
 君は福岡縣人先代藤兵衛の長男にして明治十四年十二月二十九日を以て生れ昭和二年家督を相続し前名繁三郎を改め製袋喜兵衛と稱し呉服商を営み推されて博多商工會議所議員たりA四六三B一二六(福岡市大工町一二電一七〇〇)

中牟田辰六 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第二十七旅團長、佐賀縣在籍
 妻 ハル 明四、九生、熊本醫大在學
 君は佐賀縣人中牟田秀周の四男にして明治十五年九月五日を以て生れ同三十六年陸軍士官學校を卒業し同歩兵少尉に任じ昭和八年陸軍少將に累進す其間第十二師團近衛師團第二師團の諸隊に勤務し後鎮西警備隊司令官歩兵第二十四聯隊長等に歴補し現時歩兵第二十七旅團長たり家族は尙二男三女あり(宇都宮市堀田町電四一一)

中牟田伊太郎 青物商
 妻 武三郎 明三、八、九生
 女 トミ 明四、五、三生
 女 タツ 大五、一〇生
 女 アナ子 大五、一〇生
 君は京都府人中牟田三郎の長男にして明治六年十二月十九日を以て生れ大正十二年家督を相続す青物商を営む家族は尙妹イマ(明三、四)同妻キ(明三、三)同二生、三生、京都、中牟田久治郎(弟)同妻キ(明三、三)生、戸主伊太郎(女)は其一子を生れ分家し弟長三郎(同二、七、九生)も亦分家し三女千代は京都府人中牟田定治郎長男安雄に嫁せりA三八〇(京都市下京區八條四ツ探町二一電下四〇〇五)

中牟田郁次郎 日本味噌、小穴製作所各監査役
 妻 さだ 明一、七、八生、養父清藏長女
 男 清二郎 明三、八、三生
 男 清三郎 明四、〇、九生

中村 一造 勳七等、高雄魚市社長、臺灣倉庫取締役、廣島縣在籍
 妻 カツ 明二、二、一生、愛媛、土、山路勝之妹
 男 幸造 明三、四、一〇生
 男 久子 明三、九、一〇生、長男幸造妻、佐賀、谷口巖二女
 男 正次 明三、六、一〇生
 男 春子 明四、四、五生
 君は廣島縣土族中村鐵太郎の長男にして明治四年一月八日を以て生れ同四十二年家督を相続す夙に和佛法律學校に學び臺灣總督府同職道書記等を経て同四十年臺灣製糖會社に入り運輸部長となり大正三年布哇に出張し同七年同社を辭し臺灣倉庫會社に轉じ同社取締役

中村 岩吉 魚岩、料理業
 妻 ナミ 慶應三、七生、徳島、中野徳太郎妹
 男 進一 大七、一生
 女 せい子 大八、四生
 君は大坂府人先代岩吉の長男にして明治二十七年十月を以て生れ大正十年家督を相続し前名寅太郎を改め製名す魚岩と稱し料理業を営む家族は尙四男孝太郎(昭五、一生)五男健三(同六、四生)ありA六五三(大阪市北區堂島通一ノ六三電北六八〇)
 參照 中野徳太郎の項

中村 梅三 七十七銀行、仙臺平機業、仙臺不動産各取締役、仙臺鐵道、仙臺電氣鐵道、紅久、仙臺瓦斯、仙臺信託、昭和土地各監査役
 妻 トヨ 明一、五、七生、廣島、井上芳樹妹
 男 重夫 明三、三、六生、長女雪枝夫、茨城小針久太郎三男、從七位、東北帝國大學助教
 女 雪枝 明三、八、一生、養子重夫妻
 君は廣島縣人小穴平次郎の三男にして明治九年九月二十八日を以て生れ後兄松太郎方より分れて一家を創立す同三十九年東京帝國大學政治學科を卒業現時十七銀行取締役の外前記諸會社の重役に於て仙臺商工會議所常議員に推され東北板紙會社監査役たりし事あり家族は尙孫靜枝(大一一、四生、養子重夫長女)同正彦(同二、一〇生、同長男)同久枝(昭二、三、三、同二女)同三枝(同三、七生、同三女)あり二女春枝(明四一、二生)は宮城縣人清水武夫に嫁せり(仙臺市空堀町二五)

中村 英吉 森五商店常任監査役兼本部署理事
 妻 まつ 明一、七、一生、愛知、丸山恩長女
 男 壽代 明四、〇、七生、養子嵩妻
 女 壽子 明三、一、三、長女壽代夫、京都

中村 岩次郎 横濱生命保險會社支店火災部契約係長、京都府在籍
 妻 コウ 明二、六、六生、大阪、坂本治作長
 君は京都府人中村甚助の長男にして明治二十年十二月を以て生れ同四十四年家督を相続す大正三年京都帝國大學法科大學を卒業し現時横濱生命保險會社支店火災部契約係長たり同支店配人たりしことあり(横濱市磯子區磯子町五九八電長者町二二九)

中村 歌右衛門 東京俳優協會顧問、五代目成駒屋歌舞伎俳優、東京府在籍
 妻 藤 大六、六生、藝名、中村福助、六代目成駒屋、歌舞伎俳優
 男 藤 日成駒屋、歌舞伎俳優
 女 勤 明三、六、四生、東京、野馬英一妹
 君は東京府人土方政五郎の男にして慶應元年十二月を以て生れ幼にして名優四代目芝翫の養子となり明治三

中村 英吉 森五商店常任監査役兼本部署理事
 妻 まつ 明一、七、一生、愛知、丸山恩長女
 男 壽代 明四、〇、七生、養子嵩妻
 女 壽子 明三、一、三、長女壽代夫、京都

中村 英吉 森五商店常任監査役兼本部署理事
 妻 まつ 明一、七、一生、愛知、丸山恩長女
 男 壽代 明四、〇、七生、養子嵩妻
 女 壽子 明三、一、三、長女壽代夫、京都

中村榮一郎 資産家 兵庫縣在籍 母タカ 長女 安政五、八生、愛媛、佐田新太郎 妻 明二五、三生、兵庫、三木源次郎 男 清一郎 明四三、五生 女 千代子 大二、九生

君は兵庫縣人先代清治の長男にして明治十四年六月二十二日を以て生れ大正十二年家督を相続す資産家たり家族は尙二男徳二郎(大六、一生)二女秀子(同一二、六生)ありA三六三(神戸市須磨區衣掛町二ノ八)一電須磨一三九〇)

中村圓一郎

從六位勳四等、貴族院議員、靜岡商工會議所顧問、靜岡縣多額納税者、三十五銀行頭取、中村製茶中村製油、第二日本紅茶、大井川鐵道、藤相鐵道、昭和土地、各社社長、靜岡貯蓄銀行、三光紡績、日本製鋼所各社取締役、大井川電力、開業製業各社取締役、清水瓦斯株式會社、靜岡縣在籍 男 秀平 明三〇、七生、大阪高工出身 女 貞 明三三、三生、長男秀平妻、靜岡 男 圓三郎 明四一、一〇生、東京商大專門部出身 男 圓之助 明四四、五生、早大商學部在學

君は靜岡縣人先代圓藏の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治十六年家督を相続す夙に實業界に入り現時三十五銀行頭取大井川鐵道會社社長たる外前掲銀行諸會社の重役にして直接間接千二百九圓を納め縣下の多額納税者に列し大正七年貴族院議員に互選せられ昭和七年三度互選せられ研究會所所長たり兼て日本製鋼銀行地方顧問靜岡茶業會所會頭醬油組合長等に擧げられたる家族は尙孫良子(大九、九生、長男秀平長女)同邦子(同一、五生、同二女)同和子(同一三、三生、同三女)同武秀(同一五、九生、同長男)同昭子(昭三、七生、同四女)同幸子(同五、八生、同五女)同晴子(同七、二生、同四女)同幸子(同五、八生、同五女)同晴子(同七、二生、同四女)同幸子(同五、八生、同五女)同晴子(同七、二生、同四女)

中村應

正五位勳五等、税關事務官、神戸税關監督部長、滋賀縣在籍 父 源右衛門 安政二、一〇生、現戶主 母 美 けい 慶應二、九生、滋賀横田文平二女 妻 美 衣 明三四、四生、東京、藤井秀亮二女 男 敬 大一一、〇二生

中村嘉一郎

長崎縣多額納税者、長崎商工會議所常議員、金融業、長崎縣在籍 妻 重 嘉 明四三、七生 女 貞 子 明四五、三生 女 慶 子 明四四、二生

中村嘉吉郎

第一工業製藥會會長 京都府在籍 妻 捷 こま 明三七、九生、生母、本部みつ 子 嘉 子 明四〇、六生、生母、本部みつ 男 直 男 明二六、六生、慶應義塾出身 男 榮 榮 明三三、二生、長男直男妻、島根 男 俊 明三六、四生、慶大出身 男 俊 明四〇、六生、三男榮妻、東京、大野富雄四女

中村魁車

初代新駒屋、歌舞伎俳優 君は大阪府人にして明治八年十二月二十一日を以て生る本名榮太郎藝名を魁車と稱す同十三年中村馬治郎の門に入り中村成太郎と名乗り大阪浪花座に於て「小笠原騷動」の小平治作を勤め初舞臺を踏む同二十六年辨天座にて「忠臣蔵」の力彌と一文字屋の女房お才を勤め名代に昇格す一時四代目市川左團次の下に修業す大正三年一月浪花座に於て「虎か雨か」の大磯の虎を勤め成太郎を中村魁車と改名披露す當り役には「引窓」のお早「土壇」の若狭之助「布引」の實盛「鎌倉」の彌作「加賀見山」の尾上等ありA二〇二(大阪市西成區南神谷町二)

中村馨

正五位勳三等功五級、陸軍少將、第一師團司令部付、石川縣士族 妻 米 明二七、五生、石川、藤澤勲次四女 男 惇 郎 大六、一生 女 喜 子 大六、九生 女 都 江 大六、一生 女 都 江 大六、一生

中村角右衛門

九條市場總社長、家主 大阪府在籍 妻 敬 一 明二二、一〇生、大阪、脇田勝次郎二女 男 敬 一 明四五、二生、京大英文科在學 君は大阪府人先代角右衛門の二男にして明治八年七月一日を以て生れ大正五年家督を相続し前名藤吉を改め襲名す家主の傍ら九條市場社長たり二女芳子(明四〇、八生)は分家せりA三九四(大阪市港區九條通一ノ七六〇)

中村勝五郎

石川、石村商 東京府在籍 妻 大 三、一〇生、東京、近藤市郎治 女 六 女 六

中村勝麻呂

正四位勳三等、史料編纂官、立教大學教授、滋賀縣士族 妻 明 一、九生、故文學博士大槻文 女 大 六、八生 女 明 四、〇七生、三輪田高女出身 女 明 四、二生、御茶の水高女出身 女 大 八、八生

中村兼次郎

地主 東京府在籍 妻 政 子 明四〇、一〇生、東京、篠田林藏孫 男 忠 晴 昭四、二生 君は東京府人先代兼次郎の四男にして明治三十年八月

中村乙右衛門 地主 東京府在籍 妻 文 久元、六生、東京、堀江兼吉二女 妻 明 二、九生、東京、野口兼吉長女 妻 明 四、一〇生、長女ひさ子、東京 妻 加納由五郎四男 女 明 四、二、九生、養子鎮雄妻 女 明 四、二、九生、養子鎮雄妻 女 明 四、二、九生、養子鎮雄妻

君は東京府人先代清治の長男にして明治十四年六月二十二日を以て生れ大正十二年家督を相続す資産家たり家族は尙二男徳二郎(大六、一生)二女秀子(同一二、六生)ありA三六三(神戸市須磨區衣掛町二ノ八)一電須磨一三九〇)

中村圓一郎

從六位勳四等、貴族院議員、靜岡商工會議所顧問、靜岡縣多額納税者、三十五銀行頭取、中村製茶中村製油、第二日本紅茶、大井川鐵道、藤相鐵道、昭和土地、各社社長、靜岡貯蓄銀行、三光紡績、日本製鋼所各社取締役、大井川電力、開業製業各社取締役、清水瓦斯株式會社、靜岡縣在籍 男 秀平 明三〇、七生、大阪高工出身 女 貞 明三三、三生、長男秀平妻、靜岡 男 圓三郎 明四一、一〇生、東京商大專門部出身 男 圓之助 明四四、五生、早大商學部在學

中村應

正五位勳五等、税關事務官、神戸税關監督部長、滋賀縣在籍 父 源右衛門 安政二、一〇生、現戶主 母 美 けい 慶應二、九生、滋賀横田文平二女 妻 美 衣 明三四、四生、東京、藤井秀亮二女 男 敬 大一一、〇二生

中村嘉一郎

長崎縣多額納税者、長崎商工會議所常議員、金融業、長崎縣在籍 妻 重 嘉 明四三、七生 女 貞 子 明四五、三生 女 慶 子 明四四、二生

中村嘉吉郎

第一工業製藥會會長 京都府在籍 妻 捷 こま 明三七、九生、生母、本部みつ 子 嘉 子 明四〇、六生、生母、本部みつ 男 直 男 明二六、六生、慶應義塾出身 男 榮 榮 明三三、二生、長男直男妻、島根 男 俊 明三六、四生、慶大出身 男 俊 明四〇、六生、三男榮妻、東京、大野富雄四女

中村魁車

初代新駒屋、歌舞伎俳優 君は大阪府人にして明治八年十二月二十一日を以て生る本名榮太郎藝名を魁車と稱す同十三年中村馬治郎の門に入り中村成太郎と名乗り大阪浪花座に於て「小笠原騷動」の小平治作を勤め初舞臺を踏む同二十六年辨天座にて「忠臣蔵」の力彌と一文字屋の女房お才を勤め名代に昇格す一時四代目市川左團次の下に修業す大正三年一月浪花座に於て「虎か雨か」の大磯の虎を勤め成太郎を中村魁車と改名披露す當り役には「引窓」のお早「土壇」の若狭之助「布引」の實盛「鎌倉」の彌作「加賀見山」の尾上等ありA二〇二(大阪市西成區南神谷町二)

中村馨

正五位勳三等功五級、陸軍少將、第一師團司令部付、石川縣士族 妻 米 明二七、五生、石川、藤澤勲次四女 男 惇 郎 大六、一生 女 喜 子 大六、九生 女 都 江 大六、一生 女 都 江 大六、一生

中村角右衛門

九條市場總社長、家主 大阪府在籍 妻 敬 一 明二二、一〇生、大阪、脇田勝次郎二女 男 敬 一 明四五、二生、京大英文科在學 君は大阪府人先代角右衛門の二男にして明治八年七月一日を以て生れ大正五年家督を相続し前名藤吉を改め襲名す家主の傍ら九條市場社長たり二女芳子(明四〇、八生)は分家せりA三九四(大阪市港區九條通一ノ七六〇)

當家は先代雄次郎の創つる處なり雄次郎は舊和歌山藩士中村一貫の二男にして夙に佛國に留學し陸軍中尉に任じ累進して陸軍中將に陞る其間陸軍大學校教授參謀本部陸軍部第一課長砲兵第一方面提理陸軍省軍務局砲兵事務課長陸軍士官學校校長陸軍次官兼軍務局長等に任じ更に製鐵所長官實業院議員南滿洲鐵道會社總裁關東都督及宮内大臣樞密顧問官等に歴任す日清戰役の功に依り功四級に日露戰役の功に依り勳一等に授けらるは其二男にして明治二十一年十月十七日を以て生れ昭和二年家督を相続し編譯被仰付大正三年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し直に横濱正金銀行に入り同行カルカッタ支店副支店長カチ出張所副主任を経て現時ランゲン支店支店長たり家族は尙弟三(明三、明四、明五)鐵道事務官、經理局會計課勤務、正六位、四、二生、鐵道事務官、經理局會計課勤務、正六位、法學士、同健兒(同三六、一一生、理學士)同妻エイ子(同四一、一一生、東京、木下美太郎長女)及其一子あり姉妹(同一九、七生)は東京府人中川正左に嫁まり(同三〇、七生)は京都府人糸井勘助長男亡之の未亡人にして同妻(同三三、一一生)は香川縣人成瀬正恭二男正三に養姉とちよ(同九、三生、男爵原田熊雄再從姉)は三重縣人佐々木清磨に嫁せり(留守宅東京市赤坂區表町四ノ一電青山五九三〇) 參照||男爵阪谷芳郎の項

中村貫之助 中村養殖産産各代表社員 中村養殖産在籍
父 太郎吉 嘉永三、一一生
母 てい 文久元、五生、愛知、淺野治兵衛長女
妻 みね 門一七、四生、愛知、三輪惣右衛門妹
男 順三 明四四、八生
女 千代 大六、一一生

君は愛知縣人先代太郎吉の長男にして明治十三年十月を以て生れ昭和二年家督を相続す現時中村養殖産兩會社の代表社員たり家族は尙二男三(大九、五生)三男(同四一、一一生、東京、木下美太郎長女)及其一子あり姉妹(同一九、七生)は東京府人中川正左に嫁まり(同三〇、七生)は京都府人糸井勘助長男亡之の未亡人にして同妻(同三三、一一生)は香川縣人成瀬正恭二男正三に養姉とちよ(同九、三生、男爵原田熊雄再從姉)は三重縣人佐々木清磨に嫁せり(留守宅東京市赤坂區表町四ノ一電青山五九三〇) 參照||男爵阪谷芳郎の項

延三(同三三、九生)四男三(同二五、一〇生)ありA三四五四(名古屋市中區龜崎町二ノ九電中六六)

中村鷹治郎 初代成駒屋、歌舞伎俳優 (林 玉太郎)
妻 キク 慶應三、六生、大阪、岡村儀助養子
男 長三郎 明四〇、六生
女 村三郎 明四〇、六生

君は大阪府人中村觀在の長男にして萬延元年三月を以て生れ後家督を相続す本名を玉太郎と名を中村鷹治郎と名を龜鶴と稱す明治六年五月道頓堀歩座に於て實川二郎と名乗り(油商人麻呂)の仲間一寸八を勤め初舞臺をなし同十一年三月同座に於て中村鷹治郎と改名す漸次關西劇界の霸王として譽れ重きをなすに至り現に老來益々技藝を加へ舞臺に活躍し東京の歌右衛門と共に東西兩成胸屋と呼ばれる當り役は「封切」の忠兵衛「河庄」の治兵衛「土屋主税」の主税「布引」の實盛等たり長男長三郎三男中村鷹治郎は關西劇壇の中堅にして技術共に秀ず二女タマ(明二三、一一生)は分家し三女照子(同三〇、一一生)は京都府人松井新七長男政次郎に嫁せりA七九六〇(大阪市南區玉屋町七電南二五二〇) 參照||林長三郎の項

中村喜之助 計理士 京都府在籍
妻 喜彦 大七、一一生

君は福井縣人中村惣兵衛の六男にして明治三十年六月七日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す計理士たり家族は尙長女レイ子(大九、一一生)三男登喜生(同二二、一一生)四男光善(同二四、一一生)ありA九四四(京都府中京區六角通河東院東入電本局三八八)

中村喜兵衛 山形商業銀行事務取締役、山形山形縣在籍
妻 ユウ 明一八、七生、山形、渡邊久八郎四女
男 光藏 明四五、一一生、慶大在學
女 トミ 明三五、一一生、亡養子喜藏妻
女 キヨ 大二、一一生
女 チエ 大八、七生

君は山形縣人先代喜兵衛の長男にして明治四年四月六日を以て生れ同三十三年家督を相続し前名吉藏を改め襲名す現時前記銀行會社の重役にして兼に山形商工會議所副會頭に擧げらる現時同縣同業山形市消防組頭たり家族は尙四男益太郎(大五、一一生)孫靜子(同二二、三三、亡養子喜藏長女)同啓一郎(同二〇、一〇生、同長男)弟豊吉(明一六、三三)同妻ナカ(同二〇、二生、山形、中村茂助二女)及其子女あり弟忠吉(同一九、三三)は山形縣人星野吉兵衛の養子となり弟忠吉(同一九、三三)は山形縣人神谷貞雄に三女ムメ(同四〇、九八、九生)は同縣人高島清一に從妹セイ(同二一、八五、五生、養父茂助長女)は同縣人中村宇三郎長男宇兵衛に嫁し叔母コト(元治元、二生)同夫茂助(文久元、一一生、山形、坂野仁三郎三男)は其子女を伴ひ叔父徳太郎(明三、一一生)は其妻フミ(同八、六生、山形、中村代助三女)と共に叔父元吉(同八、一一生)同妻チウ(同二〇、七生、山形、中村廣直養子)は其一女を伴ひ叔父三郎(同二二、四生)は其一子を生ひ各分家せり(山形市十日町五一五電一三)

中村義一 中村平事務所取締役、中村平代表社員、洋反物並自動車商 大阪府在籍
母 エン 明二、一一生、大阪、小川可平治長女
妻 昭 明三四、一〇生、高知、吉松健成昭二女
男 義昭 昭七、三三

君は大阪府人中村平三郎の長男にして明治二十七年九月を以て生れ昭和四年家督を相続す洋反物並自動車業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙長女清野(大一一、一一生)三女登和(明二二、一一生)四女文惠(同四、一〇生)五女鈴(同八、八生)弟禮三(明四二、一一生)は同縣人窪田學藏に妹ゆき(同三三、一一生)は同縣人花島周一に同和(同三八、二生)は京都府人千葉治に嫁し姉奈良江(同二五、五生)は分家せり(神戸市神戶區元町五ノ六六ノ一電三三七八九)

中村儀助 鉦師 大阪府在籍
妻 タネ 元治元、一〇生、京都、田中太吉長女
妻 アイ 明二七、六生、京都、上阪長之助長女

君は埼玉縣人中村玉藏の二男にして明治十三年七月九日を以て生れ大正九年家督を相続す酒類商を營めり家族は尙四男實藏(大五、一〇生)五男儀一(明七、一〇生)四女わか(同二五、六生)孫義太郎(昭四、一一生、長男)國治(二男)あり弟留吉(明一七、一〇生)同妻みき(同二二、四生、埼玉、會田泰輔四女)は共に其一男四女を伴ひ分家し弟義之輔(同三二、一一生)は埼玉縣人中村貞次郎の養子となりA六四九B一〇三(東京市淺草區千束町二ノ三四電櫻塚二四五六)

中村 競 從五位勳五等、醫學博士、市立札幌病院院長、長野縣在籍
父 兼太郎 安政五、二生、現戸主
母 なよ 明二四、七生、長野、小出傳三郎二女
妻 善 明二四、一一生、長野、前澤明文姉
男 陽 大一一、一一生
女 清子 大二、九生
女 道子 大五、二生
女 弘子 大八、九生

君は長野縣人中村兼太郎の二男にして明治十八年一月

を以て生れる同四十四年東京帝國大學醫學科大學を卒業し現時市立札幌病院院長たり兼に醫學博士の學位を授けらる弟靜史(明二六、一一生)は分家し叔父仙次郎(文久三、八生)は長野縣人瀧澤まつの養子となり妹まき(明二〇、九生)は同縣人瀧澤まつの養子となり妹まき(明二〇、九生)は同縣人松山秀太郎に叔母(同三三、六生)は同縣人松山爲次郎に嫁せり(札幌市外圓山村一三電二八七五)

中村吉右衛門 初代播磨家、俳優 (波野次郎)
妻 千代 明三〇、二生、東京、小林長三郎庶子

君は東京府人波野時藏の二男にして明治十九年三月を以て生れ大正元年家督を相続す本名波野辰次郎舊名中村吉右衛門併名を秀山と稱す明治三十三年市村座に於て「越後騒動」の仙千代に扮し初舞臺をなし同三十八年歌舞伎座にて「石切堀原」の堀原を勤め名題に昇進す「鐵軍記」の熊谷「安達ヶ原」貞任と袖山小唄の清正「佐倉義民傳」の宗五郎等は當り役たり号道山唄に趣味を有す家族は尙長女正子(大一一、一一生)弟聖司(明四二、七生)ありA一六六九(東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ八一六電四谷四二七)

中村 吉次 竹吉、材木竹材商 東京府在籍
男 昇次 明三一、二生
女 ちん 明三六、二生、二男昇次妻、靜
女 こと 明二二、一一生

君は神奈川縣人太田萬右衛門の三男にして安政六年八月を以て生れ中村たかの養子となり後家督を相続す明治二十七年現住地に材木竹材商を開業して今日に至る家族は尙孫靜夫(大一一、三三)あり三女ユウ(明二八、七生)は千葉縣人松本利弟庸一を迎へて分家せりA八四二B七四(東京市京橋區八丁堀二ノ一三電京橋二六三)

中村 吉藏 早稻田大學教授、劇作家 鳥根縣在籍
妻 コウ 明二二、一〇生、從五位勳六等、東京女高師教授、東京音樂學校出身

君は鳥根縣人中村忠治の長男にして明治十年五月十五

日を以て生れ同四十四年家督を相続す夙に山口町山口市立誠義塾に學び爲替貯金管理所書記補等を経て同三十二年東京明治文壇の巨匠廣津柳浪家に寄寓し同三十六年早稻田大學哲學科を卒業更に同大學英文科を出づ先年同三十四年大阪毎日新聞に長篇「無花果」を發表し文名一時に揚る同三十九年渡米しブリストン及コロンビア兩大學に學び更に歐洲を巡りて海外文藝界を觀察し同四十二年歸朝す同四十四年文藝協會のイアセン劇「人形の家」演出担当以來久しく藝術座の爲に盡す我劇壇に貢献するところ尠からず現に早稻田大學文學部教授にして雜誌「演劇研究」を主宰す著書の主なるものに「劇力」「淀屋辰五郎」「サロメ」「人形の家」「アランド」「井伊大老の死」「星亨」「獅子に喰はれる女」「鬼が鳥から来た男」等あり其他「最近歐米劇壇」「イアセン評論」「吉藏戯曲集」等の著多し旅行に趣味を有す(東京市豊島區西巢鴨町二ノ一九六九)

中村吉兵衛 織物販賣業 東京府在籍
妻 ムメ 明一一、四生、栃木、幸島幸平長女
男 吉朗 明二六、五生
妻 千代 明三〇、七生、長男吉朗妻、滋賀中村庄太郎妹

君は滋賀縣人先代吉兵衛の長男にして慶應三年一月二十九日を以て生れ明治十一年家督を相続す織物販賣業を營む家族は尙孫泰子(大一一、一一生、長男吉朗長女)同欽哉(昭二、八生、同長男)同尙司(同八、五生、同二男)庶子榮子(大一一、一〇生、生母、青木とく)同貞子(大一一、六生、生母同上)同五郎(同二四、一〇生、生母同上)同昭子(昭三、二生、生母同上)同みどり(同五、六生、生母同上)同政子(同七、五生、生母同上)あり長女妙(明二四、一一生)は滋賀縣人渡邊長兵衛に二女治子(同三四、四生)は東京府人佐藤徳太郎に三女國子(同三七、一一生)は群馬縣人堀江榮助に嫁せりA一二四六(東京市下谷區下根岸町六電櫻塚一五) 參照||佐藤徳太郎、渡邊長兵衛の項

中村 公男 辯護士 鹿兒島縣在籍
父 立兵衛 明六、三三、現戸主
妻 キキ 明二九、九生、新潟、野上智哲四女

君は鹿兒島縣人中村喜兵衛の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正七年一月より辯護士を開設し大阪辯護士會副會長に擧げられたることあり現に商事調停委員並に金銭債務調停委員に選任せらる(大阪市住吉區北畠中二ノ二五電天下茶屋三二九六事務所)大阪市西區西長堀南通二ノ二〇電新町一四〇八)

中村 清彦

從三位勳二等、錦旗開帳、東京帝國大學、秋田鐵道專門學校各講師、三重縣士族

妻 門一四、九生、千葉、井上治右衛門

男 陽吉 明三、五生、三井物産社員、法學士

男 穰吉 明四三、一、生、京大經濟學部在學

君は三重縣士族中村寛夫の長男にして元治元年八月を以て生れ明治二十七年家督を相続す同二十二年帝國大學法科大學を卒業し判事となり後鐵道監督官農商務省參事官製鐵所事務官農商務書記官福岡大阪東京各鐵道監督局長等に歴任し我國鐵道法規の制定に關與して功あり頗る内外法制に通曉す現時錦旗開帳にして東京帝國大學工學部及秋田鐵道專門學校各講師たり著書に「日本鐵道法」あり二女田嶋(明二七、三三)は埼玉縣人山田篤太郎長男建築技術師工學士妹す(同二二、一一生)は東京府人山口平太夫弟海軍造兵少將工學士徳二郎に嫁し弟正次郎(同元、一生、退職判事公證人法學士)は三重縣士族乙部八二郎に同六三郎(同三六、生)は大阪府人山中吉郎兵衛に同春彦(同二二、四生、土佐セメント會社取締役工學士)は三重縣士族入谷正に各養子となり同英彦(同一五、三生、正五位勳三等海軍大佐)及同季雄(同一八、六生、藤澤ルポル會社支配人)は其家族を伴ひ分家せり(東京市荏原區戸越町九〇)參照 入谷春彦、乙部正次郎、中村中田武信、伊東忠太、入澤達吉、小寺謙吉の項

中村 金四郎

地主 東京府在籍

妻 金造 明四二、一生、東京、篠原角太

君は東京府人中村金左衛門の三男にして明治十六年十一月を以て生れ大正八年先代かまの八夫となり家督を相続す地主として知らるA五八七(東京市荏原區戸塚町四ノ八五一)

一月を以て生れ大正六年家督を相続す地主たり家族は尙三男三郎(大五、三生)四男四郎(同九、一生)あり長女スミ(明四〇、四生)は徳島縣人黒田陽造に嫁し甥伊助(同三一、二生)は分家せりA六二二(東京市荏原區上落合一ノ二〇九電落合長崎二九九)

中村 金章

農藝 宮崎縣在籍

妻 フミ 明四三、五生、宮崎、南崎平吉三女

男 市太郎 明三三、六生

男 明三、八、一生、東京、寺田政吉

男 明三、八、一生、東京、寺田政吉

中村 金藏

中金商店、木炭米穀商

妻 ヤナ 明二八、一生、東京、小林信之助

男 市太郎 明三三、六生

男 明三、八、一生、東京、寺田政吉

君は千葉縣人中村福松の弟にして明治八年七月二十一日を以て生れ明治三十三年別れて一家を創立す中金商店と稱し米穀商を營む農に木炭米穀問屋組合部長兼評議員に推舉せらるる家族は尙孫榮一(大五、五生、長男市太郎長男)同照子(明三三、三生、同長女)同隆俊(同五、五生、同二男)同正男(同七、六生、同三男)あり二男清(明三八、二生)は妻公子(同四四、七生、千加藤彌助)と長女明都子(明八、一生)を伴ひ分家せりA五九五七〇(東京市本所區野川町四ノ三電本所三三四九)

中村 金太郎

日本人組、パルプ採取取締役、樟太鐵道、登炭礦各取締役、東京府在籍

妻 明三〇、一生

君は鹿兒島縣人中村喜兵衛の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正七年一月より辯護士を開設し大阪辯護士會副會長に擧げられたることあり現に商事調停委員並に金銭債務調停委員に選任せらる(大阪市住吉區北畠中二ノ二五電天下茶屋三二九六事務所)大阪市西區西長堀南通二ノ二〇電新町一四〇八)

君は宮崎縣人中村金右衛門の長男にして明治四十年五月を以て生れ昭和九年家督を相続す同七年中央大學法學部を卒業し現に農業者を輔む家族は尙長女美保子(昭七、八生)二女恭子(同九、一生)妹静江(明四二、一〇生)叔父滿輔(同二二、九生)同妻アヤ(同三五、八生新湯、川上淳一郎三女)及其子女あり伯母アサ(同六、四生)は分家せり(宮崎縣北諸郡宮城村)參照 遠藤保太郎の項

君は東京府人中村源六の長男にして明治五年二月二十七日を以て生れ同二十三年家督を相続す現時王子製紙會社の調度課長たるの外前記諸會社の重役たり家族は尙孫とき子(昭五、一〇生、長男俊雄長女)同いね子(同八、一〇生、同二女)あり二男晉吉(明三七、一生)は分家せりA八四一(東京市京橋區築地一ノ二ノ二電京橋五七七二)

中村 銀藏

東京府在籍

妻 のぶ 慶應二、八生、東京、松本平五郎

男 大藏 大元、一〇生

女 正江 明二四、二生、神奈川、伊藤長

養子 チカ 作妹

中村 楠太郎

横濱商工會議所議員、中村貿易會代表社員、和歌山縣在籍

妻 利子 女出身

男 辰雄 明三七、七生、社會員、慶大出身

男 大出 大出、六生、長男辰雄妻、龜町高

君は和歌山縣人中村仲右衛門の二男にして明治八年二月を以て生れ同四十四年家督を相続す現時中村貿易會代表社員にして横濱商工會議所議員たり家族は尙孫孝子(昭七、一生、長男辰雄長女)同裕利子(同八、一〇生、同二女)ありA一二三(東京市大森區山王二ノ一九三五電大森七一九)

中村 國太郎

地主 東京府在籍

妻 かま 明二一、六生、養父末吉長女

男 國雄 昭四、七生

女 操 大二、八生

君は東京府人中村直次郎の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正七年家督を相続す現時東京株式取引所取引員にして兼に日本證券會社代表取締役たり家族は尙四女上(大一〇、四生)あり長女ふみ子(明四三、一生)は愛知縣人榊原豊三郎三男治郎に嫁し(同三一、一生)は同縣人山本福之助二男昇に嫁し弟半七(同二二、一一生)同要吉(同二七、八生)は各分家せりA二一八〇〇B一八五〇〇(名古屋市中區田代町見坂四四四電東五六一)店舖(東京市日本橋區兜町二東棟ビル内電多摩町八一九)

中村 慶吾

東京株式取引所取引員 愛知縣在籍

妻 はま 明二一、九生、愛知、吉田清九郎

男 省三 明四三、一生

女 ます子 明四二、一生

女 とし 大元、九生

君は愛知縣人中村半三郎の長男にして明治十六年一月を以て生れ大正七年家督を相続す現時東京株式取引所取引員にして兼に日本證券會社代表取締役たり家族は尙四女上(大一〇、四生)あり長女ふみ子(明四三、一生)は愛知縣人榊原豊三郎三男治郎に嫁し(同三一、一生)は同縣人山本福之助二男昇に嫁し弟半七(同二二、一一生)同要吉(同二七、八生)は各分家せりA二一八〇〇B一八五〇〇(名古屋市中區田代町見坂四四四電東五六一)店舖(東京市日本橋區兜町二東棟ビル内電多摩町八一九)

中村 慶二

東海電機事務取締役、大津屋證券調査役、愛知縣在籍

妻 たか 明一六、二一生、愛知、近藤彌助長女

男 武夫 明三七、二一生

男 馬吉 明三九、九生

君は愛知縣人中村慶藏の六男にして同光藏近藤重三郎の叔父なり明治六年三月を以て生れ同二十五年兄慶藏方より分れて一家を創立す現に兄慶藏の主宰する大津屋株式會社監査役に就任し現に在り又兼ねて東海電機會社事務取締役たりA一二三七(名古屋市中區南大津二ノ一三電中七七七)參照 近藤重三郎、中村慶藏、中村光藏の項

中村 慶藏

大津屋證券社長、味噌醬油醸造販賣業、愛知縣在籍

男 慶助 明一六、九生、大津屋、中部電力

男 サダ 明二九、一〇生、長男慶助妻、福

男 政吉 明一八、九生、大津屋取締役

男 壽恵 明二四、八生、二男政吉妻、愛知

男 光藏 明二四、七生、大阪高工出身、大

男 日出 明四一、二生、三男光藏妻、愛知

男 日 明二七、四生、三女ます子、愛知

男 良 明二七、四生、三女ます子、愛知

男 ます 明二九、四生、養子良妻、愛知

男 順治 明三四、四生、大津屋取締役、

男 文 明四一、四生、四男順治妻、愛知

男 末太郎 明三六、五生、大津屋取締役、

男 江 明三八、四生、五男末太郎妻、岐

男 信 明三三、八生、今尾留長女

君は愛知縣人先代慶藏の三男にして安政二年十月三十日を以て生れ明治十三年家督を相続し後前名光藏を改め慶名す現時大津屋株式會社を經營し社長にして味噌醬油醸造販賣業を營む家族は尙孫明(大六、三生、長男慶助長男)同正夫(同八、一生、同二男)同芳子(昭三、五生、同三女)同尚(同五、四生、同三男)同章一(大五、八生、二男政吉長男)同ひさ(同七、七生、同長女)同ます(同九、二生、同二女)同修三(同二五、一一生、同三男)同英夫(同二〇、二生、養子良妻長男)同富美子(同二三、三生、同長女)同隆(同二五、一一生、同二男)同浩(昭三、七生、四男順治長男)同健二(同五、一一生、同二男)同哲郎(同三、八生、五男末太郎長男)あり長女ひさ(明二〇、二生)は愛知縣人杉田八五郎養子多喜次に嫁し妹きぬ(萬延元、二生)同夫七三郎(安政六、七生、愛知、武田藤藏弟)は其二女を伴ひ同よね(慶應三、一〇生)同夫茂吉(萬延元、一〇生、愛知、中田富三郎弟)は其子女を伴ひ各分家し弟慶二郎(明六、三生)も亦分家し甥慶一(同一九、六生)

君は愛知縣人近藤重三郎の養子となり襲名して當主たり(豊橋市花田町)參照 近藤重三郎、中村慶二郎、中村光藏、森原昌二、深田三太夫、三輪爲吉の項

中村 健吾

正五位勳五等、鐵道局技師、札幌鐵道局工作課長、香川縣在籍

妻 キヨ 慶應元、九生、香川、士、征忠三

男 眞 明三四、三生、北海道、山内輝一

男 満夫 大四五、二生

君は香川縣人中村猪之助の二男にして明治二十三年四月二十七日を以て生れ大正三年東京帝國大學工學科大學機械工學科を卒業し鐵道院員となり爾來同技師同技師鐵道局技師鐵道局技師工作局工場課長を経て同十四年在外研究員として米獨各國に出張し昭和二年工作局機械科勤務となり大に同九年更に鐵道局技師に任ぜられ札幌鐵道局工作課長に轉ず家族は尙長女節子(大一一〇、五生)二女昌子(同一一、一生)兄嘉慶(明一九、六生)同妻雪子(同二八、二生、愛媛、篠原字二二女)及其子女弟亮三(同二六、八生)同妻久子(同三八、二生、大分、遠藤福太郎長女)及其一子あり(札幌市北八條東四丁目鐵道會舎)

中村 賢二

正五位勳五等功七級、高松高等商業學校教授兼生徒主事

妻 富久野 明二九、九生、岡山、澤島貞造妹

男 改造 大八、九生

君は山口縣人福永竹二郎の長男にして明治十四年四月五日を以て生れ同三十五年祖父辰之助の後を承け家督を相続す同三十四年關西學院を卒業し日露戰爭に従軍し陸軍歩兵軍曹に任じ負傷退役後關西學院教師兼會監となり後渡來してケンタッキー州ボーリンググリン商學大學グアヂニヤ州エモリー・エムド・ヘンリー大學を卒業同朝大正八年小樽高等商業學校教授となり同十三年高松高等商業學校教授に轉じ現に同校教授にして生徒主事を兼む家族は尙二男章哉(大一一、七生)あり(高松市四番町四四ノ二)

課長を経て現時同社名古屋支店長たり家族は尚二女悦子(大一〇、七生)三女利(同一二、九生)四女豊子(昭四、一〇生)ありA二五〇二(名古屋東區榑木町二ノ四電東二七七)

中村幸之助 從三位勳二等、工學博士、東京工業大學校長兼教授、東京府在籍
妻 明三、六生、東京、田澤萬太郎
男 彌太郎 明三九、一〇生、東北帝大法文學部出身
女 八重子 明四五、五生、長男彌太郎妻、佐賀、井手徳一長女
小彌太 大六、一〇生、東京府立第二高女出身、雙葉專攻科在學

中村幸八 從五位、鐵道監督局書記官、大阪鐵道監督局長、靜岡縣在籍
妻 清三、七、六生、山崎高女出身
男 直昭 明四、六生
君は靜岡縣人にして明治三十一年十二月十八日を以て生る大正十一年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し直に特許局となり同十三年文官高等試験に合格す同十四年特許局事務官昭和七年鐵道局事務官に任じ同九年鐵道監督局書記官大阪鐵道監督局長に任補せらる趣味は登山ゴルフ園藝等に在り家族は尙長女教

中村幸三 正六位、衆議院議員(京都府選出)
妻 ね 明三三、八生、滋賀宮本吉吉二女
男 年男 昭七、一〇生
君は京都府人中村三之助の長男にして明治二十七年九月を以て生れ昭和七年家督を相続す大正七年早稲田大學政治經濟科を卒業し藤本ビルブローカー銀行に入り大正十一年英國二ヶ國に留學政治經濟學を研究す歸朝後新編糧秣倉庫會社支配人となり次いで商工大臣秘書官大臣秘書官等に歴任し昭和七年京都府第一區より選ばれて衆議院議員に當選して今日に至る義に列國議會同盟會議に參列し次で歐米各國を視察せり一英國の總選舉「我等の進むべき道」の著書及近代都市

子(大五、三生)二女道子(昭三、一〇生)三女洋子(同八、四生)あり(兵庫縣武庫郡精道村三條字南垣内四二〇電警四一四九)

中村皎久 香川縣在籍、同調議長、辯護士
妻 喜美 明二、一〇生、高松中學在學
男 一 大六、一〇生、高松中學在學
男 二 大六、一〇生、高松中學在學
男 三 大六、一〇生、高松中學在學
男 四 大六、一〇生、高松中學在學
男 五 大六、一〇生、高松中學在學
男 六 大六、一〇生、高松中學在學
男 七 大六、一〇生、高松中學在學
男 八 大六、一〇生、高松中學在學
男 九 大六、一〇生、高松中學在學
男 十 大六、一〇生、高松中學在學

中村左衛門太郎 正五位勳三等、理學博士、學術研究會會員、東北帝國大學教授、理學部勤務、東京府在籍
妻 美保 安政六、九生、東京、惠藤卯平姪長女
男 吉雄 昭九、二生
君は東京府人中村利吉の長男にして明治二十四年一月を以て生る大正三年東京帝國大學理學部物理學科を卒業し中央氣象臺技師に任ぜられ同九年理學博士の學位を授けらる同十年歐米出張同十三年東京帝國大學教授に任じ今日に至る家族は尙長女と五女(大一一、一〇生)二女玉乃(同四、四生)三女と五女(同七、九生)弟健夫(明三三、三生)其妻及長女あり(仙臺市二本杉通一)

中村佐兵衛 大正運輸、共進組合各務取締役、東洋棉花監査役、群馬縣在籍
妻 美加 明六、六生、長崎、士、日良彌門孫
君は群馬縣人中村善平の四男にして明治十一年一月十四日を以て生れ同十四年家督を相続す同三十六年東京高等商業學校を卒業し現時大正運輸共進組合重役たり義に東京モスリン紡績朝鮮南北棉業組綿布等諸會社の重役たりA三五九(兵庫縣兵庫郡大社村電話番八二八)

中村作次郎 中村作商店社長、貿易商
妻 明一、一〇生、福岡、士、藤村實妹
男 輝廣 明三七、六生
男 輝廣 明四一、三生、二男輝廣妻、福岡、藤原龜次郎二女

中村作次郎 中村作商店社長、貿易商
妻 明一、一〇生、福岡、士、藤村實妹
男 輝廣 明三七、六生
男 輝廣 明四一、三生、二男輝廣妻、福岡、藤原龜次郎二女

中村治作 丹後商工銀行事務取締役、吉村商店監査役、京都府在籍
妻 明一、一〇生、京都、伊勢戶源次郎妹
男 俊介 明三九、九生、長男俊介妻、大阪、小杉佐兵衛妹
女 ます 大八、五生
君は京都府人中村仁作の二男にして明治九年一月十六日を以て生れ同三十年分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役にして義に推されて京都府會議員同社社長に擧げられ同運送後縮細精練倉庫會社等の社長たりし事あり長女まき(明三三、二生)は兵庫縣人武田彦太郎に二女(同三七、七生)は京都府人前田奈良三郎長男一郎に嫁し二男作二(同三六、四生)は同府人加藤道榮長男妻きくに三男利三郎(同四一、八生)は同府人吉村たけに各養子となれり(京都市中京區新町通四條上ル電國本局三四三三)

中村定 赤倉温泉スキーホテル取締役、退子土地監査役、長崎縣士族
妻 明二、六生、士、井上儀助三男、現戶主
父 美加 明六、六生、長崎、士、日良彌門孫
君は石川縣士族中村久作の二男にして明治八年五月十八日を以て生れ同十一年家督を相続す羅紗商を営む家族は尙三男直三郎(大七、五生)孫淳一(同一四、六生)、榮子武雄長男(同昭三、三生)、同長女(同昭三、四生)、同二女(同昭三、四生)ありA三〇〇五(兵庫縣武庫郡精道村青屋平田一九三三ノ一電警三三三三)

中村定安 山下鐵業監査役、丸扇煉炭工場主、東京府士族
妻 織衛 嘉永二、三生、愛媛、友岡直妹
女 芳衛 大八、一〇生
君は愛媛縣士族中村與市の長男にして明治十一年六月を以て生れ同四十二年家督を相続す夙に宿毛商會に入り尋で山下龜三郎商店に轉じ同氏經營に係る石炭會社横濱東京門司各支店に勤務し門司支店副支配人に擧げられ若松支店支配人に進む後小樽支店長に轉じ現時山下鐵業會社監査役に任じ丸扇煉炭工場を經營す義に北海道鐵業會社監査役たりし事あり家族は尙弟重安(明二一、三生)あり(東京市深川區東橋町一電本所三三八〇)

中村三之丞 正六位、衆議院議員(京都府選出)
妻 ね 明三三、八生、滋賀宮本吉吉二女
男 年男 昭七、一〇生
君は京都府人中村三之助の長男にして明治二十七年九月を以て生れ昭和七年家督を相続す大正七年早稲田大學政治經濟科を卒業し藤本ビルブローカー銀行に入り大正十一年英國二ヶ國に留學政治經濟學を研究す歸朝後新編糧秣倉庫會社支配人となり次いで商工大臣秘書官大臣秘書官等に歴任し昭和七年京都府第一區より選ばれて衆議院議員に當選して今日に至る義に列國議會同盟會議に參列し次で歐米各國を視察せり一英國の總選舉「我等の進むべき道」の著書及近代都市

中村三郎 九ノ内ホテル、日本炭酸瓦斯各務取締役、中村高等女學校校長
妻 いそ 明一五、五生、愛媛富三郎長女
女 ひさ子 明四〇、六生、聖心女子學院出身
君は埼玉縣人石川多伸の三男にして明治十年七月を以て生れ同三十六年中村富三郎の養子となる夙に東京高等商業學校を卒業し中倉組外國部に入り次で深川倉庫會社に轉じ後米問屋中村商店中加貯蓄銀行を經營す現時前記各會社の重役にして又中村家經營に係る中村高等女學校長たり曾て東京タクシー自動車日本コルケ

中村三郎 九ノ内ホテル、日本炭酸瓦斯各務取締役、中村高等女學校校長
妻 いそ 明一五、五生、愛媛富三郎長女
女 ひさ子 明四〇、六生、聖心女子學院出身
君は埼玉縣人石川多伸の三男にして明治十年七月を以て生れ同三十六年中村富三郎の養子となる夙に東京高等商業學校を卒業し中倉組外國部に入り次で深川倉庫會社に轉じ後米問屋中村商店中加貯蓄銀行を經營す現時前記各會社の重役にして又中村家經營に係る中村高等女學校長たり曾て東京タクシー自動車日本コルケ

岡市會議員同參事員同商工會議所顧問岩手銀行取
岩手縣農工銀行盛岡貯蓄銀行岩手林業會社等の重役た
りし事あり弟男(明二七、一)同妻富子(同三〇、一
〇)生、大阪、和田長二郎(同二七、一)同妻富子(同三〇、一
〇)生、は何れも分家す姉カツ(同二〇、一)生、は岩手
縣人平井六右衛門の養子となり妹イマ(同二二、四)生
は工學博士遠藤政直に嫁せり(盛岡市東中野新町五)
參照 遠藤政直、中村實三郎の項

中村重一

從五位勳三等、海軍大佐、舞鶴要
港部參謀長、愛媛縣在籍

母 妻 幾代 明二九、八生

君は故久藏二男にして明治二十年十二月を以て生る同
四十二年海軍大學校を卒業し翌年海軍少尉に任ぜらる
大正十年海軍大學校を卒業後第一水雷戰隊參謀軍令部
出仕參謀第三戰隊參謀軍令部出仕參謀海軍省出仕海軍
省副官兼海軍大臣秘書官等を歴任昭和三年軍令部出仕
となり歐米各國へ出張を命ぜらる爾來第二遣外艦隊參
謀海軍大學校教官出雲艦長等を経て海軍大佐に擢進し
現時舞鶴要港部參謀長たり家族は尙長女須美子(昭三
一)二女純子(同六、五)生、兄光雄(明一六、八)生、姉文
(同二一、一)生、弟明(同二六、四)生、東京地方裁判所
判事、法學士あり(京都府加佐郡中舞鶴町海軍官舎)

中村重喜

正五位勳五等、横濱税關監督部長
熊本縣在籍

妻 破産子 明三、四生、熊本、齋藤平四郎

君は熊本縣人にして明治二十五年四月十五日を以て生
る大正六年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し大
藏省臨時調査局となり印度及南洋に出張を命ぜられ
爾で副司官に任じ郵務局長長崎稅務局長を経て
稅務監督局事務官に任じ仙臺省古長稅務局長を経て
稅關事務官大阪稅關監督長同港務局長横濱稅關監督課
長を経て現時前記職にあり家族は尙長女壽美子(大一
三、三)生、次男健史(昭四、五)生、ありA一〇六(横濱市
中區西戸部稅關官舎電報番町11011)

中村重次郎

齋藤商
大阪府在籍

妻 かね 明一〇、一〇生、大阪、貴田七兵
衛三女
男 重 幸 明四二、二生
女 信子 大三、二生
君は大阪府人中村市三郎の二男にして明治五年六月を
以て生れ同三十七年分れて一家を創立す齋藤商を營む
家族は尙四男芳太郎(大九、三)生、あり長女ヨシ(明
一七、一〇)生、は奈良縣人河合岩造に嫁せりA四七五
(大阪市大正區三軒家通一ノ三六電報川一七五六)

中村重博

秋田縣新報社代表取締役兼營業
局長工務部長、秋田縣在籍

妻 瑪 明一〇、七生、秋田、士、小林種
英妹

君は秋田縣士族中村舎人の長男にして元治元年十一月
を以て生れ慶應三年家督を相続す現時秋田縣新報社代
表取締役兼營業局長たり家族は尙六男六郎(大四、二
生)七女トシ(同二、二)生、あり四女キヨ(明三五、一
生)は東京府人喜多川勇治に五女レン(同四〇、四)生、
は埼玉縣人白鳥正次に嫁せり(秋田市東根小屋町一)

中村重三

京都府多額納稅者、京都取引所取
引員、東京府在籍

妻 清 治 明二八、二生、京都、中村庄助長女

君は京都府人東村平左衛門の二男にして文久三年八月
十日を以て生れ明治十九年先代キヨの養子となり家督
を相続す京都府多額納稅者に先し京都取引所證券米取
引員たり家族は尙孫久子(大一、二)生、長男清治長
女(同清子)同(一五、一)生、同二女(同壽男)昭三、一
生、同長男(同正也)同(五、七)生、同二男(同三)あり長女タ
カ(明二三、一)生、は滋賀縣人富永平一に二女ハナ
(同三五、五)生、は京都府人北村和三郎の養子となり
A四五六九B九八一(京都市中區東洞院通錦小路下
電本局三二五五)

岡市會議員同參事員同商工會議所顧問岩手銀行取
岩手縣農工銀行盛岡貯蓄銀行岩手林業會社等の重役た
りし事あり弟男(明二七、一)同妻富子(同三〇、一
〇)生、大阪、和田長二郎(同二七、一)同妻富子(同三〇、一
〇)生、は何れも分家す姉カツ(同二〇、一)生、は岩手
縣人平井六右衛門の養子となり妹イマ(同二二、四)生
は工學博士遠藤政直に嫁せり(盛岡市東中野新町五)
參照 遠藤政直、中村實三郎の項

中村重安

山下汽船會社員
東京府士族、静岡、奥川孝太郎

妻 かね 明一〇、一〇生、大阪、貴田七兵
衛三女
男 重 幸 明四二、二生
女 信子 大三、二生
君は東京府士族中村與市の三男にして現戸主定安の弟
なり明治二十一年三月二十五日を以て生る現時山下汽
船會社員たり家族は尙二男與二(大一、八)生、三男源
三(同二三、九)生、長女泰子(昭八、二)生、ありA二〇二
(東京市澁谷區松濤町二五電報青山七四四四)

中村茂

從五位勳六等、香川縣書記官、學
務部長、福岡縣在籍

妻 和子 明三、七生、東京、鳥羽季藏長女、
豊島高女、東京女專出身

君は福岡縣人中村武雄の長男にして明治二十四年一月
を以て生れ昭和三年家督を相続す現に京都帝國大學法
科大學政治學科を卒業し大學に入り大正八年奈良縣
屬に任じ文官高等試驗に合格す爾來福井縣屬福井縣警
部大分縣宇佐郡長山梨縣理事官地方事務官に歴任昭和
七年香川縣書記官に任じ學務部長に補せられ今日に至
る家族は尙長女祥子(昭四年)二女啓子(同六年)あり
(高松市中區新町縣學務部長官舎電二四四七)

中村靜

日本信託銀行副支店配人兼貸附課
長、大阪府在籍

妻 美津江 明二七、四生、大阪、奥田清次郎妹
戸主

君は福井縣士族大村幸十郎の二男にして明治二十年八
月十四日を以て生れ現戸主キヨの養子となる現時日
本信託銀行副支店配人兼貸附課長たり家族は尙二男宏
(大一〇、一)生、ありA九四四(大阪市住吉區阿野野三
ノ五四)

中村靜嘉

從三位勳三等功四級、海軍少將
石川縣士族

妻 かね 明二、一〇生、海軍中將、川島令次
郎妹

君は福井縣士族大村幸十郎の二男にして明治二十年八
月十四日を以て生れ現戸主キヨの養子となる現時日
本信託銀行副支店配人兼貸附課長たり家族は尙二男宏
(大一〇、一)生、ありA九四四(大阪市住吉區阿野野三
ノ五四)

中村準一

日本錫工業株式會社取締役、太平洋海上
火災保險株式會社重役秘書、兵庫縣在籍

妻 淑子 明四〇、八生、京都、小林正直長女

君は兵庫縣人中村準策の長男にして明治三十五年五月
を以て生る昭和三年早稲田大學經濟學部を卒業し現時
太平洋海上火災保險株式會社重役秘書にして前記會社の重
役を兼ぬ家族は尙二男榮男(昭六、一〇)生、ありA六二
八(神戸市神戶區北野町一ノ一四〇電報合二九二四)
參照 中村準策の項

中村準策

釜山鎮埋業、太平洋海上火災保險
株式會社社長、兵庫縣在籍

妻 富貴 明三、五、九生、京都、瀧川英次郎妹

君は奈良縣人舊郡山藩士並河玄策の三男にして明治九
年八月を以て生れ山梨縣人山梨縣人山梨縣人山梨縣人
十一年家督を相続す同三十三年東京高等商業學校を卒
業し直に大阪商船會社に入社運輸課に勤務す同三十五
年同社を退き家業に従ひ海運業を營む先代字吉世を去
り以來獨自内外の衝に當り刻苦經營大いに力を竭す
所あり大正二年事業の關係上居を神戸に移し以て現今
に及ぶ歐洲大戦後海運業を廢し諸會社の業務に従ふ現
時前記各會社の重役たりA三三九〇二(神戸市神戶區北
野一ノ一四〇電報合二九二四)
參照 中村準一の項

中村正造

三河油田株式會社社長、名古屋兼合自動
車株式會社取締役、愛知縣在籍

妻 正次郎 萬延元、一〇生

岡市會議員同參事員同商工會議所顧問岩手銀行取
岩手縣農工銀行盛岡貯蓄銀行岩手林業會社等の重役た
りし事あり弟男(明二七、一)同妻富子(同三〇、一
〇)生、大阪、和田長二郎(同二七、一)同妻富子(同三〇、一
〇)生、は何れも分家す姉カツ(同二〇、一)生、は岩手
縣人平井六右衛門の養子となり妹イマ(同二二、四)生
は工學博士遠藤政直に嫁せり(盛岡市東中野新町五)
參照 遠藤政直、中村實三郎の項

中村純九郎

正四位勳三等、貴族院議員、東亞
産業株式會社社長、佐賀縣士族

妻 武 次 明三九、三生、慶大出身

君は佐賀縣士族中村喜三太の長男にして嘉永六年七月
を以て生れ後家督を相続す明治九年法學士となり同
十七年參事院御用掛を命ぜられ同十九年海軍省參事官
に轉じ爾來海軍省教授臺灣總督府民政司參事官拓殖省務
參事官臺灣事務書記官內務書記官淡水基隆各稅關長
臺灣總督府事務官選信書記官一等郵便局長に歴任し同
四十年福井縣知事に任ぜられ廣島縣知事北海道廳長官

中村純一郎

中國銀行總務取締役、岡山製紙
株式會社取締役、正副、廣島縣士族

妻 健 野 明三八、二生、岡山、岡野久次郎

君は岡山縣人岡野三郎の長男にして明治十一年九月
十八日を以て生れ同三十八年家督を相続す同四十四年
西嶺山の岡谷製紙株式會社に入社爾來數年縣下の特
産たる花菱貿易を管掌し更に東京專門學校英語政治科
茶屋町銀行事務取締役となり更に大正八年第一合同銀
行の設立に盡瘁し實現後取締役に擢げらる同十年中國
合同電氣株式會社の常務取締役となり社務を執掌し同十
一年之を辭し同六年第一合同銀行常務取締役に就任す昭
和六年十二月中國銀行常務取締役に擢げられ尙西
諸會社の重役たり昭和六年十一月梨本宮殿下御宿伯の
實業界の重鎮たり昭和二男義平(大七、一)生、あり(岡
山山西田町電二五二)

中村純二

正四位勳三等、貴族院議員、東亞
産業株式會社社長、佐賀縣士族

妻 武 次 明三九、三生、慶大出身

君は佐賀縣士族中村喜三太の長男にして嘉永六年七月
を以て生れ後家督を相続す明治九年法學士となり同
十七年參事院御用掛を命ぜられ同十九年海軍省參事官
に轉じ爾來海軍省教授臺灣總督府民政司參事官拓殖省務
參事官臺灣事務書記官內務書記官淡水基隆各稅關長
臺灣總督府事務官選信書記官一等郵便局長に歴任し同
四十年福井縣知事に任ぜられ廣島縣知事北海道廳長官

中村純三

正四位勳三等、貴族院議員、東亞
産業株式會社社長、佐賀縣士族

妻 武 次 明三九、三生、慶大出身

君は佐賀縣士族中村喜三太の長男にして嘉永六年七月
を以て生れ後家督を相続す明治九年法學士となり同
十七年參事院御用掛を命ぜられ同十九年海軍省參事官
に轉じ爾來海軍省教授臺灣總督府民政司參事官拓殖省務
參事官臺灣事務書記官內務書記官淡水基隆各稅關長
臺灣總督府事務官選信書記官一等郵便局長に歴任し同
四十年福井縣知事に任ぜられ廣島縣知事北海道廳長官

中村純四

正四位勳三等、貴族院議員、東亞
産業株式會社社長、佐賀縣士族

妻 武 次 明三九、三生、慶大出身

君は佐賀縣士族中村喜三太の長男にして嘉永六年七月
を以て生れ後家督を相続す明治九年法學士となり同
十七年參事院御用掛を命ぜられ同十九年海軍省參事官
に轉じ爾來海軍省教授臺灣總督府民政司參事官拓殖省務
參事官臺灣事務書記官內務書記官淡水基隆各稅關長
臺灣總督府事務官選信書記官一等郵便局長に歴任し同
四十年福井縣知事に任ぜられ廣島縣知事北海道廳長官

中村純五

正四位勳三等、貴族院議員、東亞
産業株式會社社長、佐賀縣士族

妻 武 次 明三九、三生、慶大出身

君は佐賀縣士族中村喜三太の長男にして嘉永六年七月
を以て生れ後家督を相続す明治九年法學士となり同
十七年參事院御用掛を命ぜられ同十九年海軍省參事官
に轉じ爾來海軍省教授臺灣總督府民政司參事官拓殖省務
參事官臺灣事務書記官內務書記官淡水基隆各稅關長
臺灣總督府事務官選信書記官一等郵便局長に歴任し同
四十年福井縣知事に任ぜられ廣島縣知事北海道廳長官

君は石川縣士族中村太郎兵衛の五男にして萬延元年二
月一日を以て生れ明治元年家督を相続す同十六年海軍
少尉に任じ同四十年海軍少尉に擢進し同四十二年豫備
役被仰付共同米國公使館附武官海軍大臣秘書官旅順根
據地參謀機關艦隊司令官同艦隊司令官第三艦隊參謀長
第三局長東宮武清國公使館附武官第三艦隊參謀長水
雷學校校長水雷團長等に歴補す日清露の兩役に功あり
功四級金鷲勳章を授けらる後實業界に轉ず義に大平生
命保險株式會社東洋電機製造株式會社重役たり、二男(明二
二、三)生、義學士)は東京府人中根虎四郎二女米子の婿
養子となり二女(同三〇、三)生、東京府立第三高女出
身)は宮城縣人工藤延治郎重治郎に三女美(同三二、二
四)生、出身校同上)は東京府人藥學士佐々木元(同三二、
四)生、出身校同上)は同府人千葉種胤に嫁
せり(東京市麻布區本村町一五四電報高輪四八三五)
參照 川島令次郎、工藤延治郎、桑田一夫、中根幹
夫の項

中村實太郎

大阪府在籍

妻 かね 明一〇、九生、北海道、石金敬八

君は兵庫縣人山崎八郎の長男にして明治十二年十二
月二十一日を以て生れ大正九年家督を相続す家主たり
A三三九四B七〇(大阪市此花區吉野町一ノ一三九電
土佐堀七六七)

中村修一

三次銀行取頭、大社宮島鐵道
取締役、廣島縣在籍

妻 憲 吉 明二二、一〇生、現戸主

君は廣島縣人中村三郎の長男にして慶應元年七月を
以て生れ後家督を相続し大正十五年退職す現時三次銀
行取頭たる外前記各會社の重役にして義に縣下の多額
納稅者たり三男三之助(明二四年)生、醫學博士)は香川
家の養子となり三女繁子(同三四年)生、醫學博士)古玉

妻 五つ 明二三、九生、愛知、村松恒太郎
 男 信男 大五、二生
 女 勝子 大六、一生
 女 博子 大七、一〇生
 君は愛知縣人中村正太郎の長男にして明治十八年一月を以て生れ大正十五年家督を相続す先是明治四十三年京都帝國大學工科大学を卒業す現時三河養蠶會社長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男二女(大九、一〇生)五男研吾(同一、一〇生)五女洋子(同一、一〇生)あり妹(明二三、五生)は同縣人武田賢治長男正夫に嫁せり(岡崎市八幡町電二三九)

中村正太郎

中村商店社長
東京府在籍

君は東京府人先代正太郎の庶子にして明治十七年一月二十四日を以て生れ大正元年家督を相続し前名清を改め養父現時中村商店社長たり長女絹(大九、一〇生)は千葉縣人土井さんの養子となり(滋賀縣神崎郡五箇莊村)

中村彰二

正徳縣常務取締役
岡山縣在籍

君は岡山縣人太橋忠太の三男にして明治三十七年七月二十日を以て生れ大正十一年中村秀次郎の養子となる現時正徳縣常務取締役たり家族は尙長女喜美子(大九、一〇生)三男謙太郎(明四、一〇生)あり(岡山縣都窪郡茶屋町)

中村信太郎

伊藤忠商事取締役、大同貿易
監査役、滋賀縣在籍

中村家は古くより滋賀縣伊庭村に住し代々麻布仲買商に従事す君は先代金兵衛の長男にして明治十五年十月

を以て生れ大正二年家督を相続す夙に京都商業學校を卒業し大阪丸紅商店に入り上海支店支配人を經て同商店の伊藤忠商事會社に變更と共に取締役に擧げられ今日に至る業に綿布業視察の爲歐米を歴遊す俳句ゴルフ等に趣味あり弟直三郎(明二六、三三)同妻セキ(同一、一〇生)同妻史(同一、一〇生)東京、三井亮妹)は各分家し叔母よね(同元、一〇生)は滋賀縣人中村直三郎の家督に入れり(兵庫縣武庫郡蘆屋丁河原毛一七八四電聲屋三三三)

中村進午

正三位勳二等、法學博士、東京商
科大学名譽教授、早稲田大學、日
本女子大學各講師、千葉縣在籍

君は新潟縣土族中村九郎の三男にして明治三年七月を以て生れ同二十七年兄弱方より分れて一家を創立す同年帝國大學法科大学を卒業し大學院に入る學習院教授東京高等商業學校教授等に歴任し後東京商科大学教授に任ぜられ昭和五年同校名譽教授の名稱を授けらるるに國際法及外交史研究の爲英佛獨に留學し明治三十四年法學博士の學位を受く長女八重子(明三六、五生)は鹿兒島縣人早崎芳夫に嫁せり(東京市澁谷區代々木山谷町二九九電四谷五三五五)

中村新

醫師
東京府在籍

君は東京府人中村孝緒の四男にして明治十七年十二月十一日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す先是明治四十二年九州醫科大學を卒業し醫師たり家族は尙長女明子(大一二、二生)二女治子(同一、一〇生)あり(三九八(福岡市東區唐人町馬場五七七四))

中村新一郎

高松製氷冷蔵、高松魚市場各總代
表取締役、讃岐起業監査役
香川縣在籍

君は香川縣人中村新一郎の長男にして明治十七年十二月十一日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す先是明治四十二年九州醫科大學を卒業し醫師たり家族は尙長女明子(大一二、二生)二女治子(同一、一〇生)あり(三九八(福岡市東區唐人町馬場五七七四))

君は香川縣人藤精一の二男にして明治四年十月十九日を以て生れ先代アサの養子となり同二十四年家督を相続す現時前記會社の重役たり(養に推されて高松商工會議所議員たりしことあり家族は尙孫佐和子(大九五、二生)二男貞治長女同謙(明二、八生)同長男)あり(高松市北濱町六八)

中村新太郎

正四位勳三等、京都帝國大學教授
理學部勤務、東京府在籍

君は東京府人中村新吉の長男にして明治十四年四月を以て生れ同三十年家督を相続す同三十九年東京帝國大學理學部地質學科を卒業し廣島高等師範學校講師農商務朝鮮總督府各技師を経て大正八年京都帝國大學理學部助教授に任じ英米獨伊各國に留學を命ぜられ歸朝後同教授に進み現時理學部勤務たり家族は尙二男哲二(大六、一〇生)三男顯三(同九、八生)四男仁四郎(同一、四生)あり(京都市上京區寺町通り廣小路九)

中村新太郎

香川縣多額納稅者、高松百十四銀
行取締役、讃岐信託取締役
琴平電鐵、木太鹽田各總代
香川縣在籍

君は香川縣人中村新一郎の長男にして明治十七年十二月十一日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す先是明治四十二年九州醫科大學を卒業し醫師たり家族は尙長女明子(大一二、二生)二女治子(同一、一〇生)あり(三九八(福岡市東區唐人町馬場五七七四))

納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙三男三郎(大一一、八生)あり長女須磨子(明四二、二生)は分家し二男二郎(同四七、七生)は香川縣人中村齋の養子となり(高松市通町一七)
 參照：林恒三郎の項

中村甚藏

大阪三品取引所取引員
大阪府在籍

君は滋賀縣人中村甚平の二男にして明治十一年一月十二日を以て生れ大正十四年兄甚三郎方より分れて一家を創立す現時大阪三品取引所取引員たり家族は尙四男孝藏(大九、三三)五男良藏(同一、一〇生)二女富美子(同一、一〇生)あり(大正四四B一六八(大阪府東區安土町三)一電本町一五九六)

中村甚松

富山新報社社長
富山縣在籍

君は富山縣人中村善左衛門の長男にして明治七年三月を以て生れ同四十三年家督を相続す現時富山新報社長たり家族は尙庶子日出男(大五、九生)生母、富山荒井しげ(孫眞治(同一、一〇生)長男善郎長男)同多美子(同一、四、六生)同長女(昭三、八生)同二女(同一、四、六生)同三女(昭三、八生)同四女(昭三、八生)あり(富山縣人茶野久造に二女ゆり(同四一、一〇生)は同縣人飯田由太郎に妹たか(同二五、六生)は同縣人須藤豊右衛門孫豊作に同初音(同二七、一〇生)は同縣人米田富次郎に嫁し弟善正(同一、九、八生)は分家せり(富山縣市橋曲二五〇)

中村強雄

醫學博士、中村病院、醫師
長崎縣在籍

君は長崎縣人中村善左衛門の長男にして明治七年三月を以て生れ同四十三年家督を相続す現時富山新報社長たり家族は尙庶子日出男(大五、九生)生母、富山荒井しげ(孫眞治(同一、一〇生)長男善郎長男)同多美子(同一、四、六生)同長女(昭三、八生)同二女(同一、四、六生)同三女(昭三、八生)同四女(昭三、八生)あり(富山縣人茶野久造に二女ゆり(同四一、一〇生)は同縣人飯田由太郎に妹たか(同二五、六生)は同縣人須藤豊右衛門孫豊作に同初音(同二七、一〇生)は同縣人米田富次郎に嫁し弟善正(同一、九、八生)は分家せり(富山縣市橋曲二五〇)

君は熊本縣の醫師中村文一的長男にして明治十三年十二月を以て生れ同四十一年家督を相続す果代醫を業とし大正十二年歐米に留學同十四年歸朝後東京帝國大學淺生細菌學教室に研究生となり同十五年醫學博士の學位を授けらる現時長崎市中村病院を經營す家族は尙二男逸雄(大一二、三三)四女孝子(昭四、一〇生)三男博彦(同七、七生)あり妹ヒサ(明一六、四生)は滋賀縣人高岡定七に嫁し弟保(同二三、四生)は分家せり(長崎市中大林町一電七九二)

中村正格

奈良縣多額納稅者、六十八銀行
監査役、奈良縣在籍

君は滋賀縣人中村甚平の二男にして明治十一年一月十二日を以て生れ大正十四年兄甚三郎方より分れて一家を創立す現時大阪三品取引所取引員たり家族は尙四男孝藏(大九、三三)五男良藏(同一、一〇生)二女富美子(同一、一〇生)あり(大正四四B一六八(大阪府東區安土町三)一電本町一五九六)

中村正

正三位勳三等、理學博士、帝國學
士院會員、東京帝國大學名譽教授
東京府在籍

君は東京府人中村正徳の四男にして明治二年九月を以て生れ大正四年兄留二方より分れて一家を創立す明治二十五年東京帝國大學理學部物理學科を卒業し大學院に入り電氣及輻射を研究す同三十六年より同三十八年まで結晶學研究の爲獨逸に留學し同四十二年理學博士の學位を受く第一高等學校教授東京帝國大學理學部助教授同大學教授に歴任し理學部長たりしも昭和五年本官を免ぜられ東京帝國大學名譽教授の名稱を授けらる先是大正七年再度歐米へ出張せり長女妙子(明三六、三三)生、御茶の水高女專攻科出身)は東京府人中村留二長男正世に嫁せり(東京市小石川區指ヶ谷町五九電小石川六八〇)

中村誠秀

京北郡市、東京土地開發各總代
表取締役、東京府在籍

君は東京府人中村正徳の四男にして明治二年九月を以て生れ大正四年兄留二方より分れて一家を創立す明治二十五年東京帝國大學理學部物理學科を卒業し大學院に入り電氣及輻射を研究す同三十六年より同三十八年まで結晶學研究の爲獨逸に留學し同四十二年理學博士の學位を受く第一高等學校教授東京帝國大學理學部助教授同大學教授に歴任し理學部長たりしも昭和五年本官を免ぜられ東京帝國大學名譽教授の名稱を授けらる先是大正七年再度歐米へ出張せり長女妙子(明三六、三三)生、御茶の水高女專攻科出身)は東京府人中村留二長男正世に嫁せり(東京市小石川區指ヶ谷町五九電小石川六八〇)

亦其の子女を伴ひ分家せりA一〇一三(東京市牛込區市ヶ谷町三ノ二)一「店舗」日本橋區本町三ノ五電日本橋三五〇・三五六一

中村竹三郎

大府在籍 家主 妻 せつ 長女 明四、一〇生、大阪、今堀與三郎

中村竹四郎

寫眞原色版、コロタイプ、木版印刷業、東京府在籍 妻 定子 明二四、八生、東京、宇野友治四女

中村竹藏

正三位勳二等、元朝鮮總督府高等法院檢察長、東京府在籍 妻 サク 明六、八生、東京、土岡哲蔵妹

中村爲吉

從四位勳四等、臺北高等學校講師 和歌山縣在籍 妻 かのめ 明一〇、八生、和歌山、中島善兵衛二女

中村爲三郎

大坂商工會議所議員、精版印刷、製紙所社長、東亞製紙、田中スボリ、關西製紙、日本錫紙各取締役、石川島飛行機製作所監査役、中村爲三郎代表社員、兵庫縣在籍

君は東京府人中村利三郎の二男にして明治二十三年三月を以て生れ同十九年家督を相続す同二十五年帝國大學法科大學を卒業し司法官試験となり移判事に任じ麹町區裁判所東京區裁判所南館地方裁判所各判事を經て検事に轉じ函館控訴院東京名古屋横濱各地方裁判所東京控訴院各控訴院地方裁判所所長等を経て同四十年舊陸軍省に轉じ後朝鮮總督府判事に任ぜられ京城控訴院檢察長京城控訴院檢察長高等法院檢察長に累進し其の間司法事務視察の爲米國に派遣せらる現時官を辭し閑地に在り家族は尙孫進(昭四、三、長男、長男、長男)同和子(昭七、二、生、同三、同三、七、生、二男、長女)同眞澄(昭六、六、生、同長男)あり長女(昭二、八、九、生)は佐賀縣人法學士山下謙一に二女由(昭四、〇、二、生)は東京府人法學士久保登二郎に三女京(昭四、一、八、生)は北澤太石油會社社長海軍中將中里重次長男重夫に嫁せりA一一一(東京市世田谷區世田谷二ノ一八九電世田谷三七六五)

中村竹彦

東京府在籍 妻 慶次郎 安政四、二生、東京、田中武右衛門長女

中村忠充

正五位勳四等、石川縣書記官、内務部長、福縣在籍 妻 荒太 長男、現戸主

中村保

正五位勳六等、内務技師、新潟土木出張所勤務、三重縣在籍 妻 八重 安政四、二生、滋賀、中野文治二女

中村千代松

水戸市會議員、茨城縣多額納稅者 井藤製菓常務取締役、旅館業 妻 トミ 明四、一、生、茨城、渡邊操養母

君は福岡縣人中村荒太の長男にして明治二十三年三月二十三日を以て生れ大正三年文官高等試験に合格し翌年東京帝國大學法科大學法科を卒業し留米佐賀縣屬兼同縣警視廳本縣警視廳木大坂兵庫各府縣理事官兵庫縣警視廳警務部長等を経て昭和六年現職に轉じ家族は尙弟(昭二、五、一、生、同妻アキ(昭三、九、一、生、福島小堀榮助妹)及其子女弟尙久(昭二、九、九、生、朝鮮總督府檢察官、法學士)同美彦(昭四、一、三、生、法學士)あり(金澤市縣内務部長官舎)

中村辰巳

玉染商店常務取締役 妻 とも 明二七、八生、東京、太田芳之助妹

中村達太郎

正三位勳二等、工學博士、東京帝國大學名譽教授、警備財政局顧問 妻 竹三 明二五、九生、埼玉、佐々木高吉姉

中村千代松

秋田縣在籍 妻 克己 明二八、一、生、長女タマ、新沼、室井嘉治馬弟

中村忠三郎

京都府多額納稅者、生絲問屋業 妻 ウタ 明二四、二生、養母ツネ養子、京都、中村源次郎姪

中村忠太郎

中村電氣代表社員 妻 とし 明二九、一、生、京都、北川長藏二女

君は滋賀縣人先代忠次郎の二男にして明治二十四年三月十一日を以て生れ昭和五年家督を相続す現時前記中村電機會社代表社員たり家族は尙長女牧子(六一五三)あり(一四〇一)京都市中京區河原町通り四條北入電下(二二六)

中村 繼男

從五位、衆議院議員(東京府選出) 熊本縣在籍 慶應二、一生、熊本、島田一雄妹 明二五、二生、熊本、前田芳太 郎長女 浩 大二、二生、慈惠醫大在學

中村 恒三郎

正五位、勳六等、高知縣書記官、内務部長、東京府在籍 美津子 明二七、一生、千葉、増永信夫姉 恒雄 大八、三生

中村 常太郎

福岡縣多額納稅者、大講銀行監理、取、荒木篤義、藤澤泰、酒造業、福岡縣在籍

君は福岡縣人先代常太郎の長男にして明治二十年七月八日を以て生れ大正七年家督を相続し前名寅雄を改め姓名す酒造業を營み前記各銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千七百九十二圓を納むゴルフに興味を有し弓道は練士たり家族は尙二男恒保(大九、一〇生、法大農科在學)三男正(同七、五男健(同三、六生)六男康(昭二、二生)三女節子(同五、三)四女久子(同六、二生)七男修(同八、四生)あり(福岡縣三浦郡城島町)

中村 貞作

日本電化精糖代表取締役、帝國合資精糖、日本物産、常盤商會各役、健、増進協、代表社員、新潟縣在籍 眞一 明四一、一生 眞子 明四三、八生 愛子 大五、五生 百合子 大七、八生

中村 眞作

醫學博士、醫師、滋谷區醫師會常務理事、東京府在籍 明二五、二生、養父耕作二女 君は群馬縣人高橋幸藏の二男にして明治十九年六月十日

四日を以て生れ大正三年先代カツの入夫となり家督を相続す醫師たり現時滋谷區醫師會常務理事にして眞に醫學博士の學位を授けらる(三七〇)(東京市滋谷區橋ヶ谷塚町一〇〇〇電四谷九二二)

中村 鎮三

兵庫縣在籍 兵庫縣在籍 明一五、一生、養父多次郎長女 男 明四四、八生

中村 哲哉

正四位勳六等、農學博士、獸疫調査所技師、第一部長、埼玉縣在籍 弘化四、六生 明二六、二生、埼玉、山口清三郎 長女 善隆 大八、三生 波奈子 大四、一生

中村 鐵五郎

中村屋本店、精肉料理業 大阪府在籍 慶應二、二生、京都、小林辰之 助 明三一、二生、大阪、川口宗治 明三、二生 君は大阪府人 中村鐵五郎の長男にして明治二十八年九月十日を以て生れ家督を相続し前名安太郎を改め姓名す中村屋本店と稱し精肉料理業を營む家族は尙長女

當子(大九、一生)二女(同二、二生)三女(重子(同二、二生)妹(同三、三)あり弟貞治郎(同三、三)生)同卵之姉(同三、三)同弟(同三、三)生)は各分家し三女(同三、三)一男(一生)は大坂府人北田金藏の養子となり(一三五)(大阪府北區堂島通二ノ四七電北六三二五)

中村 傳

醫師 京都府在籍 明二三、九生、京都、松本喜左衛門長女 妻 門長女 大六、七生 男 和子 大元、一生 孝子 大五、三生

中村 傳右衛門

資産家 東京府在籍 安政四、二生、養父傳右衛門長女 妻 トリ 明二〇、一生、亡二男清太郎妻 孫 静枝 明四四、一生、亡二男清太郎長女 孫 道代 大元、一〇生、亡二男清太郎二女 君は東京府人阪本竹次郎の弟にして安政四年四月八日を以て生れ明治十一年先代傳右衛門の養子となり同十五年家督を相続し前名平三郎を改め姓名す資 家たり六男秀三郎(明二二、二生)七男實(明二四、一生)は各分家し八男昇(明二七、七生)は其一子を伴ひ九男榮一(同二八、二生)同妻は(同三四、五生)は其二子を伴ひ各分家せり(同三六、三七)(京都市淺草區花川戸五三電淺草九五四)

中村 藤一

日本製糖代表取締役兼事務取締役、長崎縣在籍 明二〇、七生、山梨、佐竹作太郎 長女 妻 タケ 明四三、二生、東洋英和女學校、自由學園高等科出身 女 春 明四五、一生、東洋英和女學校、自由學園高等科出身

中村 照子

大二、一生、東洋英和女學校出身、聖心女子學院在籍 君は長崎縣人 中村藤十郎の長男にして明治九年九月二十日を生れ同四十二年家督を相続し同三十二年東京高等商業學校専攻部を卒業し三井物産會社に入り同社上海倫敦各支店員大阪支店次長神戸支店長を歴任し本店營業部長に進む現時日本製糖會社代表取締役兼事務取締役たり長女シゲ(明四二、一生、東洋英和女學校出身)は東京府人ライオン石鹼取締役小林寅次郎に嫁せり(一三三三)(東京市麻布區廣尾町一六電高輪一〇三三) 參照 佐竹次郎の項

中村 藤吉

東京府在籍 明二三、一生、東京、渡多野孝四郎 妻 明三三、二生 君は東京府人 中村平三郎の三男にして大正四年二月を以て生れ同十一年家督を相続す家主たり家族は尙姉喜代子(大二、四生)あり叔父勝治(明二八、一生)は分家し従妹敏子(大五、五生、叔父勝治長女)は東京府人關きの養子となり(一一二八)(東京市牛込區中町一八電牛込一七三三)

中村 精助

昭三、二生 君は静岡縣人先代藤吉の長男にして明治十二年五月十八日を以て生れ大正十二年家督を相続し前名藤八を改め姓名す棉屋と稱し七代目にして小間物化粧品商を營み直接國稅六千三百九十九圓を納め静岡縣多額納稅者に列す前記諸會社の重役を兼ね濱松商工會議所議

同たり又獨力遠江商業學校を創立し商業教育に盡瘁する處から昭和二年特許勳章を賜はるに濱松市會議員たりし事あり家族は尙長女ふじ(六一〇、八生)二女きよ(同二、二生)三女やす(同三、三)五生(四女美代(同二、二生)五女波奈(昭四、二生)あり(濱松市町町一二三電三八、三三〇)

中村 藤助

四日市土地建物、農ヶ浦土地、下里製糖各種取締役、東海電線、名古屋製糖各監査役、三重縣在籍 明四〇、五生、東京山陽高女家事 妻 明二九、一生 男 徳之助 明四〇、五生、東京山陽高女家事 女 きね 専修科出身

中村 藤太郎

東京府在籍 慶應三、二生、富山、水口平五郎 妻 ヨシ 長女 大二、二生、三重、天春文太郎 君は東京府人先代作次郎の長男にして明治四十年二月二日を以て生れ昭和六年家督を相続す家主たり家族は尙弟安次郎(大六、一〇生)あり(一四四四)(京都市麩町區永田町一ノ三二電彌生二六一)

中村 藤兵衛

正四位勳三等、國政研究會代表者 群馬縣在籍 明一八、四生、養父勘藏長女、跡見女學校出身

男 邦彦 大元、九生、東京商大在學
君は群馬縣人太田保次郎の長男にして明治十五年十一月を以て生れ中村勘藏の養子となり昭和二年養弟一方より分れて一家を創立す明治二十三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し會計検査院副検査官衆議院書記官に歴任し屢々朝鮮臺灣支那及西比利等に出張す更に大正十年歐米各國に出張を命ぜられ同十二年衆議院書記官長に任ぜられ警備府財政局參事大體事務官に任ぜられ昭和四年萬國議員商會の爲伯林に出張す同五年官を辭し現時國政研究會を主宰す長女織江(明四〇、八生、三輪田高女出身)は群馬縣人太田戸一男住友銀行員法學士二郎に嫁せりA一〇八(東京市世田谷區北澤三ノ四五六電世田谷三〇〇四)

中村徳三郎

東京府在籍
人夫請負業
妻 かつた 明二〇、三生、千葉、門倉桃太郎
男 法一 大四、九生
女 くに 大二、五生

君は東京府人藤波幸八の三男にして明治十九年十月二十三日を以て生れ先代久太郎の養子となり大正十五年家を相続す人夫請負業たり家族は尙五女善美(大一〇、二生)六女善久子(同一二、五生)七女静代(同一五、四生)あり八女ひさ子(明二、四生)は東京府人藤波金一郎の養子となるA五二二B一九五(東京市本所區練町三ノ一五ノ二電本所三五二八)

中村徳三郎

電氣器具製作業
大阪府在籍
妻 初 安政四、九生、大阪、眞田伊助長女
男 俊夫 大五、七生

君は大阪府人村房吉の長男にして明治二十四年六月を以て生れ昭和五年家を相続す電氣器具製作業を營む家族は尙三男善美(大八、一〇生)四男清同一、七生)二女満知子(同一五、三、五男影(明三、七生)六男昭彦(同六、二生)七男武男(同九、二生)ありA五〇一B一二六(大阪府東區南農人町電東三三四七)

中村徳三郎

井徳商店代表社員、雜穀商
京都府在籍

妻 弘い 明七、一一生、京都、井上治助長女
男 徳治良 明三五、七生
婦 菊枝 明四二、九生、二男徳治郎妻、京
男 秀三郎 明四三、一一生

君は京都府人村萬助の長男にして明治十七年家を相続す合名會社井徳商店の代表社員にして雜穀商を營む家族は尙孫善美子(昭五、五生、二男徳治郎長女)あり長女この(明二七、二生)同夫彌三郎(同二六、六生)京、中村岩松三男)は其に其一子を伴ひ嫁こ(同六、一〇生)同夫辰之助(同元、九生、京都、小井熊次郎等)も共に分家し二女光子(同三八、五生)は京都府人松本彌助二男司馬之助に嫁せりA五四二B一六七(京都市下京區七條通猪熊東入電下二八六)

中村徳次郎

東京市澁谷區會議員
東京府在籍
妻 平三郎 嘉永六、一一生、現戸主
男 倫三 明二三、九生、養父平三郎四女

君は東京府人足立善太郎の二男にして明治十一年三月十六日を以て生れ同府人村平三郎の養子となる現に東京市澁谷區會議員たり家族は尙二男能造(大五、四生)長女善美(同一、八生)三男善治(同一四、二生)二女善美子(昭三、九生)ありA五一七(東京市澁谷區幡ヶ谷幡塚町一〇三)

中村徳重郎

辯護士
宮城縣在籍
妻 多美 嘉永六、七生、宮城、中島清治二女
男 重一 明三六、一一生、辯護士、大沼彦七郎長女、東京女高師出身
男 光三 明四三、九生、山形農大在學
女 幸子 明四四、五生、梅岡高女出身

君は宮城縣人村清作の長男にして明治七年一月を以て生れ同二十五年家を相続す同三十五年東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士となり訴訟事務に従事し日本赤十字社大倉和米井商店新高製糖會社日清製油會社

大島製菓所自木屋吳服店其の他の顧問にして家祿賞典祿事件に就いては大藏大臣の當任代理人たり趣味として和歌書畫を好む長女善子(明三三、一〇生)は高知縣士族前屋權に二女善美子(同四〇、二生)は宮城縣人成田四郎に嫁せりA五六二B一二八(東京市板橋區練馬仲町六ノ五一五六電練馬四七「事務所」越前區丸ノ内一ノ一帝國生命館八階電丸ノ内三三九)

中村徳藏

兵庫縣在籍
妻 市藏 明二六、六生
男 光 明二七、六生、長男市藏妻、兵庫
孫 久子 明四五、七生、長男市藏長女
孫 幸子 大六、八生、長男市藏二女

君は愛媛縣人砂田辰藏の長男にして慶應元年十二月七日を以て生れ先代勝治の養子となり明治二十九年家を相続す現時前記會社の社長たり家族は尙孫政藏(大八、八生、長男市藏三男)同妻(同一、八生、同四男)同干鶴子(同一二、二生、同三女)同徳助(同一四、五生、同五男)あり同勝(同四、三、生、同二男)は分家し同清子(同一五、五生、同四女)は東京府人和田ヒデの養子となれりA八八六(神戸市葺合區小野町五ノ三九電葺合一二八)

中村徳太郎

中利商店、牛肉商
東京府在籍
妻 金一郎 明二一、一一生、東京、加藤八郎右衛門二女
男 初二 明三三、九生、三女鈴夫、和歌山石川米太郎二男
女 鈴 明三七、二生、養子初二妻

君は静岡縣人村利平の長男同利三郎の甥にして慶應三年十一月を以て生れ明治十三年分れて一家を創立す現に中利商店と稱し牛肉商を營業す中利商店は明治八年創業にかゝる老舗なり家族は尙二男徳彦(大一一、一、生)孫清(昭二、一〇生、養子初二男)同妻代子(同四、八生、同二女)同次郎(同六、九生、同三男)同正雄(同

八、九生、同四男)あり二女福(明三一、七生)は茨城縣人板川豊作に嫁し弟國太郎(同三三、一一生)は東京府人古川瀧平の家籍に入れりA三六三B七一(東京市四谷區傳馬町三ノ一電四谷三八一九)

中村富次郎

中村好古堂、書畫骨董商
東京府在籍
妻 延代 明三六、一〇生、養子作次郎三女
君は岐阜縣人河田徳衛の五男にして明治二十五年十月を以て生れ東京府人村作次郎の養子となり大正十一年分れて一家を創立す中村好古堂と稱し書畫骨董商を營む家族は尙長女登代子(大一一、四生)二女正子(同一四、一一生)三女美佐子(昭二、七生)あり(東京市澁谷區南平臺町六電青山六〇三三「店鋪」京橋區京橋一ノ一〇電京橋五二七)

參照||中村作次郎の項

中村富平

ナカ三、風呂敷商
滋賀縣在籍
男 富郎 大一一、二生

君は滋賀縣人村三平の長男にして明治二十六年二月一日を以て生れ大正十年家を相続すナカ三と稱し風呂敷商を營む家族は尙長女良子(昭二、三、生)二女千恵(同三、一一生)弟得平(明三九、九生)同武(大五、四生)あり妹善美(明三四、三、生)は東京府人海軍少佐大西茂昭に嫁せりA八三〇B二五六(東京市日本橋區大傳馬町三ノ八電濱花六〇三)

中村豊吉

從四位勳三等、愛知縣第一師範學校長、京都府士族
明三三、七生
男 康雄 明三三、七生
女 みどり 大元、八生

君は京都府士族中村榮藏の長男にして明治二年七月二十八日を以て生れ同四十二年家を相続す先是明治十八年東京高等師範學校理學科を卒業し茨城愛知各師範學校教諭を経て同三十九年愛知縣第二師範學校長に就任爾來茨城新潟高田各師範學校長に歴任し大正六年愛知第一師範學校長に任ぜられ今日に及ぶ(名古屋市東區千種町高見三七)

君は大府人にして明治二十三年一月十五日を以て生れ同三十年兄中村興三兵衛方より分れて一家を創立す現時大阪株式取引所短期取引員たり家族は尙養子善美子(大一一、七生)ありA一九九五B五四七(大阪府北區島濱通一ノ一〇七ノ三)

中村豊三郎

大阪株式取引所取引員
大阪府在籍
妻 多美 明二六、八生、京都、淺井正之助長女

參照||淺井正之助淺井正太郎の項

中村寅吉

從七位勳六等、湖北銀行事務取
行各務取役、滋賀貯蓄銀行、長濱貯金銀行各務取役、澁江信託、滋賀縣在籍
田商店各務取役、滋賀縣在籍
妻 さと 明一四、二生、滋賀、岡野甚兵衛長女
男 彌一郎 明三九、一一生
女 よし江 明四二、八生
女 てる子 明四五、四生
女 ナ、子 大二、七生
女 とく子 大三、一〇生

君は滋賀縣人村彌十郎の長男にして明治六年三月を以て生れ同十六年家を相続す同三十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり家族は尙四男彌四郎(大九、三、生)一子女たけ子(同一、九生)五男彌五郎(同一三、八生)庶子彌三郎(同一、六生、生母、池田さだ)あり長女ひさ(明三五、三、生)は静岡縣人北河豊次郎三男淑に二女とみを同三六、五生)は滋賀縣人河路孝藏に養子し(同三三、五生、滋賀、河合喜助二女)は同縣人加藤樞三に姉し(同四、一、生)は同縣人榮田源七に二男彌二郎(同四三、一、生)は同縣人山科信之助に九女ふく子(大五、一、生)は同縣人村きくに各養子となれり(滋賀縣坂田郡六莊村)

中村寅三郎

糸屋吳服店取役
男 一四、三、生、養父治兵衛五女
妻 榮基 二女シゲ夫、岩手、下田榮夫二男

參照||北河豊次郎、榮田源七の項

君は大阪府人和田長二郎の弟中村治兵衛の養子にして明治十三年一月二十一日を以て生れ中村家の養子となり大正十五年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時糸屋吳服店取役にして養子銀行監査役に擧げらる長女ミヤ(明三九、七生、日本女大政科出身)は岩手縣人醫學博士山形清生館病院内科部長山崎幸八に養子マサ(同四〇、九生、養父治兵衛庶子、青山女學院専攻科出身)は岩手縣人醫學士青山五一郎に各嫁せり(盛岡市新設町電一〇一八)

中村寅太郎

地主主
東京府在籍
妻 まつ 明三六、七生、千葉、松本好太郎庶子

君は東京府人村政次郎の長男にして明治二十三年十二月十七日を以て生れ大正六年家を相続す地主たり家族は尙二男二郎(大八、三、生)ありA一二七七(東京市江戸川區一色町九八〇)

中村寅之助

正四位勳三等、大林組取役
廣島縣在籍
妻 芳子 明二九、一〇生、東京、士、竹内明太郎三女

君は廣島縣人村文一の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ同二十五年家を相続す大正三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試験に合格直に茨城縣屬となり次で同縣警視廳警務課長西茨城縣島各郡長同縣理事官内務部庶務課各課長長官兼同縣事務官課長兼同縣事務官房主事朝野總督秘書官兼同縣事務官課長兼同縣事務官房主事朝野總督秘書官各課長土地改良部長殖産局長に歴任し昭和七年四月退官し現時株式會社大林組取役たり大正十四年及昭和元年歐米各國に出張す家族は尙二女總子(大一一、一、生)二男徳壽(同一四、一、生)三男徳昭(昭二、九、生)四男孝四郎(同四、一、生)ありA七五二(兵庫縣武

十之部 中(村)

(※印は姻族關係)

車部鳴尾村亥子角一五電西宮三三三三)
參照 白石石多士良中田黨中山久雄の項

に盡す御大禮に際し文部大臣より表彰する讀書及
行に趣味を有すA二三七三(神戸市兵庫區小物屋町五
一電兵庫二〇〇五)

中村 寅松
東京府在籍
妻 信子 明二四、一、一、東京、士、内田
男 廣徳 大九、一〇、一〇、生

中村 直次郎
静岡製茶所専務取締役、中
村製茶所、中村製茶所、大井川鐵道
各取締役、藤枝合同運送監査
役、静岡縣在籍
妻 かね 明一〇、六、生、静岡、大畑新一郎妹
男 圓次郎 明三三、一、一、生

君は長野縣士族中村忠順の長男にして明治十一年二月
を以て生れ後家を相繼ぎ同三十八年東京帝國大學文
科大學哲學科を卒業し同三十七年長野縣師範學校教諭
に任じ爾來島根縣立第一中學校教諭栃木縣立真岡中學
校長に歴任し大正三年臺灣總督府國語學校教授兼生徒
監に任ぜられ同七年三重縣立第四中學校校長を経て同九
年第八高等學校教授生徒監に任じ昭和三年同校生徒主
事兼教授となり昭和九年五月十二日京城帝國大學農科
教授兼同大學教授兼農科部長に任ぜられ家族は尙五女順
子(大一一、二、二、生)六女和子(昭二、一、一、生)あり妹奈加
(明一四、一、二、生)は前大牟田市長工學士與村長作に嫁
し長女春江(明四三、三、生)は神宮皇學館教授酒井秀夫
に嫁せり(京城府東四軒町大學官舎一號電本局二七八
九)

君は静岡縣人中村圓藏の二男にして明治三年五月を以
て生れ同三十年兄圓一郎方より分れて一家を創立す現
時前記各會社の重役にして兼に推されて静岡縣議員
たりしことあり家族は尙孫彦彦(昭二、五、五、生、長男圓
二郎長男)同圓時(同四、二、二、生、同二男)同弘子(同六、
二、一、生、同長女)同日奈子(同九、六、六、生、同二女)あり
長女楚恵(明二八、七、七、生)は東京府人金長一に嫁せり
(静岡縣原部吉田村電四八)

參照 中村長作の項
中村 直吉
兵庫縣在籍
妻 たま 明一四、八、生、兵庫、竹澤清吉二女
男 平吉 大一一、一、二、生

中村 長正
東京府在籍
妻 昌弘 明一八、九、生、東京、西川善次郎
女 長女 明四四、二、生

君は兵庫縣人中村淺五郎の男にして明治十三年八月を
以て生れ同二十年家督を相繼ぎ現に神戸取引所常務理
事にして曾て兵庫縣會副議長に擧げられ大正十一年取
引所及仲買人制度視察のため歐米に遊び常に社會事業

君は東京府人中村金正の二男にして明治四十二年五月
を以て生れ前名長次郎を改め兄與太郎の養子となり家
督を相繼ぎ地主として知らるA九九四(東京市淀橋區
戸塚町四ノ七四一)

中村 半左衛門
武陽銀行取締役、青梅電氣鐵道
監査役、東京府在籍
妻 ハマ 文久元、二、生、東京、山口平太夫
女 二女

中村 彦
正四位勳三等、農學博士、朝鮮紡
織總務主任監査役、東京府士族
妻 正三 明三三、九、生、鹿兒島、士、故岸
男 三介 明三三、一、二、生、帝國蠶絲倉庫會
社員、慶大出身

任じ昭和八年陸軍中將に擢進す其間日露戰役に出征次
で陸軍大學校を卒業し爾 步兵第二聯隊長東京帝國大
學服務隊軍人事務課長歩兵第十九旅團長に補せ
られ滿洲に駐劄次第第四師團司令部附となり昭和八年
待命後豫備役被仰付義に軍事研究の爲獨逸兩國に駐在
す家族は尙二男瑞夫(大四、八、八、生)三男直彦(同六、八、
八、生)六女華子(同九、一、〇、生)孫孫(昭五、五、五、生)長男幸
彦(昭三、八、二、生)は愛知縣士族松澤公平に嫁し二女都
福子(同四、〇、一、二、生)は東京府人大橋武一の養子とな
れりA一四八(東京市中野區城山町二五)

君は大阪府人先代半兵衛の長男にして明治十七年九月
を以て生れ大正五年家督を相繼ぎ新太郎を改め養
子と稱し錫器商を營む家族は尙二男泰造(大六、
一、一、生、市立工藝學校在學)二女サト(同二、一、二、生)
あり長女篤江(明四四、三、三、生)弟親治(同二四、六、六、生)同
松三郎(同二七、三、三、生)は各分家し同和五郎(同二〇、四、一、
生)は大阪府人平井くの養子となりA五二〇B一
九三(大阪府東區藤山通二ノ四五電船場一三〇〇)

中村 半兵衛
大阪府在籍
妻 雪榮 明二五、二、生、大阪、津瀬格兵衛
女 三女

君は福岡縣人中村彦次郎の長男にして慶應三年四月十五
日を以て生れ明治四十四年家督を相繼ぎ前名雄藏を改
む夙に實業界に入り現時南筑軌道會社取締役たり義に
兼議院議員に擧げらる弟四郎(明一四、一、一、生)同妻シ
ヅノ(同二三、一、一、生、大分、士、松下爲敬長女)は其
一男を伴ひ分家し妹シヅノ(同九、五、五、生)は福岡縣士族八
女銀行頭取江口正雄に同シヅノ(同二五、七、七、生)は山口
縣人陸軍歩兵大尉中根徳一に嫁せり(福岡縣八女郡川
崎村)

中村 直吉
妻 茂久 明四一、七、七、生、長女よね夫、兵庫
女 小田田幹郎弟
養子 よね 大一一、一、〇、生、養子茂久妻
長女 明三四、九、九、生、兵庫、平瀬龜太郎
女 幸 大八、八、八、生

中村 彦介
福岡縣在籍
妻 キナ 弘化四、三、生、福岡、角市平四女
女 正枝子 大元、一、二、生

中村 半三郎
東京府在籍
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は島根縣士族中村千次郎の長男にして明治二十二年
二月八日を以て生れ同二十六年家督を相繼ぎ大正五年
東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に
入り秘書役名古屋神戸福岡各支店支配人を歴任し現時
同行參事にして大阪支店支配人たり義に兼歐米に出張す
家族は尙長女彌子(大一一、〇、二、生)三女文子(同二、一、
一、〇、生)三女美保子(同二、一、五、五、生)四女英子(生年月同
上)五女京子(昭四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村
芦屋中ノ内一〇五〇電西屋三六六五)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は大阪府人先代半兵衛の長男にして明治十七年九月
を以て生れ大正五年家督を相繼ぎ新太郎を改め養
子と稱し錫器商を營む家族は尙二男泰造(大六、
一、一、生、市立工藝學校在學)二女サト(同二、一、二、生)
あり長女篤江(明四四、三、三、生)弟親治(同二四、六、六、生)同
松三郎(同二七、三、三、生)は各分家し同和五郎(同二〇、四、一、
生)は大阪府人平井くの養子となりA五二〇B一
九三(大阪府東區藤山通二ノ四五電船場一三〇〇)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は福岡縣人中村彦次郎の長男にして慶應三年四月十五
日を以て生れ明治四十四年家督を相繼ぎ前名雄藏を改
む夙に實業界に入り現時南筑軌道會社取締役たり義に
兼議院議員に擧げらる弟四郎(明一四、一、一、生)同妻シ
ヅノ(同二三、一、一、生、大分、士、松下爲敬長女)は其
一男を伴ひ分家し妹シヅノ(同九、五、五、生)は福岡縣士族八
女銀行頭取江口正雄に同シヅノ(同二五、七、七、生)は山口
縣人陸軍歩兵大尉中根徳一に嫁せり(福岡縣八女郡川
崎村)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は島根縣士族中村千次郎の長男にして明治二十二年
二月八日を以て生れ同二十六年家督を相繼ぎ大正五年
東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に
入り秘書役名古屋神戸福岡各支店支配人を歴任し現時
同行參事にして大阪支店支配人たり義に兼歐米に出張す
家族は尙長女彌子(大一一、〇、二、生)三女文子(同二、一、
一、〇、生)三女美保子(同二、一、五、五、生)四女英子(生年月同
上)五女京子(昭四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村
芦屋中ノ内一〇五〇電西屋三六六五)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は島根縣士族中村千次郎の長男にして明治二十二年
二月八日を以て生れ同二十六年家督を相繼ぎ大正五年
東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に
入り秘書役名古屋神戸福岡各支店支配人を歴任し現時
同行參事にして大阪支店支配人たり義に兼歐米に出張す
家族は尙長女彌子(大一一、〇、二、生)三女文子(同二、一、
一、〇、生)三女美保子(同二、一、五、五、生)四女英子(生年月同
上)五女京子(昭四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村
芦屋中ノ内一〇五〇電西屋三六六五)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は島根縣士族中村千次郎の長男にして明治二十二年
二月八日を以て生れ同二十六年家督を相繼ぎ大正五年
東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に
入り秘書役名古屋神戸福岡各支店支配人を歴任し現時
同行參事にして大阪支店支配人たり義に兼歐米に出張す
家族は尙長女彌子(大一一、〇、二、生)三女文子(同二、一、
一、〇、生)三女美保子(同二、一、五、五、生)四女英子(生年月同
上)五女京子(昭四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村
芦屋中ノ内一〇五〇電西屋三六六五)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は島根縣士族中村千次郎の長男にして明治二十二年
二月八日を以て生れ同二十六年家督を相繼ぎ大正五年
東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に
入り秘書役名古屋神戸福岡各支店支配人を歴任し現時
同行參事にして大阪支店支配人たり義に兼歐米に出張す
家族は尙長女彌子(大一一、〇、二、生)三女文子(同二、一、
一、〇、生)三女美保子(同二、一、五、五、生)四女英子(生年月同
上)五女京子(昭四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村
芦屋中ノ内一〇五〇電西屋三六六五)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は島根縣士族中村千次郎の長男にして明治二十二年
二月八日を以て生れ同二十六年家督を相繼ぎ大正五年
東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に
入り秘書役名古屋神戸福岡各支店支配人を歴任し現時
同行參事にして大阪支店支配人たり義に兼歐米に出張す
家族は尙長女彌子(大一一、〇、二、生)三女文子(同二、一、
一、〇、生)三女美保子(同二、一、五、五、生)四女英子(生年月同
上)五女京子(昭四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村
芦屋中ノ内一〇五〇電西屋三六六五)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は島根縣士族中村千次郎の長男にして明治二十二年
二月八日を以て生れ同二十六年家督を相繼ぎ大正五年
東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に
入り秘書役名古屋神戸福岡各支店支配人を歴任し現時
同行參事にして大阪支店支配人たり義に兼歐米に出張す
家族は尙長女彌子(大一一、〇、二、生)三女文子(同二、一、
一、〇、生)三女美保子(同二、一、五、五、生)四女英子(生年月同
上)五女京子(昭四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村
芦屋中ノ内一〇五〇電西屋三六六五)

中村 半三郎
妻 千代 明一一、一、一、生、東京、田中保次郎妹
女 多喜藏 明四一、一、一、生
女 ステテ 明四四、二、二、生
女 政子 大三、五、五、生

君は島根縣士族中村千次郎の長男にして明治二十二年
二月八日を以て生れ同二十六年家督を相繼ぎ大正五年
東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に
入り秘書役名古屋神戸福岡各支店支配人を歴任し現時
同行參事にして大阪支店支配人たり義に兼歐米に出張す
家族は尙長女彌子(大一一、〇、二、生)三女文子(同二、一、
一、〇、生)三女美保子(同二、一、五、五、生)四女英子(生年月同
上)五女京子(昭四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村
芦屋中ノ内一〇五〇電西屋三六六五)

十之部 中(村)

(※印は姻族關係)

三に嫁せりA二一七九(大阪府西成區玉出本通一ノ六
○電番一七六六)
中村兵左衛門 堺屋、酒商
母 慶應二二二生、和父兵左衛門長女
妻 明二五、一三二生、東京、青山源次
男 千代 大四〇、八生
女 美代 大六、九生

君は東京府人中村兵左衛門の二男にして明治二十二年三月を以て生れ大正十一年先代母の没後を承け家督を相續し前名廣次郎を改む堺屋と稱し酒商を営む家(同五、七生)あり長女福(明四五、二生)は東京府人中村勝七長男延太郎に嫁せりA四六九B二〇四(東京府中下谷區池之端仲町二六番下谷三三四)

中村 弘 酒田市會議議長、酒田商工會議所顧問、島海電力社長、山形縣在籍
男 幹 明二四、一三二生、現戸主
妻 八重 明三二、一三二生、長男幹雄妻、山形
孫 照子 大八、一三二生、長男幹雄長女

君は山形縣土族中村與惣右衛門の二男にして慶應二年一月十六日を以て生れ明治二十八年明重太郎より分れて一家を創立し同年退隱す現時島海電力會社社長たり家族は尙孫八代并(大九、一〇生、長男幹雄二女、同洋子(昭二、九生、同四女)あり長女ミヨシ(昭二、九生)は同夫徳松(同二五、四生、山形、伊藤辰五郎二男)と共に其一子を伴ひ分家し二女みゆき(同三八、七生)は福島縣人山岸清七二男經治に嫁せり(酒田市寺町電四六一)

中村弘二郎 地主
母 キヨ 明一〇、一三二生、東京、山本濱太
姉 明一〇、一三二生、東京、山本濱太

三、二生)あり姉婿子(明三九、四生)は東京府人上原嘉一郎長男嘉一に嫁せりA七二六(東京府本郷區駒込上富士前町一三一電大塚四七四三)
參照上原嘉一郎の項

中村 博吉 王子製紙會社社員
母 千代 山口縣在籍
妻 重子 明四〇、九生、東京、今村繁三
女 成高 高女出身

君は山口縣人中村是公の長男なり先代是公に帝國大學法科大學を卒業し官界に入り關東都府民政長官南滿洲鐵道會社總裁等に歴任し從三位勳二等に叙せられ後貴族院議員に勲選され大正十三年より十五年迄東京市長に在りたる君は明治三十三年九月を以て生れ昭和二年家督を相續し同四年東京帝國大學經濟學部を卒業し直に王子製紙會社に入り現在に至る趣味に乘馬寫眞あり家族は尙孫小二郎(明三六、三三)あり姉信(同二七、八生、學智院女學部出身)は東京府土族山口宗二二男與雄に嫁せり(昭三、一〇生、學智院女學部出身)は男與富井政章長男周(同三八、八生、御茶の水高女出身)は子爵上原七之助に嫁せりA三六〇(東京府中區羽根町八九電青山六六〇四)
參照上原七之助、今村繁三、富井周、山口張雄、男爵松井慶四郎、井上周、今村信吉、中田萬藏、櫻井小太郎、渡邊龍聖の項

中村 廣一 横濱商工會議所議員、山中商店、石炭石油商、神奈川縣在籍
妻 明四〇、七生、山梨、三木由三郎
女 二女

君は兵庫縣人中村兼義の長男にして明治三十年十二月六日を以て生れ昭和七年家督を相續し石炭石油商を營み山中商店と稱す又推されて横濱商工會議所議員たり家族は尙長女惠子(昭二、六生)二女彰子(同八、六生)あり妹富美子(大三、一〇生)は東京府人大森幹男に嫁せりA五七五B二六九(横濱市中區吉濱町一四電長者町一〇〇一)
正八位、衆議院議員(長崎縣選出)長崎日新報社取締役、長崎女子商業學校校長、長崎縣在籍

君は長崎縣人にして明治二十四年二月を以て生れ長崎中學校を卒(陸軍歩兵少尉に任じ長崎縣會議員に選ばる長崎女子商業學校を設立經營し長崎日日新聞社取締役たり昭和七年黨より選ばれて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨に屬す(長崎市鳴瀬町電三四五四)

中村 不折 正五位、帝國美術會會員、東京朝日新聞社客員、洋畫家
母 丙午郎 明三九、一三二生、早大文科出身
妻 信子 明四二、一三二生、長男丙午郎妻、茨城、晴嘉一郎二女
男 想 明四〇、九生、富山房勳務、早大英文科出身

君は長野縣人中村孫藏の長男にして不折又は環山と號す慶應二年七月を以て生れ明治四十三年家督を相續す南畫を眞摯雲郷に洋畫を小山正太郎洋井忠に就きて學び明三十四年佛伊英各國に留學して精勵刻苦洋畫を研究すること数年歸朝して同十年文部省美術展覽會に油繪を出品して入選の榮を擲ひしより名聲日に揚り爾來同會又帝國美術展覽會に出品して常に入選し洋畫界の巨匠を以て目する大正八年帝國美術會會員に任命され今日に至る又東京朝日新聞社客員たり先是佛國巴黎萬國大博覽會に油繪を出品してコンシヨノナラプ賞を授與されしことあり餘力を南畫及金石文に注ぎ書道に於て亦一家を成し其蒐集するところ大阪の珍と稱せらる長女ミネヲ(明三三、一〇生)は大阪府人高田松太郎長男三郎に嫁せり(東京府中區下谷區根岸町一二五電根岸六九四)
參照高田松太郎、根岸秀雄の項

中村富士太郎 地主
母 明一五、一三二生、大阪、金谷カネ
妻 良 明三五、八生、大阪、梅垣延藏長女
男 道夫 大二四、一三二生

君は大阪府人中村富五郎の長男にして明治三十四年九月十日を以て生れ昭和七年家督を相續す家主たり家族は尙二男信夫(昭二、六生)三男正延(同五、一〇生)長

女 子(同七、九生)ありA四四八(大阪府南區日本橋筋三ノ八一)

中村武右衛門 鹿兒島縣多額納稅者、地主
男 武兵衛 明三五、一〇生
女 エイ 明二五、一〇生

君は鹿兒島縣人中村喜兵衛の長男にして萬延元年十一月を以て生れ明治二十九年家督を相續す義に贊油醸造業及質屋業を經營せしも後之を廢し現時地主たり鹿兒島縣多額納稅者にして直接國稅四千八百九十九圓を納む家族は尙二男武兵衛妻照子孫成子(二男武兵衛長女)同家族は尙二女あり長女シナ(明一七、五生)は鹿兒島縣人濱田熊次郎長男米藏に二女エタ(同二〇、一〇生)は同縣人大磯幸兵衛に四女タメ(同三四、五生)は東京府人前田達之妹クラ(同八、一三二生)は鹿兒島縣人飯黒伊太郎に嫁せり(鹿兒島市樋ノ口町二六八二)

中村 福助 二代目高砂屋、歌舞伎俳優
(徳木伊之助) 大阪府在籍
妻 みの 明二五、七生、兵庫、久保武一六女
男 徳太郎 明四三、八生

當家は先代中村梅玉(徳木徳助)より家名を揚ぐ梅玉は京都府人佐々木徳兵衛の三男にして初代高砂屋を號し二代目福助歿後三代目福助の名跡を繼ぎ藝名大に揚る後梅玉と改め爾來中村福助と共に關西劇壇に重きをなす君は大阪府人片岡竹松の長男にして明治八年一月十四日を以て生れ先代梅玉の養子となり大正十二年家督を相續す先是明治四十年十月四日福助を襲名し俳優名を三雀と號す同十三年中村芝翫來阪中座に於て「菅原道真」上演の際小太郎に扮し初舞臺を踏む同十九年養父と共に上原中村座に「日蓮記」の目清に扮し好評を博し爾來養父と共に出演其鮮麗なる女形藝風は大坂劇壇を風靡するに至り同四十年角座に於て「矢口の渡」にお母を勤め一等俳優に昇進す當り役は「先代萩の政嗣」と「紙治」のおさん「河庄」の小春等に於て東京の故郷助と共に梨園屈指の女形として並び稱せらる(兵庫縣武庫郡精進村山宮屋電番三〇四八)

中村房次郎 日本經聯、横濱株式取引所各理事、横濱商工會議所常議員、日本銀行各部長、スチン、商會代表取締役、大成火災保險、漢口海上保險、京濱電氣鐵道、漢口工業、漢口銀行、日本金庫工業各取締役、漢口電氣鐵道、漢口工業、漢口銀行、日本カネ、各取締役、日米石油、青島製粉、常盤製粉、各取締役、増田屋製粉、常盤製粉、各取締役、神奈川縣在籍

君は神奈川縣人中村嘉兵衛の二男にして同増藏の弟同増太郎の叔父なり明治三十年十月を以て生れ先代初太郎の養子となり同十六年家督を相續す横濱商業學校出身にして現時松尾鐵業會社社長たる傍ら前記各會社の重役たり又推されて横濱商工會議所常議員に擧げらる(同三十八年及昭和四年の兩度歐米を視察す家族は尙孫一(大一一、一〇生、二男正雄長男)同雄二(昭三、七生、同二男)同洋(同五、五生、同長女)あり長女節(明三、一〇生)は長野縣人松崎謙二郎に五女駕(同三六、三三)は東京府人福田董に嫁せりA一四三二B二五(横濱市中區月岡町九電長者町一八八)
參照松尾鐵業、増田増太郎、茂木惣兵衛、男爵長與立吉、鈴木富士彌の項

中村 文夫 日本飯館子奪取役兼營業部長
父 兼 文久元、一三二生、現戸主
妻 貞江 明三二、七生、兵庫、玉置福義三女

中村平三郎 地主
母 徳次郎 明一一、三三
君は東京府人宇田川徳右衛門の二男にして嘉永六年一月三日を以て生れ先代平三郎の養子となり後家督を相

男 一 夫 昭三、三三
君は兵庫縣土族中村兼綱の二男にして明治二十九年五月三十一日を以て生る現時美前會社の重役にして營業部長を兼ね家族は尙長女登美(大一一、三三)弟峻夫(明二九、五生)同妻直子(同三七、三三)富山、正村義一(妹)及其二女あり妹秀(同三一、八生)は京都府人與野長太郎長男泰助に嫁せりA三九六(兵庫縣武庫郡魚崎町五七二電御影二五二)

中村 文平 正五位、醫學博士、大阪帝國大學教授、醫學部勤務、長野縣在籍
妻 よし子 明二九、一三二生、養母さき長女
男 英 石 大二三、八生

君は長野縣人中村美壽彌の二男にして明治十九年二月七日を以て生れ大正三年先代よしのの夫となる明治四十四年大阪醫科大學を卒業し同大學教授に任じ昭和六年大阪帝國大學の創設と共に同大學教授となり醫學部勤務を命ぜられ今日に至る業に醫學博士の學位を受く家族は尙二男文男(大七、一三二生)長女博士(同二〇、一二生)三男道起(同三一、一〇生)ありA五八九(大阪府東區安土町一ノ一五電本町一三八八)

中村平一郎 左官業
母 ヒラ 安政二、四生
妻 ウノ 明一二、九生、和歌山、塚本元右
男 ヤスエ 明四四、一三二生、京都、北澤利一

續す地主たりA一六〇四(東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一〇三)

中村 正保 地家主

母 タイ 明九、四生、中村謙太郎長女
妻 君 枝 大九、九生、茨城 鈴木利八二女
女 玲 子 昭九、三生

中村 政五郎 伊勢茂、荒物商

妻 ツ タ 明三、二、六生、新潟、栗原虎一郎
母 富太郎 明三五、四生
妻 松 世 明三七、五生、長男富太郎妻、東
男 幸次郎 明四一、七生
男 吉三郎 明二、四生

君は東京府人田口吉衛門の五男にして明治六年一月三十日を以て生れ先代茂兵衛の養子となり同三十三年家督を相続す伊勢茂と稱し荒物商を営む家族は尙孫綾子(六一五、二生、長男富太郎長女)同政男(昭三、二生、同長男)同邦男(同二、一〇生、同二男)あり長女フミ(明三二、一〇生)は東京府人栗原源太郎に嫁せりA三五四B一〇〇(東京市日本橋區人形町二ノ五電通花四〇三九)

中村 萬治郎 萬成土地建物鑑定役

母 む め 安政元、一生、京都、川村忠敬二女
妻 五 い 長女
妻 永 治 明四四、九生、大阪、小久保信太
郎五男、萬成土地建物鑑定役
君は京都府人中村萬兵衛の長男にして明治九年七月五日を以て生れ大正十一年家督を相続す現時萬成土地建物鑑定役たりA五三三(京都市上京區室町寺ノ内上ル三丁目電通二一九九)

中村 税 小松製作所専務取締役

妻 と し 明二、九生、岐阜、士、小寺芳次郎長女
君は宮城縣人村岡弘一郎の二男にして明治九年八月を以て生れ先代忠吾の養子となり同四十二年家督を相続す同三十五年東京高等商業學校を卒業し日本郵船會社に入り後猪苗代水力電氣會社調度課長に轉じ同社の東京電燈會社と合併するや其總務部に入り歐米各國を漫遊する事一ヶ年歸朝後小松製作所専務取締役に擧げられ現時に至るに東京建設會社取締役を兼ねし事ありA五三九(東京市澁谷區百人町三ノ三七三)

中村 峰夫 廣島商工會議所議員、藝備鐵道

母 タ マ 長女
妻 チ ヨ 明二七、三生、山口、徳田誠一、二女
男 要 大七、一生
君は廣島縣士族中村數之助の二男にして明治十五年六月七日を以て生れ大正十年家督を相続す明治四十一年山口高等商業學校を卒業し現に藝備鐵道會社社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙三男三男(昭三、三生)あり弟昌夫(明二六、八生)同妻泰(同三三、五生、廣島古河慎吾長女)は其一男一女を伴ひ分家せり(廣島市磯町一三三電一〇四九)

中村 峰吉 從六位勳五等、在郷軍人會品川分

妻 コ ヒロ 明二六、二生、東京、後藤與四郎
長女
妻 静 男 明三五、四生、長女婦佐子、長
女 婦佐子 明四三、一〇生、養子静男妻
女 ふく子 大七、九生
君は長野縣人小島清兵衛の長男にして慶應三年十二月二十三日を以て生れ先代茂八の養子となり明治二十八年家督を相続し前名茂七を改め養子先代の業を承継荒物乾物商を営み大阪屋と稱す業に日本橋區會議員に擧げらるる家族は尙孫文徳(昭五、八生、長男茂吉長男)同元(同九、二生、同二男)あり二女政(明二七、七生)は東京府人鹿島千代の養子となり四女好子(同三五、八生、御茶の水高女出身)は東京府人白石甚兵衛三男東京モスリン會社取締役徳三郎に養はる(同五一、一生)は同府人加藤平次郎に嫁せりA三三三B四九〇(東京市日本橋區小網町一ノ一四電花二二三三)

中村 實 福岡縣多額納稅者、中村商店總社長、清力酒造總代表取締役、中村商會理事、取締役、玉屋吳服店總監査役、福岡縣在籍
妻 キ ヲ 明二九、一一生、福岡、中村和三四女
君は福岡縣人中村綱次郎の長男にして明治二十五年二月を以て生れ大正九年家督を相続す現時中村商店社長たる外前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅九百五十五圓を納む家族は尙二女ハナ子(六一〇、三生)弟豊(明三七、五生)あり(福岡市大濠町電五七六)

中村 武羅夫 小説家

父 讀 次 文久元年生
母 芳 江 元治元年生
妻 ま す 明二二年生、東京、原島氏女
男 隆 司 大一年生
君は北海道人中村積次の長男にして明治十九年十月四日を以て生れ昭和三年家督を相続す夙に文學を志し東京に出て眞山青果の門を叩き次いで故小栗風葉に師事して研究すること数年後新潮社に入りて雜誌「新潮」の編輯員となる傍ら創作に精進し文名年と共に揚る現に雜誌「新潮」の編輯を總攬し文壇一方の覇者として目せらるる他に小説評論隨筆の類から其主なるものを擧ぐれば長篇に「悪の門」「群官」「蒼白き薔薇」「緑の春」「心の太陽」等評論に「花園を荒す者は誰だ」等あり著書器釣魚に興味を有す家族は尙長女登(大一年生)ありA一二九三(神奈川県高座郡藤澤町辻堂海岸電通二八)

中村 茂八 大阪屋、荒物乾物商

妻 べ ん 明二、四生、養父茂八長女
男 茂 吉 明三二、五生
女 津屋子 明三七、一生、長男茂吉妻、東京
女 千代乃 明四二、七生、九段精華高女出身

中村 最八 大坂府在籍
妻 せ い 元治元、六生
母 ゆ う 明二七、五生、大阪、小澤新六妹
君は兵庫縣人池田三九郎の長男にして明治二十四年七月を以て生れ先代茂八の養子となり昭和六年家督を相続し前名萬作を改め養子家主たり家族は尙三男甫(大一一、一生)五男泰(昭七、三生)六男章(同九、五生)ありA一三六六(大阪府東區伏見町五ノ五電本局四七〇八)

中村 彌一郎 京家主

母 ま さ 明一一、二生、京都、大森佐吉
君は京都府人中村彌三郎の長男にして明治四十三年十一月二十四日を以て生れ昭和二年家督を相続す家主たり家族は尙妹たか(大三、八生)あり姉芳(明四〇、七生)は分家せりA四八二(京都市上京區新橋木町通九太町下ル西側電上二九八〇)

中村 彌八 日東絹布、特許硝子工業各

妻 つ ま 明一〇、三生、愛知、植田茂平妹
男 健一郎 明三〇、七生
女 道子 明三二、七生、長男健一郎妻、東京、伊藤泰文妹

中村 峰二 硝子商
妻 甚 平 嘉永三、二生
妻 こ ま 明八、九生、養父甚平庶子
男 豊 一 明二八、一一生
妻 江 美 明三三、一一生、長男豊一妻、大阪、吉田仙之助二女
君は大坂府人柏木理介の三男にして明治六年六月二日を以て生れ同三十七年先代甚平の養子となり同三十八年家督を相続し前名新吉を改め硝子商を営む家族は尙孫富子(大九、九生、長男豊一妻)あり長女滿(明三二、一〇生)は大坂府人松井幹一に二女フツ(同三四、二生)は兵庫縣人田中儀一に三女フジ(同三七、二生)は大坂府人玉置三郎に嫁せり(同二一、三生)は兵庫縣人福井莊藏に嫁せりA八九四B二二四(大坂府東區淡路町二ノ一電不局一〇二二)

中村 實 香川縣多額納稅者、琴平電鐵取締役、鹽江温泉鐵道總監査役
妻 壽 榮 明二二、六生、香川、津原辰雄妹
妻 静 子 明四五、三生
妻 正 二 明四三、六生
女 正 子 明四三、六生
女 勝 子 大四、九生
君は香川縣人中村貞七の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正八年家督を相続す現時前記各會社の重役にして直接國稅九百七十五圓を納む香川縣多額納稅者に列す家族は尙三男徳三郎(大六、二生)四男慶四郎(同七、六生)三女道子(同二〇、一〇生)四女房子(同二〇、一〇生)あり

中村 實 兵庫縣多額納稅者、賣商
妻 千 代 明三四、八生、二男曠一妻、大阪
女 田 鶴子 明四五、二生
中村家は其祖播州より出て、醤油醸造販賣業を開始したるに始まる君は先代彌兵衛の長男にして明治元年四月八日を以て生れ同十九年家督を相続し前名彌太郎を改め養子後祖業を義兄に承讓して賣商を開始し現時縣下の多額納稅者に列し直接國稅一萬五千八百六十圓を納め賣商家として知らる(神戸市兵庫區江川町五四電兵庫二二六九)

中村 安次郎 從五位勳六等、茨城縣書記官、内務省事務官、兵庫、東京府在籍
妻 チ ヨ 明三一年生、兵庫、伊藤孝次妹、京都府立第一高女出身
男 清 行 大九年生
君は東京府人中村清一の二男にして明治二十二年五月二十二日を以て生れ大正八年分れて一家を創立す同四年文官高等試験に合格す同五年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し三井銀行に勤務し後京都府屬となり爾來同警部同警視同理事官地方事務官内務事務官を經て昭和二年石川縣書記官に任じ警察部長に補せられ次で新潟縣警察部長秋田縣内務部長高知縣内務部長等に歴

任し同七年茨城縣書記官内務部長に轉じ現在に至る大正九年佛蘭西及歐洲各國に出張を命ぜらる。園藝乘馬水泳ゴルフ野球等に趣味を有す。家族は尙長女敬子(大一年生)二男英行(同一三年生)あり(水戸市上市三ノ九一一九官舎電六六)

中村保太郎 洋傘骨商
東京府在籍
妻 アサ 治郎四女
男 喜一郎 大六、一〇生
女 まさ 大六、一〇生

君は東京府人先代保太郎の長男にして明治十九年十二月三十日を以て生れ大正七年家督を相続し前名金次郎を改め名洋傘骨商を営む。家族は尙二男武(大九、六生)二女きよ子(同一、四生)三女裕子(昭四、八生)あり弟正三郎(明二六、一〇生)は分家し妹つね(同三一、九生)は東京府人藤田正吉に嫁せりA五〇〇B八七(東京市神田區久右衛門町五電漢花三三三三)

中村祐平 名古屋味噌酒醸造業
愛知縣在籍
妻 すゞ 長女
男 與右衛門 明二二、一〇生、現戸主
女 みち 明一八、三三

君は愛知縣人小村清兵衛の三男にして安政三年八月二十七日を以て生れ大正十五年退隱と共に前名與右衛門を改め入望厚く資産家にして現時名古屋味噌酒會社社長職たりA二七三七(名古屋市中區東區屋敷町二ノ二五電東三九二)

中村雄太郎 長崎縣多額納税者、倉庫業並質商
長崎縣在籍
妻 トマ 女
男 義一郎 明二四、一〇生、長女榮子夫、長女榮子 明三六、二生、養子卯一郎妻
女 清子 大五、一〇生

君は長崎縣人小村文次郎の長男にして明治十一年七月

を以て生れ同三十七年家督を相続し倉庫業並質商を營み縣下の多額納税者にして直接納税千四百一圓を納む。家族は尙孫重平(大一〇、二生)養子卯一郎長男、同重明(同一、八生)同二男(同一、三)一、一生、同長女(同重昌)同四、七生、同三男(伯父嘉平太(嘉永元、一一生)あり弟嘉一郎(明一四、三三)は分家し妹メイ(同二五、八生)は長崎縣人太田茂雄に同アイ(同二八、一二生)は同縣人山田清に嫁せり(長崎市浦五島町三一電四九〇)

中村豊 正五位勲四等、北海道帝國大學教授、醫學部勤務、東京府士族
愛知縣在籍
妻 とく 長女
男 源 一 大一二、五生

君は東京府士族中村良益の四男にして明治二十一年七月を以て生れ大正元年東京帝國大學醫學科を卒業し三浦内科醫局員となり爾來傳染病研究所技手同技師東京帝國大學助教授を経て同九年歐米に留學し留學中北海道帝國大學助教授に任ぜられ同十一年教授に進み引續き現に其職に在り。家族は尙長女美代(大九、一一生)兄謙吉(明一、四生、現戸主)同妻きく(同一八、八生)同弟、應森貢一郎(明一、四生)及其子女あり(札幌市北二條四十八丁目電札幌一四〇)

中村豊 從七位、醫學博士、醫師
愛知縣士族
妻 きよ 長女
男 義一郎 明四〇、二生

君は愛知縣士族中村平七郎の長男にして明治十五年十一月を以て生れ大正十五年家督を相続し明治三十五年愛知縣立醫學科を卒業し同三十六年四月より東京帝國大學醫學科大學耳鼻喉科教室にて研究し同三十八年七月愛知縣立醫學專門學校助教授兼愛知病院耳鼻喉科

若林乙吉長男新一郎に嫁せり(滋賀縣神崎郡五峰村) 參照 安藤與惣次郎、伊藤長兵衛の項

八、三生)あり同いね(同二〇、一〇生)は愛知縣人小出庄兵衛に同うい(同二五、八生)は同縣人瀧六郎に嫁せりA九三〇(名古屋市中區東區屋敷一ノ二五電東三九二) 參照 小出庄兵衛、瀧六郎、瀧廣三郎、瀧義郎、瀧富田重郎の項

中村與三兵衛 大阪堂鳥米穀取引所取引員
大阪府在籍
妻 キヌ 郎妹
男 善治郎 明四〇、八生
女 千代 明三三、七生、相愛高女出身
女 しま 明三六、三三

君は大阪府人小村與三兵衛の長男にして文久二年二月二十一日を以て生れ明治五年家督を相続し現時大阪堂鳥米穀取引所取引員たり。家族は尙四男彦次郎(大七、一一生)あり二女千代(明三三、七生)は分家し四女惠美子(大一一、七生)は分家三郎の養子となりA一〇〇八七B二七六(大阪府北區堂島上二ノ三四電北一一三三) 參照 中村豊三郎の項

中村與資平 中村建築事務所主、建築設計監督
愛知縣在籍
妻 きし 明一八、一〇生、現戸主
男 邦一 明四三、一〇生、早大建築科在學

君は靜岡縣人小村貞一郎の長男にして明治十三年二月を以て生れ同三十八年東京帝國大學工科大学建築學科を卒業し中村建築事務所を創立し建築設計監督業に従事す。大正十年歐米各國を視察し、美術的建築の著あり。家族は尙二男兼三(大五、二生)早稻田高等學院在學(二女和子(同一、三三)あり長女雪枝(明四一、三三)跡見女學校出身)は東京府人島山晃に妹とよせ(同一六、一一生)は靜岡縣人安岡守次長男に同まつ(同二四、一一生)は愛知縣人伊藤應隆に同とし子(同三四、三三)は靜岡縣人清水隆に嫁せり(東京市杉並區高圓寺五三七)

中村與助 石油砂糖商
青森縣在籍
妻 うめ 文久三、六生、青森、淡谷又八二女
母 たみ 明一六、九生、青森、淡谷金藤四女

君は滋賀縣人小村治郎兵衛の三男安藤惣次郎の弟にして明治十四年八月十四日を以て生れ同十二年先代照の養子となり家督を相続す。現時中村合名會社社員にして前記各會社の重役たり。三男孝三(明三八、九生)神戶高商出身)は滋賀縣人伊藤長兵衛の養子となり長女桂子(同四三、一二生)東京家政學院高等科出身)は同縣人

部長心得を拜命し同四十三年同校教諭兼耳鼻喉科部長を命ぜらる。同四十五年より二ヶ年同校獨逸の諸大學に學び大正六、七、醫學博士の學位を受、同年を辭し中村耳鼻喉科病院を經營す。家族は尙二男英二(大四、一〇生)妹ひさ(明二一、七生)あり(名古屋市中區南區町一ノ七電本局一七九五)

中村與一郎 正位、帽子洋傘商
京都府在籍
妻 ヨネ 七女
男 一 郎 明四二、八生
女 芳枝 大八、四生

君は京都府人茨木新助の三男にして明治十三年一月二十一日を以て生れ同三十七年先代スサの養子となり大正四年家督を相続し正位堂と稱し手廣く帽子洋傘商を營み昔く人に知らる。家族は尙孫俊一(昭九、一一生)長男(一郎長男)あ、二男健三(同元、九生)は滋賀縣人外村きくに同重茂(同一、三三)は愛知縣人小村タキに各養子となり三男行雄(大四、三三)は分家せりA五五五B二二一(京都市中區東區新町通通商部下電本局七四五)

中村與右衛門 愛知縣多額納税者、名古屋味噌酒會社社長、十一層、港北土地各務取締役、中村殖産代表社員、佐野屋、味噌醸造業、愛知縣在籍
妻 しげ 女
男 達郎 大四、一〇生
女 つる 大五、一〇生
女 かず 大八、一〇生

君は愛知縣人小村祐平の長男にして明治二十二年十月を以て生れ大正十五年家督を相続し前名祐太郎を改め名了佐野屋と稱し味噌醸造業を營み傍ら名古屋味噌酒會社々長の外兩記各會社の重役にして愛知縣多額納税者たり。家族は尙二男忠男(大七、五生)三男隆三(同一、一〇生)四男忠男(同一、一〇生)妹みち(明一

若林乙吉長男新一郎に嫁せり(滋賀縣神崎郡五峰村) 參照 安藤與惣次郎、伊藤長兵衛の項

中村嘉壽 衆議院議員(鹿兒島縣選出)、海外
之日本社社長、嘉壽家
鹿兒島縣在籍
父 源次郎 萬延元、六生、現戸主
繼母 萬千 文久二、九生、鹿兒島、肥後翁助叔母
妻 敏子 明二五、一〇生、鹿兒島、種子島
男 初雄 明四四、七生
女 公枝 明四二、三三
男 巖 大二、一〇生

君は鹿兒島縣人小村源次郎の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十三年水産講習所を卒業後米國に留學し紐約大學を卒業してマニタオアアンの學位を有す。曾て農商務省勸業銀行輸出水産會社内外水産會社各事務取締役たりしことあり著述業を營み大正十三年より衆議院議員に當選す。事三回現に立憲政友會所屬たり。學生海外見學團を起し毎年歐米に旅行すること既に八回萬國議員會議に列席する事四回昭和五年來東洋文化夏季大學及び東洋文化會を起し海外より學生教師を招き我國最高權威者を聘して英語に依り東洋文化を紹介す。日英兩文月刊雜誌海外之日本社を創立してその社長たり。家族は尙三男力(大八、五生)二女玉枝(同一、二生)三女操(同一、三三)四女梅子(昭二、三三)四男勲(同四、九生)五男克三(同七、二生)あり妹秀(明二〇、三三)は鹿兒島縣人小倉猛吉養子才太郎の未亡人に同ヒサ(同二二、二生)は山梨縣人伏見猛に嫁し長女公枝(明四二、三三)は鹿兒島縣人醫師佐々木直介長男醫學士雅一に嫁せり弟嘉吉(同二三年生)同嘉藏(同二五、九生、醫學博士)は分家せり(東京市澁谷區榮通二ノ六九)

中村利器太郎 東京商工會議所常議員、三成、二
幸各務取締役會會長、生絲需要増進
調査委員、日本百貨店商業組合理
事長、ツリストビニール理事
東京府士族
妻 りか 明一七、八生、茨城、宮澤清平長女
君は新潟縣士族中村卯之吉の長男にして明治五年三月

君は滋賀縣人小村治郎兵衛の三男安藤惣次郎の弟にして明治十四年八月十四日を以て生れ同十二年先代照の養子となり家督を相続す。現時中村合名會社社員にして前記各會社の重役たり。三男孝三(明三八、九生)神戶高商出身)は滋賀縣人伊藤長兵衛の養子となり長女桂子(同四三、一二生)東京家政學院高等科出身)は同縣人

十二日を以て生れ明治二十二年慶應義塾を卒業し三井...

中村利三郎

君は大阪府人岡田利兵衛の三男にして明治八年六月を...

中村利三郎

君は北海道多額納税者、定山溪温泉、北出物産...

中村利三郎

君は北海道中村兵衛の三男にして安政六年四月を...

の重役にして直接国税九百五十六圓を納め北海道多額...

中村利三郎

君は滋賀縣人岡田利兵衛の三男にして明治五年四月を...

中村理一郎

君は神奈川縣人岡田利平の三男にして明治十一年六月...

中村陸平

君は秋田縣人岡田利平の四男にして明治元年九月を...

君は静岡縣人岡田利平の長男にして明治七年八月を...

中村隆治

君は岐阜縣人岡田利平の二男同秋三郎の弟にして明...

中村柳二

君は岐阜縣人岡田利平の三男同秋三郎の弟にして明...

中村隆治

君は山梨縣人岡田利平の長男にして明治六年二月二十...

君は新潟縣人岡田利平の二男にして明治十五年五月を...

中村良三

君は青森縣人岡田利平の三男にして明治十一年七月を...

中村良三

君は青森縣人岡田利平の三男にして明治十一年七月を...

君は秋田縣人岡田利平の四男にして明治元年九月を...

中村廉次

君は富山縣人岡田利平の五男にして明治十五年二月二十...

中村和之雄

君は宇都宮縣人岡田利平の六男にして明治九年四月を...

君は宮城縣人岡田利平の七男にして明治七年五月を...

中目元治

君は福島縣人岡田利平の八男にして明治十八年五月二十...

中本英彦

君は山梨縣人岡田利平の九男にして明治六年二月二十...

中山茂樹

醫學博士、順天堂醫院勤務、醫師
東京府在籍
明二、一、二生、福井、河合郷市
明四、二、生、東京慈惠會大學在學
明三、一、生、跡見女學校出身

君は長野縣人中山信太郎の四男にして明治十二年九月二十七日を以て生れ昭和二年兄順次郎より分れて一家を創立す明治三十五年千葉醫學專門學校を卒業し外科醫師にして永樂病院外科部に勤務し同四十年獨逸ミューン大學に學び歸朝後順天堂醫院外科部に勤務今日に至るまで醫學博士の學位を受く家族は尚二男清(大六、三、生)、慈惠會豫科在學)二女多美(同九、一、生)三男信(同二、一、一〇生)ありA二七八(東京市豊島區駒込四ノ七電大塚一三六)

中山庄三郎

戸田屋、人形師
京都府在籍
嘉永二、二生
明二、一、生、京都、中山竹治郎
明三、一、生、大元、一、生
明四、一、生、大元、一、生

君は京都府人中山卯兵衛の長男にして明治二十二年一月四日を以て生れ大正八年家督を相続す戸田屋と稱し人形師を營む家族は尙四女行子(大一一、五、生)三男好三(昭二、二、生)ありA三一四B一〇二(京都市下京區土手町正下電下九八〇)

中山詳一

正五位勳四等、大使前參事官、中山
華民在勤、京都府士族
明三、二、生、福島、大島要三三女
君は京都府士族中山研一の二男にして明治二十二年四月を以て生れ同三十八年兄眞一の跡を承け家督を相続す大正二年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し同五年外交官及領事官試験に合格同年領事官補に任じ漢口在勤となり爾來滿洲派遣事務官補に任じ在勤中在外事務官通商局第二課勤務大使館三等書記官同二等書記官各米國在勤領事官在勤並關東廳事務官外務書記官並關西局第一回第二各課長等に歴任し英國大使館

中山宗次郎

大阪府文藝社取締役
大阪府在籍
明一、五、八、生、養父新七長女
明四、一、六、生、大阪府文藝社勤務、
關西大學出身

君は大阪府人長尾藤三の叔父にして明治十年十一月を以て生れ先 新七の養子となり大正十四年家督を相続す現時大阪國文社取締役たり家族は尙二男清(大五、五、生、早稻田第二高等學院在學)三男章(同八、六、生)あり長女敏子(明三、八、六、生)は大阪府人福井喜一に三女嫁(大元、一、二、生)は東京府人須田正雄に嫁せりA六〇七(大阪市東區瓦町四ノ六一電本局七九〇)
參照||長尾藤三の項

中山太一

大阪商工會議所議員、大阪府多額
納税者、アトシ文具社長、大
阪實業俱樂部理事、大阪實業組
合聯合會副會長、中山太陽堂店主、中山
化學研究所主、中山文化研究所主
山口縣在籍

君は山口縣人中山小三郎の長男にして同豊三の兄なり明治十四年十一月十七日を以て豊浦郡瀧部村に生る夙に實業界に入り化粧品製造業を以て身を起し現にクアラ化粧品本舖中山太陽堂店主にして中山化學研究所中山文化研究所經營主アトシ文具株式會社社長たる外クアラ化粧品第一販賣會社相談役其他クアラ系五會社の重役たり大正十年三月以來引續き大阪商工會議所議員に推され尙大阪實業俱樂部理事長大阪實業組合聯合會副會長大阪化粧品同業組合等八十餘の公共團體の役員を兼ね大正九年十一月紺綬褒章を下賜せられ後更に同綬章を下賜せられ、こと五回に及ぶ大正十一年大阪府知事より實業功勞者として表彰せられ同十四年五月賞勳局總裁より實業に精勵し衆民の模範たるの故を以て紺綬褒章を下賜せられ又昭和三年十月日本産業

一等書記官中華民國公使館一等書記官を経て現時前記の職に在り家族は尙長女育子(昭二、六、生)二女眞喜子(同三、九、生)三女英子(同五、一、生)あり弟周一は分家し姉雪枝(明一、六、一、二、生)は京都府士族猪久瀨二男三郎に嫁せり(在中華民國日本公使館内)

中山晋

共榮土地地務社長、神戸機橋厄崎士
地各縣取締役、長崎縣士族
明一、七、五、生、東京、山内徳三郎
明四、一、〇、生

君は長崎縣士族中山新の長男にして明治七年四月十三日を以て生れ大正十年家督を相続す明治三十年東京高等商業學校を卒業し現に共榮土地地務社長神戸機橋會社取締役にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男嘉邦(大五、七、生)三女恭(同二、一、〇、生)弟齊(明一、六、六、生)同妻(同三、一、八、生、愛知、住田龍太郎)及其子女あり長女ミヤ(同三、八、一、生)は長崎縣人母里太一に嫁せり(同三、一、〇、八、生)は同縣人久保留太郎長男靜馬に嫁せりA一七四(兵庫縣武庫郡本山村電御影三七八七)
參照||※原啓藏の項

中山晋平

大日本作曲家協會理事、作曲家
東京府在籍
明二、六、五、生、東京、江南武雄妹
明三、九、九、生、宮城、桑原照弟

君は長野縣人中山實之助の四男にして明治二十年三月二十二日を以て生れ大正六年兄明孝より分れて一家を創立す明治四十五年東京音樂學校器樂科を卒業し大正三年處女作「カチウシヤ」を発表して人氣を博し爾來専ら作曲に従事し其數多く斯界の新生面を開くに至れり現時大日本作曲家協會理事に擧げらるる家族は尙養子梶子(昭二、二、生、長野、妹井伊右衛門)ありA一〇六六(東京市中野區本町通五ノ一四電中野二九七〇)

中山新次

東京府在籍
明三、六、三、生、三重、若林鐵三郎
明三、六、三、生、三女、大六、三、生

君は三重縣人増田久五郎の長男にして明治二十五年二月十四日を以て生れ大正元年中山瀧次郎の養子となり同十三年家督を相続す養父家たり家族は尙二男太郎(大一一、〇、七、生)あり養女ヒサ(明三、八、八、生)は分家せりA七七一(東京市品川區大井北濱川一ノ一九三)

中山輔親

正四位、侯爵、貴族院議員
舊公卿家
明三、一、一、生、子爵成瀬正雄妹
明三、二、二、生、公爵九條道秀妹
明一、〇、四、生

當家は花山院左大臣家忠の男忠宗の三男内大臣中山忠親の後なり二十代の孫大納言愛親忠純の事を以て徳川幕府と論争し皇威を顯揚す後二代を経て先々代忠能に至り亦忠能の志篤く子弟を率ひて維新の大業を翼賛し勳功あり明治十七年特旨を以て侯爵を授けられ大勳位に叙し從一位を贈る先代者爵は忠能の次男にして祖父忠能の後を襲ぎ東京市日本橋區町各區長官内書記官東京府長官貴族院議員東京府大府中顧問官官制審査局長等に歴任し大正四年大勳に付爵位を賜はる恩賞として旭日大綬章を賜はる君は其五男にして明治二十九年十一月十三日を以て生れ大正八年家督を相続し襲爵御付ける貴族院議員たり家族は尙二男忠敬(大一一、一、一、生)二女福子(同二、三、三、生)三女清子(同二、四、一、一、生)あり兄忠顯(明一、四、七、生)同尙親(同二、四、五、一、〇、生)は其姉正子の家籍に入り弟謙親(同四、二、九、生)は姉正子の養子となり兄定政(同二、一、七、生)は子爵今城家の家督を相続し弟保親(同三、九、四、生)は子爵錦織家を継ぎ妹徳子(同三、〇、四、生)は男爵波邊修二に(大叔母南加(慶應元、五、生)は侯爵磯崎公勝に同養女(安政六、一、二、生)は伯爵正親町公和先代實正に再嫁す(昭二、七、九、生)は伯爵菊亭公長に嫁せり(東京市赤坂區青山町一ノ一電青山一〇七七)
參照||公爵九條道秀、侯爵菊亭公長、侯爵磯崎公勝、伯爵正親町公和、子爵今城定政、子爵錦織保親、子爵成瀬正雄、男爵波邊修二、伯爵菊亭公長、伯爵正親町公和、伯爵九條道秀、伯爵九條道光

中山爲三郎

兩龍炭礦、東京市場建物各縣取締役、日本興行監査役、金礦業
東京府在籍
明三、七、一、生、養子さだ夫、東京
明四、〇、八、生、養子正三妻、東京
明四、〇、八、生、養子三男

君は千葉縣人安田平八の三男にして慶應三年九月十五日を以て生れ先代サケの養子となり明治十九年家督を相続す金礦業を營み傍ら前記諸會社の重役にして東京市水産北海道兩鐵道北海道鐵道等諸會社の重役たりしことあり家族は尙孫次郎(昭七、五、生、養子正三長男)ありA一五〇〇B一二六(東京市神田區岩本町一六ノ六電浪花四七二〇)

中山中

貿易商
大阪府士族
明二、一、〇、生、大阪、宮野恒久六女
明二、九、九、生、廣島、岩見與四郎
長女

君は大阪府士族中山保太郎の長男にして明治二十二年一月二十一日を以て生れ大正十二年家督を相続す貿易商を營み養父家として知らるる家族は尙三女嘉子(大一一、〇、一、〇、生)四女美津子(同二、三、八、生)二男忠(昭四、六、生)ありA一一六三B四二〇(神戸市葺合區磯邊町一ノ八電葺合五六一)

中山藤一郎

下野興業取締役、下野中央銀行、
下野縣在籍
安政二、四、生
明一、一、一、生、栃木、藤平謹一郎妹
明四、〇、九、生

君は栃木縣人中山佐一郎の長男にして明治七年十月十七日を以て生れ大正十年家督を相続す夙に鹿沼商業銀行取締役日本織維工業會社監査役等に就任し現時前記銀行會社の重役たり家族は尙七女フサ(大一一、五、生)あり長男良一(昭三、二、生)は分家し弟元三郎(同二、二、六、生)も亦同妻ナヲ(同三、一、一、生、栃木、渡

協會總裁伏見宮博恭王殿下より産業貿易上の功勞者として表彰せらるる君は夙に能率増進の研究に専念し其の工場は能率工場として廣く知られ大元を始め各方面より視察多く殊に最も光榮とする所は屢々高貴の臺臨を仰ぎたる事にして大正十二年五月久通宮良子女王殿下並に御母宮御妹宮各殿下昭和三年三月伏見宮博恭王殿下昭和四年七月東久通宮裕王殿下の臺臨を添ふ侍從御差遣の光榮に浴す佛國政府より大正十三年五月シウガアリエー・ドラゴ・ド・ランナン勳章昭和三年五月コンマンドール・エトアル・ノール勳章を拜受せり尙君は大阪府多額納税者に列し査査家として知らるるA六二二九八B三八九六(大阪府浪速區水崎町四〇電戎三七〇)
參照||中山小三郎の項

中山武三郎

長野縣多額納税者、信濃日々新聞
社取締役會長、八十二銀行取締役、長野縣在籍
明一、〇、一、〇、生、長野、中山善之
助長女
明二、八、一、生、三井銀行横濱支店
員、慶大理財科出身
明三、五、九、生、長男英一妻、長野
婦 柳 ゆう 香掛正一長女

君は長野縣人茂木吉次の弟にして明治二十年十二月を以て生れ先代濱治郎養子となり同二十七年家督を相続す夙に中央大學を卒業し現時前記各銀行會社の重役にして長野縣多額納税者に列し直接間接四百九十九圓を納むに十九銀行監査役たり家族は尙孫富太郎(大一一、一、二、生、長男英一長男)同二男あり長女ふみ(明二、九、二、生)は外祖父中山善之助の養子となり二女くに同三〇、一、二、生)は長野縣人柳澤憲一に三女きぬ(同三、三、四、生)は同縣人武重一補長男孝一に嫁し二男淳六同三、五、九、生、早大出身)三男隆輔(同三、七、六、生、明大法科出身)孫叔母なを(元治元、四、生)養姪ひさ(明二、〇、三、生、養兄彦輔養子)は各分家せり(東京市小石川區小日向水道町一〇八電小石川一六四四)
參照||香掛正一、武重一補の項

中山新次

東京府在籍
明三、六、三、生、三重、若林鐵三郎
明三、六、三、生、三女、大六、三、生

協會總裁伏見宮博恭王殿下より産業貿易上の功勞者として表彰せらるる君は夙に能率増進の研究に専念し其の工場は能率工場として廣く知られ大元を始め各方面より視察多く殊に最も光榮とする所は屢々高貴の臺臨を仰ぎたる事にして大正十二年五月久通宮良子女王殿下並に御母宮御妹宮各殿下昭和三年三月伏見宮博恭王殿下昭和四年七月東久通宮裕王殿下の臺臨を添ふ侍從御差遣の光榮に浴す佛國政府より大正十三年五月シウガアリエー・ドラゴ・ド・ランナン勳章昭和三年五月コンマンドール・エトアル・ノール勳章を拜受せり尙君は大阪府多額納税者に列し査査家として知らるるA六二二九八B三八九六(大阪府浪速區水崎町四〇電戎三七〇)
參照||中山小三郎の項

邊幸太郎(女)及三子を伴ひ分家し二女ヒサ(同三四、一〇生)は栃木縣人生沼權一郎に嫁す(同一五、一生)は同縣人谷甚平に嫁せり(栃木縣上都賀郡南原村)

中山徳三郎

備前、醬油商
大阪府在籍
妻 是の 明九、三三、和歌山、鎌田友七二女
養子 憲 衛三男、一生、和歌山、山本嘉兵衛三男
明三八、九生、養子憲憲妻、福井織田良助長女

君は和歌山縣人中山與兵衛の三男にして明治九年三月二十六日を以て生れ後兄幸三郎方より分れて一家を創立す備前と稱し醬油商を營む家族は尙孫太郎(昭五、二生、養子憲憲長男)同一郎(同六、一〇生、同二男)ありA五五〇B二一七(大阪府北區伊勢町四四電北五九一)

中山豊三

クラブ化粧品第一販賣部事務取締役、プラト、豊文社各取締役、朝日堂、ラブラブ商事取締役、山口縣在籍
父 小三郎 安政二、一生、現戸主
妻 イト 明二七、八生、大阪、河中原源造長女
男 昌一 大八、三生

君は山口縣人中山小三郎の四男にして同太一の弟なり明治二十二年二月を以て生れる同四十四年早稲田大學專門部政治經濟科を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尙二男進一(大一一、四生)三女信子(同一四、一生)三男宏(昭二、五生)あり(大阪府天王寺區惠徳院町八八電天王寺七〇五)
參照||中山太一の項

中山友太郎

鹿兒島縣多額納税者、中山宅代表社員、鹿兒島縣在籍
妻 タカ 明三、四生、鹿兒島、丹宗徳藏妹
男 熊 明二二、三生
女 ミサ 明四〇、六生

君は鹿兒島縣人中山太左衛門の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治三十年家督を相続す現時中山合名會社代表社員にして直接國稅九百五十三圓を納め縣下

長女)及其一男ありA三四〇一(大阪府住吉區住吉町九五二電住吉三五六一)
中山秀三郎 正三位勳二等、工學博士、東京帝國大學名譽教授、東京府十族
妻 よし 明一〇、九生、東京、中村孝二女

君は愛知縣士族中山善之進の二男にして元治元年十二月を以て生れ大正元年兄眞琴の後を承け家督を相続す明治二十一年帝國大學工學科土木工學科を卒業し同大學助教となり同二十九年土木工學科の爲伊佛獨英各國に留學を命ぜらるる同三十一年歸朝し教授に進み工學博士の學位を受く同四十三年臨時發電水力調査局技師を兼ね大正七年通信技師を兼任し後東京帝國大學工學部教授となり現時同大學名譽教授たり家族は尙孫俊雄(大一一、五生、長男久雄長男)同一三、七生、同長女(同一四、一〇生、同二男)同進(昭二、三生、同三男)同千枝子(同六、一生、同二女)尙亡兄眞琴妻とわ(慶應元、八生、愛知、中林醇一伯母)あり二女幾(明三〇、七生)は東京府士族河原春作に四女鶴(同四〇、五生)は山口縣人岩村安太郎長男鶴に嫁せり(東京府本郷區駒込西片町一〇電小石川一六一〇)
參照||河原春作參照野貞の項

中山福藏

衆議院議員(大阪府選出)、辯護士
鹿兒島縣在籍
妻 マサ 明二四、一生、長野、飯田ナカ養女
男 太郎 大一一、八生

君は鹿兒島縣人中山勝平の二男にして明治二十年六月七日を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す先是東京帝國大學法科大學を卒業後辯護士となり現に其職に在り大阪府立貿易館南洋調査顧問となる養子植民政策研究の爲め南洋領印度に渡航す昭和三年大阪府より選ばれ衆議院議員に當選し現に立憲民政黨に屬す家族は尙三男進道(昭三、四生)四男鋭郎(同四、九生)五

の多額納税者に列す長女ノリ(明二七、二生)は長崎縣人伊東祐信に二女エタ(同二九、四生)は鹿兒島縣人北國泰藏に四女スガ(同三二、一〇生)は大阪府人別宮秀夫に五女道(同三四、九生)は鹿兒島縣人松田進に妹幾里(同一一、一生)は同縣人田中幸助に同ミエ(同一五、二生)は同縣人御手洗三弟孫七に嫁し二男喬樹(同二六、三生)弟松惠(同二二、二生)は各分家せり(鹿兒島縣出水郡阿久根町電阿久根四)
參照||中山熊雄、別宮秀夫の項

中山奈良藏

大島織布社長、綿布商
大阪府在籍
妻 エツ 明二一、一生、大阪、岡井善作四女
男 奈良治 大二〇、二生、大阪、中山保司妹
養子 タキ 大二〇、五生、大阪、中山保司妹
君は奈良縣人中山嘉十郎の二男にして明治十年二月を以て生れ同二十九年家督を相続す綿布商を營み大島織布會社社長たり家族は尙二男高男(大一一、三生)三男公男(昭二、一生)四男茂男(同五、一生)あり弟定次郎(明二五、一〇生)は分家し養子(まゝ)同二、五生、和歌山、中島千代松(二女)は大阪府人由良信三に嫁せりA八二九六(大阪府東區南久太郎町一ノ六〇電船場四六五五)

中山信實

正三位、男爵
舊水戸藩家老
妻 千代子 明一三、一生、子爵牧野忠良養妹
男 信常 明四〇、二生、從五位、産業組合中央會社理事、經濟學士
男 豐 明四三、六生

當家は多治比古王の末裔中山勘解由丹治家範の後なり家範北條氏に仕ふ其二男備前守信吉徳川家康に仕へ水戸藩祖徳川頼房の傳となり常州松岡二萬五千石を領す十二世を経て先代信實に至る君は其長男にして子爵青木信光の兄なり慶應元年四月十五日を以て生れる幼名を弓若又信瑞といふ明治六年家督を相続し同十七年男爵を授けらる昭和九年二月高齡に付御料付銀並に酒肴料を下賜せらる家族は尙五男雅生(大四、四生、鹿鹿大學豫科在學)あり妹仲子(明二四、五生)は埼玉縣人大館新太郎の養子となり二女松子(同三七、五生)は茨城縣人文學士水戸高校教授市野澤寅雄に妹鈴子(同四、

男正輝(同七、六生)ありA二〇三(大阪府西區西長堀南通四ノ九電新町三四七八)
中山文雄 正五位勳四等、弘前高等學校校長
君は三重縣人にして明治七年二月二十五日を以て生れ同三十四年東京帝國大學文藝學科を卒業し同三十五年新潟縣高田師範學校教諭同四十四年石川縣師範學校長を経て大正四年臺灣總督府國語學校教授に任ぜられしも同七年退官し同年若手縣立盛岡中學校校長兼教諭第五高等學校教授に任じ現時弘前高等學校長たり(弘前市富田大野官舎電弘前三三三)

中山平次郎 正三位勳二等、醫學博士、九州帝國大學名譽教授、福岡縣士族
君は福岡縣士族中山徳輝の二男にして現戸主義彦の弟なり明治四年六月を以て生れる同三十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業し翌年同大學助手となり同三十五年病理學理解剖學研究の爲め獨逸國に留學し同三十九年京都帝國大學醫學科大學教授となり同四十四年醫學博士の學位を受く九州帝國大學教授を経て現時同大學名譽教授たり(福岡市荒戸四番丁二二〇ノ内)
參照||中山義彦の項

中山正夫

地主
東京府在籍
君は東京府人中村龜太郎の二男にして明治四十一年二月二十八日を以て生れ先代忠次郎の養子となり昭和六年家督を相続す地主たりA一七二九(東京府小石川區大塚坂下町一九一電大塚五三三)

中山政司 東洋物産會社事務取締役
新潟縣在籍
妻 ヨシ 安政元、四生、中山佐右衛門長女
男 忠 明四四、一生、中山由太郎長女
女 信子 明四四、一生

君は新潟縣人鶴頭源次の二男にして明治十八年四月十二日を以て生れ先代忠次郎の養子となり後家督を相続す現に東洋物産會社事務取締役たり家族は尙三男政敏

中山久雄

正五位勳六等、鐵道技師、大臣官房研究所第三科長兼電氣局電力課勤務、東京府士族
父 秀三郎 元治元、二生、現戸主
妻 冬子 明三二、二生、元代議士竹内明太郎四女
男 俊雄 大一一、五生

君は愛知縣士族中山秀三郎の長男にして明治二十三年三月十七日を以て生れる大正二年東京帝國大學工學科大學電氣工學科を卒業し同年明治專門學校研究となり教授職に進み同年北米に留學す歸朝後九州帝國大學教授明治專門學校教授を経て同十三年鐵道技師に任じ現時前記の職に在り家族は尙長女和子(大一一、三生)二男豐(同一四、一〇生)三男進(昭二、三)あり(東京府本郷區駒込西片町一〇電)一八號電小石川一六一〇)
參照||白石多士良參中田兼中村寅之助の項

中山秀一

昭和レレオン採取役兼支配人
東京府在籍
父 半 安政元、五生、現戸主
妻 ツル 明一一、一生、東京、今井友徳長女
男 秀 明二四、二生、東京、根本兵治郎二女
女 清子 明四四、一生

君は東京府人現戸主中山半の長男にして明治十三年二月十七日を以て生れる現時昭和レレオン會社採取役兼支配人たり資産家を以て知らる家族は尙叔父衛三(安政六、二生)同妻つな(明二、六生、愛知、淺井收之助

(大七、一〇生)三女幸子(同一〇、一生)四男司郎(同一二、九生)四女町子(同一四、七生)五男政夫(昭三、四生)養妹操(明四二、二生)あり同イッ(同三〇、六生)同夫後郎(同二四、二生、新潟、會津友次郎五男)は其二子を伴ひ養妹シマ(同三三、七生)弟強一(同三三、七生)は各分家し妹リウ(同三七、一生)は鳥取縣人祝部多利徳に嫁せり(新潟市浪町通四ノ町三電一四五)
參照||※上原堅次の項

中山政助 山形商工會議所理事
山形縣在籍
妻 鷹子 明三四、二生、山形、吉田貴知二女
男 政一 大一一、一生

君は山形縣人中山直助の四男にして明治二十六年五月を以て生れる現時山形商工會議所理事たり家族は尙長女比佐子(昭二、一〇生)二女治子(同四、二生)兄直助(明八、八生、現戸主)同妻ヨノ(同一二、八生、山形、小川六三郎妹)及其子女あり弟吉助(同二九、三生)は分家せり(山形市村木町四三)

中山造酒夫 熊本商工會議所頭、熊本縣多額納税者、熊本市會議員、大同印刷社長、熊本海産採取役、九州ノット、肥後製絲各採取役、九州熊本縣士族
妻 キヨメ 明二二、二生、熊本、戸野清次長女
男 治 明四二、一生
男 正隆 大元、九生
女 美枝子 大五、一生

君は熊本縣士族中山傳太の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正十四年家督を相続す現時大同印刷會社々長の外前記各會社の重役にして直接國稅八百七十二圓を納め熊本縣多額納税者に列し熊本市會議員熊本商工會議所會頭に推される家族は尙三男和隆(大八、二生)二女枝美子(同一、三生)三女慶子(同一三、一生)四女民子(同一五、五生)五女八枝子(昭四、三生)の外弟兵吾(明一五、五生)同妻史(同二四、一生、熊本門岡周行姉)及其一男あり(熊本市本山町六一三電三九三)

君は京都府人藤田廣重の長男にして明治三十八年十一月二十一日を以て生れ明治四十三年前戸主信重の死跡を継ぎA一七〇四(東京市淺草區左衛門町一電五〇二)

中山 森彦 正四位勳三等、功四級、醫學博士、陸軍少將、九州帝國大學名譽教授、福岡縣士族

母 弘化二、三、京都、士、高階經二女

君は東京府士族中山德輝の長男にして同平次郎の兄なり應應三年十一月を以て生れ明治三十三年家督を相続同二十五年帝國大學醫學科大學を卒業し陸軍三等軍醫に任じ同二十九年大學院に入る同三十二年陸軍醫學學校教官に補せられ同三十五年獨逸に駐在を命ぜられ同四十年京都帝國大學醫學科大學教授に任じ同四十四年醫學博士の學位を受く大正二年九州帝國大學醫學科大學附屬醫院院長となり同陸軍醫學監に陞任す同五年教授を辭し同七年豫備役に編入せらるる日露の役に依り功四級金勳章を賜ふ現時九州帝國大學名譽教授たり家族は尚妹小春(明一四、一〇生)あり(福岡市荒戸町二〇)

中山 豊 日本銀行松山支店長、大分縣士族

妻 愛 明二九、四、生、福岡、白石西三四女、大五、五、生

君は大分縣士族中山茂木の二男現戸主惟一の弟にして明治十六年九月三十日を以て生れ同四十四年東帝國大學法政科大學政治學科を卒業し日本銀行に入り本店營業局調査役を経て現に同松山支店長たり家族は尚二男道輔(大八、七、生)三男和朗(同一一、一)四男伊二(同一三、七、生)長女倍(昭五、九、生)あり(松山市北持田町)

中山 興一 地主、東京府在籍

妻 ぶみ 明二二、七、生、東京、板倉初子母、男 良 明二二、四、生

君は東京府人中山良太郎の長男にして明治十二年二月二十八日を以て生れ大正十年家督を相続す地主たり家族は尚三男靜雄(大五、九、生)四男伸治(同九、六、生)五男尚秋(同一一、八、生)六男大郎(同一四、三、生)あり弟房吉(明一六、一、生)は同妻を承(明二二、五、生)東京、綱島藤吉(二女)及其子女と共に分家し妹園(明三二、二、生)は栃木縣人關口市五郎長男一郎に嫁せりA六七三(東京市本所區東駒形二ノ一〇二)

君は東京府人中山理賢の二男にして明治二十八年五月二十日を以て生れ大正十四年東京帝國大學文學部哲學科を卒業し現時東京博善株式會社取締役たり家族は尚長女美和(昭三、九、生)二女百合子(同五、四、生)三男(同六、一、生)三女久美子(同九、三、生)弟季九(明三〇、一、生)同妻を承(同三九、三、生)東京、木村新三(二女)及其一男一女妹笑子(同四三、二、生)あり妹溪(同三八、三、生)は茨城縣人坂井きく三男森之助に嫁し弟望廣(同四〇、一〇、生)は三重縣人伊藤おとへの養子となれりA八三六(東京市王子區赤羽三ノ一五電赤羽三四一)

中山 隆吉 南海鐵道總務取締役、石川縣在籍

母 芳 明二七、四、生、石川、士、袖保八、女 道子 大六、一、生

君は石川縣人中山泉の長男にして明治十七年十月二十六日を以て生れ大正五年家督を相続す現時南海鐵道會社總務取締役たり家族は尚二女和(大一一、一、生)あり弟榮松(明二七、三、生)は分家し妹貞(同三四、五、生)は石川縣人平松彌三郎に嫁せりA一三八八(大阪市天王寺區茶臼山六二電天王寺一〇二六)

君は千葉縣人仲佐源藏の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し同四十四年東京帝國大學教授に任ぜられ今日に至るに於て同校長生徒主事たり家族は尚三男洋三(大一一〇、一、生)弟健司(明二五、六、生)同妻富(同三〇、二、生)神奈川、金森安平(繼子)及其三子あり(廣島市廣島高等師範學校内)

仲佐貞次郎 從四位勳四等、廣島高等師範學校教授、千葉縣在籍

母 善美恵 長女、明二二、二、生、千葉、池澤信太郎、長女、明四四、一、二、生

君は千葉縣人仲佐源藏の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し同四十四年東京帝國大學教授に任ぜられ今日に至るに於て同校長生徒主事たり家族は尚三男洋三(大一一〇、一、生)弟健司(明二五、六、生)同妻富(同三〇、二、生)神奈川、金森安平(繼子)及其三子あり(廣島市廣島高等師範學校内)

仲宗根玄愷 昭和生命(互)取締役、東京府士族

妻 明二一、四、生、埼玉、折原毅一二女、女 和子 大八、一、生

君は沖繩縣士族仲宗根玄愷の二男にして明治十六年一月五日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す現時昭和生命保險會社取締役たり家族は尚二男支秀(大一一、九、生)三男玄昌(同一三、八、生)二女清子(昭二、八、生)の外弟玄榮(明二四、一〇、生)ありA七二四(東京市小石川區關口臺町二八電牛込六七七)

仲田久太郎 仲田銀行常務取締役、愛媛縣在籍

妻 秀太郎 明二七、二、生

君は實業家仲田傳之の弟にして明治七年十二月十七日を以て生れ大正四年分れて一家を創立す仲田銀行業務執行社員を経て現時同銀行常務取締役たり庶子善吉(明二六、三、生)生母、愛媛、高橋スエ(は愛媛縣人仲田眞の入夫となれり(松山市二番町七四))

仲田傳之 貴族院議員、松山商工會議所顧問、愛媛縣多額納稅者、銀行員、仲田銀行、伊豫相互貯蓄銀行、各種取次、伊豫鐵道電氣株式會社取締役、愛媛縣在籍

君は愛媛縣人先代傳之の長男にして仲田久太郎の兄なり明治四年七月を以て生れ同四十二年家督を相続す共に前名林太郎を改め現時愛媛縣農工銀行頭取たり外前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接納稅五千九百五十圓を納め昭和七年貴族院議員に選出せらるる會て松山商工會議所會頭に舉げられ現に顧問たり兼に紺綬褒章を賜はる家族は尚四男春男(大四、二、生)五男季夫(同八、三、生)孫多津子(昭六、三、生)長男包寛長女(あり)長女梅代(明三二、一、生)は香川縣士族法學士大西虎之介に嫁(同一一、一〇、生)は東京府士族海軍少將井口第二郎に同シ(同一六、二、生)、日本女子大出身)は同府士族法學士多賀義三郎に嫁せり(松山市府中町二ノ二電三三三)

仲田又次郎 延岡市長、藥種商、宮崎縣在籍

妻 静枝 大五、六、生、女 安枝 大八、五、生

君は宮崎縣人先代又次郎の長男にして明治二十六年七月二十五日を以て生れ大正七年家督を相続し前名理一を改め現時大正四年大阪藥學校を卒業し大正二年藥劑師となり藥種商を営む昭和八年延岡市長に推されるに延岡町會議員宮崎縣藥劑師會理事同副會長同會長等に選ばれ又日州銀行日向中央銀行各監査役たり家族は尚養兄文造(明一五、六、生)、先代文次郎(養子、宮崎、寺町立次郎二男)同妻トシエ(明二二、三、生)、先代又次郎長女(あり)延岡市南町電四一)

仲塚松太郎 正五位勳五等、檢事、札幌地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事、鳥取縣在籍

君は鳥取縣人仲塚治平の三男にして明治二十一年七月を以て生れ大正十三年男一夫方より分れて一家を創立す明治四十年中央大學を卒業し判事登用試験に及第司法官試験となり判事に任ぜられ玉島津山各區裁判所判事を以て大正五年判事に轉じ大阪高知盛岡各區各地方裁判所檢事に任じ昭和四年現職に轉じ今日に至る家族は尚二女伸子(大九、一、生)三女茂子(同一五、四、生)あり(札幌市札幌地方裁判所檢事局内)

仲野半四郎 山形縣多額納稅者、山形縣在籍

妻 美代 明二八、八、生、熊本、内田司馬彦、長女、女 道子 大六、一、生

君は山形縣人先共半四郎の二男にして明治三十四年九月を以て生れ昭和七年家督を相続し前名清を改め現時同四年東京帝國大學文學部を卒業し現時同文學部副手たり山形縣多額納稅者に列し直接納稅三千九百圓を納む家族は尚長男浩(昭三、一、二、生)弟恭助(明四、二、生)あり(山形縣東村山郡天童町)

仲野安一 淡路貯蓄銀行、淡路銀行各務取締役、兵庫縣士族

妻 嘉永五、兵庫、山口伊十郎四女、男 武男 明三二、六、生、女 和之 明三八、九、生、長男武男、兵庫、男 千鶴 明四〇、八、生

君は兵庫縣人仲野久太郎の長男にして明治八年一月を以て生れ同三十二年家督を相続す現時淡路貯蓄淡路各銀行取締役たり長女みち(明三三、一〇、生)は徳島縣人石原市郎第二郎に嫁し三男利行(同三七、一、生)は兵庫縣人仲野治の養子となれり(兵庫縣三原郡伊加)

仲谷俊郎 金礦業、大阪府在籍

妻 文久二、六、生、現戸主、女 秀子 大六、八、生

君は大阪府人仲谷藤右衛門の長男にして明治二十四年

仲本昇太郎 深川裁縫女學校校長、仲本本店、材木問屋業、東京府在籍

妻 しょう 明九、二、生、愛知、清水佐次兵衛、男 健次郎 明四五、三、生、女 澄江 大六、五、生

君は東京府人先代昇太郎の長男にして明治九年十一月を以て生れ同四十四年家督を相続し前名傳吉を改め現時材木問屋業を営み傍ら深川裁縫女學校長たり兼に東京木材運送會社取締役に任じ深川區商工信用組合長に舉げられ又深川區會議員に推され在職十六年に及ぶ長女花子(明三二、四、生)は埼玉縣人鈴木信太郎に二女喜登(明三六、一〇、生)は愛知縣人山下仁八に三女宣子(同三八、一、二、生)は千葉縣人一澤寛藏二男倫次に嫁せりA三〇〇B一五四(東京市深川區平野町二ノ一四ノ二六電本所八一〇)

仲谷俊郎 金礦業、大阪府在籍

妻 文久二、六、生、現戸主、女 秀子 大六、八、生

君は大阪府人仲谷藤右衛門の長男にして明治二十四年

仲谷俊郎 金礦業、大阪府在籍

妻 文久二、六、生、現戸主、女 秀子 大六、八、生

君は大阪府人仲谷藤右衛門の長男にして明治二十四年

君は鹿島縣人東郷重造の二男にして明治十五年十二月を以て生れ同縣人永井藤左衛門の養子となる同四十二年大阪高等工業學校應用化學科を卒業し税關鑑定官補となり大阪税關に在勤を命ぜらる大正十年税關鑑定官に任じ長崎門司各税關勤務を経て昭和五年門司税關検査課長に補せられ現在に至る家族は尙長女恭子二男晴水二女富子あり(門司市葛葉検査課長官舎電九二八)

永井 繁

正四位勳三等、東洋リノリウム社長、山口實理事、東京府在籍

妻 ヒデ 郎三、一、生、北海道、高橋松太郎

男 基 大、三、一、二、生

女 惠美子 明四、五、六、生

君は故大審判理事永井巖之丞の五男同母の弟にして大屋敷の兄なり明治十六年六月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學法科大學佛法律科を卒業し文官高等試験に合格し同四十二年税務監督官に任ぜられ理財局書記官大藏省事務官外務省事務官外務書記官大藏書記官等に歴任し前局長門司各税關長を経て大正十三年造船局長となり昭和五年退官す現時リノリウム會社社長たるの外山口會社理事を兼ねる家族は尙二男省(大五、二、生)三男三男(同三、一、〇、生)二女なみ(昭四、二、生)あり(大阪市住吉區神ノ木町三二ノ二電住吉二二五四)

永井 正作

銀行監査役、東京府在籍

妻 トシ 明四、一、二、生、新潟、平井元吉姪

女 マサ 明二、六、五、生

君は東京府人永井孝三の長男にして明治三年十二月を以て生れ同三十七年家督を相続す氏に安田銀行に入り累進して計算課長となり現時日本書院銀行監査役にして兼ねて栃木農商銀行取締役たり(東京市四谷區愛住町七三)

永井正三郎

美川商工會長、石川縣多額納稅者、倉庫業、石川縣在籍

父 正 安政元、三、生

永井 清吉

毒司清、脂商、茨城縣在籍

君は東京府人山崎徳次郎の五男にして明治十三年十二月を以て生れ先代永井清吉の養子となり大正九年分れて一家を創立す毒司清と稱し脂商を營む(五五二B一六五(東京市淺草區北田原町四電淺草三八〇六))

永井 專三

工學博士、宇治川電氣取締役、東京府在籍

妻 トシ 衛門三、一、一、生、京都、早瀬仁左

君は大府人奥村治作の五男にして明治十年三月を以て生れ先代彌三郎の養子となり大正二年家督を相続す明治三十三年東京帝國大學工學科を卒業し大正十三年工學博士の學位を授けられ現に宇治川電氣會社取締役たり(大阪府三島郡山田村下電山田七)

永井 潜

從三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務、日本齒科醫學專門學校各教授、學術研究會會員、保健衛生調査會委員、日本民族衛生會理事、東京府在籍

妻 花江 明二、四、八、生、故陸軍中將林太郎

男 肇 明四、五、一、生、北大在學

女 淑子 大、三、四、生

君は廣島縣人永井敬介の二男にして同得河相達夫の兄に當り明治九年十一月十四日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す明治三十五年東京帝國大學醫學科を卒業し同大學助手となり同三十六年醫學研究の爲獨英佛に留學し歸朝後同三十九年東京帝國大學助教授に任じ大正四年同教授に進み現に其職に在り傍ら東京齒科醫學專門學校日本齒科醫學專門學校日本女子大學各教授たり明治四十四年醫學博士の學位を受く昭和四年歐米を視察し萬國生理學會に參列す著書に「生命論」醫學と哲學、生物學と哲學との境、人性論、人及び人の力、自然観より人生觀等あり家族は尙三女多壽子(六一、八、生)四女慶子(同四、一、生)あり(三)

君は石川縣人先代正三郎の長男にして明治二十二年四月を以て生れ大正十四年家督を相続し前名正榮を改め名を金藏を替み石川縣多額納稅者にして直接國稅千五百三圓を納め現に推されて美川商工會長たり姉の(昭一八、九、生)は石川縣人長谷川權作に嫁し妹美代(同二九、六、生)は同縣人長野與平養子忠助に同養美(同二九、六、生)は同縣人竹中忠松に弟正美(同三二、三、生)は同縣人春木藤兵衛に各養子となり同養吉(同三三、三、生)は分家し同正次(同二四、八、生)は同妻みゆき(同三一、一、〇、生、石川、本谷長吉長女)と共に又叔父榮藏(安政二、一、二、生)同妻みす(慶應二、一、一、生、石川、瀨戸與三郎長女)は其子に伴ひ各分家せり(石川縣石川郡美川町電一七二七)

永井 庄一郎

富山商工會議所常務議員、富山縣多額納稅者、富山銀行取締役、中越無錫不二鋼材社長監査役、富山縣在籍

妻 マツキ 明二、九、六、生、富山、濱松與八郎妹

男 一郎 大、一、五、五、生

女 信 大、七、五、生

君は富山縣人永井爲次郎の長男にして明治十七年二月を以て生れ大正十一年家督を相続す現時前記銀行各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千七百圓を納む又推されて富山商工會議所常務議員たり家族は尙二女民(大九、一、一、生)あり(富山市總曲輪七七電二九六二)

永井 省三

倉倉電機取締役、東京府在籍

妻 はる 明一、九、一、生、海軍機關大佐安部

男 健 明四、一、九、生、凸版印刷會社員、大倉高商出身

女 登美枝 大、三、四、生、長男健妻、富山、鷹田其石二女

六二(東京市中野區大和町七〇電中野二二四二) 參照河相達夫、永井得一※馬越幸次郎※松阪昭二 ※三毛一夫の項

永井 外吉

東京電機取締役、大雄鐵道取締役、石川縣士族

妻 ふさ 明二、三、一、〇、生、滋賀、堤康次郎

男 博 大、二、一、一、生

女 美代子 大、六、七、七、生、日本女大附屬高女在學

女 和代 大、八、二、二、生、日本女大附屬高女在學

君は石川縣士族永井孝一の二男にして同柳太郎の從弟なり明治二十二年十月を以て生れ同二十七年家督を相続す現時前記各會社の重役にして石川縣下多額納稅者に列し又穀豆鐵道根土地東京土地各會社の重役たりし事あり家族は尙三女富美代(大、一、〇、一、生、日本女大附屬高女在學)四女敬子(同四、六、生)あり姉かお(昭一八、一、一、生)は鹿島縣八三原後に嫁せり(東京市濱橋區下落合三ノ一三四(電大塚三五二二)) 參照堤康次郎、永井柳太郎の項

永井 太三郎

奈良英日堂、印刷業、奈良縣在籍

妻 キキ 明三、一、五、生、大阪、吉岡寅太郎

養子 俊子 大、九、一、一、生、奈良、谷森吉三女

君は奈良縣人先代永井宗太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ同四十年家督を相続す永井英日堂印刷所と稱し印刷業を營む家族は尙長女昭子(昭六、六、生)二女幸子(同八、八、生)弟政一(昭二五、二、二、生)同和藏(同三五、九、生)あり(二二七B五三三(大阪府西區土佐堀一ノ一二電土佐堀三〇八三・四九三九))

永井 環

正五位勳五等、地方技師、熊本縣内務部監理課長兼監業取締所長、愛知縣在籍

妻 きく 昭一、八、一、〇、生、愛知、藤原清次

君は愛知縣人永井平重の三男にして當主武雄の叔父なり明治十四年五月を以て生れ同三十四年東京農工講習

君は舊米澤藩士遠藤助次郎の二男元臺灣電力會社社長同達の弟にして明治十二年一月を以て生れる同三十七年從兄永井秀顯の跡を承て家督を相続す同三十三年選官省に入り選官技師に任ぜられ臨時電報電話建設局技師選官更替所教官等を兼ねしが倉倉電機會社の招聘に依り大正十一年退官し現に同社取締役製造部長たり選官省在職中中華民國政府の電話交換業務開設計畫の爲め同國に派遣せられたることあり長女輝子(昭四四、六、生、府立第五高女出身)は北海道人林好一郎長男選信技師工學士一郎に嫁せり(三九五(東京市荏原區中延町一〇九四電荏原二三八〇)) 參照遠藤達の項

永井 甚右衛門

東京染織事務取締役、越後屋、東京府在籍

妻 たみ 明元、四、生、東京、小山幸助長女

女 雅子 明二、一、七、生、養父甚右衛門長女

男 政雄 大、三、一、〇、生

君は東京府人高野重藏の二男にして明治十九年十二月を以て生れ後先代甚右衛門の養子となり大正八年家督を相続し前名勝之助を改め名を甚右衛門と稱して呉服商を營み傍ら東京染織會社の常務取締役たり家族は尙二女富子(大、二、一、二、生)あり(東京市京橋區銀座二ノ四電京橋七四〇)

永井 瀧太郎

京都府多額納稅者、永井商店社長、石川縣屋業、京都府在籍

妻 ハツ 明二、一、九、生、大阪、横木卯之助妹

男 昭太郎 明四、〇、一、二、生

女 道子 明四、二、一、二、生

男 東三郎 明四、四、三、生

女 道子 明四、四、三、生

男 東三郎 大、三、六、生

君は愛媛縣人永井嘉太郎の從弟にして明治三年四月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す現時永井商店社長にして石油問屋業を營み京都府多額納稅者に列し直接國稅千三百六十二圓を納む家族は尙四男瀧太郎(大、三、四、生)二女芳子(同、一、〇、一、二、生)五男益五郎(同、一、六、一、生)六男勇(昭三、一、二、生)あり(京都市中京區六角通東洞院東入電本局四四五九)

永井 篤三郎

上毛鐵絲線事務取締役、前橋織物、群馬縣在籍

妻 周 明三、六、八、生

男 好枝 明四、三、一、〇、生、長男安一郎妻、栃木、中村清助二女

男 三郎 明四、〇、一、二、生

男 仁四郎 大元、九、生

君は群馬縣人永井京藏の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正十一年家督を相続す現時前掲各會社の重役たりし事あり家族は尙五男六郎(大、五、一、二、生)妹ぬい(昭一五、二、生)あり姉はな(同七、一、二、生)は群馬縣人中島伊之藏弟徳藏に嫁し弟三郎(同、一、八、五、生)同欣三郎(同、二、二、一、一、生)は各分家せり(前橋市本町二五)

永井 尙敏

正三位勳三等、子爵、舊濱州加納藩

妻 正三位勳三等、子爵

君は兵庫縣人永井敬介の五男にして同澤の弟河相達夫の兄に當り明治二十年二月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして鐘紡山科絹布工場兼絹布製織所社長たり家族は尙長男嘉彦(大、七、三、生)二男強(同、一、〇、八、生)二女初音(同、一、三、五、生)三男醇三(同、一、五、五、生)あり(兵庫縣武庫郡精道村若屋三條電若屋三九五八) 參照河相達夫、永井潜の項

妻 録子 明八、二生、子爵渡邊英綱叔母
 華族女學校出身
男 尚忠 明三、八生、正五位、高千穂高
 明三、八生、正五位、高千穂高
女 英子 大二、四生、女子學府院出身
 當家は永井信濃守尙政の三男侍從尙庸の後なり尙庸京
 都所司代となり父尙政の所領を分與せられ別一家を
 なす夫より七世を経て世々濃州加納三萬二千石の城主
 として先代尙庸に至り明治十七年子爵を授けらる君は
 其長男にして明治四年九月を以て生れ同十八年襲爵被
 仰付同二十五年學府院法律專修科を卒業し同三十年以
 來貴族院議員に當選四回日露事件の功に依り勳四等日
 獨事件の功に依り勳三等に敘せらる長女豊子(明三、二
 七生、學府院女學部出身)は東京府人清水嘉七に二女
 喜美子(同三、二生、出身同上)は長野縣人小島相
 陽二男法學士辯護士に嫁し姉義子(文久、八生)は
 子爵大給近孝の母たり(東京市中野區東郷町三六)
 參照し子爵大給近孝、子爵渡邊英綱、子爵稻垣太
 郎の項

永井直邦

從四位、子爵、大日本ハツケイ協
 會長、舊攝州高槻藩
妻 麗子 明三三、一〇生、公爵三條公輝姫
男 直英 大一一、四生
 當家は永井右近大夫直勝の二男日向守直清の後なり直
 清大阪の役に軍功あり後父の所領を分ち別一家を成
 し慶安二年攝津國高槻三萬六千石に移せらる夫より
 十一世を経て先代直勝に至り宮中祇候所勳番等仰付
 けられ明治十七年子爵を授けらる君は子爵戸田康保の
 弟男爵淺野忠允の叔父にして明治二十九年一月七日を
 以て生れ大正二年直勝の養子となり前名邦光を改め同
 八年家督を相続し襲爵被仰付同十年東京帝國大學文學
 部國文科を卒業し襲爵被仰付同十年家督を継ぎ同十二年
 時帝室編修局編修官補に任ぜらる家族は尙二女直俊
 (大一一、一一生)長女光子(昭三、一一生)二女直子
 (同五、一一生)あり(東京市品川區上大崎六三九)
 參照し公爵三條公輝、子爵戸田康保、男爵淺野忠允
 參照し公爵島津忠永、公爵毛利元昭、伯爵伯耆大谷光
 暢、子爵河野實美、子爵戸田氏次、子爵稻垣太
 郎、子爵伊三郎、子爵松永安衛の項

永井直護

京料商
妻 タマ 明二一、四生、京都、藤本信次郎
男 一 明四四、一一生
 君は京都府人湯川民三郎の二男にして明治十五年八月
 を以て生れ先代コマの養子となり大正四年家督を相続
 才染料商を督むA四七七(京都市上京區西洞院通二條
 下ル電上1070)
 參照し神谷八郎、阪本彰之助、中井半左衛門、柳谷卯
 三郎、天城篤治、柳谷巳之吉、柳谷西三の項

永井通景

從五位、子爵
 舊和州藤原藩
 當家は平高望の三男鎮守府將軍良兼の末葉右近大夫直
 勝の後なり直勝本姓長田氏徳川家康に仕へて永井氏と
 改め累りに戦功を積み下總國古河七萬石を領す長男信
 濃守尙政繼ぎ城州澁川十萬石に加封せられ京畿の鎮護と
 なる夫より十世を経て幾多の變遷あり和州新莊一萬石
 の藩主として先々代直哉に至る直哉維新の際同藩權
 に移封し明治十七年子爵を授けられ大成會社社長となる
 先代直厚は其三男にして昌榮銀行其他諸會社の重役たり
 君は其男にして明治四十三年五月を以て生れ大正十
 三年家督を相続し襲爵被仰付叔母貞子(明一六、一一生)
 は岡山縣人秋山定輔に嫁し叔父誠(同二〇、九生、法學
 士)は東京府人宇野季藏の養子となれり(東京市麹町區
 麴町五ノ一ノ一)

永井好信

勳六等、東洋海上火災保險取締
 役、北海道土地建物監査役
妻 タミ 慶應元、七生、長崎、士、山口修
 助妹
男 好一郎 明二六、九生、陸軍少尉、三井物
 産會社員、慶應義塾理財科出身
女 よし 明四〇、二生、長男好一郎妻、東
 京、鈴木庄次郎長女

永井秀太

醫學博士、永井結核病研究所長、
 森ヶ崎永井養所長、醫師
妻 淺江 明一三、一〇生、岡山、松森嘉五
 郎長女
男 立一 明三六、四生、東大坂口内科勤務
 醫學士
女 京子 明四四、一一生、長男立一妻、岐
 阜、海軍中將安東昌喬長女、御茶
 水高女出身
男 昇 明四三、三生、海軍少尉、軍艦扶
 桑乘組員
女 深 明四五、三生、府立第三高女出身
 明四七、一一生、雙葉高女在學
 君は岡山縣人永井立昇の長男にして明治九年七月を以
 て生れ同三十六年家督を相続す同二十九年第三高等學
 校醫學部を卒業し郷里牛窓町に開業し後獨逸に留學結
 核病療法に就き研究し歸朝後永井結核病研究所を創立
 し自ら所長となる現時前記の職にあり大正十年醫學
 博士の學位を授けらる繪畫花卉を趣味とす家族は尙三
 男東一(大四、一一生、第六高女在學、四男好望、同九、三
 男、府立第四中學校在學)孫昇(昭六、長男立一長
 男、同祐子、同八、三生、同長女)あり長女吉乃枝(明三
 八、八生、三輪田高女出身)は埼玉縣人東大醫學部小
 兒科副手醫學士小林晃に二女信(同四、一、五生、御茶の
 水高女出身)は佐賀縣人日本銀行員經濟學士藤原正憲
 に嫁せり(東京市麹町區九段四ノ三ノ三電九段一七二
 二)

永井眞澄

日本郵船社長附秘書
 廣島縣土族
妻 富士 慶應二、六生、廣島、入澤記一姉
 明二七、一一生、石川、士、故關
男 眞茂 大六、八生、成蹊高校理科在學
 君は廣島縣藩士永井久太郎の長男にして明治十二年九
 月を以て生れ同三十七年家督を相続す同三十四年東京
 高等商業學校を卒業し日本郵船會社に入り倫敦支店詰
 を經て大正十二年社長秘書となり今日に又ぶ家族は尙
 二女澄子(大九、七生、御茶の水高女在學)あり長女時
 子(同三、一一生、御茶の水高女出身)は高知縣土族島

永井利兵衛

地主
 大阪府在籍
妻 キリ 明一五、七生、大阪、木下金藏妹
 明三六、三生、第一銀行員、商學士
男 富美子 明四〇、六生、清水谷高等女學校
 出身
女 泰藏 明四一、九生、東京商大在學
 君は大阪府人先々代利兵衛の男にして明治九年四月を
 以て生れ先代利右衛門の養子となり同三十八年家督を
 相続し前名勘次郎を改む地主たり長女ツヤ(明三二、
 一一生)は同夫益慶(明二六、一一生、兵庫、賀川三二、
 男)と共に分家し二女キキ(明三三、四生、市岡高女出
 身)は大阪府人乾利兵衛に三女キシ(同三五、三生、出身
 同上)は京都府人伊藤隆一に四女道子(同三八、一一生、
 大阪信愛高女出身)は兵庫縣人山本長兵衛二男種治
 に嫁せりA三六四四(大阪府西區京町堀通四ノ九電土
 佐堀一六)
 參照し乾利兵衛、木下金藏、岩田正次郎、岸本信太
 郎の項

永井柳太郎

從三位勳二等、衆議院議員(石川
 縣選出)、東京府土族
妻 つる 文久元、二生、永井孝賢二女
 明二〇、一一生、東京、士、三浦
 敬長女
男 明男 大四、五生、早稻田第一高等學院
 在學
女 愛子 大五、一〇生、雙葉高女出身、惠
 女學園在學
 君は石川縣土族永井登の長男にして同外吉の從兄なり
 明治十四年四月を以て生れ大正六年家督を相続す明治
 三十八年早稻田大學政治經濟科を卒業し英獨兩國に留
 學を命ぜられ牛津大學マンチェスターカレッジを卒業
 主筆たり早稲田大學教授に任じ「新日本」の
 主筆たり夙に故大隈侯の知遇を受け政治界に入り衆議
 院議員に當選すること四回に及び立憲政黨の所屬に
 して大正十三年加藤内閣の下に外務事務官に任ぜられ同
 四年七月濱口内閣成るや外務事務官に任ぜられ同六
 年之を辭し立憲政黨幹事長に擧げらる後同七年齋
 藤内閣の拓務大臣となり同九年同内閣と共に辭す義に
 歐米各國を巡遊し支那を視察する事數回「支那大觀」
 「植民原論」植民問題と社會問題「グラッドストーン」
 其他の著あり家族は尙二男道雄(大一一、三生、弟知二
 (明三〇、三生、鐵道省勤務、早大理工科出身)同妻枝子
 (同三三、一〇生、東京、鈴木富太郎二女)及其一男一
 女あり(東京市澁谷區千駄ヶ谷三ノ四〇七電青山五七
 五一)
 參照し永井外吉、永井太郎の項

永井和一郎

東京市神田區會議員、東京器械機
 本電社社長、四ツ星安全肥料九州水
 力電氣各社取締役、群馬縣在籍
妻 コウ 明一六、九生、群馬、永井謙三郎妹
 明四二、三生
 君は群馬縣人永井宇三郎の長男にして明治十四年八月
 を以て生れ同四十四年家督を相続す現時東京市神田區
 會議員にして東京器械機本電社社長の外前記會社の
 重役たり家族は尙弟亮一(明二九、四生)同妻嘉久(同
 三八、一一生、群馬、小林啓之助妹)及其一男一子あり
 (東京市神田區五軒町一九電下谷五一七)

永池 長治

日本銀行理事
鹿兒島縣士族
明一七、一〇生、東京、倉西松次
郎長女、東京女學館出身
明三九、一〇生、三井信託會社員
經濟學士
大六、一〇生、日本女子大附屬高
女在學

永江 眞郷

三池銀行、三池貯蓄銀行各頭取
日本電報通信社取締役、江浦登
油鹽港、福岡縣在籍
副社長、福岡縣在籍
萬延元、九生、福岡、士、立花等
長女
純一郎、大九、四生
明四四、二生
房、大六、一〇生

永岡 莊一

參照 永井久太郎 永水處理文の項
宮崎縣士族
明三三、一〇生、宮崎、黒木治作姉
武男、明三三、八生
カヤ、明四一、二生、長男武男妻、宮崎
智恵、明三九、一〇生
文、明四三、七生
正、大三、六生

永岡 外次

從四位勳四等、辯護士
石川縣在籍
妻、マサヲ、卓爾二女
明一六、一〇生、長崎、士、緒方
君は石川縣人永岡由友の三男にして明治十年五月を以
て生れ同二十六年家督を相続す同三十五年東京法學院
を卒業し判事任用試験に合格し同三十九年検事に任
じ爾來室蘭札幌同地方富山高岡富山古屋地方同
山田徳島地方同富山同地方同富山同地方同富山同
同地方松本區長野地方松本支那各裁判所検事大審院
検事等に歴補せし現時官を辭し辯護士を開業す(名
古屋市東區富士塚町二ノ一電東三七三)

永岡 彌兵衛

近藤紡績所専務取締役、谷坊織
業組一社社長、臨海土地、東海殖
産各社取締役、名古屋綿糸取引所
會員、愛知縣在籍
妻、かね、慶應元、七生、愛知、深田源六叔母
悦太郎、大五、二生
明二三、一二生、愛知、富田幸吉妹
ふじ、大三、三生

永木 彌七

家主
大阪府在籍
妻、もん、明一五、三三、大阪、見次郎長女
彌、明三九、七生
君は大阪府人先代彌兵衛の長男にして明治十一年九月
を以て生れ同二十二年家督を相続す家主たり家族は尙

永澤 信之助

京町商工會議所常務委員、内外出版
印刷部部長、日本放送出版協會
京都書籍各社社長、金港堂、書
商、京都府在籍
妻、ハツ、明一六、一〇生、京都、永澤庄次
郎養母
明三九、一〇生、大津地方裁判所判
事、法學士
明四〇、一〇生、長男信義妻、東
京、伊藤道三二女、三輪田高女出身
大五、一〇生、京都府立第一高女
出身
女、惠美子

永澤 安之助

宮城縣多額納稅者、石巻重機造船
仙倉倉庫取締役、大崎小倉港
監査役、金港堂、宮城縣在籍
妻、リウ、明二二、六生、宮城、屯家丈吉長女
吉長女
明二二、六生、宮城、屯家丈吉長女
女、繁子、大七、四生
登茂子、大七、四生
君は宮城縣人永澤清之助の二男にして明治十六年四月
を以て生れ同三十九年家督を相続す金港堂を營み傍ら
前記各會社の重役に於て宮城縣多額納稅者に列し直接
間税五千五百圓を納む家族は尙三女良子(六一)、一

永島 忠

正六位勳六等、武田長兵衛商店總
取締役、三重縣在籍
妻、なを、明一九、五生、三重、梶井甚九郎
養妹
女、幾久子、大六、一〇生
君は三重縣人永島雪江の二男にして明治八年十月を以
て生れ大正十年兄方より分れて一家を創立す現時武
田長兵衛商店取締役たり長女幸子(明三八、一〇生)は
奈良縣人中川津四男總夫に嫁せりA五四九(兵庫縣武
庫郡細道村廣屋松ノ内電青屋二四二七)

永島 福太郎

硝子製造業
東京府在籍
妻、キヲ、明九、六生、栃木、塚田茂吉妹
信次郎、明三五、一二生
しる、明四三、四生、長男信次郎妻、東
京、矢作藤藏二女
男、房二、明三九、八生
婦、雪子、明四二、九生、二男房二妻、栃木
川田惣一郎二女
女、トヨ、明四四、一〇生
女、きよ、大七、四生
君は栃木縣人先代義藏の長男にして明治七年二月を以
て生れ同三十六年家督を相続す硝子製造業を營む弟寅
吉(明二二、二生)同妻エ(同二五、六生)栃木、橋本
孝(明一〇、三三)神奈川、寺田かねは(二生)同妻
タキ(同二〇、三三)神奈川、寺田かねは(二生)同妻
伴の弟忠(同二六、九生)同妻ノブ(同三一、四生)
栃木、中田惣吉(同二六、九生)同妻ノブ(同三一、四生)
八B六四六(東京市深川區毛利町二六電本所五八)別
宅「大阪府住吉區桑津四電天三寺一八七」

永島 義治

日本郵船客運課長
長野縣在籍
妻、のぶ、明二一、二生、東京、士、飯室せ
のぶ、大七、一〇生
君は長野縣人永島波之助の二男にして明治十五年四月
を以て生れ同四十年兄松太郎方より分れて一家を創立
す同三十九年東京高等商業學校を卒業し同四十年日本
郵船會社に入社し大正七年船客課長に任ぜられ引續き
今日に至る家族は尙二男峻次郎(大八、二生)ありA二
〇(東京市渋谷區若木町六電青山三五二四)

永島 米治

三井信託會理事、保管部長
東京府在籍
妻、しゆん、明一、四生、山梨、藤見得妹
明三四、一〇生、三井生命保險會社
統理課員、慶大經濟學部出身
明三八、一二生、東邦電力會社員
慶大經濟學部出身
君は東京府人永島良幸の長男にして明治元年四月を
以て生れ同十七年家督を相続す同二十五年慶應義塾を
卒業し同二十六年三井銀行に入社し同二十三年三井信託
會社創立と共に同社に入り現時同社理事に任ぜられ保管部
長たりA六九三(東京市渋谷區大向通三電青山三三三)

永田 龜吉

帽子附屬原料商
大阪府在籍
妻、小ヤス、明一三、八生、大阪、大栗考太郎妹
兵太郎、明三三、一二生

ナ之部 永田

(※印は姻族関係)

ナ三〇

永田 歸三 第一銀行四日市支店長
永田 儀三郎 前三十四銀行
永田 菊次郎 鐵商

永田 信一 中外紡績社長
永田 甚之助 武州銀行

永田 盛三 正五位勳五等
永田 善治 山二物産

永田 弘一 愛知縣在籍
永田 駒三郎 大阪府在籍

永田 三十郎 永田同族土地
永田 泰造 東洋棉花

永田 三郎 正五位勳四等
永田 善三郎 衆議院議員

ナ之部 永田

(※印は姻族関係)

ナ三〇

永田 信一 中外紡績社長
永田 甚之助 武州銀行

永田 盛三 正五位勳五等
永田 善治 山二物産

永田 弘一 愛知縣在籍
永田 駒三郎 大阪府在籍

永田 三十郎 永田同族土地
永田 泰造 東洋棉花

永田 三郎 正五位勳四等
永田 善三郎 衆議院議員

永田 善三郎 衆議院議員
永田 善治 山二物産

ナ之部 永田

(※印は姻族関係)

ナ三二

永田 信一 中外紡績社長
永田 甚之助 武州銀行

永田 盛三 正五位勳五等
永田 善治 山二物産

永田 善三郎 衆議院議員
永田 善治 山二物産

ナ之部 永田

(※印は姻族関係)

ナ三二

永田 信一 中外紡績社長
永田 甚之助 武州銀行

永田 盛三 正五位勳五等
永田 善治 山二物産

永田 善三郎 衆議院議員
永田 善治 山二物産

養母 マス 安政三、一一生、鹿兒島、徳田清
 妻 ハ マ 明三三、三三、鹿兒島、士、伊
 男 一 郎 大七、五生
 女 千 鶴 子 大七、二生

君は福井縣人松田太治兵衛の三男同太郎の弟にして明治十七年二月を以て生れ同三十二年先代永田雅信の養子となり大正三年家督を相続す夙に實業界に入り現時東洋棉花會社監査役たりA一一〇(大阪府豊能郡箕面村櫻川)

永田達之助 永田達商店代表取締役、大日本商工總取組役、大阪府在籍
 妻 サ ダ 明二四、一〇生、廣島、下都ウヲ妹
 養子 みさを 庶子 明三八、四生、兵庫、岡野松之助

君は大阪府人佐藤辰三郎の三男にして明治十二年九月を以て生れ先代安兵衛の養子となり同三十一年家督を相続す現時永田達商店代表取締役たる外面記會社の重役たり養弟親次(明二五、八生)は大阪府人油野鶴之助の養子となり(大阪府東區北濱通二ノ一八永田達商店内)

永田民也 正五位勳三等、鐵道技師兼内務技師、監督局技師課長、山口縣七族
 妻 清 子 明三一、七生、東京、山上萬次郎
 男 太 郎 大五、一一生
 女 ノブ子 大八、二生

君は山口縣土族永田宣吉の長男にして明治十七年十一月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十二年東京帝國大學工學科大學士工學科を卒業し鐵道院技師となり大正二年鐵道院技師に進み島根縣古見野上野各保線事務所に在り大正五年歐州へ出張を命ぜられ昭和四年八月歸朝す家族は尙三女ケイ子(大一一、一三)四女カヅ子(同四、七生)あり二女フミ(同一一、一三)は山口縣土族阿武重元の死跡を相続し弟四郎(明三三、一三)も亦同縣土族村崎敏行の家督を相続せりA一六七(東京市豊島區西馬場四ノ一三電大塚一八〇一)

永田哲三 住友銀行總本支店長
 妻 誠 一 明元、六生、現戸主
 妻 ワケリ 明三六、六生、北海道、筒井彌一
 男 眞 一 大一一、一一生

君は茨城縣人永田宇吉の四男にして明治二十七年二月を以て生れ現戸主誠一の養子となる大正七年東京帝國大學法學科大學經濟學科を卒業し住友銀行に入社す昭和五年同行東京支店副長となり同六年熊本支店長を命ぜられ今日に至る家族は尙長女寛子(大一一、七生)二女恭子(昭四、五生)二男正(同六、一三)養弟秀夫(大

永田恒治 昭和商工無盡監査役、木炭商
 妻 壽 賀 明二二、七生、愛知、石川分衛姉
 男 良 藏 明四五、二生
 女 和 大八、五生

君は愛知縣人永田春次郎の長男にして村瀬三郎の兄なり明治十一年十二月を以て生れ大正九年家督を相続す木炭商を営み昭和商工無盡監査役にして兼に東亞鐵石煉瓦合名會社代表社員たりし事あり家族は尙五女豊子(大一一、一〇生)五男春藏(同四、四生)六男經藏(昭二、一〇生)あり姉周子は分家せりA三四八(名古屋市西區木曽町二ノ二日電本局三六五六)参照し村瀬三郎の項

永田常十郎 大阪府在籍
 妻 清 明三八、三三
 女 衣 子 明四三、二生

君は大阪府人永田彦作の四男にして明治九年九月を以て生れ同三十五年兄弟好三郎方より分れて一家を創立す現時前記會社の代表社員にして兼に鴻池銀行上町支店長たりし事あり長女芳枝(明三九、一〇生)は大阪府人山田小三郎叔父長三に嫁せり(大阪府住吉區北白田中一ノ二七)

永田哲三 住友銀行總本支店長
 妻 誠 一 明元、六生、現戸主
 妻 ワケリ 明三六、六生、北海道、筒井彌一
 男 眞 一 大一一、一一生

君は茨城縣人永田宇吉の四男にして明治二十七年二月を以て生れ現戸主誠一の養子となる大正七年東京帝國大學法學科大學經濟學科を卒業し住友銀行に入社す昭和五年同行東京支店副長となり同六年熊本支店長を命ぜられ今日に至る家族は尙長女寛子(大一一、七生)二女恭子(昭四、五生)二男正(同六、一三)養弟秀夫(大

永田正雄 東京府在籍、洋品商
 妻 正 義 大八、五生
 女 廣 子 大六、四生

君は埼玉縣人杉浦佐治右衛門の七男にして明治二十一年五月を以て生れ大正二年先代ゆきの入夫となり家督を相続す田原分店と稱し洋品商を営む家族は尙三女良子(大一一、九生)二男敬民(昭二、九生)三男正衛(同三、一二生)ありA一一五B四一二(東京市京橋區銀座五ノ二ノ四電鐵三三〇八)参照し永田秀次郎の項

永田昌緯 北海道殖産銀行取締役
 妻 政 子 明二九、九生、永田榮壽長女
 男 昌 大七、七生、札幌一中在學

君は島根縣人永田直清の長男にして明治二十三年六月を以て生れ同四十年家督を相続す大正六年東京帝國大學法學科大學を卒業し直ちに北海道殖産銀行に入り同十一年歐米歷遊歸朝後調査課長支店課長等を經て昭和七年取締役に選任せられ現時支店課長事務取扱を兼ね讀書ゴルフに興味あり家族は尙二男尚久(大一一、三三)三男直也(同一一、三三)ありA一六〇〇(札幌市南十條西三ノ一〇電一四)

永田萬造 京都市在籍、半襟商
 妻 コト 長女
 妻 明一七、七生、京都、千種園男妹

君は京都市人永田直清の長男にして明治十五年四月を以て生れ同四十四年家督を相続す五萬と稱し半襟商を営む家族は尙弟文次郎(明二三、六生)同七郎(同二六、九生)同妻久(同三八、四生)京都、金萬景公姉)及其一子あり弟忠三郎(同二〇、一三)分家せりA四四八B二二六(京都市東區新通大和路東入電鐵一五七)参照し

永田光之助 正五位勳四等、朝鮮總督府鐵道局技師、鐵道局建設課長
 妻 正 義 大八、五生
 女 廣 子 大六、四生

君は京都市人先代彦治郎の長男にして明治十五年四月を以て生れ同四十四年家督を相続す五萬と稱し半襟商を営む家族は尙弟文次郎(明二三、六生)同七郎(同二六、九生)同妻久(同三八、四生)京都、金萬景公姉)及其一子あり弟忠三郎(同二〇、一三)分家せりA四四八B二二六(京都市東區新通大和路東入電鐵一五七)参照し

永田安吉 正五位勳五等、外務書記官、調査部第一課長、兵庫縣在籍
 妻 くら 山崎高女出身
 男 安 弘 大一一、七生

君は兵庫縣人永田與三吉の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ昭和五年兄與一方より分れて一家を創立す大正三年文官高等試験に合格同四年東京帝國大學法學科大學法學科を卒業し千葉縣屬同理事官を経て外務事務官兼外務書記官に任じ爾來臨時調査部係約局長第三課臨時平和條約事務局勤務大使館三等書記官同二等書記官各瑞西國在勤チエッコ・スロヴァキア國在勤公使館一等書記官同國在勤等に歴任し昭和五年總領事に任ぜらる現時調査部第一課長たり家族は尙長女みち(大九、八生)佛英和高女在學(二女ふみ(同一一、〇一)二女佛英和高女在學(三女まり(同一一、一三)一男あり(東京市麻布區西町二三電高輪七〇五〇)

永田兵三郎 正八位、横濱市土木局長
 妻 あや 明二一、二生、兵庫、廣瀬茂一長女
 男 成 雄 大二、一〇生
 女 シンツ 明四四、四生
 女 百合子 大七、三三

君は貴族院議員永田秀次郎の弟にして明治十二年十一月

永田彦太郎 從五位、商工書記官、商務局取組課長、京都府在籍
 妻 利 子 明三八、八生、大分、子爵稻葉順
 男 博 彦 昭五、七生

君は京都府人永田直彦の長男にして明治三十一年七月を以て生れ大正十一年東京帝國大學法學部法律科を卒業す中在學中高等試験行政科に合格し卒業後直ちに農商務省に入り爾來保險事務官兼農商務省商工事務官特許局事務官臨時産業合理局事務官兼商工書記官等に歴任し昭和九年現官職に轉ず家族は尙長女和子(昭二、一三)あり(東京市麻布區本村町二二五電高輪三〇〇六)参照し稻葉順通の項

永田秀次郎 從四位勳三等、貴族院議員、拓殖大學長、教務調査會々長、兵庫縣土族
 妻 いそ 明一五、四生、兵庫、羽田平五郎妹
 男 亮 一 明四四、九生、中央大學經濟科在學

君は兵庫縣土族永田實太郎の長男にして明治九年七月を以て生れ同四十年家督を相続す同三十二年判檢事登用試験に合格し兵庫縣本中學校長大分縣視學官大分石川縣本各縣事務官内務書記官福岡縣事務官内務部長内務省警保局長等に歴任し後東京市助役に擧げられ大正十二年及昭和五年五月東京市長に推され令名あり同九年六月帝都復興事業に關し盡力せらるるに依り金杯を下賜せらる現時貴族院議員にして拓殖大學々長たる外教務調査會々長被仰付義に建國會名譽會たりしことあり青嵐と號し俳句を能くす弟兵三郎(明一一、一三)一男あり其妻を伴ひ分家せりA八四一(東京市小石川區維多利亞三電牛込二〇七)参照し永田兵三郎の項

永田 與

帝國人遺留事務取扱役
愛知縣在籍
妻 貞 昭三、一、一生、愛知、増田庄六妹
男 敏太郎 昭二、三、生

永田 余郎

從五位勲六等、鐵道技師、工務局
建築課勤務、東京府在籍
妻 美代子 昭三、一、一生、府立第一高女出身
母 昭三、一、一生

永田 利平

本籍高野
妻 ちか 昭一、一、一生、埼玉、島田俊夫叔母
養子 卓 昭二、八、七、生、長女美代夫、埼玉
女 美 昭三、一、一、生、養子卓妻

永田 良吉

從七位 陸軍砲兵中尉、衆議院議員
(鹿児島縣選出)
妻 ツルマツ 昭二、〇、五、生、鹿児島、朝倉岩登
女 登良巳 昭四、一、生

永田 良介

永田良介商店取締役社長、商事
借地借家、金銭貸借各調停委員
妻 とわ 昭一、八、五、生、兵庫、太田新三郎
養子 善 昭三、一、七、生、養子みつと、三

永地 秀太

從五位勲四等、東京高等工務學校
教授、洋畫家、山口縣士族
妻 マチ 昭一、三、一、一生、養父三郎長女
男 信一 昭三、八、七、生、東京農大出身

永瀧 松之輔

東邦瓦斯電氣取締役、岐阜瓦斯
電氣監査役、北海道在籍
妻 エイ 昭二、八、一、生、貴族院議員加藤政
子 俊 昭四、四、一、生、東京女學館出身

永谷 常脩

養父 鹿兒島縣士族
妻 常 昭三、五、生、亡養子隆志長男
孫 隆志 昭三、二、生、亡養子隆志長男
孫 隆志 昭三、二、生、亡養子隆志長男

永積 純次郎

正四位勲二等、工學博士、九州帝
國大學教授、工學勲功、山口縣
多額納税者、山口縣在籍
妻 ウメ 昭二、一、一生、養父安兵衛長女

永富 謙一

從六位、商工部、大臣官房統計
課勤務、東京府士族
妻 ミチ 昭七、九、生、栃木、野澤武之助妹
養子 愛子 昭三、九、生、公府伊藤邦二女

永富 貞平

從三位勲二等、辯護士
妻 ナサ 昭一、三、一、一生、福岡、審判文山
長女 昭三、五、四、生、九州水力電氣會社

永沼 秀文

正四位勲二等功三級、陸軍中將、
帝國モースリン社社長、宮城縣在籍
妻 さた 昭三、五、生、貴族院議員仁尾茂妹
男 秀 昭二、七、八、生

永野 馬太郎

正五位勲四等、海軍軍醫少佐、選
信判官、高等海軍裁判官、選
管船勤務、高知縣在籍
妻 登志子 昭三、一、七、生、高知、士、丁野遠

女 美恵子 大五、一一生
君は高知縣人田村百太郎の二男にして明治十五年七月...

永野榮太郎

妻 ナナ
美子 正
女 千代 明三三、二生、養子正妻...

永野四郎

妻 はるの 明三四、六生、岡山、捕戸京六女
女 敬子 大七、一一生

永濱中

地主 東京府在籍
孫 よね 明二四、四生、先代正左衛門妻...

永原伸雄

妻 太 郎 明三六、七生、農學士
男 壽 満 明四三、一一生、長男...

永野修身

妻 正 路 高元、八生、現戸主
女 壽子 大七、一一生

永野太次郎

妻 まき 昭四、一一生、京都、福光兵三
女 敬子 大七、一一生

永野護

妻 セツ子 昭三、七生、廣島、田上謙藏二女

永藤鐵太郎

妻 はな 元治元、三生、千葉、石井精亮二女
女 敬子 大七、一一生

永松武夫

妻 カツ子 昭五、一一生、福岡、山本徳三
女 敬子 大七、一一生

永松利熊

妻 敬子 昭七、一一生、福岡、山本徳三

永橋剛一郎

妻 秋子 昭三、一一生
女 敬子 大七、一一生

永橋至剛

妻 剛子 昭三、一一生
女 敬子 大七、一一生

永橋省一

妻 晴子 昭五、一一生、大阪、菅野謙姉

永松陽一

妻 秀子 昭三、一一生、福岡、石田景山二女

永見省一

妻 晴子 昭五、一一生、大阪、菅野謙姉

長井於菟四郎 東産家
 妻 ナラ 明一五、九生、愛知、中西園蔵二女
 君は東京府人長井修蔵の二男にして慶應二年三月を以て生れ明治二十七年兄文靖方より分れて一家を創立す資産家たりA三一五(東京市牛込區市谷臺町一四電四谷三八〇八)

長井越作 日本興乳務取締役、おしどりコナ
 母 キシ 慶應三、四生、新潟、小林嘉吉二女
 妻 キミ 明二七、三生、神奈川、中山伊左衛門七女
 男 誠太郎 大七、一〇生

君は東京府人先代越作の長男にして明治十九年一月を以て生れ同四十二年慶應義塾大學を卒業し昭和八年家督を相続し前名良助を改め號名すおしどりコナミル本舖として知られ傍ら日本製乳會社取締役を兼ね家族は尙二男二女(大一〇、一〇生)長女(同二、二生)あり弟越蔵(明四一、九生)は分家し妹朝子(同三九、一〇生)弟良三(同四三、一二生)同越作(大元、一〇生)妹末子(同五、一二生)同廣子(同七、四生)は前記越蔵の家籍に入れり(東京市京橋區銀座四ノ四電京橋一三二)

長井喜平 關東運糧、日之出汽船各務取締役
 妻 キヨ 明二三、二生、千葉、古結長之助妹
 男 毅 大八、一〇生
 女 久 明四五、五生
 女 正 大四、一〇生
 女 信 大六、五生

君は富山縣人二上作平の二男にして明治四年八月を以て生れ先代喜平の養子となり明治十九年家督を相続し前名岩吉を改め號名す現時前記各會社の重役と共に關東燃料會社専務取締役淺野同族會社社長たりし事あり家族は尙六女(大一一、六生)四男(同四、一四、二生)七女(同四、一〇生)あり二女(同四、一三、三三)は熊本縣人大島新長男に嫁せり(東京市本郷區駒込坂下町一五電小石川三五三三)

長井杏四郎 東洋リノリユム取締役兼律師
 妻 鐵夫 明四二、〇生、三和銀行勤務
 男 鐵子 明四三、二生、大阪、佐々木榮次郎長女、樟蔭女子專門學校出身
 女 千鶴 大二、二生、大阪府立女子專門學校出身

君は新潟縣人長井格平の四男にして明治十年四月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す同三十一年東京高等工業學校機械科を卒業し同三十九年米國インディアナ州立パデュー大學を卒業す現時前記各會社の重役たり家族は尙三女(大一一、六生)伊丹高女(在學)ありA八八四(兵庫縣川邊郡伊丹町一四四電一五三)參照I※宮島三郎の項

長井源 三重縣令副議長、辯護士
 妻 たねよ 明三六、一二生
 男 源一郎 大五一、一〇生

君は三重縣人にして明治二十七年八月十三日を以て生れ大正十二年明治大學法學部を卒業し辯護士試験に合格し昭和二年同大學法學部同六年同大學三重縣會議員に當選し昭和八年同縣會議議長に推され現に其任にあり(昭和三年海外諸國を調査す家族は尙長女洋子(昭三、八生)二女(同五、八生)あり(松坂市大字殿町二九三電三三九))

長井佐兵衛 昭興染工所主、毛織物並綿布商
 妻 サツ 明四五、二生、養父佐兵衛長女
 男 新之助 明四五、二生、大阪、長井米治長男
 女 久 明四五、五生

君は奈良縣人福島宗平の三男にして明治十一年四月を以て生れ後先代佐兵衛の養子となり大正十五年家督を相続し前名長次郎を改め號名す毛織物並綿布商を營み昭興染工所を經營す家族は尙三女(明二四、五生)養父佐(同四女)同末治(同二九、六生)奈良、福島宗平(五男)其子ありA一一〇六B二七四(大阪府東區南久太郎町二一電船場八二〇C)

長井直雅 中條商店監査役
 妻 ふみ 明一六、一〇生、三重、中條源兵衛三女
 男 庄重郎 大二、二生
 女 ケイ 大四、三生

君は東京府人長井庄吉の長男にして明治十七年十月を以て生れ昭和六年一月家督を相続す上田屋書店と稱し書籍商を營み現時前記各會社の重役たり家族は尙二男(同二、二生)三男(同八、七生)四男(同四、一〇生)三女(同二、七生)五男(同五、七生)あり(同二、七生)あり長女嘉壽(同四、一〇生)は熊本縣人親正正見に嫁す(同二、九、一〇生)は長野縣人小平増市に嫁せりA三六五B七四(東京市神田區神保町一ノ一電神田三五五八)

長井村太 從七位、三井合名會社員、三井家
 妻 みつ 安政四、五生、長野、小山嘉一郎妹
 男 秀 明二〇、三生、北海道、士、二本彦七長女
 男 久 明四五、一〇生、慶大在學

君は長野縣人長井藤五郎の長男にして明治十二年九月を以て生れ同三十八年家督を相続す同三十五年明治法律學校を卒業し判事登用試験に合格し判事に任じ感岡長野縣各支店長に歴任し現時三井銀行に入り門司大阪三井合名會社員を兼ね家族は尙五女(大九、七生)六女(同二、一〇生)七女(同六、一〇生)弟盛至(明三四、四生)慶大醫院内科助手、醫學士、同妻三枝子(同四三、五生)長野、小林鶴三女あり二女(同四四、一〇生)は山形縣人青柳一太郎長男日本生命

長井利榮 地主
 君は東京府人服部八右衛門の二女にして明治四年十月を以て生れ昭和九年夫利右衛門の後を承け家督を相続し前名としを改む地主たり夫右衛門は義に東京府多額納税者に列し臺灣拓殖製茶會社取締役たりし事ありA一五八三(東京市澁谷區代々木初臺四七八電四谷一三三三)參照I小平三郎の項

長池又三郎 長崎縣多額納税者、有家産業務社
 妻 サエ 明八、一〇生、長崎、本多重一妹
 君は長崎縣人長池和治の長男にして明治二年十二月を以て生れ同三十八年家督を相続す現時前記會社の重役にして長崎縣多額納税者に列し直接間接三千八百八十六圓を納む義に有家銀行口之津鐵道局原鐵道各會社の重役に擧げらるる家族は尙弟安藏(明五、一〇生)同妻リツ(同七、三生)長崎、士、小林短度(長女)ハ其子女あり姉ツネ(元治元、一〇生)は長崎縣人長池庄三郎に嫁す(明二、一〇生)は同縣人山田叔父半五郎に嫁す(明三、一〇生)弟安藏(長女)は同縣人長池吉之助に同トモ(同三五、一〇生)は新潟縣人三浦備に嫁せり(長崎縣南高來郡有家町)

長江伊三郎 大阪屋、足履商
 妻 もよ 明五、一〇生、京都、中谷角右衛門長女
 男 茂一郎 大一四、三生
 女 明三三、二生、京都、長江定次

君は京都府人先代伊三郎の長男にして明治二十九年七月二十一日を以て生れ大正十年家督を相続し前名嘉一

長尾戒三 正四位勳三等、前大邱覆審法院檢
 妻 辰子代 明一八、七生、東京、士、沖龍雄
 男 公三 明四三、一〇生
 男 泰三 大元、八生

君は廣島縣七族長尾定明の二男にして明治六年八月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十五年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し同三十七年檢事に任ぜられ字都賀地方同區各裁判所檢事を經て統轄府檢事に轉じ平壤公州各地方方法院檢事に任じ更に朝鮮總督府檢事となり爾來京城地方方法院同覆審法院大邱釜山各地方法院各檢事或平壤京城各地方法院檢事に任じ現時大邱覆審法院檢事たりし昭和八年之れを辭し現時閑地に在り(歐米各國へ出張す家族は尙四男(明三九、二生)五男(同三、同七、六生)あり長女(明三八、一〇生)は東京府人中村竹藏二男に嫁し弟恒吉(同二五、四ノ六六電山一三八八)參照I中村竹藏、長尾恒吉※野口實之助の項

長尾景信 大信汽船會社事務取締役
 妻 タネ 明二〇、一〇生、山口、弘中隆義叔母
 男 芳太郎 明三三、七生
 女 千鶴子 大三、六生

君は山口縣士族長尾景三の男にして明治十七年四月を以て生れ同二十一年分代祖 曾門の後を承け相續す現時大信汽船會社事務取締役たり家族は尙四男(大一一、一〇生)弟正信(明三、一〇生)同妻美代子(同四〇、

長尾喜平 醬油醸造業
 妻 風太郎 明二九、七生、長男風太郎妻、奈良、仲助兵衛五女
 男 泰藏 明三五、一〇生
 男 宣藏 明四五、八生

君は兵庫縣人辰馬久左衛門の二男にして元治元年八月を以て生れ明治二十六年同縣人長尾よしの養子となり家督を相続す醬油醸造業を營む長女(明二六、八生)は大阪府人覺道齊次郎に嫁す(同三六、二生)は奈良縣人深瀬兵藏に嫁す(生年月同上)は同縣人清水壽太郎に七女とし(同三三、五生)は同縣人木村楢(同四〇、八生)は大坂府人野口治雄に嫁す(同二九、六生)先代よし私生子は同府人吉志彌五郎養子十三に嫁せりA一四六六B四一二(尼崎市大物町三ノ三二九電二一)

長尾菊之助 松尾屋、酒類醸造業
 妻 あい 明七、一〇生、愛知、今泉延朗長女
 男 治男 昭二、二生

君は愛知縣人先代菊之助の長男にして明治二十四年五月を以て生れ大正十四年家督を相続と共に前名鐵太郎を改め號名す松尾屋と稱し酒類醸造業を營む家族は尙長女(大九、三生)二女(同二、一〇生)弟治(明四〇、七生)妹治子(明四四、三生)ありA五七八B二四八(名古屋市南區熱田新地頭二九電南一八〇七)

土木建築請負業を営む家族は尙長女マヌエ(六一二、四生)二男哲夫(同一四、一一生)ありA八八六一六三三(一)東京市小石川區大塚仲町四一電大塚一〇七九

長尾小次郎

東京府在籍
妻 明二、一一生、東京、新宮鐵三
男 博 明三九、一一生
女 誠 明三九、一一生
子 大元、九生

長尾恒吉

從四位勳三等功五級、陸軍少將
東京府在籍
妻 光 明一九、三三、東京、山田珠樹姉
男 扶佐子 大三、一一生、佛英和高女出身

長尾藤三

大阪府在籍
妻 明八、八生、大阪、寺西小十郎姉
君は大阪府人先代藤三の庶子にして大正二年一月を以て生れ昭和四年家督を相続し前名慎三を改め馳名す資産家たり先代藤三は大阪國文社長たる外諸會社の重役たり叔父宗次郎(明一〇、一一生)は大阪府人中山新七

長尾美知

正五位勳六等、醫學博士、長尾病
院院長、醫師、千葉縣在籍
妻 エン 原三長女
妻 ウタ 明一五、八生、新潟、士、今泉正
妻 キイ 元治元、九生、新潟、士、大窪彌
男 乾 明三二、一〇生
男 孝子 明四一、一〇生、長男乾妻、雙葉
男 精 明三六、二生、法學士

長尾良吉

神戸瓦斯、川崎造船所、オリエン
タルホテル、ベルベット石鹼各廠
取締役、阪和電氣鐵道監督、
取調役、阪和電氣鐵道監督、
兵庫縣在籍
妻 とし 明一七、九生、兵庫、士、宮城岩
次郎養子
男 良一 明三九、一〇生、東洋棉花會社員
明三八、一一生、長女美代夫、男
明三九、一〇生、横濱正金銀行員
法學士
女 美代 明四二、八生、養子次郎妻、聖
心女子學出身
男 誠三 明四三、九生、甲南高校出身、獨
逸留學中

長尾虎吉

川支代表社員、新聞廣告披露
福岡縣在籍
妻 ウタ 文久二、二生、福岡、安武又平二女
妻 サキ 明一九、一〇、福岡、松田重吉姉
女 トリ 明四二、一〇生
女 ミヨ 大六、一一生

長尾半平

正三位勳二等、日本國幣酒同盟
東京基督教青年會各理事、日本
水産總代表取締役、新潟縣土族
妻 なを 逸見二女
男 新輔 明三二、一〇生、慶大經濟學部出身
女 正士 大元、八生

長尾秀一

吉田商店、東京株式取引所取引員
東京府土族
妻 格 明二三、二生、養父學長女
男 貫一 明四五、三三
女 富佐子 大三、二生
女 武子 大六、二生

長尾松次郎

梅田冷感機製造、大阪魚市場
監査役、大阪府在籍
妻 文 明九、八生、長尾文吉長女
男 藏 明三七、二生、現戶主
妻 美 明三二、二生、長男文藏妻、大阪
松長庄七二女

君は愛知縣人長尾五兵衛の長男にして明治三十四年十
一月を以て生れ大正十年家督を相続す桑名屋紙店と稱
し紙商を営む家族は尙長女(明四〇、一〇生)同恒子
(同四三、八生)弟三(大五、一一生)ありA三二六(名
古屋市西區上長者町四ノ一電本局二八七)

君は大阪府人先代卯兵衛の二男にして明治十七年十二
月を以て生れ同三十七年家督を相続と共に前名幸次郎を
改め馳名す近江屋と稱し家主たり家族は尙五女種(大
一、二、八生)五男保五郎(明三三、八生)あり弟卯之助(明
二〇、七生)は分家し同重松(同二三、一一生)同妻シ
ダ(同二六、一〇生、士、中村哲太郎姉)も亦一子を
伴ひ分家せりA九九八(大阪府西區南堀江上町三ノ五
電堀江二二四八)

君は大阪府人先代卯兵衛の二男にして明治十七年十二
月を以て生れ同三十七年家督を相続と共に前名幸次郎を
改め馳名す近江屋と稱し家主たり家族は尙五女種(大
一、二、八生)五男保五郎(明三三、八生)あり弟卯之助(明
二〇、七生)は分家し同重松(同二三、一一生)同妻シ
ダ(同二六、一〇生、士、中村哲太郎姉)も亦一子を
伴ひ分家せりA九九八(大阪府西區南堀江上町三ノ五
電堀江二二四八)

ナ之部 長(尾、岡)

(※印は姻族關係)

ナ四三

たり家族は尙孫浩平(昭三、八生、長男文藏長男)同美
也(六一二、九生、同長女)同佐和子(明二、三三、同
二女)同弘子(同五、一一生、同三女)あり二女も、明
三九、三三)同夫十二藏(明三四、四生、大阪、池田勝
次四男)は其一子と共に分家し四男次郎(明四一、三
生)も亦分家せりA一一八四(大阪府北區紅梅町一七
電堀江二二四八)

君は大阪府人先代卯兵衛の二男にして明治十七年十二
月を以て生れ同三十七年家督を相続と共に前名幸次郎を
改め馳名す近江屋と稱し家主たり家族は尙五女種(大
一、二、八生)五男保五郎(明三三、八生)あり弟卯之助(明
二〇、七生)は分家し同重松(同二三、一一生)同妻シ
ダ(同二六、一〇生、士、中村哲太郎姉)も亦一子を
伴ひ分家せりA九九八(大阪府西區南堀江上町三ノ五
電堀江二二四八)

君は大阪府人先代卯兵衛の二男にして明治十七年十二
月を以て生れ同三十七年家督を相続と共に前名幸次郎を
改め馳名す近江屋と稱し家主たり家族は尙五女種(大
一、二、八生)五男保五郎(明三三、八生)あり弟卯之助(明
二〇、七生)は分家し同重松(同二三、一一生)同妻シ
ダ(同二六、一〇生、士、中村哲太郎姉)も亦一子を
伴ひ分家せりA九九八(大阪府西區南堀江上町三ノ五
電堀江二二四八)

君は大阪府人先代卯兵衛の二男にして明治十七年十二
月を以て生れ同三十七年家督を相続と共に前名幸次郎を
改め馳名す近江屋と稱し家主たり家族は尙五女種(大
一、二、八生)五男保五郎(明三三、八生)あり弟卯之助(明
二〇、七生)は分家し同重松(同二三、一一生)同妻シ
ダ(同二六、一〇生、士、中村哲太郎姉)も亦一子を
伴ひ分家せりA九九八(大阪府西區南堀江上町三ノ五
電堀江二二四八)

男 義雄 明三四、七生、長男義雄妻... 君は京都府人増井清造の二男にして明治五年十月を以て生れ先代三郎の養子となり大正六年家督を相続す...

長岡 佐介

神奈川縣多摩郡納稅者、田中商事部... 養父 佐次郎 弘三、一〇生... 妻 佐太郎 明三四、一〇生... 長岡 春一 從三位勳一等、法學博士、特命全權大使、東京府在籍...

君は山口縣士族長岡義之の長男にして明治十年一月を以て生れ同三十五年從兄文之進方より分れて一家を創立す同三十三年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し...

長岡 半太郎

正三位勳一等、理學博士、帝國大學名譽教授、大阪帝國大學名譽教授、理化學研究所主任研究員、學術振興會學術部長、長崎縣士族... 妻 登代 明四六、一〇生、東京、平川かね妹... 長岡 護一 千代田縣(現給役)...

長岡 寛統

正三位勳六等、第四高等學校教授... 君は福島縣人長岡寛裕の三男にして明治二十年十月を以て生れ大正六年兄寛徳方より分れて一家を創立す同三年東北帝國大學化學科を卒業し同八年第四高等學校教授に任ぜられ生徒主事を兼務して今日に至る...

長岡 護孝 從四位勳六等、子爵、陸軍騎兵大尉、陸軍通信學校附、細川侯爵家分家... 妻 英子 明三五、一〇生、侯爵細川護立妹...

長岡 春一

從三位勳一等、法學博士、特命全權大使、東京府在籍... 妻 三子 明二三、九生、子爵大島陸太郎妹... 長岡 伊勢吉 帝國染料製造油船各代表取締役、旭石油監査役、東京府在籍...

長久 保得平

正七位勳六等、大塚酒造社長、濱田々新聞社、小酒商業倉庫各社取締役、福島縣在籍... 妻 初 明三四、一〇生、長男俊夫妻、東京...

長久 保米太郎

船屋、五間屋... 妻 ナカ 明二九、八生、栃木、長谷川高藏妹... 君は愛知縣人柳原吉右衛門の二男にして明治二十四年五月を以て生れ前戸主フサの夫となり大正八年家督を相続す...

長倉 信一

靜岡縣多額納稅者、關東産業、東海炭礦運輸役、農業靜岡縣在籍... 妻 信代 明三一、二生、靜岡、北村格一妹...

米漫遊一々年歸來航界に盡す所から又來議院議員に當選す... 長岡 護孝 從四位勳六等、子爵、陸軍騎兵大尉、陸軍通信學校附、細川侯爵家分家... 長岡 春一 從三位勳一等、法學博士、特命全權大使、東京府在籍...

君は東京府人長岡安平の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正十四年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し在學中文官高等試験に合格同四十二年佐賀縣事務官に任ぜられ次で神奈川和歌山各縣事務官和歌山縣警察部長長内務書記官兼同省監察官兼同省事務官和歌山縣長土木局長社會局長官等に歴任し昭和四年警視總監に轉じ同年之を辭し貴族院議員に勅選せられ交友俱樂部所屬大正七年及昭和二年歐米に出張す家族は尙三女聖(大九、一〇生)四女光(同二二、七生)六女絹江(同四三、三生)弟義雄(明二七、六生)ありA一六二(東京府北多摩郡村喜多見成城三七九電話一三一)...

君は福島縣人長久保徳兵衛の長男にして慶應三年四月を以て生れ明治三十九年家督を相続す凡に長野稅務監督局直稅部長上野舞鶴各稅務署長等に歴任し退官後實業界に入り六十三銀行副支配人小諸銀行及信濃銀行支配人布引電氣鐵道田中倉庫各會社の重役等を經て現時前記諸會社の重役たり家族は尙孫若生子(大一一、一〇生、長男俊夫妻)同淑子(同四四、一〇生、同三二)同洋子(生年月同上同四四)同ゆづ子(同二二、二生、二男秀夫妻)同澄江(同三〇、九生、三男信夫妻)あり長女セツ(明二四、一〇生)は長野縣人土屋元治二男今朝重に二女マヤ(同二六、八生)は同縣人出澤廣助二男鬼久太に三女直子(同三一、八生)は京都府人上倉喜太郎長男計之助に四女富美子(同四〇、一〇生)は靜岡縣人鈴木榮藏長男小一郎に妹チホ(同二二、九生)は同縣人助川丑松に妹弟憲兵機備少佐時(同九、一〇生)は分家し六女幸子(大八、一〇生)は長野縣人齋藤ていの養子となり(長野縣北佐久郡小諸町)...

君は滋賀縣人相馬永胤の弟にして同縣夫の大叔父なり明治十七年七月を以て生れ長倉さとの養子となり大正...

長島 恭助

君は埼玉縣人長島其助の二男にして明治三十四年九月を以て生れ大正十五年家督を相続す...

長島 吾助

君は東京府人先代吾助の三男にして松本芳藏の叔父なり明治四年十一月を以て生れ...

長島 新藏

君は東京府人長島勘次郎の二男にして明治元年五月二十二日を以て生れ...

長島 寅次郎

君は大分縣人長島多右衛門の六男にして慶應二年一月を以て生れ...

長島 永利

君は東京府人長島文左衛門の四男にして明治十四年十月を以て生れ...

長島 正隆

君は東京府人長島貞之助の長男にして明治二十三年三月を以て生れ...

(※印は姻族關係)

長島 隆二

君は埼玉縣人長島其吉の二男にして明治十五年九月を以て生れ...

長瀨 武郎

君は東京府人現戸主長瀨富郎の弟にして同常一の甥同富郎の従弟なり...

長瀨 忠治

君は岐阜縣人仙田翁次の長男にして明治三十一年七月を以て生れ...

長瀨 常一

君は岐阜縣人長瀨榮藏の五男にして明治九年四月を以て生れ...

長瀨 傳三郎

君は三重縣人長瀨貞造の長男にして明治十九年三月を以て生れ...

長瀨 傳次郎

君は京都府人長瀨小兵衛の二男にして同傳三郎の弟なり明治十四年八月を以て生れ...

(※印は姻族關係)

八(神戸市須磨區月見山三ノ九電通四六)

參照 有澤潤、長瀨傳三郎の項

長瀨 徳太郎

日新自動車代表取締役、長瀨商店事務取締役、東洋印刷取締役

君は大阪府人芝本兵衛の二男にして長瀨半次郎の養弟なり明治十九年十二月を以て生れ京都府人長瀨傳三郎の養子となり大正十年分れて一家を創立す明治三十三年大阪高等商業學校甲種科を卒業し現に長瀨商店事務取締役の外前記各會社の重役を兼ね家族は尙二男英三郎(大二三、二生)ありA四六二(兵庫縣武庫郡精道村青屋平田四二七電青屋二二四一)

參照 長瀨傳三郎、長瀨半次郎の項

長瀨 篤郎

花王石鹼長瀨商會取締役

君は京都府人長瀨祐三郎の長男同常一の甥同武郎同富郎の從兄なり明治三十二年八月二十一日を以て生れ昭和九年家督を相續す現時花王石鹼長瀨商會取締役たり家族は尙長女明子(昭三、七生)弟敬三(昭四三、五生)ありA三五二(東京市本郷區駒込富士前町五五電大塚五五六〇)

參照 長瀨武郎、長瀨常一、長瀨富郎の項

長野 歳重

安田銀行本郷支店長

君は埼玉縣人長野藤左の五男にして明治二十二年七月を以て生れ大正十四年兄清方より分れて一家を創立す先は同六年東京帝國大學法科大學法學科を卒業し直ちに安田銀行に入り果して昭和四年札幌支店長となり同九年本郷支店長に轉じ今日に至る(東京市小石川區戸崎町三)

長瀨 富郎

花王石鹼長瀨商會社長

長瀨家は古より岐阜縣福岡村に住し代々酒造業を營みし家柄にして先代富郎東京日本橋に一家を創立す富郎壯時出京して精勵努力明治二十年には獨立營業を開始し同二十三年花王石鹼の製造販賣を始め長瀨商會今日の基礎を爲せり君は其三男にして同武郎の兄同篤郎の從弟同常一の甥なり明治三十八年二月十七日を以て生れ同四十四年家督を相續し前富郎を改め襲名す後同志社大學に學び農に深淵南洋方面を視察し更に昭和三年歐米商業視察に赴き翌年歸朝す現時花王石鹼長瀨商會社長にして花王石鹼本舖として知らる家族は尙長女敦子(昭六、八生)あり姉千代(昭二、九生)四生、出身校同上)は静岡縣人増田武に嫁せりA一五四三八(東京市澁谷區下落合一ノ四一六電大塚三四)

參照 秋元直、長瀨篤郎、長瀨武郎、長瀨常一、萩原季吉の項

長瀨 半次郎

長瀨商店、京洛土地各務取締役

君は京都府人沖田市兵衛の長男にして長瀨徳太郎の養兄なり文久二年四月を以て生れ明治二十四年先代(シ)の八夫となり家督を相續す現時前記各會社の重役たり五女節子(昭三七、二生)は長野縣人折井政之丞長男仲三郎に嫁せりA五三三(京都市右京區谷口西ノ川町三〇電西陣一八一〇)

參照 長瀨傳三郎、長瀨徳太郎の項

長瀨 彦三郎

美の彦、金網舖商

君は茨城縣人長瀨治平の長男にして明治七年一月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名啓助を治兵衛と改む資産家として知らる長女若子(昭三五、一)は東京府人山本信政に嫁せり(昭三七、二)は同府人飯塚篤之助弟美之吉に嫁せり(昭一〇、一〇)は同府人宮田長次郎に嫁せり(昭三〇、九)は同夫直吉(同二二、九)生、埼玉、池田角藏三男)は其一子を伴ひ分家せりA七二九(東京市淺草區地方今戸町六五電淺草六五四)

參照 飯塚篤之助、山本信政の項

長妻 源四郎

相馬屋、紙商

君は東京府人長妻源尚の長男にして明治三十四年九月を以て生れ昭和六年家督を相續し前名豊太郎を改む相馬屋と稱し紙商を營む家族は尙長女愛子(昭三、二)生、弟萬次郎(昭四五、四)ありA二〇八五B四九〇(東京市牛込區香町五電牛込三六四)

長妻 信篤

日本電氣取締役、古河電氣工業

君は愛媛縣人長妻篤興の二男にして明治十八年十月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治十四年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し現時日本電氣古河電氣工業各會社の重役たりA三一九(東京市麻布區本村町二二五電高輪四六〇五)

長戸 重太郎

三層製糖所主、輪具製造業

君は東京府人先代直輔の長女にして大正七年二月を以て生れ同九年家督を相續す資産家たり母秀(昭三〇、一)生、東京、塚野文之輔長女)は同府人塚野芳夫の家督に入れりA五一二九(東京市赤坂區青山南町五ノ七五電青山七六一)

長富 八重子

資産家

君は東京府人先代直輔の長女にして大正七年二月を以て生れ同九年家督を相續す資産家たり母秀(昭三〇、一)生、東京、塚野文之輔長女)は同府人塚野芳夫の家督に入れりA五一二九(東京市赤坂區青山南町五ノ七五電青山七六一)

長塚 治兵衛

資産家

君は東京府人先代直輔の長女にして大正七年二月を以て生れ同九年家督を相續す資産家たり母秀(昭三〇、一)生、東京、塚野文之輔長女)は同府人塚野芳夫の家督に入れりA五一二九(東京市赤坂區青山南町五ノ七五電青山七六一)

長谷 信道

從三位勳五等、子爵

君は東京府人長谷信長の五男參議忠康の後なり忠康一家を創め長谷と稱し八傳して先々代從一位信篤に至る信篤明治元年參議に任じ爾來東京府知事元老院議員官貴族院議員等に歴任し同十七年子爵を授けらる先代信成其後を承け侍從宮内權大丞皇宮亮宮中祇候御歌所參儀となる君は信成の長男にして安政六年三月を以て生れ大正七年家督を繼ぎ御侍に宮内省に出仕し掌典に任ぜし昭和五年退く現時閑地に在り家族は尙孫可子(昭六、五)生、二男信長(昭四、一)生、三男信容(昭六、八)生、同長男)同二子(昭七、七)生、同二女)あり(東京市澁谷區幡ヶ谷旗町一四〇)

參照 子爵樋口誠康侯爵中御門經泰子爵八條隆正男爵上田稔男爵坊城俊賢男爵本田不二齋井上角五郎の項

長谷 信

火災保險東京支店長、明大専門

君は東京府人長谷信長の五男參議忠康の後なり忠康一家を創め長谷と稱し八傳して先々代從一位信篤に至る信篤明治元年參議に任じ爾來東京府知事元老院議員官貴族院議員等に歴任し同十七年子爵を授けらる先代信成其後を承け侍從宮内權大丞皇宮亮宮中祇候御歌所參儀となる君は信成の長男にして安政六年三月を以て生れ大正七年家督を繼ぎ御侍に宮内省に出仕し掌典に任ぜし昭和五年退く現時閑地に在り家族は尙孫可子(昭六、五)生、二男信長(昭四、一)生、三男信容(昭六、八)生、同長男)同二子(昭七、七)生、同二女)あり(東京市澁谷區幡ヶ谷旗町一四〇)

長谷 信

火災保險東京支店長、明大専門

君は東京府人長谷信長の五男參議忠康の後なり忠康一家を創め長谷と稱し八傳して先々代從一位信篤に至る信篤明治元年參議に任じ爾來東京府知事元老院議員官貴族院議員等に歴任し同十七年子爵を授けらる先代信成其後を承け侍從宮内權大丞皇宮亮宮中祇候御歌所參儀となる君は信成の長男にして安政六年三月を以て生れ大正七年家督を繼ぎ御侍に宮内省に出仕し掌典に任ぜし昭和五年退く現時閑地に在り家族は尙孫可子(昭六、五)生、二男信長(昭四、一)生、三男信容(昭六、八)生、同長男)同二子(昭七、七)生、同二女)あり(東京市澁谷區幡ヶ谷旗町一四〇)

長谷 信

火災保險東京支店長、明大専門

君は東京府人長谷信長の五男參議忠康の後なり忠康一家を創め長谷と稱し八傳して先々代從一位信篤に至る信篤明治元年參議に任じ爾來東京府知事元老院議員官貴族院議員等に歴任し同十七年子爵を授けらる先代信成其後を承け侍從宮内權大丞皇宮亮宮中祇候御歌所參儀となる君は信成の長男にして安政六年三月を以て生れ大正七年家督を繼ぎ御侍に宮内省に出仕し掌典に任ぜし昭和五年退く現時閑地に在り家族は尙孫可子(昭六、五)生、二男信長(昭四、一)生、三男信容(昭六、八)生、同長男)同二子(昭七、七)生、同二女)あり(東京市澁谷區幡ヶ谷旗町一四〇)

長谷 信

火災保險東京支店長、明大専門

君は東京府人長谷信長の五男參議忠康の後なり忠康一家を創め長谷と稱し八傳して先々代從一位信篤に至る信篤明治元年參議に任じ爾來東京府知事元老院議員官貴族院議員等に歴任し同十七年子爵を授けらる先代信成其後を承け侍從宮内權大丞皇宮亮宮中祇候御歌所參儀となる君は信成の長男にして安政六年三月を以て生れ大正七年家督を繼ぎ御侍に宮内省に出仕し掌典に任ぜし昭和五年退く現時閑地に在り家族は尙孫可子(昭六、五)生、二男信長(昭四、一)生、三男信容(昭六、八)生、同長男)同二子(昭七、七)生、同二女)あり(東京市澁谷區幡ヶ谷旗町一四〇)

君は東京府人長谷信長の五男參議忠康の後なり忠康一家を創め長谷と稱し八傳して先々代從一位信篤に至る信篤明治元年參議に任じ爾來東京府知事元老院議員官貴族院議員等に歴任し同十七年子爵を授けらる先代信成其後を承け侍從宮内權大丞皇宮亮宮中祇候御歌所參儀となる君は信成の長男にして安政六年三月を以て生れ大正七年家督を繼ぎ御侍に宮内省に出仕し掌典に任ぜし昭和五年退く現時閑地に在り家族は尙孫可子(昭六、五)生、二男信長(昭四、一)生、三男信容(昭六、八)生、同長男)同二子(昭七、七)生、同二女)あり(東京市澁谷區幡ヶ谷旗町一四〇)

長友 寛 正五位勳五等、朝鮮總督府技師、
 妻 浪 明二、五生、兵庫、中川ちや子
 女 郎 大、九生

君は宮崎縣士族長友安雄の三男にして明治十九年八月を以て生れ大正三年見代太郎より分れて一家を創立す明治四十年水産講習所本科漁撈科及同四十二年同校遠洋漁業科を卒業し小笠原遠洋漁業部長兼各會社に入社し大正三年宮崎縣水産試験場技師島根縣水産試験場技師兼水産講習所所長島根縣水産試験場長同水産講習所所長同縣技師に歴任し朝鮮總督府技師に任じ現時殖産局水産試験所所長たり家族は尙二男和夫(大八、一七)二女牧子(同一、八)あり(釜山府瀛仙町水産試験所内電報の島一〇四)

長沼 賢海 從五位勳四等、九州帝國大學教授
 妻 シズエ 明三、五生、宮崎、弘中唯見二女
 男 正 光 大、一〇、六生、新潟、中村登妹
 女 シナ 明三、九生、新潟、中村登妹

君は新潟縣人長沼賢明の長男にして明治十六年三月を以て生れ昭和四年家督を相続す明治四十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大正四年東京府立第一中學校教諭となり同九年廣島高等師範學校教授に任じ同十三年史學研究の爲め英佛獨逸印伊各國に留學し歸朝後九州帝國大學教授に任ぜられ今日に至る家族は尙三女(大九、二)妹ツキ(明八、二)同ナツ(同三、四、九)ありA二二四(福岡縣筑紫郡太宰府町馬場電一〇四)

長沼 恒次郎 東京商會(舊常務取締役、博通社)
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は岐阜縣人長沼伊三郎の弟にして明治四年七月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治二十六年慶應義塾理財科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙孫美代子(大、一四、一)生、養子直司長女(同、一、一)あり

長野 賢治 從五位勳四等、九州帝國大學教授
 妻 シズエ 明三、五生、宮崎、弘中唯見二女
 男 正 光 大、一〇、六生、新潟、中村登妹
 女 シナ 明三、九生、新潟、中村登妹

君は新潟縣人長沼賢明の長男にして明治十六年三月を以て生れ昭和四年家督を相続す明治四十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大正四年東京府立第一中學校教諭となり同九年廣島高等師範學校教授に任じ同十三年史學研究の爲め英佛獨逸印伊各國に留學し歸朝後九州帝國大學教授に任ぜられ今日に至る家族は尙三女(大九、二)妹ツキ(明八、二)同ナツ(同三、四、九)ありA二二四(福岡縣筑紫郡太宰府町馬場電一〇四)

長野 恒次郎 東京商會(舊常務取締役、博通社)
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は岐阜縣人長沼伊三郎の弟にして明治四年七月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治二十六年慶應義塾理財科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙孫美代子(大、一四、一)生、養子直司長女(同、一、一)あり

長野 賢治 從五位勳四等、九州帝國大學教授
 妻 シズエ 明三、五生、宮崎、弘中唯見二女
 男 正 光 大、一〇、六生、新潟、中村登妹
 女 シナ 明三、九生、新潟、中村登妹

君は新潟縣人長沼賢明の長男にして明治十六年三月を以て生れ昭和四年家督を相続す明治四十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大正四年東京府立第一中學校教諭となり同九年廣島高等師範學校教授に任じ同十三年史學研究の爲め英佛獨逸印伊各國に留學し歸朝後九州帝國大學教授に任ぜられ今日に至る家族は尙三女(大九、二)妹ツキ(明八、二)同ナツ(同三、四、九)ありA二二四(福岡縣筑紫郡太宰府町馬場電一〇四)

長野 恒次郎 東京商會(舊常務取締役、博通社)
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は岐阜縣人長沼伊三郎の弟にして明治四年七月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治二十六年慶應義塾理財科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙孫美代子(大、一四、一)生、養子直司長女(同、一、一)あり

長野 賢治 從五位勳四等、九州帝國大學教授
 妻 シズエ 明三、五生、宮崎、弘中唯見二女
 男 正 光 大、一〇、六生、新潟、中村登妹
 女 シナ 明三、九生、新潟、中村登妹

君は新潟縣人長沼賢明の長男にして明治十六年三月を以て生れ昭和四年家督を相続す明治四十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大正四年東京府立第一中學校教諭となり同九年廣島高等師範學校教授に任じ同十三年史學研究の爲め英佛獨逸印伊各國に留學し歸朝後九州帝國大學教授に任ぜられ今日に至る家族は尙三女(大九、二)妹ツキ(明八、二)同ナツ(同三、四、九)ありA二二四(福岡縣筑紫郡太宰府町馬場電一〇四)

長野 恒次郎 東京商會(舊常務取締役、博通社)
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は岐阜縣人長沼伊三郎の弟にして明治四年七月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治二十六年慶應義塾理財科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙孫美代子(大、一四、一)生、養子直司長女(同、一、一)あり

長野 賢治 從五位勳四等、九州帝國大學教授
 妻 シズエ 明三、五生、宮崎、弘中唯見二女
 男 正 光 大、一〇、六生、新潟、中村登妹
 女 シナ 明三、九生、新潟、中村登妹

君は新潟縣人長沼賢明の長男にして明治十六年三月を以て生れ昭和四年家督を相続す明治四十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大正四年東京府立第一中學校教諭となり同九年廣島高等師範學校教授に任じ同十三年史學研究の爲め英佛獨逸印伊各國に留學し歸朝後九州帝國大學教授に任ぜられ今日に至る家族は尙三女(大九、二)妹ツキ(明八、二)同ナツ(同三、四、九)ありA二二四(福岡縣筑紫郡太宰府町馬場電一〇四)

長沼 豐丸 三菱重工(舊技師)
 妻 シズエ 明三、五生、東京、長谷川喜三
 男 秀 俊 昭三、一

君は福島縣人長沼武善の長男にして明治十七年六月を以て生れ大正九年家督を相続す同三年東京帝國大學工科學校機械工學科を卒業し現時前記の職にあり家族は尙長女五十鈴(大、一〇、八)二女鈴鹿(同一、三、四)三女鈴谷(同一、五、二)四女鈴江(昭五、四)弟豊由(明二、〇、一)生、同妻ワイ(同二、〇、一)生、福島、川井源藏二女あり(東京市品川區大井金子町六二四六)

長野 宇平治 工學博士、日本銀行臨時建築部
 妻 千代 明三、六生、石川、竹橋尙文三女
 男 齊 治 明四、二、三
 女 武子 大、二、五生
 女 百合子 大、四、六生
 女 禮子 大、五、一、二生

君は新潟縣人長沼孫二郎の長男にして慶應三年九月を以て生れ明治四十二年家督を相続す同二十六年帝國大學工科學校建築科を卒業し大正四年工學博士の學位を授けられ建築士にして現に前記の職に在り家族は尙四男元治(大、七、六)あり二女宣子(明三、八、四)生、井縣人谷口市傳傳の養子となり三女三枝子(同四、〇、七)生、雙葉高女出身)は東京府人森基一に嫁せりA二八六五(東京市牛込區三丁二丁目一七電牛込三三三三)

長野 嘉平 福岡市會議員、質商
 妻 スミ 明八、一〇生、養父嘉平長女
 男 嘉兵衛 明三、九、一、生、長男嘉兵衛妻、福
 女 フキヨ 明三、九、一、生、長男嘉兵衛妻、福
 養子 嘉三次 明二、四、一〇生、福岡、武内卯平三男

君は熊本縣人長野清平の四男にして同友博の叔父なり明治六年十二月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す父清平風に横井小楠に師事して實學を講じ明治初年舊熊本藩主細川侯に建白して管内に十ヶ所の養蠶試驗所を設立し爾來數十年専ら蠶絲業の興隆を計り嗣子關吉亦熊本製絲會社を創立して其志を遂げ後年父子相傳いで勳定の勲章を賜はるる君其後を継ぎ明治二十七年第五高等學校卒業後専ら蠶絲業の隆昌に盡す熊本縣蠶絲會社常務理事熊本縣蠶絲會社中央會評議員熊本市信用組合常務理事熊本縣蠶絲會社聯合會會長等に舉げられ縣下の名望家として知らるる現時熊本縣多額納税者にして直接間接多額納税者として昭和七年賞状院議員に互選せらるる義に九州新聞社及熊本甲佐五東各製絲會社の重役に舉げられ熊本商會議所特別議員たり大正十一年支那の蠶絲業を視察し昭和三年勲章を賜はるる下賜せらるる家族は尙四男忠重(大、四、五)三女幸子(同九、一)生、あり長女道(明三、五、七)生、熊本縣人三和銀行員中島力に二女イチ(同三、七、一)生、日本女大家政科出身)は東京府人三菱航空會社技師松原元に嫁せりA三三四四B二五六(熊本市大江町六〇五電五九八)

長野 重一 酒造油鹽造業
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は岐阜縣人長沼伊三郎の弟にして明治四年七月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治二十六年慶應義塾理財科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙孫美代子(大、一四、一)生、養子直司長女(同、一、一)あり

長野 準四郎 正四位勳二等功四級、陸軍中將
 妻 たつ 三女
 養子 正 光 昭五、三

君は京都府人長野九郎の二男にして明治二年三月を以て生れ同二十九年家督を相続す同二十四年陸軍士官學校を卒業し陸軍砲兵少尉に任じ大正六年陸軍少尉に陞る其間大阪砲兵工廠製造所員同廠火砲製造所長陸軍技術會議員等に歴補し同十年陸軍中將に任じ同十二年勳位に入る長女は(明三、七、一)生、鹿兒島縣人迫田利光に二女シツ(同四、一、三)生、は大阪府人齊本富三に三女芳子(大、九、九)生、は德島縣人福岡民に嫁せり(東京市中野區昭通二ノ九電中野三六九〇)

長野 清一郎 慶應、西陣御召商
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は京都府人長野清次郎の長男にして同仙之助の甥なり明治三十八年四月を以て生れ同四十年家督を相続す慶應と稱し西陣御召商を營む伯母のふ(明一、一、八)生

長野 誠道 酒造業
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は岐阜縣人長沼伊三郎の弟にして明治四年七月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治二十六年慶應義塾理財科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙孫美代子(大、一四、一)生、養子直司長女(同、一、一)あり

長野 仙之助 京都府多額納税者、西陣織物商
 妻 千代 明二、五、六生、京都、築山久七三女
 男 泰 造 明四、四、一、二生

君は京都府人長野清三郎の二男現戸主清一郎の叔父にして明治二十年五月十七日を以て生る西陣御召商を營み直接間接多額納税者たり(大、一、五)生、三男慶三(同八、一)生、あり(京都市中區高倉通三條下電本局一五二)

長野 辰之助 金融業
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は大阪府人先代熊吉の長男にして明治十七年八月を以て生れ同三十五年家督を相続す金融業を營む家族は尙二男重昭(大、一、八)三男克巳(昭二、一、一)生、二女絹子(同五、三)生、三男克巳(昭二、一、一)生、あり同妻(同二、三、一)生、は同妻あり(同三、一、一)生、大阪土田卯之吉長女)と共に分家し弟卯之助(同二、九、五)生、も亦分家せりA二二三八B一三(大阪府此花區)

長野 忠次 貴族院議員、熊本縣多額納税者、
 妻 マツ 明一、七、七生、熊本、今井恒三郎
 男 忠 俊 明三、九、九生、第五高等學校出身
 男 忠 顯 明四、二、二生、上田蠶絲專門學校出身

君は熊本縣人長野清平の四男にして同友博の叔父なり明治六年十二月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す父清平風に横井小楠に師事して實學を講じ明治初年舊熊本藩主細川侯に建白して管内に十ヶ所の養蠶試驗所を設立し爾來數十年専ら蠶絲業の興隆を計り嗣子關吉亦熊本製絲會社を創立して其志を遂げ後年父子相傳いで勳定の勲章を賜はるる君其後を継ぎ明治二十七年第五高等學校卒業後専ら蠶絲業の隆昌に盡す熊本縣蠶絲會社常務理事熊本縣蠶絲會社中央會評議員熊本市信用組合常務理事熊本縣蠶絲會社聯合會會長等に舉げられ縣下の名望家として知らるる現時熊本縣多額納税者にして直接間接多額納税者として昭和七年賞状院議員に互選せらるる義に九州新聞社及熊本甲佐五東各製絲會社の重役に舉げられ熊本商會議所特別議員たり大正十一年支那の蠶絲業を視察し昭和三年勲章を賜はるる下賜せらるる家族は尙四男忠重(大、四、五)三女幸子(同九、一)生、あり長女道(明三、五、七)生、熊本縣人三和銀行員中島力に二女イチ(同三、七、一)生、日本女大家政科出身)は東京府人三菱航空會社技師松原元に嫁せりA三三四四B二五六(熊本市大江町六〇五電五九八)

長野 延治 第一商事社長、噴泉浴場取締役
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は大阪府人長野清三郎の二男にして明治二十六年一月を以て生れ大正七年同府人長野彌三郎の養子となれ現時第一商事社長にして噴泉浴場重役たりA三〇五(大阪府天王寺區藤山通一ノ九六電天王寺五四八)

長野 友博 熊本商會議所顧問、熊本製絲、
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は熊本縣人長野清吉の長男にして同忠次の甥なり明治二十三年二月を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し製絲業を營み現に甲佐製絲高嶺製絲熊本製絲各會社を兼ねる外帝國蠶絲會社監査役及び日本放送協評議員を兼ね熊本商會議所顧問に推せらるる曾て熊本電氣児童局電氣會社の重役に任じ熊本縣多額納税者たりしことあり昭和四年勲章を賜はるる下賜せらるる家族は尙長女淑子(大、一、六)生、二男直治(昭二、一、一)生、あり弟充博(明二、七、三)生、熊本製絲會社取締役同兼博(同三、一、七)生、熊本製絲會社取締役)は各分家し妹博代(同三、八、一)生、は二角英通に嫁せり(熊本市新屋敷町電五二二)

長野 延治 第一商事社長、噴泉浴場取締役
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は大阪府人長野清三郎の二男にして明治二十六年一月を以て生れ大正七年同府人長野彌三郎の養子となれ現時第一商事社長にして噴泉浴場重役たりA三〇五(大阪府天王寺區藤山通一ノ九六電天王寺五四八)

長野 友博 熊本商會議所顧問、熊本製絲、
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は熊本縣人長野清吉の長男にして同忠次の甥なり明治二十三年二月を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し製絲業を營み現に甲佐製絲高嶺製絲熊本製絲各會社を兼ねる外帝國蠶絲會社監査役及び日本放送協評議員を兼ね熊本商會議所顧問に推せらるる曾て熊本電氣児童局電氣會社の重役に任じ熊本縣多額納税者たりしことあり昭和四年勲章を賜はるる下賜せらるる家族は尙長女淑子(大、一、六)生、二男直治(昭二、一、一)生、あり弟充博(明二、七、三)生、熊本製絲會社取締役同兼博(同三、一、七)生、熊本製絲會社取締役)は各分家し妹博代(同三、八、一)生、は二角英通に嫁せり(熊本市新屋敷町電五二二)

長野 延治 第一商事社長、噴泉浴場取締役
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は大阪府人長野清三郎の二男にして明治二十六年一月を以て生れ大正七年同府人長野彌三郎の養子となれ現時第一商事社長にして噴泉浴場重役たりA三〇五(大阪府天王寺區藤山通一ノ九六電天王寺五四八)

長野 友博 熊本商會議所顧問、熊本製絲、
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は熊本縣人長野清吉の長男にして同忠次の甥なり明治二十三年二月を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し製絲業を營み現に甲佐製絲高嶺製絲熊本製絲各會社を兼ねる外帝國蠶絲會社監査役及び日本放送協評議員を兼ね熊本商會議所顧問に推せらるる曾て熊本電氣児童局電氣會社の重役に任じ熊本縣多額納税者たりしことあり昭和四年勲章を賜はるる下賜せらるる家族は尙長女淑子(大、一、六)生、二男直治(昭二、一、一)生、あり弟充博(明二、七、三)生、熊本製絲會社取締役同兼博(同三、一、七)生、熊本製絲會社取締役)は各分家し妹博代(同三、八、一)生、は二角英通に嫁せり(熊本市新屋敷町電五二二)

長野 延治 第一商事社長、噴泉浴場取締役
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は大阪府人長野清三郎の二男にして明治二十六年一月を以て生れ大正七年同府人長野彌三郎の養子となれ現時第一商事社長にして噴泉浴場重役たりA三〇五(大阪府天王寺區藤山通一ノ九六電天王寺五四八)

長野 友博 熊本商會議所顧問、熊本製絲、
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は熊本縣人長野清吉の長男にして同忠次の甥なり明治二十三年二月を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し製絲業を營み現に甲佐製絲高嶺製絲熊本製絲各會社を兼ねる外帝國蠶絲會社監査役及び日本放送協評議員を兼ね熊本商會議所顧問に推せらるる曾て熊本電氣児童局電氣會社の重役に任じ熊本縣多額納税者たりしことあり昭和四年勲章を賜はるる下賜せらるる家族は尙長女淑子(大、一、六)生、二男直治(昭二、一、一)生、あり弟充博(明二、七、三)生、熊本製絲會社取締役同兼博(同三、一、七)生、熊本製絲會社取締役)は各分家し妹博代(同三、八、一)生、は二角英通に嫁せり(熊本市新屋敷町電五二二)

長野 延治 第一商事社長、噴泉浴場取締役
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は大阪府人長野清三郎の二男にして明治二十六年一月を以て生れ大正七年同府人長野彌三郎の養子となれ現時第一商事社長にして噴泉浴場重役たりA三〇五(大阪府天王寺區藤山通一ノ九六電天王寺五四八)

長野 友博 熊本商會議所顧問、熊本製絲、
 妻 直 司 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜
 養子 伊藤三郎 明三、一、二生、養子直司妻、岐阜

君は熊本縣人長野清吉の長男にして同忠次の甥なり明治二十三年二月を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し製絲業を營み現に甲佐製絲高嶺製絲熊本製絲各會社を兼ねる外帝國蠶絲會社監査役及び日本放送協評議員を兼ね熊本商會議所顧問に推せらるる曾て熊本電氣児童局電氣會社の重役に任じ熊本縣多額納税者たりしことあり昭和四年勲章を賜はるる下賜せらるる家族は尙長女淑子(大、一、六)生、二男直治(昭二、一、一)生、あり弟充博(明二、七、三)生、熊本製絲會社取締役同兼博(同三、一、七)生、熊本製絲會社取締役)は各分家し妹博代(同三、八、一)生、は二角英通に嫁せり(熊本市新屋敷町電五二二)

十之部 長(嶺、宗、棟、本、森、屋)

(※印は姻族関係)

たりし事あり家族は高二男部郎(大四、一生)亡業弟敬一妻マ(明三〇、二生、東京、富田博姉)及其一女ありA七〇一四(東京市淀橋區西大久保一ノ四一〇電四谷五三二)

長嶺 教心

從四位勳三等、檢事、姫路區裁判所檢事、島根縣在籍、長女、明三九、三三、三、井上廣

君は島根縣人長嶺勇珍の長男にして明治十二年二月を以て生れ同二十七年家督を相続す同三十三年北清事變に出征し勳八等に被せらる同三十六年明治法律學校を卒業し判事登用試験に及第し司法官試験となり次で判事に任ぜられ大正十四年檢事に轉じ宮城控訴院山形地方裁判所所長島地方裁判所所長を経て現時前記の職に在り家族は尙三女泰子(大一一〇、七生)あり養子正三(明三五、四生、島根、村上房太二男)同妻フジ(同三八、三三、養父教心養子、島根、田原才治長女)は分家し伯母トモ(同元、六生)は岡山縣人土井丹治と同フヂ(同二〇、四生)は島根縣人吉邊榮太郎に嫁し弟智廣(同三四、二生)は其養子となれり(姫路市姫路區裁判所檢事局内)

長嶺 敬三

勳六等、日本鐵道總局取役、東京府士族、妻、明二六、一一生、岡山、松谷謙三郎二女

君は山口縣士族長嶺護の孫にして明治十年一月八日を以て生れ同三十六年家督を相続し同三十七年東京帝國大學工學科大學機械工學科を卒業し直に東京砲兵工廠に勤務し日露戰役の功により勳六等に叙せらる爾後製鋼製鋼法鐵道探礦等の諸計畫及び經營に従事し關東大震災後陸軍造兵廠に囑託として千種兵器製造所銃工場の設計を完成し現時日本鐵道會社取役たり(東京市牛込區廣寺町五一電牛込三三三二)

長嶺 八十一

正五位勳四等、判事、新潟田區裁判所所長、新潟縣在籍、妻、明二六、一一生、岡山、松谷謙三郎二女

君は長野縣人伊藤新右衛門の二男にして明治十二年五月を以て生れ先代きんの養子となり大正十二年家督を相続す明治三十八年明治大學法律科專門部を卒業し同三十九年判事登用試験に合格同四十二年判事に任じ爾來白河區福島地方同區青森地方同區上田區新潟區同地方三縣區裁判所判事に任じ大正三十三年前記現職に轉じ今日に至る家族は尙四女なみ子(大一一、二生)三男宏(同二四、一一生)六女すみ子(昭五、八生)四男隆(同七、一一生)あり長女みつ子(大四、一一生)は小谷浩藏に嫁せり(新潟縣北蒲原郡新發田町電四十九)

長宗 純

從五位勳六等、檢事、宮城控訴院檢事、山口縣在籍、妻、明三三、三三、三、山根健男妹、御茶の水高女出身

君は山口縣人にして明治二十七年二月を以て生れる大正八年東京帝國大學法學部を卒業し同十年檢事に任ぜられ水戸地方横濱區東京區神戶區仙臺地方各裁判所檢事に任じ現時宮城控訴院檢事たり(仙臺市片平丁宮城控訴院檢事局内)

長棟 暉友

從五位勳六等、水産講習所教授、鳥取縣在籍、妻、明二五、四生、鳥取、山田益造三女、久生、大八、七生、府立六中在學

君は明治二十一年八月を以て生れる同四十二年水産講習所本科漁撈科を卒業し同所助手新潟高知各縣水産試験場技手福井縣小浜水産學校教授を経て大正九年水産講習所教授授託同技手同技師に進み昭和四年同教授に任ぜられ現在に及ぶ(東京市杉並區松庵北町七一)

長本 元男

正五位勳五等、檢事、廣島控訴院檢事、廣島縣在籍、妻、明二五、四生、鳥取、山田益造三女

君は廣島縣人長本善吉の二男にして明治十年七月を以て生れ同四十三年兄元太郎方より分れて一家を創立す同三十九年關西大學を卒業し大正二年判事登用試験に合格同四年檢事に任じ岡山地方兼同區津山今治西條各區松山地方兼同區山口地方兼同區各裁判所及岡山區兼同地方裁判所並岡山地方裁判所等に各檢事を歴補現時廣島控訴院檢事たり(廣島市廣島控訴院檢事局内)

長森 貞夫

從五位、東京競馬俱樂部常務理事、東京府士族、妻、明三三、三三、三、長森喜右衛門長女、明四、六生、長森敬妻長女

君は東京府士族長森善吉の長男にして明治二十四年五月を以て生れ大正九年家督を相続す同七年東京帝國大學法學科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格す爾來農務局事務官補農務官東京農務局農政課長農務事務官等に任じ同十四年農林事務官に任じ昭和四年農林書記官を兼ね畜産局畜政課長たりしが現時官を辭し東京競馬俱樂部常務理事たり兼に歐米各國に出張す家族は尙長女和子(大一一〇、一一生)二女協子(同一一、八生)二男敏(昭三、五生)あり(東京市澁谷區代々木富ヶ谷町一四六七電四谷四八二〇)

長屋 脩

正五位勳四等、鐵道技師、東京建設事務所在籍、妻、明二六、一一生、岡山、松谷謙三郎二女

君は岐阜縣人長屋由郎の四男にして明治十七年十一月を以て生れ大正十一年兄順耳方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學工學科土木工學科を卒業し大正二年鐵道技師となり東部神戶鐵道管理局府津上野各保線事務所長岡田建設事務所長岐阜建設事務所長鐵道省建設局勤務盛岡秋田各建設事務所長信濃

長屋 脩吉

從五位勳六等、功五級、陸軍歩兵中尉、土佐縣在籍、妻、明一七、八生、岐阜、松波寅吉妹

君は岐阜縣人長屋莊六の四男にして明治六年十二月を以て生れ同四十四年兄指止方より分れて一家を創立す同三十三年東京帝國大學工學科大學應用化學科を卒業し同年愛知セメント會社に入り技師長兼支那人に任ず同四十年帝國鐵道技師に任じ帝國鐵道技師に進み大正九年鐵道省技師に轉じ大臣官房研究所兼工作局勤務を命ぜらる同十二年歐米に出張を命ぜらる現時前記會社の重役たり兼に軍需に入り陸軍歩兵中尉に進み日露戰役の功により勳四等に叙し功五級を授けらる長女初枝(明四〇、四生)は群馬縣人松浦和雄に嫁せり(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇ノ六電青山二一八七)参照||松波寅吉會我部忠四郎の項

長屋 康太郎

愛知縣多額納稅者、名古屋製油廠、長屋商店代表社員、履物商、妻、明三三、一一生、愛知、金森太七姉

君は愛知縣士族長屋康太郎の長男にして明治二十二年一月を以て生れ昭和二年家督を相続す先代証太郎は夙に履物商を営み名古屋製油廠社長外諸會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者に數へられたり君其後を承けて家業を營み傍ら前記各會社の重役に直接間接二千百三十二圓を納め縣下の多額納稅者たり弟清次(明二五、四生)同妻政子(同三四、一一生、愛知、荒木精一長女)は其子女と共に弟英四郎(同三三、一一生)同妻静(同三九、一〇生、愛知、加藤半次郎五女)は共に各分家し姉のぶ(同一九、一〇生)も亦分家し弟三(同三三、一一生)は石川縣人彌川重尾の養子となり妹鏡(同二九、一一生)は愛知縣人竹田銀太郎長男一郎に嫁せりA一三三四)名古屋西區傳馬町三ノ八電本局二二一九)参照||金森太七、竹田銀太郎の項

長山 邑陸

從四位勳四等、前警林局技師、愛媛縣在籍、妻、明二七、三三、三、愛媛、古川一二女

君は愛媛縣士族長山莊五郎の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正五年家督を相続す明治四十二年東京帝國大學農學科大學林學科を卒業し山林技手林務技師等を経て大正三十三年警林局技師に任ぜられ東京警林局計課課長となり高知警林局局長を経て昭和七年秋田警林局局長に轉じ後同九年六月林業試験所技師に任ぜられしも間もなく官を辭して閑地にあり家族は尙三女多喜子(大一一〇、八生)二男慶介(同一一、一一生)あり妹柳(明二三、四生)は愛媛縣人小笠原原平に嫁せり(秋田市橋山本横町一〇)

長與 又郎

正四位勳二等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部長、妻、明二三、九生、東京、森村勇姉

君は男爵長與立吉の叔父にして岩永祐吉の兄なり明治十一年四月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治三十七年東京帝國大學醫學科大學を卒業し大學院に入り同大學助手となり同四十年病理學研究の爲獨逸に留學し歸朝後同四十四年同大學教授に任じ同四十四

十一之部 長(屋、安、山、奥)

(※印は姻族關係)

長屋 順耳

從三位勳二等、女子學習院長、東京外國語學校名譽教授、妻、明一五、一一生、東京、土、吉田忠

君は岐阜縣士族長屋由郎の長男にして同僚の兄なり明治七年二月を以て生れ同三十九年家督を相続す同三十年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し大學院に入り同三十一年第四高等學校教授となり同三十七年廣島高等師範學校教授に任じ同三十九年英文學研究の爲英米兩國に留學し同四十二年歸朝大正六年文部省督學官に任じ同八年東京外國語學校校長に就任同十年米國布

長安 英彦

丸ノ内通郵便局長、東京府士族、妻、明一七、一一生、山口、土、原勝一

君は山口縣士族長安幸亮の長男にして明治六年一月を以て生れ同三十三年家督を相続す夙に山口高等學校に學び一時山口縣廳に奉職せしが同三十年三菱合資會社門司支店に入り同三十三年商業觀察の爲同支店より

長屋 脩吉

從五位勳六等、功五級、陸軍歩兵中尉、土佐縣在籍、妻、明一七、八生、岐阜、松波寅吉妹

年醫學博士の學位を受け同教授に進み大正三年傳染病研究所技師を兼任し昭和八年以來十五ヶ年所長たりしも現時は所員なり昭和八年四月東大醫學部長に補せられ又中央衛生會委員文部省視學委員保健調査會委員學術研究會委員國際聯盟醫務部日本委員等に擧げらるる家族は尙三男道夫(大六、七生)四男健夫(同一〇、七生)五男弘(同一二、二生)あり長女桃子(明四四、八生)は石川縣人清水一郎七男文彦に嫁せりA七九四(東京市麻布區市兵衛町二ノ八八電赤坂一〇一〇)

參照 男爵長興立吉、岩永前吉、森村勇、犬養健、齋藤博、山次郎、松方廣、森村謙三の項

長興立吉

從四位、男爵
東京府華族
母 延子 明一〇、三生、伯爵後藤保彌太叔母
當家は先代專修より家名を揚ぐ專修は舊肥前大村藩藩にして夙に精力洪庵に醫學を修め慶應義塾に遊び醫學教育衛生制度を視察し醫務局長東京大學醫學部副理心得内務省衛生局長元老院議官中央衛生會會長貴族院議員中顧問官等に歴任し又我國に種痘を普及せしめて日本私立衛生會を起し其會頭に擧げらるる先代稱吉は其長男にして東京大學醫學部を卒業し歸朝後醫學博士を授けられ同三十九年醫學博士の學位を受く明治四十三年父專修の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらるる君は其長男にして明治三十一年二月三日を以て生れ同四十三年醫學博士(明二八、三三)は新瀉縣人駐米大使齋藤博に妹仲子(同一三、一三)は京府人松方廣に同(同一八、一三)は醫學博士平山金藏に嫁し其二男次郎當主にして叔父程三(同一八、二二)同妻サヲ(同一二、一〇)生、神奈川、茂木惣兵衛(伯母)は共に叔父又郎(同一一、四生)は其妻を伴ひ各分家し同善郎(同一二、八生、創作家)も亦同妻サヲ(同一二、七、一三、長野、市川當吉三女)及其子女を伴ひ分家し叔父裕吉(同一六、九生)は東京府士族岩永省一の養子となり當主たり(東京市澁谷區東大久保二九電四谷二五二〇)

參照 伯爵後藤保彌太、犬養健、岩永裕吉、齋藤博、長興又郎、山次郎、松方廣、茂木惣兵衛

男爵岩崎小彌太、兩宮良孝、中村房次郎の項

當家は先代朝敷の立つる所なり朝敷は舊稱を尙嫡といひ舊琉球王尙育の第三子にして明治十一年華族に列し今歸仁朝敷と改稱し同二十三年男爵を授けらるる君は其嫡孫にして朝敷の長男なり明治十九年八月を以て生れ大正四年祖父の後を承け家督を相続し同五年男爵被仰付家族は尙長女和子(大九、六生)弟朝規(明二一、一三)あり叔父長宜(慶應二、五生)同妻マセ(同一三、六生)沖繩、士、大村朝義(二女)は其子女を伴ひ弟朝蕃(明元、九生)も亦其子女を伴ひ同朝蕃(同一一、三三)は其妻ナ(同一〇、八生)沖繩、士、護得久朝能(妹)を伴ひ同朝亮(同一二、二生)同妻ウシ(同一一、一一生)沖繩、士、高宮城朝三(姉)は其子女を伴ひ亡叔父朝眞妻オト(同一三、一一生)沖繩、士、仲里朝茂(妹)は其子女を伴ひ各分家し弟朝常(同一二、八生)同朝恒(同一三、八、一一生)も亦各分家し伯母マイ(同一五、四生)は沖繩縣士族羽地朝良に同(同一六、五生)は同縣士族大宜見朝波に同(同一二、一一生)は同縣士族見里安綱二男安登に同(同一二、一一生)は同縣士族東風平安信長男安致に同(同一六、六生)は同縣士族谷山朝慶弟朝繁に同(同一八、一一生)は同縣士族桃原利宏に同(同一三、六生)は男爵伊江朝助弟朝睦に嫁せり(首里市保町六七九)

參照 侯爵尙裕、男爵伊江朝助、男爵尙順、男爵尙琳の項

君は京都府人先代萬助の長男にして明治八年十二月十五日を以て生れ同三十九年家督を相続し同前名市太郎を改め名を半井萬助と稱し藥種商を營む家族は尙三女雪子(大一一、七生)孫愛子(昭七、九生)長男次郎(同一三、一一生)孫愛子(昭七、九生)は分家し長女ゆら(同一三、一一生)は大阪府人祖父江篤一に二女春子(同一四、三三)は京都府人祖父木徳次郎二男清次郎に嫁し(同一二、七、九生)は同府人前川清逸に嫁せりA七六一B二四三(京都市中區二條鳥九西入電上二五四)

參照 祖父江篤一の項

當家は先代朝敷より顯る時起は舊山口藩士有地藤馬の二男にして男爵有地藤三郎男爵守敏三の伯叔父に方り入りて當家を繼ぐ明治三十三年海軍中尉に任じ果進して同中將に陞り其間海軍兵學校監事長海軍副官長津洲橋立鎮守府司令官海軍軍醫會議々員等に歴補し日露役の功に依り功三號を賜はり同四十年華族に列し男爵を授けらるる後貴族院議員に當選す君は其長男にして明治

半井萬助

男爵萬助 半井萬助、藥種商
母 ナ 安政二、一〇生、矢野市助二女
妻 こと 明一六、一〇生、滋賀、船橋登次郎長女
男 萬次郎 明四四、八生、二男萬次郎妻、滋賀、喜美 賀、金澤秀三郎妹
君は京都府人先代萬助の長男にして明治八年十二月十五日を以て生れ同三十九年家督を相続し同前名市太郎を改め名を半井萬助と稱し藥種商を營む家族は尙三女雪子(大一一、七生)孫愛子(昭七、九生)長男次郎(同一三、一一生)孫愛子(昭七、九生)は分家し長女ゆら(同一三、一一生)は大阪府人祖父江篤一に二女春子(同一四、三三)は京都府人祖父木徳次郎二男清次郎に嫁し(同一二、七、九生)は同府人前川清逸に嫁せりA七六一B二四三(京都市中區二條鳥九西入電上二五四)

參照 祖父江篤一の項

梨羽時介

從四位勳六等、男爵
山口縣華族
母 ナ 文久元、一一生、京都、伏見屋重太郎長女
妻 芳 明二三、三三、祖父登介長女
當家は先代時起より顯る時起は舊山口藩士有地藤馬の二男にして男爵有地藤三郎男爵守敏三の伯叔父に方り入りて當家を繼ぐ明治三十三年海軍中尉に任じ果進して同中將に陞り其間海軍兵學校監事長海軍副官長津洲橋立鎮守府司令官海軍軍醫會議々員等に歴補し日露役の功に依り功三號を賜はり同四十年華族に列し男爵を授けらるる後貴族院議員に當選す君は其長男にして明治

今歸仁朝英

正四位、男爵
尙侯府家分家
母 ナ 朝英、一一生、沖繩、士、多嘉良
妻 延子 明二〇、一一生、侯爵尙裕伯母

治十一年五月を以て生れ昭和三年家督を相続し翌四年男爵を先是折殖大學前東洋協會專門學校に學び在學中日露戰役に際し陸軍通譯官として従軍し功に依り勳六等旭日章を賜はり卒業後上海三井洋行滿洲東亞煙草公司等に勤務し後歸朝今日に至る家族は尙弟勝起(明二七、九生、東京農大出身)同妻キキ(同一三、五三)若手、狩野幸太郎(長女)及其三男一女あり妹安(同一二、四、一〇)は山口縣士族長正弟工學士志に嫁せり(東京市大森區新井宿六ノ六二〇)

參照 男爵有地藤三郎、男爵寺島敏平、小藤文次郎の項

君は滋賀縣士族夏川熊次郎の二男にして明治三十一年八月を以て生れ昭和五年家督を相続し現時近江細絲紡績會社專務取締役たり家族は尙弟省吾(大元、一〇)生、同職の助(三三)同妻三(同九、五生)あり(滋賀縣彦根町江戶電二六)

二男治郎(明四三、三三)三井銀行員、東京南大出身)は兄兵太郎の養子となれりA二九九三〇(東京市小石川區宮下町一〇電大塚一三三六)

參照 川村喜十郎の項

灘 庄之助

上田林業會社員
大阪府在籍
妻 續母 つね 長女 明一〇、九生、兵庫、吉田善之助
長女 明四四、八生、大阪、上堀二三六

君は愛知縣人高橋次郎の四男濱崎正平の弟にして明治二十七年十一月七日を以て生れ先代直一の養子となれり大正十年家督を相続し同前名直一を改め名を現に名古屋米穀取引所取引員に角萬と稱し米穀商を營み傍ら名古屋株式取引所一般取引員たりA一〇三九B二九六(名古屋市中區米濱町三番南三七六〇)

參照 濱崎正平の項

七里秀二

滋川運河取締役、大阪運河電氣
調査役、紅屋商會代表社員、電氣
工事請負業、大阪府在籍
妻 清二 明七、一〇生
君は大阪府人先代清介の二男にして明治十八年九月二十二日を以て生れ大正六年家督を相続し紅屋商會と稱して電氣工事請負業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙長女ワタ(大九、七生)三男秀男(同一二、九生)三女エミ(同一五、四生)四女千鶴(昭三、一一生)あり弟三郎(明四一、一一生)は分家せりA二三〇(大阪府西區南通四ノ三〇電土佐堀九二八)

灘 喜多

正五位勳五等、判事、大阪地方裁
判所判事、香川縣在籍
妻 喜多 明二四、一一生、香川、山本定次
男 清一 大三、一三二生
女 富子 明四五、五生

君は福島縣人七海兵太郎の弟にして明治四年四月を以て生れ大正十年分れて一家を創立し明治二十八年東京高等商業學校を卒業し三井鐵山會社會計主任となり累進して同社常務取締役となり傍ら昭和和石炭會社取締役たりし昭和九年を辭して現時南地にあり家族は尙孫恭子(昭六、一〇)生、長男吉郎(長女)あり長女菊代(明三二、九生)跡見女學校出身)は山形縣人東京海上火災保險會社員慶大出身邊鐵太郎に二女富美代(同三六、七生)跡見女學校出身)は三重縣人高橋龍造長男龍雄に三女武代(同三九、二生)日本女大英文科出身)は茨城縣人法學士鈴木九萬に五女千代(大元、九生)日本女大修業)は東京府人川村喜十郎長男勝巳に嫁し

七澤清助

長野市長
妻 得三 明四二、四生
君は長野縣人井口常治郎の二男同康太郎の養叔父にして明治六年八月を以て生れ七澤三右衛門の養子となり同四十三年分れて一家を創立し夙に實業界に入り小牧電力信越電業上總水電桂川電力各會社の重役たりしが現時之を辭し長野市長に推される諸曲園を趣味とし長女千鶴(明三四、七生)は長野縣人早稻田大學教授千代田三郎に三女うた(同三九、五生)は同縣人東京日日新聞記者岩下道爾に嫁せり(長野市大門町五一〇電六八・一〇四七)

參照 七澤康太郎の項

夏川嘉久次

近江細絲紡績會社專務
取締役
滋賀縣士族
母 嘉久次 明一二、六生、滋賀、富田友藏二女
妻 幸枝 明三三、四生、福井、吉岡道夫妹
男 浩 昭五、九生

君は滋賀縣士族夏川熊次郎の二男にして明治三十一年八月を以て生れ昭和五年家督を相続し現時近江細絲紡績會社專務取締役たり家族は尙弟省吾(大元、一〇)生、同職の助(三三)同妻三(同九、五生)あり(滋賀縣彦根町江戶電二六)

七澤康太郎

風月堂、和洋菓子商
妻 ちよ 明三四、一〇生、長野、兒玉衛一妹
君は東京府人七澤康太郎の長男同清助の養男にして明治二十九年一月を以て生れ昭和五年家督を相続し十六代を襲名し前名英一郎を改む先代康太郎長男野郎より東京に出で兩國米津本店に於て和洋菓子製造法を學び明

十八年二月九日を以て生れ先代婿之の養子となり大正十三年家督を相続す現に醫師たり家族は尙清雄(大六、五生)ありA六五六(京都市東山区三條通北裏白川筋東八電上二二七)

並木 鑛造 三菱銀行理事、検査課長 京都府在籍 妻 明三五、一三二生、東京、宇田川繁 男 敬之 大七、一三三 女 千枝子 大五、一三三 君は東京府人並木直次の四男にして明治十七年十月を以て生れ同三十九年母きよの後を承け家督を相続す同年東京商業學校を卒業し三菱銀行に入り累進して同監査部副長となり現時同行理事にして検査課長たり家族は尙二男直之(大九、一三三)三男博之(同二二、一三三)ありA七五九(京都市赤坂區青山西町六ノ一四七番青山三三二)

並木代右衛門 東京市渋谷區議員、地主 東京府在籍 妻 明二九、一三三、東京、並木植太郎 男 代長 明四五、一三三 男 良成 大二、一三三 君は山口縣人平本梧樓の弟にして明治十五年五月二十一日を以て生れ同四十五年先代右衛門の養子となり昭和三年家督相続と共に前名恒一を改め養名す地主にて東京市渋谷區議員たり家族は尙三男桂三(大八、一三三)二女千鶴(同二〇、一三三)四男豊(同二二、一三三)三女美佐子(同二四、一三三)四女萬壽子(同二七、一三三)ありA七四二(東京市渋谷區幡ヶ谷本町一ノ三六電四谷四一九六)

並木彌十郎 中央労働院取次、第一生命保險(互)調査役、東京府在籍 妻 ヒテ 明二二、一三三、神奈川、露木榮次 男 武夫 明四二、一三三 女 花子 明四四、一三三 君は東京府人並木重藏の二男にして明治十三年九月二十二日を以て生れ大正十三年兄重太郎より分れて一

家創立す現時中央製糖第一生命保險各社の重役たりA九二七(京都市本郷區駒込林町九三電小石川七六六三)

並木安右衛門 房州縣、味噌醸造業 東京府在籍 妻 明二〇、一三三、東京、黒澤利兵衛 男 安一 明三四、一〇〇 女 長女 明四〇、一〇〇生、長男安一妻、東 男 信吉 明四四、一三三 女 コウ 明四一、一三三 男 滿之助 大三、一三三 君は東京府人竹之内源兵衛の三男にして明治六年八月を以て生れ先代安右衛門の養子となり同三十三年家督相続と共に前名政吉を改め養名す房州縣と稱し味噌醸造業を營む家族は尙孫ケニ(大一一、一三三)長男安一(長女)同武一(昭三、一三三)同長男あり二男幸次(明三七、一三三)は分家し織子みち(同四〇、一三三)は東京府人岩本辰彌に嫁せりA二四九B一五二(東京市本郷區湯島六ノ二四電小石川八四九)

並木 良輔 並木製作所取締役 埼玉縣在籍 妻 明二四、一三三、東京、土、永田泰 男 良夫 明四五、一三三 女 壽子 大六、一三三 君は埼玉縣人並木實太郎の四男にして明治十三年三月を以て生れ大正九年兄榮作より分れて一家を創立す明治三十七年商船學校機械科を卒業し現時並木製作所取締役たり家族は尙二男逸夫(大四、一三三)三男和夫(同九、一三三)四男満夫(同一一、一三三)五男伸夫(同一一、一三三)ありA六三四(東京市豊島區東馬場七ノ一六九三電大塚一九四八)

並田源二郎 兵庫縣在籍 妻 明二、一三三、兵庫、向井芳兵衛三 女 たま 明二、一三三、兵庫、山村市松長 女 明三四、一三三、兵庫、山村市松長

浪 具 清豪 東京府在籍、地主 東京府在籍 妻 明一一、一〇〇生、東京、萩野喜代 男 三三、一〇〇 女 明三五、一〇〇 君は東京府人浪具清太郎の長男にして明治三十四年四月十二日を以て生れ昭和二年家督を相続す東京府會議員にして地主たり家族は尙長女和子(大一一、一〇〇)二女俊子(昭三、一〇〇)三女美代子(同五、一〇〇)四女明子(同八、一〇〇)あり妹愛子(同八、一〇〇)あり長男寛郎に嫁せりA一一三一(東京市世田谷區太子堂町三八電世田谷二九二四)

浪 越 鷹 太郎 香川縣多額納税者、前海合製工業 妻 明一〇、一〇〇 女 明三九、一〇〇 君は香川縣人浪越鷹太郎の長男にして明治十四年十一月十二日を以て生れ昭和二年家督を相続す東京府會議員にして地主たり家族は尙長女和子(大一一、一〇〇)二女俊子(昭三、一〇〇)三女美代子(同五、一〇〇)四女明子(同八、一〇〇)あり妹愛子(同八、一〇〇)あり長男寛郎に嫁せりA一一三一(東京市世田谷區太子堂町三八電世田谷二九二四)

浪 田 岡 治 郎 諸油商 大阪府在籍 妻 ハル 明二二、一三三、養父彌助二女 君は奈良縣人植村彦太郎の弟にして明治二十一年七月二十四日を以て生れ大正三年浪田彌助の養子となり昭和三年弟彌助より分れて一家を創立す諸油商を營む家族は尙長女ウノ子(昭二、一三三)ありA四二〇(大阪府南區高津町一ノ二三電南七四三) 参照 浪田彌助の項

浪 田 彌 之 助 石油商 大阪府在籍 妻 ヤス 元治元、一二生、大阪、浪田彌助 男 彌 昭四、七生 君は大阪府人先代彌助の二男にして明治三十四年一月十七日を以て生れ昭和二年家督を相続す現に石油商を營む家族は尙二男博之(昭六、九生)あり養兄岡治郎(同二二、七生)は其妻子を伴ひ分家し妹保惠(同三八、五生)は大阪府人中島ツルの養子となりA八八八(大阪府南區高津町一番丁二三電南七四三) 参照 浪田岡治郎の項

津 川 惣 助 貴金屬商 東京府在籍 妻 よし 明一七、一三三、海軍大將有馬良輔 女 喜久子 大七、一三三 君は故帝室技藝員津川惣助の孫にして明治十年七月十四日を以て生れ同四十三年母ハルの後を承け家督を相続し前名資藏を改め養名す第二高等學校に學び貴金屬商を營む家族は尙四女春子(大一一、一三三)五女裕子(同三、一三三)あり長男廣親(明四〇、一三三)は分家し二女キヨ子(大三、一三三)五女は東京市肥後区に嫁せりA一三三三(東京市日本橋區通二ノ五ノ一三電日本橋一七一) 参照 有馬良輔の項

行 川 富 五 郎 資産家 東京府在籍 妻 喜 明二〇、一三三、東京、田中長三郎 女 喜 明四五、一三三、東京、萩原銀次郎 男 博 久 昭七、一三三 君は東京府人小野深金次郎の二男にして明治四十一年二月九日を以て生れ大正元年先代富五郎の養子となり同九年家督を相続す昭和三年前名要治を改め養名す資産家たり家族は尙二男公雄(昭八、一二生)あり姉千代(明三五、一三三)同夫重吉(同三三、一三三)東京、田中平太郎(二男)は分家せりA四三四(東京市大森區大森三ノ一五九〇電大森七九一)

滑 川 富 吉 西洋料理業 兵庫縣在籍 妻 とみ 明一カ、一〇〇生、兵庫、中澤榮吉二 男 敏 夫 明四〇、一三三 女 秀子 明四一、一三三 君は兵庫縣人滑川富吉の長男にして明治十二年十一月二日を以て生れ同二十二年先代富吉の長男を承け家督を相続す西洋料理業を營む家族は尙三男富男(大八、一〇〇)孫敏江(昭三、一三三)長男敏夫(同四二、一三三)は兵庫縣人田民よねの養子となり姉こま(同九、七生)は分家せりA五四七(神戸市淡路區多聞町八ノ六五ノ四電淡川二七四)

滑 川 貞 治 郎 正七位勳六等、家主 兵庫縣在籍 妻 まつ 明七、一〇〇 男 三三 明三五、一〇〇 女 正子 明三九、一〇〇 君は兵庫縣人滑川貞治の長男にして明治六年七月を以て生れ同十六年家督を相続す家計にして家主として知らる弟福松(明七、一〇〇)は其一子を伴ひ分家せりA一一二七(神戸市淡路區覺田町三ノ五九電淡川二五八)

滑 川 貞 治 郎 正七位勳六等、家主 兵庫縣在籍 妻 まつ 明七、一〇〇 男 三三 明三五、一〇〇 女 正子 明三九、一〇〇 君は兵庫縣人滑川貞治の長男にして明治六年七月を以て生れ同十六年家督を相続す家計にして家主として知らる弟福松(明七、一〇〇)は其一子を伴ひ分家せりA一一二七(神戸市淡路區覺田町三ノ五九電淡川二五八)

ナ之部 成(田、見、道、宮)

(※印は姻族關係)

妻 ヨキ 明二八、七生、富山、花菱竹次郎
女 牧太郎 大五、九生

君は富山縣士族成田頼定の二男にして明治十六年十一月を以て生れ同三十九年札幌農學校林學科を卒業し北海道廳事務手同屬同技手高知縣技師内務部林業課長專賣局囑託等に任補し高知縣内務部林業課長を経て現時大分縣内務部林業課長たり家族は尙二男正(大、一四、六生)三女和子(昭二、九生)四女安子(同四、一一生)兄頼道(明一三、一一生、現戸主)同妻キミ(同二八、一〇生、富山、寺島實姉)及其子女あり弟梯五郎(同二九、一一生)同妻アヤ(同三一、一一生、富山、奥野智達長女)は其二子を伴ひ分家し弟申吉(同二九、二生)も亦分家せり(大分市縣内務部林業課内電四三七)

成田 衛夫 正五位勳四等、陸軍歩兵少尉、弘前高等學校教授、和歌山縣士族
妻 ます系 明一四、一一生、和歌山、土、川口三太郎姉
男 哲夫 明三五、八生
女 順子 明四一、四生

君は和歌山縣八幡木仙太郎の兄にして明治八年十二月を以て生れ先代保衛の養子となり同二十六年家督を相続す同三十三年東京帝國大學文學部漢文學科を卒業し近衛歩兵第四聯隊に一年志願兵として入隊し日露戰役に従軍す爾來名古屋明倫中學教諭に任じ更に和歌山縣立高等女學校富山縣立魚津中學各教諭に歴任し大正十年現職に任せらる(弘前市富田町弘前高等學校會)

弟妹れつ(同二二、七生)は同縣人若井由五郎に嫁し從弟八千穂(同二一、一〇生、亡叔父駿二男)は分家せりA一八五(東京市杉並區東荻窪一)

成田 正峰 正四位勳二等功三級、陸軍中將
妻 鏡 明一九、三生、京都、佐々木川豐吉
男 正彦 明三五、一一生、滿洲炭礦庶務課長、東北帝大法文學部出身

君は鹿兒島縣士族成田正常の長男にして慶應元年二月を以て生れ後家督を相続す明治十九年陸軍砲兵少尉に任じ大正六年陸軍中將に累進す其間東京陸軍兵器支廠長野戰砲兵第十六第三各聯隊長野戰砲兵第三第一各旅團長野戰砲兵監東京海軍要務司官等に歴補し昭和三年後備役に編入せらる弟三郎(明一三、八生)は同妻ひな尾(同二一、五生、兵庫、白崎庄太郎四女)及其三子を伴ひ分家し長女ハマ(同三一、一一生)は東京府人石田工學士中尾富士雄に嫁し妹エツ(慶應三、九生)は鹿兒島縣士族花田政春の母たり(東京市世田谷區太子堂一三一) 参照：花田政春の項

成田 安次郎 三河屋伊東商店代表取締役、和洋酒味噌醬油問屋業、愛知縣士族
妻 しほ 明一二、一一生、愛知、成田金吾長女
男 平吉 明三一、三生
女 政子 明三九、四生、長男平吉妻、岐阜酒井正兵衛妹
女 こと 明三九、五生
女 よね 大二、一一生
女 みち 大三、一一生
女 かね 大七、八生

成見 唯七 青森商工會議所議員、小前木材商
妻 まつ 明四元、九生、福井、市原長二女
女 やよ 二女、兵庫、土、井澤英介

君は福井縣士族成見泰太郎の長男にして慶應元年三月を以て生れ後祖父如山の後を承け家督を相続す木材商を營み小前木材會社事務取締役にして推されて青森商工會議所議員たり長女千代(明二二、四生)は愛媛縣人武田峰吉長男禮吉に嫁し弟禮藏(同元、四生)同妻カヅ(同二一、一一生、東京、川瀬嘉一郎長女)は其一子を伴ひ分家し弟源次郎(同六、一〇生)は兵庫縣人小林五いの入夫となれり(青森市道道字浪打六二二電二〇)

成道 齋次郎 正四位勳二等、判事、大審院判事
妻 カメ 助三女
明一七、一〇生、福井、山中鐵之

君は大府人成道二郎の長男にして明治六年二月を以て生れ同二十七年家督を相続す同三十三年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し同三十二年判事に任じ字部宮地方會同區東京地方同區各裁判所判事東京控訴院判事に歴補し大正七年現職大審院判事に轉じ今日に至る(東京市牛込區余丁町一四電四谷一〇六〇)

鳴神 三也 大府府在籍

養父 シツ 安政四、一一生、現戸主
妻 シツ 明四、一一生、大阪、西村榮助妹
男 京 明二六、七生、養父孫七長女
君は福井縣士族内山次郎の三男にして明治二十年六月を以て生れ同二十四年大府人鳴神孫七の養子となる漆商を營む家族は尙養弟靜一(明三二、六生)あり養祖父孫兵衛(天保四、一一生)養祖母ツル(六一、一〇生)兵衛、高田伊兵衛(三三)は共に分家し養兄芳藏(文久二、九生、奈良、龜本重作三男)も亦分家せりA一八六八B四五三(大府市西區鹽町通二)二電船場五六

鳴木 保一 東成中濱郵便局長

妻 フシエ 明三〇、一一生、大阪、關野一郎長女
養子 ナツ子 庶子
君は大府人伊藤卯之助の二男にして明治二十一年七月を以て生れ同三十一年先代音吉の養子となり大正十二年家督を相続す現に東成中濱郵便局長たりA五一八(大府市東成區白山町二)二四

鳴瀧 紫磨 正四位勳二等功四級、陸軍中將、日本海軍被檢會理事、三重縣在籍

君は舊名吉屋藩士吉屋景命の四男にして明治七年九月十日を以て生れ先代祖禱の養子となり同三十二年家督を相続す同二十九年陸軍士官學校を卒業し工兵少尉に任じ大正十四年陸軍中將に累進す其間陸軍省軍務局課員同兵器局課員由良要塞參謀工兵第六大隊長航空大隊長鐵道第二聯隊長臨時鐵道聯隊長廣島要塞司令官兼警備要塞司令官工兵監部附兼陸軍技術會議委員陸軍運輸部長兼臨時陸軍檢校所長等に歴補す先是歐洲に派遣せらる大正十五年豫備役仰付けられ同年日本海軍被檢會理事に擧げられ今日に至る長女フミ(明三六、二生)は愛知縣人横濱正金銀行員高橋禮本に二女ユリ(同三八、一〇生)は山口縣人三井物産會社員津田正に嫁せり(千葉縣東葛飾區船橋町海岸神七九四)

鳴海 周次郎 青森縣多額納税者、陸奥銀行、松本屋敷商店、津輕酒造各取締役、農業、青森縣在籍

妻 ひさ 明二五、七生、養父古川和三郎長女
男 健太郎 明四〇、一一生
女 ヨシ 明三九、八生、長男健太郎妻、東京、岩崎重雄妹
養子 春一 明三二、三生、養子キヨ夫、青森葛西與太郎弟
妻 キヨ 明三四、四生、養子春一妻、青森工藤和吉妹
男 健次郎 明四二、三生
女 さと 大元、九生
女 サエ 大三、六生

君は青森縣人平山雄太郎の二男にして明治二十年三月を以て生れ後古川和三郎の養子となり大正九年祖父鳴海周之助の後を承け家督を相続す農業を營み傍ら山時陸奥銀行取締役たる外前記各會社の重役に任じ直接間接稅九百八十八圓を納め青森縣多額納税者に列す養子に貴族院議員に互選せられ又鳴海銀行頭取西北商事炭礦業其他社會の重役たり家族は尙三男健三郎(大五、四生)五女はる(同二一、三生)五男健司(同三一、一一生)六男榮司(同四一、四生)七男周男(同五一、九生)孫キキ(同六一、一〇生、養子春一長女)同キキ(同六一、四生、同二女)同春彦(同四四、八生、同長男)同久惠(同五五、八生、長男健太郎長女)あり長女節(明四三、九生)は東京府人宮越正治長男敬治に嫁し養叔父子(同九、九生、北海道、野呂萬藏弟)同妻かん(同一九、二生、青森、葛西山太郎長女)は其子女を伴ひ養叔父將一郎(同二一、六生、青森、木村將之助弟)同妻キヨ(同二二、三、八生、青森、佐々木京吉長女)は共に各分家せり(青森縣西津輕郡車力村) 参照：宮越正治の項

繩田 國太郎 正五位勳六等、檢事、旭川地方裁

妻 チエ 明二九、七生、福岡、土、西郷綱樹長女、岡山縣立高女出身
男 國臣 大五、二生、舞鶴中學校在學

君は鳥取縣人繩田源三郎の二男にして明治二十年十一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す同六年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し同八年檢事に任ぜられ名古屋地方神戶區高松地方高知縣和歌山縣舞鶴各裁判所等に檢事を歴補し現時旭川地方裁判所次席檢事たり家族は尙二男國彦(大八、一一生、舞鶴中學校在學)長女愛子(同二〇、七生、北海道立旭川高女在學)三男國武(昭二、二生)二女京子(同六、二生)三女都子(同八、七生)あり(旭川市七條通十七丁目官舎電三一四九)

南 宮 營 正五位勳三等、朝鮮總督府忠清北道知事、忠清北道在籍
妻 尹大安 明一九、九生
男 權 明三八、七生、專修大學出身
女 張廣淑 明四三、八生

君は忠清北道の出身にして明治二十年九月を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學を卒業し朝鮮總督府屬となり後總督府府守事務官となり大正十五年歐米各國へ出張を命ぜられ歸朝して忠清南道參事官に任じ爾來慶尙南道參事官兼道務事務官同産業部長に歴任し昭和六年現職に任ぜらる家族は尙三男現(大九、三生、高普在學)三女珠(同二一、一一生、高女在學)四男勇(同二一、一一生)四女珣(同二四、九生)五男瑛(昭三、五生)六男理(同五、一〇生)七男孝(同八、八生)あり長女玉(明四三、四生)は九州帝大法學士鄭淑媛に嫁せり(忠清北道清州郡清州邑本町電三三〇)

南 道 造 家主
妻 ヒサエ 明三一、六生、大阪、山本徳次郎
男 勝 大二三、一一生

君は大府人先代半二郎の長男にして明治二十八年一月を以て生れ同四十二年家督を相続す家主たり家族は尙長女美江子(大一一、一一生)二女千枝子(昭三、一〇生)三女八重子(同五、一一生)四女百枝(同九、七生)あり叔母キキ(明一〇、一一生)は分家し妹善恵(同三九、五生)は大府人南賀ユキの死跡を相続せりA七九八(大府市天王寺區大道三)二二五電天王寺一九三

ナ之部 鳴(神、木、瀧、海) 繩、南(賀)

(※印は姻族關係)

南種 康博 從五位勳六等、廣瀨高等商業學校教授、熊本縣士族
 父 安貞 文久元、三子、熊本、士、山川藤之助三男、現戶主
 母 ヲツ 慶應元、六生、祖父重就長女
 妻 セイ 明二六、一一生、青森、木田八十吉長女
 男 康暢 大一一〇、五生
 女 フミ 大六、八生

君は熊本縣士族南種安貞の長男にして明治二十三年六月を以て生れる大正三年九州帝國大學工學部應用化學科を卒業し同八年長崎縣技師に任じ爾來長崎縣工業技師同產物技師熊本縣技師地方商工技師等に歴任し昭和二年廣瀨高等商業學校教授となり今日に至る「メタン瓦斯講話」「商品鑑識法」「標準商品學」「飲食物と飲食器」の著あり家族は尙二女ミチ(昭二、一〇生)三女マホ(同五、七生)弟云康(昭二、一〇生)同妻チエ(同二、九、八生、熊本、沼田彌一郎妹)及其一男あり三男博彦(大一一、七生)は青森縣人木田八十吉の養子となり姉チル(昭一八、七生)は廣島縣人佐伯四一に嫁せり(廣瀨市中區南太田町庚耕地一三九二)

南郷 三郎 大阪商工會議所議員、尼崎土地、日華紡績、日本棉花、朝鮮棉花、神戶機織各社社長、日華製油、全南道製絲各社代表取締役、朝日

君は東京府人先代善左衛門の長男にして明治元年十一月を以て生れる同三十二年家督を相続し前名仙藏を改め號名す南郷家を祖傳の舊家に於て地家主たり明治二十五年南郷町會議員に當選し又學務委員土木委員に選ばれ爾來大正二年に至る間殆んど引續き當選す其他成子神社氏子總代南郷町青年團長等に擧げられ同町自治に貢獻する處夥からず妹いち(昭一一、一〇生)は關和吉長男忠吉に嫁し弟長次郎(昭一五、四生)は分家せりA九三五(東京市淀橋區柏木一ノ一八八電四三〇二)

南條 金雄 三井物産、大正海上火災保險、東洋鋼材、東洋パペック、東洋キヤリア工業各社取締役、東洋棉花、東洋製糖各社取締役、東洋製糖所監査役、東洋製糖所監査役、東洋製糖所監査役

君は群馬縣士族南條新六郎の長男にして明治六年七月を以て生れる大正九年家督を相続す明治二十五年東京高等商業學校を卒業し三井物産社に入り内外各支店に勤務し果して大阪倫敦各支店に歴任し現同社取締役會長にして傍ら前記各支店の重役を兼ね書道及洋畫に興味を有し其鑑賞に長ず妹ち(昭一一、三三)は石川縣士族東野十治郎に同タケ(同一一、五、六生)は岐阜縣人武田信一に同タケ(同一一、一、一〇生)は東京府人竹村弟二に同タケ(同四〇、一、一〇生)は東洋英和女學校出身(東京府人中山島實藏に嫁せりA四七四二〇(東京市赤坂區新坂町一四電青山四〇〇〇))

南雲善左衛門 東京府在籍
 妻 正枝 大二、六生
 女 明八、三生、東京、高野小兵衛長

君は東京府人先代善左衛門の長男にして明治元年十一月を以て生れる同三十二年家督を相続し前名仙藏を改め號名す南郷家を祖傳の舊家に於て地家主たり明治二十五年南郷町會議員に當選し又學務委員土木委員に選ばれ爾來大正二年に至る間殆んど引續き當選す其他成子神社氏子總代南郷町青年團長等に擧げられ同町自治に貢獻する處夥からず妹いち(昭一一、一〇生)は關和吉長男忠吉に嫁し弟長次郎(昭一五、四生)は分家せりA九三五(東京市淀橋區柏木一ノ一八八電四三〇二)

南郷 次郎 從四位勳三等功五級、海軍少將
 妻 正枝 大二、六生
 女 明八、三生、東京、高野小兵衛長

君は東京府人先代善左衛門の長男にして明治元年十一月を以て生れる同三十二年家督を相続し前名仙藏を改め號名す南郷家を祖傳の舊家に於て地家主たり明治二十五年南郷町會議員に當選し又學務委員土木委員に選ばれ爾來大正二年に至る間殆んど引續き當選す其他成子神社氏子總代南郷町青年團長等に擧げられ同町自治に貢獻する處夥からず妹いち(昭一一、一〇生)は關和吉長男忠吉に嫁し弟長次郎(昭一五、四生)は分家せりA九三五(東京市淀橋區柏木一ノ一八八電四三〇二)

南日 實 從五位勳六等、仙臺高等工業學校教授、富山縣在籍
 妻 喜代 大一一、七生、富山、常田治平長
 女 明三、三、六生

君は富山縣人南日實太郎の長男にして明治十五年十一月を以て生れる大正九年家督を相続す吳服太物商を營ひA五二七B一九五(福岡市下店屋町五電三七七六)

南波 海三 金万證券取締役、樟太養狐製糖、東京府在籍
 妻 正子 大元、八生、東京、木村新也妹
 男 禮三 昭五、二生

君は東京府人南波禮吉の三男同海三の弟にして明治三十六年三月を以て生れる昭和七年分れて一家を創立す現時金万證券取締役の外前記會社の重役たり家族は尙長女美都子(昭七、七生)ありA七四六(東京市赤坂區青山南町二ノ四八電青山一〇一一)

南波 政吉 地主
 妻 なか 昭三、五生、大阪、吉宗米太郎叔母
 男 松太郎 昭二七、三三、三菱造船所技師、工學士
 女 治子 昭三三、二二生、長男松太郎妻、兵庫、長谷川熊太郎長女
 男 辰夫 昭三七、五生、東大工學部航空機科出身
 女 秋子 昭三九、一一生、教師、天王寺師範出身
 男 楠子 昭四二、三三、關大在學、湯淺岩治郎長女
 女 章 昭四二、三三、關大在學

君は大阪府人南波八兵衛の長男にして元治元年三月を以て生れる明治二十一年家督を相続す地主たり家族は尙孫弘子(大一一、二生、長男松太郎長女)同禮子(昭三、八生、同二女)同正隆(同五、一、一〇生)同方子(同八、一、一〇生、同三女)あり長女てい(昭三四、一一生)は大坂府人湯淺楠次郎三男楠雄に嫁し四男米藏同三四、八生、私立成器商業出身(同妻同四〇、六生)奈良、松村宗壽郎(昭三、八生、同妻同三三、一、一〇生)兒島商船學校出身(昭三、八生、同妻同三三、一、一〇生)なれりA六八二(大阪府浪速區島町三ノ一四九五電一八三三)

南部 環 正五位勳五等、姫路高等學校生徒、主事兼教授、福井縣在籍
 妻 貞代 昭三一、三三、鳥取、金田兼次郎長女
 女 清香 大九、八生

君は福井縣人南部貞介の四男にして明治十九年八月を以て生れる大正十三年家督を相続す同三年東北帝國大學理學部數學科を卒業し富山縣立高岡中學校校長立秋田中學校各教諭山形高等學校教授等に歴任し現に姫路高等學校教授にして生徒主事を兼ね生徒課長たり家族は尙二男敏夫(大一一、四、六生)三男昭夫(昭二、九生)あり(姫路市八代前替七九電一三九一)

南波 禮吉 相模鐵道、日本染色、日光登山鐵道、樟太養狐製糖、觀音製糖各社取締役、東京株式取引所理事、中央冷蔵製氷株式會社監査役、銀行、金万證券各社取締役、東京株式取引所理事、東京株式取引所理事、東京株式取引所理事

君は東京府人南波禮吉の三男同海三の弟にして明治三十六年三月を以て生れる昭和七年分れて一家を創立す現時金万證券取締役の外前記會社の重役たり家族は尙長女美都子(昭七、七生)ありA七四六(東京市赤坂區青山南町二ノ四八電青山一〇一一)

南部 金夫 正五位勳四等、檢事、前橋地方裁判所檢事、廣島縣在籍
 妻 國松 昭二〇、九生、廣島、石井友左衛門二女
 女 壽子 昭四四、三三

君は廣島縣人南波禮吉の弟にして明治十二年六月を以て生れる同四十二年分れて一家を創立す同三十三年

南波 禮吉 相模鐵道、日本染色、日光登山鐵道、樟太養狐製糖、觀音製糖各社取締役、東京株式取引所理事、中央冷蔵製氷株式會社監査役、銀行、金万證券各社取締役、東京株式取引所理事、東京株式取引所理事、東京株式取引所理事

君は東京府人南波禮吉の三男同海三の弟にして明治三十六年三月を以て生れる昭和七年分れて一家を創立す現時金万證券取締役の外前記會社の重役たり家族は尙長女美都子(昭七、七生)ありA七四六(東京市赤坂區青山南町二ノ四八電青山一〇一一)

南波 二郎 金万證券事務取締役、中央冷蔵製氷株式會社監査役、東京府在籍
 妻 純子 昭四三、一〇生、香川、高州素雄

君は東京府人南波禮吉の二男同海三の兄にして明治三十四年一月を以て生れる昭和四年分れて一家を創立す現時金万證券事務取締役中央冷蔵製氷株式會社監査役たり家族は尙長女恭子(昭四、九生)ありA四三三九(東京市赤坂區青山南町二ノ四八電青山一〇一一)

南波 禮吉 相模鐵道、日本染色、日光登山鐵道、樟太養狐製糖、觀音製糖各社取締役、東京株式取引所理事、中央冷蔵製氷株式會社監査役、銀行、金万證券各社取締役、東京株式取引所理事、東京株式取引所理事、東京株式取引所理事

君は東京府人南波禮吉の三男同海三の弟にして明治三十六年三月を以て生れる昭和七年分れて一家を創立す現時金万證券取締役の外前記會社の重役たり家族は尙長女美都子(昭七、七生)ありA七四六(東京市赤坂區青山南町二ノ四八電青山一〇一一)

南部 金夫 正五位勳四等、檢事、前橋地方裁判所檢事、廣島縣在籍
 妻 國松 昭二〇、九生、廣島、石井友左衛門二女
 女 壽子 昭四四、三三

君は廣島縣人南波禮吉の弟にして明治十二年六月を以て生れる同四十二年分れて一家を創立す同三十三年

なり明治十五年四月を以て生れ大正十三年家督を相續し、襲名す。吳服商を營み佐賀縣多額納稅者に列し佐賀市吳服商組合副長及佐賀市商工會議所議員に擧げられ、傍ら佐賀育兒院理事を兼ね佐賀縣ネル會社監査役たり。家族は尙三男政男(大六、七生)四女照子(同九、七生)四男光義(同二、一〇生)あり長女鶴子(明三、七、一〇生)は佐賀縣人北島太三に嫁せりA七九〇B一五二(佐賀市柳町三電二六七・八四一)

南里 常次

陸軍砲兵少尉、佐賀縣多額納稅者。吳服商、佐賀縣在籍。
妻 トヲ 明二五、一〇生、佐賀、坂井清次
男 芳作 大七、三〇生
女 敏子 大六、二〇生

君は佐賀縣人南里俊亮の三男にして明治二十一年四月十七日を以て生れ大正十年分れて一家を創立す。夙に佐賀縣立佐賀中學校卒業後一年志願兵として應召し陸軍砲兵少尉に任ぜらる。大正三年佐賀柳町郵便局長に就任し昭和四年佐賀商工會議所議員に擧げられ、吳服商を營み佐賀縣多額納稅者に列し直接國稅七百圓を納む。家族は尙二男眞(大二、一五生)三女綾子(同一四、一〇生)三男喜三郎(昭二、九生)四女節子(同六、一二生)あり(佐賀市向山町三五七七一・一〇五四)

南里 俊秀

正五位、勳三等、海軍少將、舞鶴要港部工作部長、東京府在籍。
妻 タケ 大六、一〇生
女 幸子 大六、一〇生

君は岡山縣人根岸彌吉の二男にして明治元年四月を以て生れ先代富藏の養子となり同三十二年家督を相續す。吳服大物商を營み岡山縣多額納稅者に列し直接國稅二千六百九十五圓を納め、倉敷商工會議所議員、倉敷吳服商組合會長に推される。家族は尙孫康調(大一二、八生)、長男富一郎(長男)同章子(昭四、三三、同長女)あり倉敷市濱一〇七四電四一〇六)

灘波 康一

東京府在籍。
妻 しょう 明三、八生、長野、高野眞通長女
男 友子 明三八、五生、兵庫、森田茂吉三女
男 一彦 昭四、八生

灘波 良太郎

神戸發動機製造所専務取締役、兵庫縣在籍。
父 延治 安政六、二〇生
男 秀雄 明三七、一二生
姉 靜江 明四一、一〇生、長男秀雄妻、兵庫
女 垣子 明四二、八生
男 弘 大三、二〇生

難波 清人

衆議院議員(岡山縣選出)岡山縣士族。
妻 榮 昭三、三〇生、岡山、島村理八二女
男 平太郎 昭三、一〇生
女 登美 大五、八生

難波 光造

正五位勳三等、陸軍少將、朝鮮憲兵司令官。
妻 八重 養子
男 光重 明四二、六生
女 美津子 大四、二〇生

難波 誠四郎

太陽生命保險總取締役兼募集部長、岡山縣在籍。
妻 喬子 明二三、一〇生、岡山、林亮長女
君は岡山縣人難波今治の四男にして先代圓の叔父なり。明治十六年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す。現時記太陽生命保險會社取締役兼募集部長たりA三四八(東京市澁谷區代々木西原一〇〇六電四三三三九)

難波 園三郎

帽子製造業、大阪府在籍。
妻 アサノ 明二五、四生、奈良、東田石松長女

難波 宗治

從四位、子爵、警口電氣水道廳庶務課長、舊公卿家。
君は大坂府人難波國右衛門の庶子にして明治十七年四月を以て生れ大正二年家督を相續す。帽子製造業を營む。家族は尙靖明(大九、五生)長女澄子(同一五、九生)二女出起子(昭三、六生)四男三(同六、九生)ありA三五六(大阪市西淀川區野里町一三三三電土佐堀二一七四)

難波 元弘

工學博士、旭硝子試験所所長、岡山縣在籍。
妻 靜乃 明一八、六生、岡山、小西直人姉
男 桂芳 大三、九生

難波 彌一郎

岡山縣多額納稅者、倉敷商工會議所議員、倉敷吳服商組合會長、吳服大物商、岡山縣在籍。
妻 富一郎 明三一、三三、三三、經濟學士

八、七生)は同縣人武良竹五の家籍に入れりA五八三(神戸市須磨區榎木町二ノ五三電須磨三六〇)

二之部

二階堂權兵衛

福島縣多額納稅者、農業
福島縣在籍
妻 權 明九、七生、福島、佐藤要助長女
男 權 治 明二九、三生
女 權 サク 阿都義作二女
男 茂 明三六、一〇生
女 初 枝 明四三、一〇生、三男茂妻、岡山三宅直次長女

君は福島縣人先代權兵衛の長男にして明治四年七月を以て生れ同三十六年家督を相続し前名柳平を改め號名才農業を營み縣下の多額納稅者に列し直接國稅千七百八圓を納む家族は尙孫柳平(六一、二生、長男權治長男)同久子(同四一、一〇生、同長女)同卓子(昭三、一生、同二女)昌子(同七、八生、同三女)同美沙(同八、一〇生、三男茂長女)あり長女房(明二四、一生)は福島縣土族浦井安次に二女章(同二六、一〇生)は同縣人安原宇三郎に五女モト(大三、一生)は同縣人福井相輔に嫁し四女喜代(明四〇、三生)は同縣人阿部和太治養父和惣治の養子となれり(福島縣信夫郡島川村)
參照 阿部和太治の項

二階堂三郎左衛門

廣島縣多額納稅者、廣島縣在籍
妻 フジ 明一三、一〇生、廣島、宮地與三
男 連 雄 明三六、九生、經濟學士
女 翠 子 明四三、六生、長男連雄妻、東京
孫 エイ 明一六、二生
孫 哲 郎 明三五、九生、亡養子秋治長男、經濟學士

孫 節 子

明四三、五生、孫哲郎妻、男爵穴戸乙彦長女
孫 榮 二 明三七、六生、亡養子秋治二男
孫 幸 代 明四五、三生、亡養子秋治三女
君は廣島縣人望戸清四郎の長男にして慶應二年十二月二十三日を以て生れ先代三郎左衛門の養子となり明治三十五年家督を相続し號名して前名熊七郎を改む現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千五百五十六圓を納む貴族院議員に推される家族は尙曾孫彰彦(昭四、一〇生、孫哲郎長男)あり二女ヨシヨ(明一八、八生)は廣島縣人海保新八二男辰次郎に三女ミサヲ(同二〇、一生)は岡山縣人山田春養子來次郎に四女ミツコ(同二三、三生)は同縣人高草平助に五女寛子(同四三、三生)は福岡縣人八田彌に孫千代(同三九、八生)亡養子秋治長女)は京都府人賀川玄達に同敏子(同四二、五生)同二女)は山口縣人松岡三雄に嫁し養弟能助(同九、一生)同妻ヨシ(同二五、一〇生、山口、柳屋義亮姉)は其子女を伴ひ分家せり(廣島縣佐伯郡大竹町電一)
參照 男爵穴戸乙彦、伊原眞、高草平助、赤羽雄一の項

二木孝四郎

石川縣在籍
妻 和 子 明四四、一〇生
女 久 子 大三、一生
君は石川縣人二木滋七の四男にして明治十七年三月を以て生れ昭和二年兄外二郎方より分れて一家を創立す明治四十一年神戸高等商業學校を卒業し住友銀行に入り天満支店長を経て同銀行理事たりしも現時閑地にあり(大阪市住吉區晴通一ノ四七電一五四一)

二木長右衛門

岐阜縣多額納稅者、飛騨銀行、飛騨酒造組合長、酒造業
妻 五 子 明三三、四生
君は岐阜縣人先代長右衛門の弟にして明治二十三年二月を以て生れ昭和四年兄の後を承け家督を相続し前名春松を改め號名す元祿年間の新始に關する酒造業を繼承し飛騨酒造組合長に推され傍ら前記諸會社の監査役たり

二木 萬藏

安田銀行小樽支店長
妻 淑 美 明二六、一生、長野、金丸半平長女
男 宏 也 大一三、六生
女 玲 子 大三、一生、第一神戸高女出身
女 千 惠 子 大八、七生
女 昌 子 大八、五生
君は長野縣人にして明治十七年九月を以て生れる同四十二年長崎高等商業學校を卒業し直ちに百三十銀行に入り果進して大正五年仁川支店長となる同十二年同行の合併に依り安田銀行に轉じ博多兵庫神戸各支店長を経て昭和七年小樽支店長となり今日に及ぶ家族は尙四女孝子(六一、一〇生)外一男あり(小樽市富岡町三ノ三〇電一〇一〇)

二木 保幾

早稻田大學教授、政治經濟學部經濟學科教授主任、長野縣在籍
妻 たつ子 明三九、四生、法學博士高田早苗
君は長野縣人二木喜源太の長男にして明治二十五年六月二十九日を以て生れ後家督を相続し大正三年早稻田大學政治經濟學科を卒業し翌年東京朝日新聞社に入社す同七年之を退き職米に留學同十一年歸朝後早稻田大學講師となり同十二年教授に進む現時政治經濟學部經濟學科教授主任たり(東京市澁野川區上中里町一一九)
參照 高田早苗の項

二條 秀曉

眞宗戒照寺派管長、誠照寺法主
妻 秀 源 嘉永五、一生、故從一位右大臣二條實忠裔
父 秀 子 明一七、三生、伯耆大谷光暢叔母
當家は藤原氏皇太后宮大進有範の男胤の後なり承元元年二月越前の國上野の草舎に留錫して一字を開創す即ち今の誠照寺二條家なり君は誠照寺派管長誠照寺法主第二十六世二條秀源の男にして明治四十五年父秀源管長並に法主退隱に依り其後を承く君は明治十二年十二月を以て生れ同二十四年九月得度東都に遊學し又學